



活動年鑑 11

2015.5 - 2016.9



青年技術士交流実行委員会

活動年鑑 11-2015.5 - 2016.9

目次

- ・青年委員会 2015 年度活動報告
- ・広報グループ活動報告
- ・例会グループ活動報告
- ・国際グループ活動報告

[例会活動報告書]

- ・ 2015/5 【科学的】な問題解決手法ワークショップ
- ・ 2015/6 テクノツーリズム、BBQ
- ・ 2015/7 English Workshop 及び青年委員会国際グループ活動報告
- ・ 2015/8 Dreams Project 平成 27 年度 夏休み子供理科教室
- ・ 2015/9 ディベートの基本を学び、体験しよう
- ・ 2015/10 内部向け企画／自己紹介プレゼン大会
- ・ 2015/11 45 歳以下限定／同世代の技術者仲間を作ろう！
- ・ 2015/12 学生向け企画／就活前に聞いておきたい技術者の話
- ・ 2016/1 見学会 ～横浜・八景島シーパラダイス 水族館の裏側をのぞいてみよう～
- ・ 2016/2 技術士を目指そう、修習ガイダンス 2016 参加報告
- ・ 2016/3 一次合格者向けイベント
- ・ 2016/4 特別例会技術士第一次・二次試験合格者交流会」
- ・ 2016/5 課題解決手法の体系とその応用：クロス SWOT 分析を用いた技術者としてのキャリア戦略作成演習
- ・ 2016/6 English Workshop および国際活動報
- ・ 2016/7 Dreams Project 平成 28 年度 夏休み子供理科教室
- ・ 2016/9 ディベートを体験しよう

[国際交流活動報告書]

- ・ 2015/11 CAFEO33/YEAFEO22 参加報告書

[サッカー&テクノ活動報告書]

- ・ 2015/8 中部本部フットサル交流
- ・ 2015/9 統括本部・北陸本部サッカー合同練習及びテクノツーリズム
- ・ 2015/10 第 45 回 日韓技術士国際会議、第 11 回 日韓技術士親善サッカー大会
- ・ 2015/12 日韓サッカーお疲れ練習会・テクノツーリズム
- ・ 2016/3 統括本部、中部本部、北陸本部サッカー交流試合及びテクノツーリズム
- ・ 2016/7 統括本部サッカー合同練習会

[地域本部活動報告書]

- ・北海道本部
- ・東北本部
- ・中部本部
- ・近畿本部
- ・中国本部
- ・四国本部
- ・九州本部
- ・北陸本部
- ・2015/10 第42回 技術士全国大会（富山）青年のつどい、テクノツーリズム、大懇親会
- ・2016/5 中部青年技術士会30周年記念例会
- ・2016/6 ミニ全国大会 テクノツーリズム in おながわ

[青年委員自己紹介]

本委員会は、研修委員会の下部組織であり、各部会から推薦された委員・委員補佐により構成されています。また委員には各地域本部より推薦された地域本部委員も含まれます。本会運営への青年層の参画及び国内外を問わず技術者間の“交流”を通しての研鑽を実施しています。

2015 年度の主な活動を下記にまとめます。

1.各種例会の開催

講演会やテクノツーリズム、スポーツ交流を含む交流会を毎月 1 回以上の頻度で開催しました。2015 年度も昨年度に引き続き、一次二次試験合格者が 4 月の特別例会まで継続して参加でき、スムーズに入会に至れる動線の強化を築きました。各活動内容は報告書として青年委員会 HP にて公開を行っています。

2.特別例会

2015 年 4 月 25 日に青年技術士交流委員会主催『一次・二次試験合格者交流会（特別例会）』を開催しました。参加者の専門性をアピールできる場としてオリンピック招致合戦を題材とした企画を実施しました。各テーマに分かれて行ったディスカッションの結果および活動報告は青年委員会 HP にて公開を行っています。

3.小学生対象理科教室の実施

2015 年 8 月 1 日に夏休みの小学生を対象に「理科教室」を実施しました。「電気の力を確かめてみよう！ 技術士による夏休み理科教室工作実験」と題し、工作実験を通じて子供たちに科学の楽しさを伝えることを主目的としました。また各小学校への広告のビラの配布などを通じ一般の方々に対し技術士の知名度向上を図りました。

工作実験として、「くだもの電池をつくろう」「クリップモーターをつくろう」のふたつを行い、家庭でも安価かつ容易に再現可能な実験を目指しました。当日の様子は青年委員会 HP にて公開を行っております。

4.各地域本部青年技術士組織との交流

各地域本部との交流会議を開催するとともに、2015 年 11 月 3 日に富山市で開催された技術士全国大会において青年技術士交流会議および青年技術士の集い（以下集いと称す）を実施しました。その中で全国各地域本部青年組織の活動内容を共有しました。本年度開催される全国大会（横浜）においても、各組織との交流を継続する予定です。

青年層は企業内技術士も多く出張や異動転勤等に伴う地域間の移動もあることから、全国の地域本部青年組織とのネットワークを活かし、技術士青年層のサポートにも努めて参ります。また技術士会組織との関係を築く取り組みに対して引き続き連携を取って参ります。

5.国際交流活動

2015 年 10 月 22 日～10 月 24 日に韓国・春川で開催された日韓技術士会議のサッカー親善試合

の開催支援を行いました。

2014年11月23日～11月26日にマレーシアで開催されたASEAN 技術者協会連合国際会議『CAFE033 YEAFEO22』への参加者派遣の支援をしました。

6.家族参加型イベントの実施

家族と同伴で参加が可能なテクノツーリズムを実施しました。「横浜・八景島シーパラダイス 水族館の裏側をのぞいてみよう」と題し、家族と一緒に参加しやすい水族館での見学会を行いました。家族参加型とすることで、普段は家族サービスで日本技術会へのイベントに参加できない層の参加を促すことができました。

7.研修委員会所轄委員会行事への協力

2016年2月20日開催の「技術士を目指そう、修習ガイダンス 2016」～技術士第一次試験合格者・JABEE 認定課程修了見込者（修了者を含む）～において、パネル討論会を企画・運営し受験に向けたモチベーション向上や技術士会への入会促進にも繋げる活動の道筋を築くことができました。また、本年度はガイダンス後の合格祝賀会も実施し、参加者間や参加者と我々日本技術士会のメンバーとの交流を促進することができました。

8.情報配信の試み

青年委員会活動をより深く身近に理解していただくために、2014年度青年技術士交流実行委員会活動年鑑を制作しました。

また青年委員会のホームページやブログ、フェイスブック等を積極的に更新し、活動紹介、主催行事の事前広報及び事後報告に活用しております。上記の活動を企画・実施するため、毎月の運営委員会を青年層の参加しやすい土曜日を中心に開催しています。

青年委員会 2016 年度 広報グループ活動報告

広報グループリーダー 小野寺 純

1. 目的

青年技術士交流委員会(以降、委員会)の広報円滑化、およびメンバー間の情報共有を主目的として、ウェブを主軸に据えた活動を実施した。

2. 今期の活動と成果

1) 日本技術士会の同報メール、ホームページ、および月刊技術士誌への CPD 行事予定の情報発信

日本技術士会の広報媒体である同報メール、ホームページ(engineer.or.jp)、月刊技術士誌を使用し、例会開催情報等を発信した(行事内容の詳細は例会グループ報告参照)。日本技術士会リソースによる包括的な事前周知、およびウェブの行事参加申込機能の活用により、参加者管理業務の効率化を引き続き進めた。

2) 委員会内部用途の、情報共有設備の維持および改善

昨年度に引き続き、ファイル共有システム ownCloud、メーリングリストシステム Mailman、ホームページ・ブログシステム WordPress の三大基幹システム(レンタルサーバー上に構築)を維持・活用し、委員会内部の円滑な情報共有を促進した。本年度の改善点については以下の通りである:

- ・ 委員会内部用途のメーリングリスト管理・運用のマニュアル化。
- ・ WordPress ホームページの委員会 Private ページ内の、広報マニュアルと IT マニュアル内容の拡充。

3) 委員会外部に向けた、広報活動への取り組み

イベント参加希望者および潜在候補者に対して「漏れなく、かつ親しみやすく分かりやすい」情報提供を目指し、各種改善を行った。詳細については、以下の通りである:

- ・ 昨年度に旧ホームページとブログを統合した WordPress ページ(peyec.jp)は、日本技術士会の委員会紹介ページからダイレクトリンクではないという問題があったが、これをダイレクトに改めた。また、旧ホームページからも WordPress ページに自動転送するように改めた。これらのリンク問題改善と、WordPress ページのキーワード見直しにより、Google の SEO(サーチエンジン最適化)が大きく進捗した。
- ・ WordPress のブログエントリ更新と、委員会 Facebook ページのエントリ追加の紐付け自動化による、外部への周知の確実化および省力化を実現した。
- ・ イベント参加申込者に対する、Gmail システムの活用による(担当者個人のメールアドレスに依らない)統一メールアドレスによる、事前コミュニケーションを可能にし、参加申込者へのホスピタリティを改善した。
- ・ ミャンマー洪水被害に対する募金活動について、WordPress および Facebook ページを活用した広報を実施した。

3. 今後の活動・展開

既存媒体を活用した広報活動により、着実なベースアップ(知名度向上、新規参加者獲得等)とともに、委員会活動の円滑化に貢献できたと考える。今後は、以下の項目について議論を深め、委員会活動の更なる飛躍に向けたサポートを行う。

- ・ イベント申込者の当日キャンセル率を低くするためのプレコミュニケーション/イベント参加後のリピート参加率を高めるためのポストコミュニケーションを厚くするために、広報としてサポートできる方法を検討する。

以上

例会グループ活動報告(2015年7月～2016年6月)

例会グループリーダー 伊藤友加里

1. グループメンバー

赤木、磯部、白井、須藤、瀧川、田中、道家、中川、中村、丸山、細野、諸田、伊藤

2. 活動目的

例会グループの主たる活動目的は“例会のスムーズな運営に向けたサポート”である。

委員会メンバーが各回で分担し企画・運営する「例会」は、内容こそ各回で当然異なるが、企画スケジュール、広報スケジュールやその手法、当日の運営方法等の基本的な事項は毎回で共通することが多い。しかしながらこれまでの例会ではこれらの共通事項に統一性が欠け、メンバー間の意識やレベル感もやや異なる雰囲気があった。この“雰囲気”が冒頭に挙げた“スムーズな運営”を妨げているととらえ、また“参加者が満足し、継続して参加する例会の実施”を第一に考えれば、これらの“雰囲気”を是正することが必要であり、これを今年度の目的とした。

また、例会グループの具体的な仕事を、以下の5つとした。

- ・例会準備が順調に進んでいるかの確認
- ・外部アンケートの実施と集計
- ・内部アンケートの実施とまとめ
- ・前月例会アンケートの振り返り、改善提案、周知、マニュアルへの反映
- ・例会担当に ownCloud 整理依頼

3. 活動報告

3-1 2015年度に実施した例会について

2015年度に実施した例会は以下のとおりである。

- | | |
|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 2015年7月 | 英語企画「Speak Up! Shout Out! A workshop to give you confidence in your English」 |
| 8月 | Dreams 企画(夏休み理科教室)「電気の力を確かめてみよう」 |
| 9月 | ディベート企画「ディベートの基本を知り、体験しよう」 |
| 10月 | 内部向け企画「自己紹介プレゼン大会」 |
| 11月 | 青年層横断企画「45歳以下限定／【同世代】の技術者仲間を作ろう！」 |
| 12月 | 学生向け企画「就活前に聞いておきたい技術者の話」 |
| 2016年1月 | テクノツーリズム「水族館の裏側をのぞいてみよう」 |
| 2月 | 修習技術者ガイダンス「パネル討論」、「ポスターセッション」、「合格祝賀会」 |
| 3月 | 一次合格者向け企画「一次合格者向けイベント」 |
| 4月 | 一次・二次合格者交流会 |
| 5月 | リピータ向け企画「課題解決手法の体系とその応用:クロス SWOT 分析を用いた技術者としてのキャリア戦略作成演習」 |
| 6月 | 英語企画「Can't stop talking! How to keep an English conversation flowing 及び青年委員会国際グループ活動報告」 |

青年技術士交流委員会の例会で毎回好評である、英語企画(2015年7月、2016年6月)、ディベート企画(2015年9月)、一次・二次試験合格者交流会(2016年4月)、dreams企画(2015年8月)、テクノツーリズム(2016年1月)を今年度も実施した。また、修習技術者支援委員会主催の「修習ガイダンス2016」では、今年度も「パネル討論」、「ポスター展示」で協力したほか、数年ぶりに復活した「合格祝賀会」でも企画・運営で参画した。

例会参加者に年齢制限は設定していないが、今年度はターゲット年齢層(青年層)を特に意識し、11月例会では参加者年齢層を限定するべく、タイトルに「45歳以下限定」と明示したほか、さらにそのターゲット年齢層の“継続した参加”を目指し、2月～5月の例会では担当者が連携して継続参加者を募る例会を企画した。5月例会参加者に実施したアンケートからは、リピート率が68%と算出され、一定の効果があったものと評価している。

3-2「例会マニュアル」の改訂について

2で挙げた例会運営における共通事項に統一性を持たせるため「例会マニュアル」の改訂を行った。そもそも委員会内に「例会マニュアル」(2009年起草)は既存だったが、最終改訂が2014年3月だったため、現行の実態に沿わなくなっていた。マニュアルの事項は例会グループだけで決められるものばかりではなかったため、委員長・副委員長・会計の幹部はもちろん、国際グループや広報グループの協力も得て、2015年11月に改訂版を完成させた。各回での統一性確保のほか、おりしも2015年7月に委員会メンバーの約半数が入れ替わったこともあり、マニュアルを読めば誰もが例会運営の概要を把握できるように準備出来た。

3-3 例会グループの具体的仕事について

・例会準備が順調に進んでいるかの確認

例会担当には例会グループメンバーも「例会フォロー」として企画の段階から関わっている。広報グループの協力により、担当のみに配信されるメーリングリストに当初より加入しており、細やかに確認することができた。

・外部アンケートの実施と集計

・内部アンケートの実施とまとめ

例会参加者に記入してもらうアンケートは「例会マニュアル」にひな形を用意しているが、ひな形はどの例会でも使用できる共通質問のみにとどまっている。企画した目的・目標が達成できたか否か等、担当が本当に知りたいことは各会で異なるため、例会フォローがひな形にその質問を加えたり、不要なものは削除したりするなどしてアンケート用紙をアレンジし、よりふさわしいものを作成することができた。また集計とまとめでは単なる作業ではなく「実施報告書」に使用できるよう工夫をした。

・前月例会アンケートの振り返り、改善提案、周知、マニュアルへの反映

・例会担当に ownCloud 整理依頼

前月例会アンケートの振り返りは翌月の運営委員会にて実施することができた。ただ、改善提案やマニュアルへの反映とまでは結び付けることができなかった。これは次年度での課題としたい。

また、ownCloudの整理は、例会グループが依頼するまでもなく、各例会担当による実施協力があつた。

4. 次年度に向けて

“参加者が満足し、継続して参加する例会の実施”は青年技術士交流委員会全メンバーが目標として認識している。その一環として、委員長の提案もあり、今年度から「例会」という言葉は外部向けには用いず「イベント」あるいは「〇〇企画」といった言葉を用いるようにした。例会グループからは運営委員会での「例会グループ活動報告」にその旨毎月掲載し、協力を依頼するとともに意識下においてもらうよう工夫した。我々にとって「例会」は「例会」(日を決めて定期的に開く会)であるが、参加者から見れば「例会」ではない。このようにちょっとした視点や意識を変え、それを行動に移すことも、参加者がより満足する例会へとつながる。

次年度もこの目標を達成するべく、例会グループが率先してサポート活動を進めていきたい。

以上

2016 年度 国際グループ活動報告

報告日： 2016 年 11 月 13 日（日）

作 成： 国際グループリーダー 松井

1. 国際グループの目的

本グループは、下記業務を円滑に進め、参加者相互の親睦を深めるための活動を行うことを目的とする。

- (1) 公益社団法人日本技術士会の企画立案に対する提言及び協力
- (2) 若手技術士の国際感覚の醸成に向けた研鑽事業の企画・実施
- (3) 諸外国の技術者組織間の国際交流の推進
- (4) 技術者向け国際会議への参加
- (5) 公益社団法人日本技術士会の各地域本部のメンバーに対する国際活動機会の提供

2. 国際活動の状況

2.1 ミャンマー洪水被害に対する募金活動

2015 年 7 月に発生した台風（サイクロン）により、ミャンマー国土の広範囲が洪水に見舞われた。これを支援するため、青年委員会 HP、Facebook、同報メールを活用し広く募金を呼びかけ、総額 508,445 円の義援金をミャンマー技術士会（Myanmar Engineering Society: MES）に送金した。本義捐金は被災した子供たちに向けた学習用具の購入に充てられ、MES より感謝状を頂いた。



2.2 第 45 回 日韓技術士国際会議への派遣

2015 年 10 月に春川（韓国）で開催された第 45 回 日韓技術士国際会議について、実行委員会に協力し、会議および親善サッカー大会への派遣を行った。

2.3 CAFEO 33/YEAFEO Mtg 22 への派遣

2015 年 11 月にペナン（マレーシア）で開催された CAFEO 33/YEAFEO Mtg 22 に公費派遣者 3 人、私費派遣者 15 人が参加した。この内、1 人が地域本部メンバー、4 人が学生メンバーであった。派遣準備にあたり Face to Face Mtg（2 回）に加えて、Facebook グループを活用することで、遠方のメンバーとのタイムリーな討議が可能となった。現地では各種イベント（Futsal、Heritage Hunt など）を通して各国参加者と交流を深めた他、各種 Working Group（防災、出版、教育）での議論に参加し日本の存在感をアピールした。また、Country Report として青年委員会の活動内容を報告した。

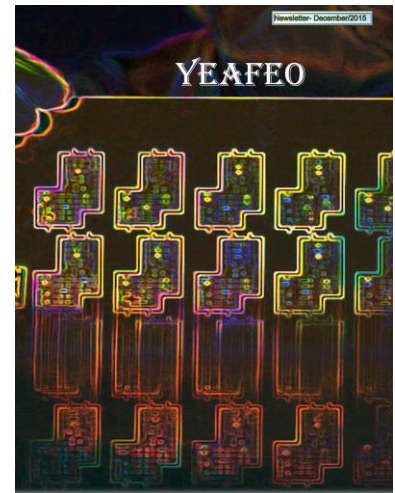


2.4 YEAFFEO News Letter への寄稿

YEAFFEO Mtg 22 で決定した News Letter の定期発行に向けて、国際グループメンバーを中心に、青年委員会の活動について寄稿した。残念ながら現在は事務局都合により発行が中断されているため、次回 YEAFFEO Mtg にて今後の方針が討議される見通しである。

2.5 YEAFFEO Disaster Preparedness Working Group への寄稿

YEAFFEO Mtg 22 で宿題となっていた「各国の防災施策の共有」について、日本の取り組み内容を寄稿した。



3. グループ運営の状況

3.1 グループリーダーの青年委員会 副委員長への兼任

CAFFEO/YEAFFEO Mtg など各国技術者との交流において実質的に長を担う国際グループリーダーについて、青年委員会での位置づけ（役職）を明確にするために副委員長を兼任することとした。なお、各国では青年委員会 委員長が国際交流の長を担っている。

3.2 CAFFEO/YEAFFEO Mtg 派遣要領の改定

CAFFEO 33/YEAFFEO Mtg 22 への派遣経験を踏まえて、主題資料を改定した。この中で、特にリスクマネジメントについての記載を充実させた。

3.3 安全な海外渡航についての討議

CAFFEO 34/YEAFFEO Mtg 23 の開催予定地であるプエルト・プリンセサ（フィリピン）の治安は、外務省が発出する危険情報のカテゴリーで「レベル 2：不要不急の渡航は止めてください。」である。これを機に、「安全な海外渡航の観点での派遣基準」および「安全確保についての適切な対応」について討議した。結果として、四役会議（会長、副会長、専務理事、常務理事）にて同会議への派遣見送りが決定されたが、上記の討議は今後の派遣のリスクマネジメントを行う上で非常に有意義であった。

4. 今後の計画

CAFFEO 34/YEAFFEO Mtg 23 への派遣が見送られたことにより、従来重視してきた「同一メンバーの連続派遣」が不可能となった。これにより各国技術者と国際グループとのコネクションが祖になる恐れがある。これを回避するため、「各国技術者とのコミュニケーションの維持 (Facebook など)」、「来訪時のイベント開催 (Mtg、Tech Tour など)」を心がける。

例会活動報告書

行事名	【科学的】な問題解決手法ワークショップ
日時	平成 27 年 5 月 23 日 (土) 13:00~17:00
場所	荻手第 2 ビル 日本技術士会会議室
講師、発表者	講師 高木芳徳氏
担当者: (○印:リーダー)	○畠田泰彦、赤木宏匡、村崎諒
参加者数	48名(委員・委員補佐 10名、一般参加者 38名)

1. 背景・目的

トリーズを題材として、問題解決手法を学んでいく例会を企画した。部門共通的な知識の習得、参加者が作業し発信する双方向型の講演会・ワークショップを意図した。

2~4 月の例会は参加者と委員と一緒に作り上げる形式であったため、外部講師を招聘して新たな知識を得ることを第一として考えた。一方で、“参加型”、“発信”も意図してワークショップとした。

2. 企画内容

2-1. タイムスケジュール

- 13:30~13:35 主催者あいさつ
- 13:35~14:35 講義1
- 14:35~14:45 休憩
- 14:45~15:45 講義2
- 15:45~15:55 休憩
- 15:55~16:20 ワーク
- 16:20~16:55 グループ内発表
- 16:55~17:20 全体発表
- 17:20~17:30 講師講評、委員長講評

2-2. 講師

講師は高木芳徳 氏(ソニー株式会社 デバイスソリューション事業本部 品質信頼性部門 品質企画部 品質企画課 TRIZ 推進係 アイデアクリエータ)に依頼した。データサイエンティストとして新規事業(電子お薬手帳 harmo)に、アイデアクリエータとしてイメージセンサ事業部等の特許活動に携わる傍ら、社内外で TRIZ をベースとした問題解決手法の普及を行っている。産総研、ツタヤ書店、ソニー社内などでの講演経験がある。

今回の講演は、昨年(2014 年)刊行された著書:「トリーズ(TRIZ)の発明原理 40 あらゆる問題解決に使える[科学的]思考支援ツール」(14/8/30 発行)に基づくものである。

2-3. 講演会

配布資料を基にして、TRIZ の歴史、講師が発案した発明シンボル、「分けて」解決する考え方を講義していただいた。参加者に1,2,3,4の発明シンボルを付箋紙に書いていただいたり、講師お手製のおもちやなども使ったりと、参加者を巻き込んだ講演で頭も手も動かす講演となった。

2-4. ワークショップ

開催週の月曜日夜に、宿題を提示した。

「ご自分の専門とされる分野において利用されている工夫や発明について空間などで“分けて”課題を解決している事例を探してみてください。」

このワークショップでは、講師からワークシートを配布し、事前に考えてきていただいた事例を落とし込む作業をおこなった。

2-5. 交流会

参加者 25 名、講師 1 名、委員 10 名の参加を得て、交流会を行った。17:30 から開始し、19:00 までとアナウンスしていたが、高木講師の周りには常に参加者の輪ができていたこともあって、19:30 過ぎまで歓談していただいた。

3. 成果と所感

3-1. 成果の概要

開催前から参加申し込みが多く、またいったん締め切ったあともキャンセル待ちでの参加希望もあり、興味・関心を抱いていただける企画であったといえる。また、2月、3月、4月の例会参加者が引き続いて参加いただいております、当初の目標の一つであったリピータの獲得にも寄与できたものと思う。

3-2. トピックス

(1) 外部講師との連絡

2014年9月に例会幹事が決まったのち、講師に幹事(寫田)が2014年10月に直接会って打診し、ご了解いただいた。年が明けて2015年2月にfacebookで5月23日の開催を打診し、1週間程度調整ののち快諾いただいた。続いて3月中旬に講師と幹事3名の4名で集まり、企画の概要、方向性をすり合わせた。

その後は、基本的にメールによるやり取りで案を出し合いながら確認を行い、準備作業を進めた。開催3週間前に電話で確認したのち、開催8日前に、当日の流れ、準備すべきものの最終的な確認を行った。

上記のように、実質的に2回のみしか直接の会合が持てなかったが、連絡自体は密にとることで準備作業は着実に行うことができた。

(2) 参加者との連絡

申込は、基本的に日本技術士会 Web サイトの CPD 行事案内からの申込に一本化した。担当者から受領した名簿に基づいて、参加申し込み受付の確認と交流会参加確認のために個別にメールを送信した。最終的にほぼ全員から交流会出欠の返信を受領した。

申込受付は4月例会の前日に行い、5/11までとし、CPD 行事案内の申込ボタンを外した。その後はキャンセル待ちとし、メール問い合わせをいただいた方に対してその旨を返信した。キャンセル待ちは10名弱であった。申込人数は別途図示した。

実際キャンセルは1名のみであったが、5名のキャンセル待ちの方に連絡し、4名出席1名欠席の連絡があった。

メール送信作業は自動応答ではなく手動で行ったため手間がかかった。毎日ではなくまとめて行うことで作業回数を減らした。この作業は

(3) 書画カメラ

グループワークの発表の際に、iPhone を「書画カメラ」として利用して、参加者の書いた手書きの資料を投影した。A4用紙の1/4程度が見えるように設定しており、参加者が実際に作業したワークシートを移動させたりカメラの機能で拡大縮小するなどして発表をさせていただいた。また、SD カード自体を映した方もおり、実体カメラならではの思われた。

従来の方法の問題として4点あると考えていた。(1)4月例会のようにパワーポイントスライドを使うと、PCおよび作業者が多数必要になること、(2)ワークショップのような時間が限られた場で図をコンピュータ上に示すことは困難であること、(3)模造紙などに書くと清書の作業が必要となること、(4)手書きのままや模造紙だと参加者に前に出てきてもらわないと見えなかつたりすること。

今回はカメラの固定方法にやや難があったが、おおむね滞りなく発表していただけたものと思う。委員個人の所有物に依存する形とはなるが、グループワークの発表方法としては有効であろうと考える。

なお、iPhone には書画カメラアプリをインストールし、iPhone とプロジェクタの接続は iPhone 対応の接続ケーブルを用いた。これらは幹事 赤木委員が準備し、自宅で基本的なテストを行ったうえで用いている。また、固定架台は当日100円ショップで購入した部材で構築した。

(4) 配布物

配布物を日本技術士会の封筒に収めて参加者の机の上に置いておいた。受付での作業を減らすことを主眼にした。あらかじめまとめておく手間がかかるが、資料の分散防止として有効と感じた。また、高級感

があるとの意見もあった。封筒は、事前に事務局からお分けいただいた。

ただし、今回あらかじめ班分けしてあったが、どの班に何人いるかをしっかり確認しておらず過不足が生じた。今後の課題と考える。

(5) 交流会

これまでの経験から、1000円では少なく、2000円では多い印象があったので、1500円で設定した。大まかに言って1000円がデリバリーの食事、500円が酒類および乾きものであった。量的には、ちょうどよい程度であった。しかし、500円が端数であるためつり銭の用意が必要となる。今回は幹事が500円×7人分をあらかじめ用意した。

3週間前程度に仮注文し、3日前の水曜日に確定注文を行った。

(6) 名札

名札はA4用紙に名刺サイズ(10面)で印刷したものを用意し、当日名刺サイズに切断した後、受付前においておいた。交流会参加者にシールを貼ることで、会費支払い済みかわかるようにしているが、今回はあらかじめケースに収めていたため、ケースに貼ることになった。回収後の作業が増えるので、名札は受付でカードとして配布し、ケース&ストラップは座席に置いておいてセルフサービスで名札を作っていたのが良いのではないかと考える。

(7) 書籍の販売

書籍を元にした講演の場合、例会の前後に販売することも考えられる。ここ5年程度で2回程度、講師著書の販売をしたこともあるので実施可能と考えられる。販売タイミング、代金收受、書籍の受領・管理・返送などが課題であり、これらのスキームがしっかりしていればできると考える。

(8) 開始前の準備

例会で使用する物品の班ごとの仕分け作業等をおこなった。具体的には、配布物、「分ける」を実感するおもちゃ、割り箸などの小道具類を委員各位の協力により速やかに行うことができた。準備にご協力いただいた各位に感謝したい

(9) 幹事分担

幹事の役割分担は次の通りとした。

鳶田 講師連絡、全体調整、参加者対応、
赤木 名簿作成、アイデアだし、書画カメラ対応
村崎 交流会準備、名札作成、アイデアだし、

4. 今後の展開

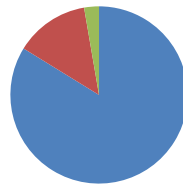
参加者の評価も高く、講師も希望しているため、続編を実施する可能性が考えられる。

以上、文責 鳶田

●今回の例会について

Q1-1. 講師の話し方や進め方

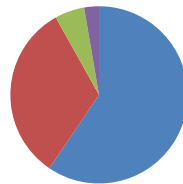
満足度	人数	割合 (%)
(a) 満足	31	83.8
(b) ほぼ満足	5	13.5
(c) 普通	1	2.7
(d) やや不満	0	0.0
(e) 不満	0	0.0
合計	37	100.0



- (a) 満足
- (b) ほぼ満足
- (c) 普通
- (d) やや不満
- (e) 不満

Q1-2. 講師の用意した資料

満足度	人数	割合 (%)
(a) 満足	22	59.5
(b) ほぼ満足	12	32.4
(c) 普通	2	5.4
(d) やや不満	1	2.7
(e) 不満	0	0.0
合計	37	100.0



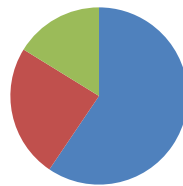
- (a) 満足
- (b) ほぼ満足
- (c) 普通
- (d) やや不満
- (e) 不満

Q1-3. 講師に伝えたいこと

- ・とても分かりやすくお教えいただき、ありがとうございました。今後先生の本で活用していきます。
- ・難しい内容ですが、面白い内容であったという間でした。
- ・前に出したスライドが手元資料にない時探した。
- ・問題を一般化するのがむずかしかった。
- ・正直、難しかったです。
- ・弊社でも講演可能ですか？
- ・TRIZの意図が分かりました。
- ・業務での特許出願をよりよいものにするための参考とさせていただきます。
- ・プロジェクト表示された全頁を紙資料でいただけるとベターだと思いました。

Q2-1. スタッフの対応

満足度	人数	割合 (%)
(a) 満足	22	59.5
(b) ほぼ満足	9	24.3
(c) 普通	6	16.2
(d) やや不満	0	0.0
(e) 不満	0	0.0
合計	37	100.0



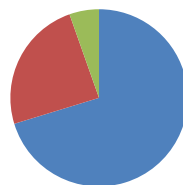
- (a) 満足
- (b) ほぼ満足
- (c) 普通
- (d) やや不満
- (e) 不満

Q2-2. スタッフに伝えたいこと

- ・資料に不足がありました。
- ・おつかれさまでした。
- ・pptと配布資料のページが異なる。
- ・準備、設営までありがとうございました。
- ・机の間を少し広くしてもよいように感じた。
- ・新しい考え方が勉強できて大変良かった。

Q3. 全体として

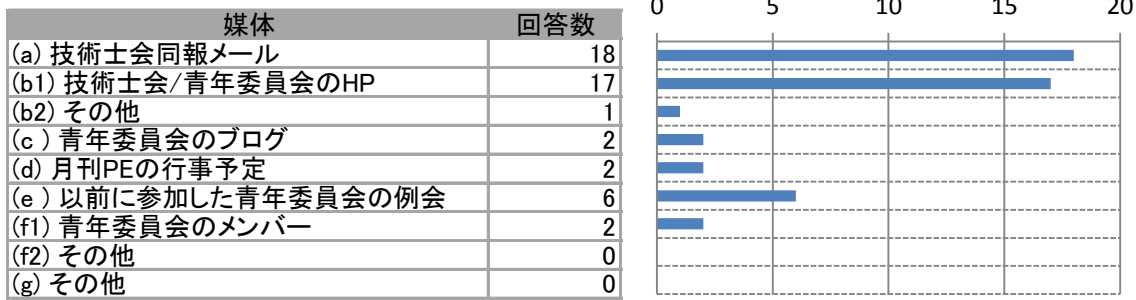
満足度	人数	割合 (%)
(a) 満足	26	70.3
(b) ほぼ満足	9	24.3
(c) 普通	2	5.4
(d) やや不満	0	0.0
(e) 不満	0	0.0
合計	37	100.0



- (a) 満足
- (b) ほぼ満足
- (c) 普通
- (d) やや不満
- (e) 不満

●参加するまで

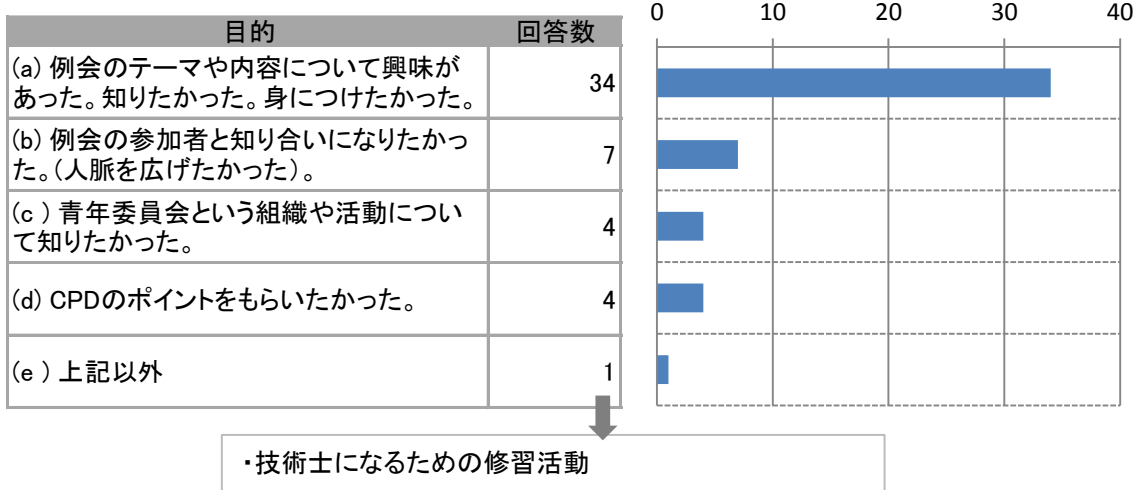
Q4-1. 今回の例会をどのように知りましたか



Q4-2. 参加のきっかけ



Q5. 参加目的



Q6. 青年委員会への参加回数



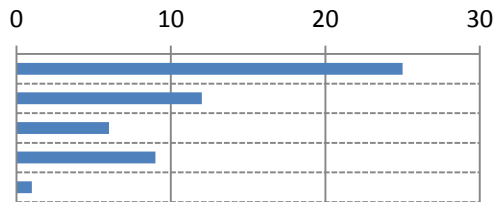
Q6-1. 過去の例会で印象深かった・面白かったテーマ

- ・技術士エンジン・合格者お祝会(名前違いますが)でのプレゼン議論
- ・前回(4月)の交流会 ・4月、インタビュー
- ・前回(4月の会)・合格者セミナー
- ・TRIZの例会 ・ビアパーティー
- ・講演会 ・テクノツアーリズム+BBQ
- ・ディベート、国際活動報告 ・トリーズ

●青年委員会の活動について

Q7-1. 開催してほしいイベント

満足度	回答数
(a) 情報の提供	25
(b) 変化の提案	12
(c) 楽しみの場の提供	6
(d) 人脈形成の場の提供	9
(e) その他	1



↓
具体

- (a) 講演会、最適化手法(品質ーコスト トレードオフ)、見学会、勉強会、今回のようなもの
- (b)
- (c) レクリエーションなど、懇親会
- (d) 海外のPEとの交流
- (e) 社会情勢のトレンドや自己啓発につながるもの

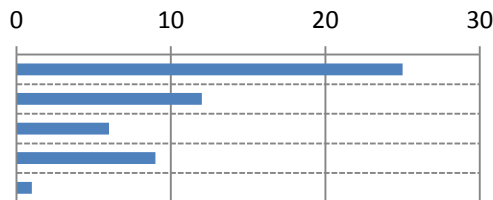
Q7-2. 内容以外についての希望

- ・東京以外での開催＋全国への中継とかできないものでしょうか。
- ・土日が都合がよい
- ・土曜日はベスト

●技術士または技術者としての活動について

Q8. 技術士または技術者としての本業に加えての活動

満足度	回答数
(a) 自身の向上	24
(b) 周囲の支援	6
(c) 周囲との関係	4
(d) その他の活動	5
(e) 特になし	4

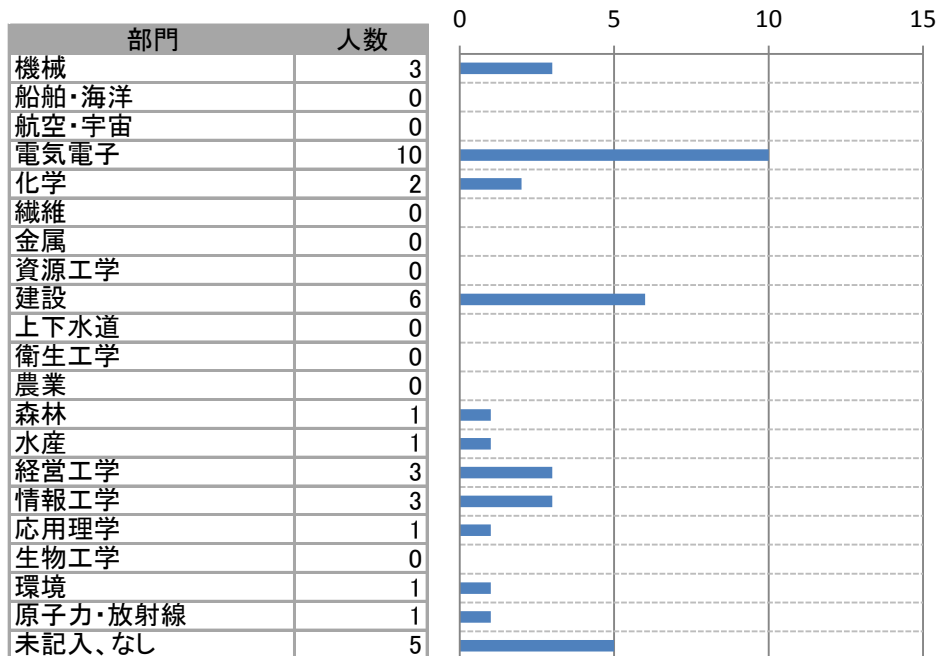


↓
具体

- (a) 例会参加、語学力(英語)修得、資格取得、電験3種受験、勉強、修習技術者の研修会参加、他資格取得、資格取得、他分野、語学、セミナー参加、EラーニングJST、見本市見学
- (b) 産業遺産保護、科学教育、IT系試験の作問や審査員など
- (c) 交流会
- (d) AGA 国際交流協会の活動、業務、社内技術士の育成、VE協会での研究会、

●参加者基本情報

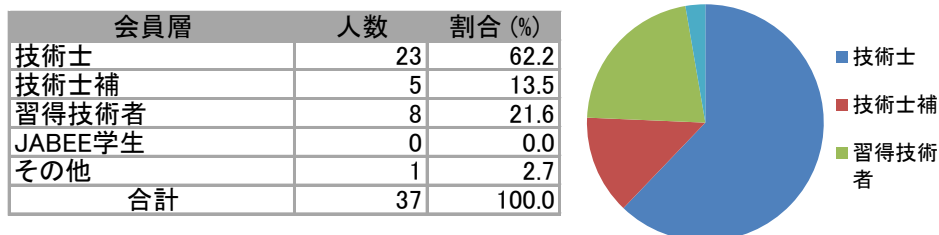
Q9-1. 技術部門



Q9-2. 年齢層



Q9-3. 会員層



以上

内部アンケート集計結果 (★は髙田コメント)

1. 良かった点

- 資料を技術士会の茶封筒に入れた点。 ★封筒は事務局に依頼すれば頂けます。
おもてなし度合いがグレードアップしました。
- 内容が技術士の方が学びたいと思うものだった。 ★ありがとうございます。
キャンセル待ちや Pe-CPD の依頼があったという事実が物語っています。
- 聴講とグループワーク。 IN と OUT のバランスが良かった。
聴講だけだと眠くなるし、ワークばかりでは疲れてしまいます。
今回は両方あり、バランスが良かったと思います。
★講師の準備に感謝です。「参加型」は事前の打ち合わせでも話した内容ですが、他所での Talk でも同じようにしているようです。インタラクティブ性は参加者に響かせるために必須で、いまの私たち委員会の方向性が間違っていないことの証左かと思います。
- 企画のテーマと内容
TRIZ について知っている人も知らない人も無理のないプログラムだった。
キャンセル待ちを断るほど関心の高い、素晴らしい企画だと思いました。
- 懇親会
手間はかかりますが、例会終了後の懇親会は立食が無難だと思いました。
アウトプットのテンションそのまま盛り上がっていました。
参加者がぜんぜん帰らなかったところを見ると、楽しんでいただけたと思います。
他には、串特急批判の多い中で適当な候補が見つからないためです。
- 企画内容
TRIZ は個人的に気になる手法だったのでとても良い企画だったと思います。
- 会の内容
本だけだとなかなか理解を深めづらいところ解説と GW で、理解しやすかったと思います。
- 例会のテーマが素晴らしかった。
申込者も多く、何件もキャンセル待ち希望のメールをいただいた。
九州本部では例会テーマの TRIZ 勉強会を開催しているグループがあり、
熱心に遠隔聴講のご希望があった。
- 名札がみやすくよかった。
受付名簿からマクロを作成して下さるといいう話が実現するとよいですが (→村崎さん)
★名札作成は軌道に乗ったと思います。委員名札の常備と自動化が次の目標でしょうか？
- 4月例会参加者が多くご参加下さった点。クーポン券の効果があつたかも。
★クーポン券は有料企画だからこそですが、手として考えておいてよいと思います。
- キャンセル待ちがでるほど、関心度のとても高いテーマであったこと。
当日欠席となった方も1名だけでした。

- ・参加者が19歳～59歳(年齢平均41歳)と比較的若年層(といってもいいでしょうか)であったこと。
★コントロールはできませんが、現役層に響く企画でよかったです。
- ・講師の先生x寫田さんの連携が素晴らしかったです。始終安定感がありました。
- ・amazonでカテゴリ売り上げ1位となった書籍の著者が講義するという、タイムリーで話題性のある会だったこと。(キャンセル待ち数が物語っていますよね)
- ・青年の5月例会でとして位置付けた「意識高い系」として十分ふさわしいものとなったこと。
- ・講師の高木さんが我々と同じ若年層であり、また大変気さくな方であったこと(サイン本は宝物やね)。
★講師が若年層というのは一つの訴求要因と改めておもいました。3月は委員でしたが、委員でも委員外でも若年層が話すのは価値になっていたかと思います。

2. 改善すべき点

- ・1班の人数が多かった、ような気がします。
内容から5人くらいが丁度いいと思います
ただ全体発表が2班増えてしまうのでこの辺のバランスが難しいですね。
★講師からは1班5～7人との話をいただいていた。おっしゃる通りのバランスの問題で、当初は5人×6班程度を想定していました。AB会議室ならぎりぎり8班行けたかもしれませんね。
- ・ワークのボリュームが時間に対して多かった。
これも内容からするとどこを削るかが難しいですね。
★事前にワークシートを配布しておくのが一つの解かだと思います。
- ・著書の機会損失
ちょうど興味を持っているタイミングで、しかも著者がいたので、あの場で本がないのは惜しいなあと思いました。販売すればよかったですね。
★青年例会でも、以前著書の販売をしたこともあるのでやってもよかったですね。販売タイミング、代金収受、書籍の受領・管理・返送などが課題でこれらのスキームがしっかりしていればできると思います
- ・今回は特に見当たり当たりませんでした。
- ・減多にないことですが、CD会議室をたまたま分割して使用されていて、C会議室への入場が受付の後ろの狭いスペースを抜けるようになり、来た人が皆困っていた。
★これは想定外でした。
- ・本を販売できたらよかったです。
- ・書籍販売案は、discoverさん作の“のぼり”を受付で見た瞬間に私もそう思いました。
営利目的を避ける。。。云々もあるかも？と思いますが(考え過ぎ?)、可能であればやりたかったですね。

3. その他

- ・ワークを時間短縮するアイデアを考えていたらひらめいたので参考までに
発表をポスター展示みたいな発表にする
→発表する人だけ班に残し、その他の人は各班の代表者の発表用紙を見に行く
6班を初めに展示する班と後に展示する班の2グループに分ける
(発表する方が回れないと思い、2グループ制にしました)
1グループの展示時間は6分
ざっくばらんに質疑応答
★この形式はありうろと思います。今後試していただけたらと。
- ・TRIZ 続編 (for 青年委員) by 松田さん
講師の高木さんと、電車×TRIZ の企画を考えています！
当日、もっと聞きたかった！という声があるかもしれませんが、リベンジのチャンスあります。
畠田さん、できればこの企画にお手伝いしていただきたいです！
参加したい方、アンケートの「その他」で TRIZ 電車企画希望と明記して下さい。
(電車の候補は、20名集まれば都電荒川線貸切、20名以下なら鶴見線)
★是非お手伝いさせてください。
- ・今回の企画は個人的にはとても良い企画だと思いました。自分が部外者でも、企画内容から参加したいと思う企画です。
- ・会も滞りなく進められて、幹事の皆さんと事前準備に関わった委員の皆さんがとても良い準備をしたのだなと・・・遅刻したので部外者風に言ってみました。
- ・飲みケーションはとても大事なので、会が終わった後にぱっと入れるお店はいくつか候補があると良いですね。
- ・松田さんの企画されている電車×TRIZ 講習会も参加したいです。
- ・「連続企画」の我々の意図が5月例会でどう生かされているか、分析評価の必要あり(スマートな畠田さんが多分やってくれはるはず)。
TRIZは普段の生活で意識しないと身につかないと思う。私もがんばります。。

以上

行事名	7月例会：テクノツーリズム、BBQ
日時	2015年6月28日（日） 10:45-13:05 テクノツーリズム 13:20-16:30 BBQ
場所	テクノツーリズム：パナソニックセンター東京 BBQ：そなエリア東京バーベキューガーデン
担当者： （○印：リーダー）	○吉田、田角、松井（記）
参加者数	テクノツーリズム：41人 BBQ：42人（大人39人、小人3人）

1. 背景・目的

様々な科学・技術について、見学・体験する事により、参加者の技術の見識を広げると共に、専門外の科学技術の理解を深める。また、BBQを通して地域本部間の交流を深める。

2. 例会内容

2.1 テクノツーリズム

■施設名： パナソニックセンター東京

■場 所： 東京都江東区有明3丁目5番1号

■最寄駅： ゆりかもめ 有明駅 徒歩3分、りんかい線 国際展示場駅 徒歩2分

■概 要：

パナソニックの製品、ソリューションの展示及びパナソニックと顧客のコミュニケーションの場として設けられた施設である。

<1F 展示スペース・2F 無料エリア>

1F・2Fは、展示スペースとなっており、原則、自由見学。1Fのみ1回10名～15名程度でガイドツアーが開催される。

<3F 有料エリア>

理数の魅力とふれあうミュージアム「リスーピア」の有料エリア。大人500円、高校生以下、無料。

当日は、3Fエレベータ前で入場整理券が発行される予定。入場整理券が無くなり次第終了。

2.2 BBQ

■施設名： 東京臨海広域防災公園 そなエリア東京バーベキューガーデン

■場 所： 東京都江東区有明3丁目

■最寄駅： ゆりかもめ 有明駅、りんかい線 国際展示場駅

■費 用：

<大人一人あたり>

会費： 4,500 円/人

内訳：

- ①利用料金： 1,030 円
- ②レギュラーセット： 2,138 円
- ③備品（タープ他）： 301 円
- ④保険： 50 円程度
- ⑤飲み物+α： 981 円程度

<小人一人あたり>

会費： 2,000 円/人

内訳：

- ①利用料金： 520 円
- ②キッズセット： 1,058 円
- ③備品（タープ他）： 301 円
- ④保険： 50 円程度
- ⑤飲み物+α： 71 円（不足分は大人の会費より）

2.3 タイムスケジュール

10:00 ゆりかもめ新橋駅 集合（入口階段下）

↓ 電車 24 分

10:40 有明駅到着

↓ 徒歩 3 分

10:45 パナソニックセンター東京 見学

↓

13:05 パナソニックセンター東京前 集合（正面入口前）

↓ 徒歩 5 分

13:20 そなエリアBBQガーデン

↓

16:30 解散

3. 成果・反省

3.1 テクノツーリズム

<成果>

- ・総合電機メーカーと社会との関わりを学ぶと共に、理科・算数のしくみが学べる学習展示もあり、好評であった。
- ・懇親会（前日）、地域本部メンバーの宿泊地を鑑みてロケーションを設定することで、移動を容易にすることができた。

<反省>

- ・見学先はショールームも兼ねていたため、専門性がやや低く、テクノとして物足りない側面があった。

3.2 BBQ

<成果>

- ・統括・地域本部メンバー合同で開催することで、交流を深めることができた。
- ・機材・食材等現地で調達可の BBQ 場としたため、買い出し・仕込み等の手伝い要員が不要なく、楽であった。

<反省>

- ・準備・片づけに予想以上に時間を取られたため、歓談の時間がやや短く感じた。
- ・直前まで雨天の判断に迷ったため、予約可能であれば、雨対策万全の BBQ 場を選定すべき。

4. 今後の展開

・今回、BBQ 場の選択肢が少ないということで、BBQ 場の選定を最初に行い、交通アクセスのよい場所でテクノ先・懇親会・宿泊場所を選定した。そのため、交通アクセスの良さについては好評を得たが、意外にテクノ先の選択肢が少なく、選定に苦労した（ミュージアムは多数あるが規模が小さい）。

・石井委員の情報によると、青年 OB の方で、東京港埠頭株式会社の鈴木氏にご連絡すれば、鈴木氏の同社の管轄の公園について、BBQ 場の予約について優遇して下さるとのこと。2 ヶ月前までに詳細を鈴木氏へ連絡する。管轄の公園は潮風公園（2013 年に実施）、江東区立若洲公園等。このような情報も利用し、地域本部の方の交通アクセスに便利で、かつ充実したテクノツーリズムを今後も企画していく。

<http://www.tptc.co.jp/park//tabid/1092/Default.aspx>

外部アンケート概要

イベントの企画・運営については地域本部の方がベテランでもあり、見る目は厳しい印象。

【地域本部報告会】

例年にくらべ深い議論ができたことと好評価を得た反面、ほぼ全員からタイムマネジメントができていなかったことの指摘を受けた。

個人的にはタイムマネジメントを行わなかったからこそ例年できなかったような議論ができたことと自負しているが、次回以降はタイムキーパーを設けた方が無難である。また、資料の共有が課題である。

その他、発表の順番やテーブルの配置について提案があった。

【一次会、二次会】

立食形式と地域名物対決は大好評を博した。

不評な点は、一次会で会場内に座れる椅子や荷物置き場が無かったこと、二次会で食事がかなり余ってしまったことが挙げられている。

立食パーティでは皿やコップに名前を書くなどの提案があった。

【テクノ】

そもそも参加者が少なかったが、概ね不評。テクノに期待されているレベルは高い。誰でも見れる施設を見学するだけでは物足りない。

青年メンバーによる解説や、ワークショップ・ディスカッションの場を設けてほしいとの希望が多い。

立地やBBQへのスムーズな移動を重視していることをアピールすべきか。

【BBQ】

概ね好評ながらも、厳しい意見もあった。

段取りについてなかなか開始できなかった点や、交流を促す工夫が無かった点などが指摘されている

6月外部アンケート 良かった点

地域本部報告会

A	小島	中部	各地域本部の具体的な活動内容を聞くことができ、今後の参考とさせていただきたいと思う項目を数多く得ることができたこと。
B	宮西	近畿	各地域本部の特徴ある活動について、十分時間をとって聞いたこと。
C	持田	九州	時間の許す限り、全国の活動報告がたっぷり聞けたことです。
D	大高	北陸	・各地域本部の活動状況を詳しく、たっぷり知ることができて、大変良かったです。北陸でも色々仕掛けていかないと、次を担う若者たちの気持ちを奮起させることができません。どれかバクらかもしれませんが、その際はよろしくお願い致します。
E	永岩	九州	●今後、どのように参加したらよいか、雰囲気をつかめたこと。 ●北海道のノートは感動しました。 ●最後、山本統括委員長のすばらしいPPTとお話が聞けたこと。
F	上原	九州	・質問時間が十分にあったので、他の地域本部の活動で自分たちの参考になるポイントをきちんと聞くことができ、大変有意義でした。いろいろ見習いたいと思える内容でした。
G	金高	中国	・各地域本部の活動について、たっぷり時間をとって議論ができた。
H	三角	中国	・各本部の活動を知ることができた。じっくり質疑応答が出来たので深く理解出来た。 ・写真付きの名簿があったので初めてお会いする方が多かった自分でも名前が覚えやすかった。
I	赤木	中国	・他の地域本部の取り組みについてじっくりと話を聞けたので、見習いたい所や共感できる所など発見があった。今後の課題などが色々見えてきました。
J	石川	中部	・各地域本部の具体的な活動や課題が聞けてためになりました。 ・(2回目の参加でこれまでは存じていませんが、)必ず発言するような指示があり、特定の方だけではなく、色々な地域本部の人の意見が聞けたこと
K	高瀬	中部	・各地域本部の活動内容を具体的に聞けたことはよかったです。
L	永井	北海道	・じっくりと各地域本部の活動について聞くことができた
M	小澤	北海道	・各地域本部での活動内容が理解でき、大変勉強になりました。質疑時間をたっぷり確保したことも良かったです。初めて参加しましたが、ミニ全国大会みたいなおもしろい雰囲気でした。 ・各地域本部でまとまって座ったのは良かったです。
N	仁田	北海道	・時間がたっぷりあって、各本部の報告をじっくり聞くことができました。 ・おかげで、これからの取り組みについて、たくさんヒントを得ることができました。
O	千葉	北海道	・委員長以外の参加が許されていた。 ・各地の活動状況が詳しく聞けた。
P	木本	北海道	・これまでなかなか確保できなかった各地域本部からの十分な報告時間があり、 ・従前以上に、各地域本部の活動内容等を知ることができて良かった。 ・全国大会の際は、やはり時間の確保が困難なことから、拡大委員会時の地域本部報告会 ・は、今後、これくらい時間あってもいいと思う。
Q	堀内	東北	・毎回、各地域本部の活動紹介が参考になります。良いと思うこと、取り入れたいと思うこと、すぐには無理だけど将来出来たらと思うことなど、今後の活動に生かしたいです。 ・資料やノウハウを共有頂ければ、活動が全国へ波及するスピードも速くなるでしょう。(東北も、九州持田さんにJABEE講習の資料頂きました。ありがとうございました。)

一次会・二次会、

A	小島	中部	一次会の立食形式はなかなか良かったかもしれません。(部屋の大きさに対して、ちょっと人数が多すぎたけど)
B	宮西	近畿	立食は正解だと思います。いろんな人と話が出来ました。これからは1次会は立食がいいと思います。 地域名産対決は面白い企画で良かったです。(余談ですが、仙台で同時開催？していたSUKIYAKI塾の「総会」でも同じような企画があったらいいです。みんな考えることは一緒?)
C	持田	九州	一次会の店での立食形式、地域対抗うまいもの対決、二次会、三次会、四次会…。良かった！の一言です。
D	大高	北陸	・各地域のおみやげ対決は盛り上がりがありました。「くさや」も含め、全て美味しく頂きました。 ・みなさん元気。
E	永岩	九州	●立食であったことから、交流がしやすかった。 ●地域名産対決は盛り上がりがあった。
F	上原	九州	・名物対決がとても楽しかったです。 ・各地域の事を知ったり、その感想等で話のきっかけになったりと良い企画でした。
G	金高	中国	・立食パーティ&酒のツマミコンテストという形式は非常に面白かった。 ・是非まねさせてほしいと思います。
H	三角	中国	・お土産持ち寄りコンテストが面白かった。(特にくさやは盛り上がりましたね) ・立食だったのでたくさんの方と話が出来た
I	赤木	中国	・おつまみコンテストは良かったです。最高に楽しかったです。 ・大人数に対しての会場手配・エスコート本当にありがとうございました！おかげさまで楽しくお酒を飲むことが出来ました。
J	石川	中部	・立食形式で多数の人と話が出来て良かったです。 ・自由交流には動けるやり方が一番だと思います。
K	高瀬	中部	・一次会：立食形式だったのでいろいろな方とお話できたので良かったです。 ・二次会：落ち着いて食事ができたので良かったです。 ・三次会：夜中3時からの恒例のラーメンタイムは、さらに深く交流できて良かったです。
L	永井	北海道	・楽しく交流できた。
M	小澤	北海道	一次会は立食スタイルで名刺交換がスムーズにできました。名物対決企画も良かったです。
N	仁田	北海道	・一次会の立食は、名刺交換しやすくて良かったです。が、後半は椅子が恋しくなりました。 ・一次会、二次会ともに、食べ物、飲み物が十分にあって、お腹いっぱいになりました。 ・地方名物対決も楽しかったです。が、くさやはヤバいですね。私、好き嫌いはないのですが、世の中に自分が食べられないものがあることを知りました。
O	千葉	北海道	・立食パーティ形式は、名刺交換がしやすく良かったです。 ・各地方の名物対決は良かったです。産地偽装は厳重注意をお願いします。
P	木本	北海道	・自由な感じがいいと思います。
Q	堀内	東北	立食が良かったです。普段より、たくさんの方と容易に話せました。 酒の肴対決も、盛り上がり良かったです。

テクノ

A	小島	中部	(回答なし)
B	宮西	近畿	駅から近かったこと。
C	持田	九州	(不参加)
D	大高	北陸	(不参加)
E	永岩	九州	●駅やコンビニ、ロッカーから近かった。
F	上原	九州	天気が悪くても対応できる内容で、理科と数学の体験学習コーナーなども楽しかった。
G	金高	中国	(ほぼ不参加)
H	三角	中国	(ほぼ不参加)
I	赤木	中国	●施設のチョイスなど非常に良かったと思いました。
J	石川	中部	・リスウピアは、子供向けとは思いつつも、基本的な物理現象について考える内容となっており、大人でも初心に帰ることが出来たかなと思います。
K	高瀬	中部	(不参加)
L	永井	北海道	・楽しく見学できた。時間もちょうどよく感じた。
M	小澤	北海道	各自が自由に、好きなように見学できたのは、個人的には良かったです。時間的にもちょうど良かったと思います(マッサージチェアで疲れを癒すことができました)。
N	仁田	北海道	・集合場所が近く、分かりやすくて良かったです。 ・パナソニックセンターは、技術的な視点でも楽しめて良かったです。
O	千葉	北海道	・3階のリスウピアは子供向けの施設なのでしょうが、技術士も十分に楽しめました。
P	木本	北海道	(回答なし)
Q	堀内	東北	田舎者には、東京のウオーターフロントを堪能できる道程で、はしゃいでしまいました。 パナソニック館は、子供を連れてこなければ・・と思いました。(毎回思いますが・・)。テクニクスは、音が聴きたかった。(パナソニックさんにいうことですが)

BBQ

A	小島	中部	天候の不具合が予想される中、最後まで雨にみまわれることもなく、楽しく交流させていただけたこと。 屋外での食事はおいしいですね！
B	宮西	近畿	(不参加)
C	持田	九州	(不参加)写真を見る限り、ご家族同伴で、非常に楽しそうでうらやましく・微笑ましく思えました。今後も家族同伴で輪を広げていただきたいです。
D	大高	北陸	(不参加)
E	永岩	九州	●会議室等では見れない一面が見れたような気がして楽しかった。 ●天候も良かった。(はじめは暑かった)
F	上原	九州	みんなで作業するので、とても楽しく交流ができました。とにかく、楽しかったです！
G	金高	中国	・晴れた仲、仲間と食べる肉は格別でした。
H	三角	中国	・都会で食べるBBQは新鮮でした
I	赤木	中国	・心配していた天気も晴天となり、最高のバーベキューでした。飛行機の都合で途中退席は残念でしたが、素敵な時間を過ごすことが出来ました。意図せず始まった炭の点火対決に惨敗したのが悔やまれる所です。道産子パワーを見せつけられました。
J	石川	中部	・共同作業をしながら世間話から近況までフランクな交流が出来ていいと思いました。地域(コンロ)によって色が出ていたり(課題でもありますが)、会議室では現れない想いなどが分かりました。
K	高瀬	中部	(不参加)
L	永井	北海道	・とても楽しかった。
M	小澤	北海道	北海道メンバーが、タープの張り方、炭火着火から炭火のコントロール、食材の焼き方まで慣れていてこと。 結果、晴れていたこと。 BBQ後の懇親も良かったです。(飲み過ぎましたが…)
N	仁田	北海道	・わいわい楽しめる雰囲気の中で良かったです。 ・北海道メンバーの多彩さをアピールできる機会を与えて頂き、ありがとうございます(笑) ・BBQ後の懇親も、ありがとうございます。最後まで楽しむことができました。
O	千葉	北海道	・北海道チームの連携プレーは特筆に値します。 ・BBQという企画そのものがとても良かったです。
P	木本	北海道	(回答なし)
Q	堀内	東北	(各人の課題として)BBQは、着火の訓練をしておきます。

6月外部アンケート 改善してほしい点

地域本部報告会

A	小島	中部	時間配分…(^^)
B	宮西	近畿	部屋が縦長だということを失念しておりました。投影資料のフォントが小さすぎて、後ろの人には字が読めなかったかもしれません。地域本部のディープな内容は、参加して日の浅い統括の新メンバー(候補)の方には、内容的にどうだったのでしょうか？自分で熱弁をふるって書いて言うのもなんですが、ディープすぎたかも、思ったりもしています。
C	持田	九州	各地域本部の時間をある程度、割り振っていただいた方が良かったと思います。来年から、参加できない方のために、WEB会議で各地域とつながったらどうでしょうか。
D	大高	北陸	・後半の地域本部の時間が短めになってしまったので、ある程度配分はあったほうが良いと思います。 ・活動年鑑は見ることができなかったのですが、どこかにアップロードしてありますか？統括本部行事に参加する機会あまりない北陸のメンバーにも見てもらい、少しは衝撃を受けてほしいと思ったりします。山本委員長の「締めのパワポ」とかも是非見せてやりたい。 ・活動年鑑の原稿なのですが、実はスライド2枚以内だったのでしょうか？特に指摘もなかったので、4枚のままスルーしてしまいました。すみません。
E	永岩	九州	●地域別時間配分。 ●北海道のノートに、あと2部門(今後の取り組み?) ●地域本部とその下の青年との関係が地域によって異なるようで、九州に照らしてどう考えたらよいか迷う点があった。 ●同じような取り組み(子供さん向け教室による社会貢献活動やJABEE講演等)については、横並びや統括して議論してはどうか。
F	上原	九州	報告会の終了時刻が17:00だったが、大幅にずれ込んだので少し慌てました。発表も室強盗も、とても面白い内容だったので超過してしまうのは仕方ないのですが、ある程度予定時刻通りにする調整をお願いしたいと思えます。
G	金高	中国	・長かった。
H	三角	中国	・懇親会がぎりぎりになってしまった点。ホテルへのチェックイン時間なども考えりょう少し余裕がほしい。
I	赤木	中国	・時間配分について、後から発表される本部の時間が十分に取れなくなってしまった点。
J	石川	中部	・報告時間と、質疑の時間の割り振りを明確にしてほしかった 我々は良いですが、準備されていた地域本部の方の報告が聞けない状況でしたので ・各活動を始めるに当たって調整した事項などを共通の話題(課題)は、各地域で具体的なアクションにつながる内容ですので、その内容について深掘りする時間があると良いと思いました。
K	高瀬	中部	・地域本部紹介コーナーのタイムキーピングをきちんとお願いできればと思います。
L	永井	北海道	・いつも時間設定が厳しく感じていたが、やはり、各本部の時間を設定して、各本部同じくらいの時間をかけるほうがよいと思った。最後の方の順番の地域本部は急いで進めておろし、質問を控える雰囲気になっていた。
M	小澤	北海道	発表するにつれて時間がなくなっていくのはよいことですが、発表順を抽選にするとかにされたいかがでしょうか？また、発表資料は印刷配布して頂きたいです。 各地域本部で発表・質疑時間は、一応、区切った方が良いでしょうと思います。 質疑の際など、スクール形式だと、ちょっと窮屈な感じでした。
N	仁田	北海道	・後半、時間がおしてしまったので、最初から時間配分をしたほうが良かったと思います。 ・活動年鑑、プレゼン資料を何かしらの方法で共有できるようにしてほしいです。 ・委員自己紹介ファイルを参加できなかったメンバーにも配布できるようにしてほしいです。
O	千葉	北海道	・委員長以外の参加が可能なことをもっとPRすべき ・各地方の発表時間は何らかの制限を付けた方が良いでしょう。短すぎるのも長すぎるのも良くない。
P	木本	北海道	・各地域本部の「交流」会議なので、できれば、机の配置から「交流」になるといい。 スクール形式だと交流しづらい(前と後ろで見にくい)ので、 会場都合もあって難しいかもしれませんが、地域本部ごと「島」形式にするなど、 配席からの雰囲気作りがあると、なお良いと思います。
Q	堀内	東北	今回は、時間が例年よりあったため、タイムキーパーが居られなかったのですが、最後おしました。時間を区切ったり、たまには南から発表することも良いのでは、と思いました。

一次会・二次会、

A	小島	中部	具体的な開催会場を決めるのは直近になってからかもしれませんが、「おおよその辺で開催しますよ!」ということを事前に報告していたら、比較的近場のホテルを早い段階で予約することができるので、来期からは実現していたければありがたいです。(なぜか拡大委員会のときは、東京駅周辺の土曜のホテルがどこも満室になってしまうのです(昨年も)…)。
B	宮西	近畿	一次会の立食をもう少し長めに時間をとっていただいていた方がよかったです。30分遅れてしまったからそう感じただけかもしれませんが…。
C	持田	九州	何もありません。最高です。
D	大高	北陸	(回答なし)
E	永岩	九州	●グラスや皿に名前を書く(貼る)ようにしてはどうか。 ●みんな話し込むと幹事さんの説明などが聞こえない。(聞いていない)
F	上原	九州	立食だと、貴重品や名刺、携帯を手を持ってなくて、名刺交換がなかなかできませんでした。会場内に荷物置き場が確保できれば良かったかな、と思います。
G	金高	中国	・二次会の料理が多すぎた
H	三角	中国	・会場が狭くゆくり出来なかった。 ・投票のサイトで自分の票が入ったのかよくわからなかった
I	赤木	中国	・改善というほどのものではありませんが、二次会はもう少し軽めでも良かったですね。(かなり残ってしまったので)
J	石川	中部	・全員の方とお話しするには時間が少なかったという感想です。 場所の関係もあると思いますが、もう少し長く設定頂けると嬉しいです。
K	高瀬	中部	・一次会:立食形式は会話はずんでしまう食事とりに行くタイミングがない。 店員さんが円卓に食事を持ってきてくれるようなことできると思いますよ… できるのか??もしくは円卓に既に分配されているとか。 ・二次会:食事の量が多かったため、結構食べ残しがありもったいなかったです。 ・三次会:夜中3時からのラーメンは体に悪い…自業自得(笑)
L	永井	北海道	・特になし
M	小澤	北海道	一次会の立食は90分が限界です。また、会場が狭かったのと、追加注文の飲み物が出るまでが遅かったです。(店のせいですが…) 名物対決の投票は、他の地域本部のみにすべき(自らの本部に投票できないように)。突出して統括の人数が多いものもあります。「くさや」は反則技です!名物としても、賞品としても…! なお、二次会の料理は多過ぎだと思いました。がっつり、残っていたので、その分、会費を下げてくれた方がありがたいです。
N	仁田	北海道	・一次会の部屋、ちょっと狭かったですね。あと、周りに椅子があると良かったです。 ・二次会の料理の数が多過ぎでした。たくさん残っていて、もったいなかったです。 ・二次会は、騒いでも怒られないような場所にすると良いと思います。
O	千葉	北海道	・長時間の立食パーティー形式であれば、周りに椅子が欲しかったです。 ・金高さんに「くさや」を与えないで下さい。 ・二次会ではコース料理はやめましょう。かなり残っていました。
P	木本	北海道	・特になしですが、昨年の全国大会でお土産を忘れた山本・前委員長の統括本部が、お土産対決での持参「強制」とは、ずいぶん異な感じがありました(笑)もちろん冗談。
Q	堀内	東北	特にありません。

テクノ

A	小島	中部	パナソニックセンターの見学内容が通常の展示物しかなかったこと。(私の勘違いであるが、もう少しマニアックなものを見せて頂けるものだとばかり思っていたものですから・・・)
B	宮西	近畿	今回の場所では、あと30分、短くてもよかった、と思います。
C	持田	九州	(不参加)
D	大高	北陸	(不参加)
E	永岩	九州	●イチ企業のみ展示なので、比較・評価ができるような見方ができれば。 ●バラバラな自由行動もよいが、もう少し枠を決めてもよいのでは。
F	上原	九州	技術的な説明など、統括の方の技術発表的なものがあつたら、更に良かったと思います。
G	金高	中国	(ほぼ不参加)
H	三角	中国	(ほぼ不参加)
I	赤木	中国	(ほぼ不参加)・自分自身です。
J	石川	中部	・今回は、自由行動でしたが、せっかく多方面から集結しているので、一緒に行動や議論？する時間もあると、青年のテクノツアーらしくていいと感じました。
K	高瀬	中部	(不参加)
L	永井	北海道	技術士、技術者を対象としていたということ言えば、テクニカルな部分な何だったのかわかりにくかった。一般客と同じ感覚でショールームを見学し、体験をただけという印象。
M	小澤	北海道	無料コーナーだけであれば、テクノらしくはなかったかもしれません。時間も余ります。 技術士からの説明等を加えるべき(統括で)だったかもしれません。全体感として。
N	仁田	北海道	・技術士(者)からの解説があると、もっと理解が深まるし、もっと楽しめたと思います。 ・そんな訳で、後半は少し時間を余してしまいました。 ・集合場所(新橋駅)周辺でも、技術的なポイントを紹介してほしかったです。
O	千葉	北海道	・テクノツアーの集合時間に間に合わないような飲み方はやめましょう。 ・技術士からの説明等があれば、よりテクノツアーらしいのでは
P	木本	北海道	・どのあたりが技術士らしい、テクノらしいところが最初は分からなかったが、(単なるショールームで、フリーに見学だったので)有料ゾーンに行くことで価値が分かった。もっと内容を告知してもよかったのでは。(ついでときは、これならホテルで寝ていればよかったと、本気で思った)
Q	堀内	東北	(改善点ではありませんが)いろんな意味で、東京っぽい場所に行けたら、うれしいですね。

BBQ

A	小島	中部	コンロの火力が弱かったこと・・・(^^)メ これはBBQ会場主催者に対してですが、一グループの占有面積(大きさ)をちゃんと明示していただきたい。あまりにも無法状態(先に取ったもの勝ち)だったような気がします。
B	宮西	近畿	(不参加)
C	持田	九州	(不参加)
D	大高	北陸	(不参加)
E	永岩	九州	●タープの中と外の温度差。
F	上原	九州	特にありません。
G	金高	中国	・2グループに分かれてしまったので、配置を工夫したかった。
H	三角	中国	・ほとんど立ちっぱなしだったのでタープはいらなかったかも
I	赤木	中国	・運営面ではなく、その場で考えられれば良かったのですが、全体として一体感が出るような配置にしたらもっと良かったですね。
J	石川	中部	・二極化していた感があり、一体感が出る配置が必要かと感じました。
K	高瀬	中部	(不参加)
L	永井	北海道	・特になし
M	小澤	北海道	炎天下の中、待ち時間も考慮して欲しかったです・・・(予約した開始時間はいつたい?) BBQ開始までの段取りが悪過ぎました。段取りの担当を、もう少し細かく決めておいた方が良かったと思います(決めていたのかも しれませんが...)。各地域本部にも役割を振るとか。 今思うと、タープとグリルの配置が悪くなかったのかなと思います。結果、全体としての交流が、若干、不足気味だと感じました。 発泡酒ではなく、ビールが飲みたかったです。もっとキンキンに冷たいのが...
N	仁田	北海道	・会場都合もあるのですが、スタートするまでに随分時間がかかりましたね。 ・先にタープを立てるなど、効率良く時間を使えると、もっと良かったと思います。 ・コンロを中心に寄せたほうが良かったですね。姿に2グループに分かれてしまって、ちょっと残念でした。
O	千葉	北海道	・段取り悪すぎです(笑)。炭をおこせない人達がいることも予見すべきでした。 ・せっかくのBBQなのに、参加者数が少なく、もっと多くの人達と交流したかったです。
P	木本	北海道	・「北海道流」なのかも知れませんが、乾杯は火を起こしながら、準備をしながらなので、ついてからの「段取り」がもう少し円滑だとうれしかったかなと。 ホスト側にそこまで労力をかけさせるのは、、、とは思いますが、タープは先に張っておくとか。 ・あるいは、ついてからの準備も含めてBBQとして「楽しむ」という演出が少なかったように思います。そのための段取りが、もう少しできていれば、それだけで十分に楽しむことができたのでは、と。 (大変失礼ですが、1回下見をしていただければ、と思っておりました。)
Q	堀内	東北	(各人の課題として)BBQは、着火の訓練をしておきます。

6月外部アンケート 全体の感想など

A	小島	中部	全国の方々と一同を介して、会議や懇親会を行えることの有意義さ。
B	宮西	近畿	<ul style="list-style-type: none"> ・結局近畿は自分一人の参加になってしまい、申し訳ありません…。 ・今回、地域本部の活動紹介は、先に年鑑が出来ているため、配布資料無し、ということだったのだと思いますが、であれば、開催の少し前には、年鑑がここにあってダウンロードできますよ～、というアナウンスが欲しかったです。 ・各地域とも引継ぎがスムーズにできているな、と思いました。近畿はその点でまだ悩みがあります。 ・来年は全国大会も統括本部とのことで、拡大委員会と両方準備運営するのは大変なのではないでしょうか？ ・各地の青年組織のfacebookページが出来てきて、普段から情報共有がスムーズになってきていますので、今回の九州の動画を活かした北海道のノートのような連携がこれから活発になれば、ますます青年技術士会が面白くなりそうですね。
C	持田	九州	<p>毎年思うのですが、感謝の一言です。</p> <p>来年からこんなに楽しい会合に参加できないのは非常に寂しいですが、新たなメンバーで新たな楽しみ方・交流の輪の拡大を実行してってください。(名前通り、青年技術士交流実行委員会！！)</p> <p>本当にありがとうございました。</p>
D	大高	北陸	<ul style="list-style-type: none"> ・北陸も少し若返ったと思いますが、他の地域本部と比較すると、全然若返りが足りない印象でした。しかし、北陸はもうしばらく「自称青年上等！」でやっていきます。 ・競馬ネタは全くウケませんでした、懲りずにまたどこかでブチ込んでいくことでしょう。 ・富山大会PRのパワポが上手く作動せず残念でしたが、リベンジを狙っています。その際はみなさん嫌がらずに1回は視聴してくださいね。 ・日曜日は参加できず、大変申し訳ございませんでした。朝まで飲んで(みなさん、少しはちゃんと寝ましたか?)その後テクノツアーに行くと行って、お昼からはBBQ(肉！)をこなす。そのバイタリティー、さすが若手超一流技術者のみなさんですね。オッサンも少し精進してがんばります。
E	永岩	九州	●持田委員長の後を引き継ぐということで、かなりプレッシャーなんですけど、今回参加して、少し和らいだ感じがしています。本当にありがとうございました。
F	上原	九州	拡大委員会は、委員同士が交流でき、運営の悩みやアドバイスなども頂けるとても貴重で楽しい場です。企画・運営は大変だと思いますが、今後ともどうぞよろしくお願い致します。
G	金高	中国	<ul style="list-style-type: none"> ・統括本部の皆さん、毎年楽しい企画をありがとうございます。 ・本当にお疲れ様でした。
H	三角	中国	<ul style="list-style-type: none"> ・初参加でしたが少人数で全国大会とはまた違った楽しさがありました ・BBQなど準備が大変だったと思います。統括本部の皆さんご苦労様でした。
I	赤木	中国	<ul style="list-style-type: none"> ・統括本部のみなさん、本当に企画・コーディネートありがとうございました。初めての拡大委員会でしたが、思い出に残る二日間となりました。 また、全国大会などでお会い出来るのを楽しみにしております。
J	石川	中部	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域や個人ではわからないことを感じられる、そんな仲間の集まる会であると感じました。このように全国レベルで交流が図れる会はステキですね。 ・これだけの大人数でしたので、企画から運営まで大変だったと思います。本当にありがとうございました。感謝いたします。
K	高瀬	中部	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年、全国の方々からパワーをもらえてうれしく思っています。 継続して出席できればと思います。
L	永井	北海道	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年、大変な準備をさせていただいて本当に感謝申し上げます。 ・全国大会は、場所によっては、また、時期的にもなかなか集まりにくくなる場合も考えられるため、拡大委員会にも各地域本部から多くの人が参加できるようになればいいと思います。
M	小澤	北海道	<p>初めて参加しましたが、全体を通じて楽しく有意義に過ごせました。企画から段取りまで大変ですが、担当幹事の皆さん、ありがとうございました&お疲れ様でした！</p> <p>楽しくて、三次会まで参加しました。(四次会以降もあったようですが…)</p> <p>これからも、北海道からは、大勢でお邪魔すると思いますので、引き続き、どうぞよろしくお願い致します。</p>
N	仁田	北海道	<p>初めて拡大委員会に参加しましたが、全国大会と同じような雰囲気、とても充実した時間を過ごすことができました。今後もできるだけ多くの人数で参加していきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。</p> <p>企画・準備、大変だったと思います。準備をしてくださった皆様に感謝いたします。ありがとうございました。</p>
O	千葉	北海道	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて拡大委員会に参加しましたが、非常に楽しく、新たな“力”を頂けた二日間でした。 ・上記意見に色々書いていますが、より改善を求めると言う視点です。私的には95点です。 ・統括の幹事を務めてくれた皆さん。本当にありがとうございました。これからは務め要件を満たす限りは、拡大委員会に参加し続けたいと思います(笑)。今後ともよろしくお願い致します。
P	木本	北海道	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、40人近くの全国の猛者たちを受けて立つ統括本部の皆さんには、大変感謝です。(そして、どこの地域本部より大勢で押し掛けてしまってますみません。。) 今回で卒業される皆様、お疲れ様でした。 新体制での皆様、引き続きよろしくお願い致します。
Q	堀内	東北	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、会場手配、テクノ企画等、ありがとうございます。 全国のみなさんと出会え、活動の様子を知る良い機会として、今後も活用させて頂きます。 全国大会では、東北から一人でも多く参加して、皆さんと交流したいと思います。

6月内部アンケート 良かった点

一日目: 拡大委員会、報告会、交流会

A	山本	
B	太田道宏	・時間があつたので、地域本部の皆様の人となり分かるくらいお話が聞けた。 ・地域本部<->地域本部間の情報共有の場になった(と思う)。
C	吉田	交流会で、質疑応答や意見等が沢山あがり、活発な意見交換ができていた事が良かったと思います。
D	赤木	・各本部からの活動報告時間を十分に確保でき、情報共有ができたと考えます。 ・1次会は立食形式としたことで、交流が図れたと考えます。
E	古川	質問、意見が多く活発な議論が出来たところ 飲みながらできる企画(お土産大会)でちょうど良かった。 投票システムで、その場で結果を知れるのも良かった。
F	松田	・各本部の活動報告をメインにしたところ。普段聞けない部分も多くよかったです。 ・立食形式のウケがよかったです。 ・名産企画もみなさん楽しんでいただけました。名産のプレートもあり、しっかり紹介できていました。
G	竹入	・各地域本部の活動報告が聞いて良い刺激を受けた ・各地域本部の新旧の挨拶を設けたこと ・肴対決が盛り上がった! ・立食形式が良かった(席があると動きづらい) ・二次会会場も決まっていたので次の案内もスムーズだった
H	中村	地域本部の活動が良く分かった。更に地域本部の報告を通じて意見交換が活発であった。 (今回は地域本部報告の時間が長かったことが良かったのでは?) 酒の肴対決は盛り上がった。 (昨年写真コンテストといい、やはり対決ものは盛り上がりますね)
I	高橋	・地方本部の活動内容や現状を知ることができてとてもよかったです。 どの本部も同じような問題を抱えていることがわかったので、共同で解決することも可能かと思えます。 ・交流会が立食だったので、いろいろな方が話のできたので、よかったです。料理もおいしかったです。 座ってゆっくり話すのもいいですが、立食の方が移動が活発になると感じました。
J	瀧川	・各地域本部の取り組みや課題を共有できたこと。 ※個人的には、特に北海道本部の技術士ノートに衝撃を受けました・・・。 ・肴対決は地域色が出てよいイベントだった。投票形式で競ったことで、より盛り上がった。
K	田角	(不参加)

二日目: テクノ、BBQ

A	山本	(回答なし)
B	太田道宏	(不参加)
C	吉田	BBQの段取りで、皆さん、自発的に動いて頂き、非常に強力な連携で、準備、片付けができ、感動しました。皆さん、御協力が難うございました。
D	赤木	・地域本部メンバーの宿泊地を考慮した場所の選定であり、移動が楽でした。 ・テクノとの距離が近く、移動が楽でした。また、交通の便がよいため、地域本部メンバーの帰りも楽であったと思います。 ・飲食物の量がちょうど(少し余る程度)でした。
E	古川	(不参加)
F	松田	・アクセス重視でお台場に選定したところ。 ・晴れたのがよかったです。雨が降るとそなエリアで肉は焼けないと思いました。 ・品田さんのジェントルマン対応。スーツ姿で高級バケツを差し入れていただいてありがとうございました。美味しかったです!
G	竹入	(不参加)
H	中村	テクノからBBQの流れは近年定番となりつつあるが、交流を深めるには良い流れであった。 BBQは幹事以外の方も協力して、スムーズな開始、片付けだった。
I	高橋	・二日目は参加していなかったので、特に意見はありません。 写真等を見る限り、非常に有意義な時間を過ごしていることはうかがえました。
J	瀧川	・皆で協力して準備・片付けがスムーズにできたこと。 ・テクノの場所とBBQ会場が近くて移動が楽だったこと。 ・食べ物の量がちょうどよかったこと。
K	田角	・前日から～帰りまでの道順を考えて、スムーズな移動ができるよう場所を選定できた。 ・BBQは多少心配はあったが雨も降らず、食べ物・飲み物等もちょうどいい分量で実施できた。 ・松井さんのBBQ以外の飲み物・おつまみの選定がよかった。

6月内部アンケート 改善したい点

一日目: 拡大委員会、報告会、交流会

A	山本	<ul style="list-style-type: none"> ・発表時間は決めるべき→みなさんマイクを渡すといつまでもしゃべる。ということがいまさら分かりました。。(次回からタイムキーパー置きましょう) ・発表者と報告者は分けるべき(太田さん申し訳ありませんでした)
B	太田道宏	<ul style="list-style-type: none"> ・前半に比べて、後半のほうが時間的にも体力的にも厳しくなり、多少雑になった感がある。 ・発表資料の表示不具合。マイクロソフト 謹製のオフィスソフトを使ったほうが良い。ごめんなさい。 ・来年は南の本部から発表時間をとるのがいいかもしれません。
C	吉田	<p>予定が若干オーバーしていた事です。それだけ活発な意見交換ができていたという良い事でもあるのですが、限られた時間内でという意味では、予定がオーバーしてしまった事を改善点にあげさせて頂きました。</p>
D	赤木	<ul style="list-style-type: none"> ・各本部への割り当て時間を設定し、終了時刻をコントロールするべきでした。 ・各本部の報告スライドは手元資料として配布すると、よいと思います。さらに、後日資料を参照できるよう、オンラインで共有するべきです。 ・途中で懇親会費を集めることとなり、地域本部活動報告が中断されました。懇親会費は開始前に受付をするべきでした。 ・人数増加のため、荷物置場および休憩用椅子が部屋内に確保できませんでした。 ・はさみなどの器具が少なく、名物対決の準備が開始直前までかかりました。事前にどのような形状で持ってこられるかヒアリングするべきでした。
E	古川	<p>終始聞く形式(発表のない私にとって)なので、集中力が続かない →折角全国から集まったので、グループワーク等で、拡大委員会の中で深く知り合える企画があっても良いと感じた。 新委員・委員補佐の方や、地域代表で一人参加の人は、交流会まで話すきっかけがないので、寂しいのでは、と思いました。 飲みながらできる企画(お土産大会)でちょうど良かった。 投票システムで、その場で結果を知れるのも良かった。</p>
F	松田	<ul style="list-style-type: none"> ・時間の管理が不十分だったこと。発表10分+質疑応答5分くらいで仕切れれば時間も押さなかったかと(4月例会で用いた鐘を鳴らそうか一瞬思いましたが、わざと時間をいっぱい取っているのかと思っていました)
G	竹入	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域本部の活動報告に時間を設けた方が良かった(終盤に進むにつれて発表が駆け足になってしまったため) ・パソコンの動作確認の時間があつた方がよい
H	中村	<p>地域本部の活動報告で、地域ごとに時間がバラバラであった。 拡大委員会の終了が遅くなったことで、交流会の開始がバタバタになった。 (タイムキーパーは必要かと)</p>
I	高橋	<ul style="list-style-type: none"> ・交流会の会費を発表の途中で行ったため、前半と後半が分断されたような気がします。通常の例会と同様に、受付して会費を最初に集めておけばよかったかと思ひます。 ・地方本部の発表は発表時間が必要でした。時間を決めてオーバーすることが多いので、ペース配分は必要でした。 ・交流会の場所は良かったのですが、聞き漏らした賀茂しれませんが、移動方法の連絡があると移動がスムーズにできたと思ひます
J	瀧川	<ul style="list-style-type: none"> ・拡大委員会において各地域本部の発表時間の管理が曖昧だったこと。 ・大盛況で参加者が多かったこともありますが、若干懇親会会場が狭く、会場内での移動が難しかったこと。 ・早く来られたOBの方々への対応がおろそかになってしまったこと(準備でバタバタしてしまいました)。
K	田角	<ul style="list-style-type: none"> ・活動年鑑、委員自己紹介資料の完成がぎりぎりになってしまったこと。 ・大変遅くなり申し訳ございませんでした。

二日目: テクノ、BBQ

A	山本	(回答なし)
B	太田道宏	(不参加)
C	吉田	<p>テクノの時間を長く設定してしまったので、見学時間後半は、皆さん、手持ち無沙汰のようでした。もう少し、時間設定を考えた方がよかったです。</p>
D	赤木	<ul style="list-style-type: none"> ・見学内容に比べ見学時間の設定が長かったと思います。 ・一般企業のショールームも兼ねているため、テクノとしての見どころが少なかったと思います。 ・焼き場が2ヶ所に分かれたため、それぞれでの集まりになってしまった。 ・地域本部の帰りの予定にもよるが、もう少し時間が長くてよかった。
E	古川	(不参加)
F	松田	<ul style="list-style-type: none"> ・日曜日に行けるところとなるとレジャー的な施設に限定される場所。アクセス+BBQを考えるとお台場はちょうどよいのですが。。 ・開始までに時間がかかってしまったところ。
G	竹入	(不参加)
H	中村	テクノは解説が一般向け過ぎかなと感じた。もう少し専門性が高ければよかった
I	高橋	(不参加)
J	瀧川	・特にありません。
K	田角	<ul style="list-style-type: none"> ・テクノの場所を当初からお台場に絞って場所を選定したが、当初からガイドツアー等の予定が出来ず、基本的に自由見学になってしまったところ。(一応、その場で ガイドツアーには入れたが、事前予約できず。)前の晩飲み会だったので、自由見学なら集合も自由にしてくれればいいのかという地域本部の方のつぶやきも聞こえた。 ・テクノについて、去年はパンフや資料のおみやげ、ガイドツアーもあったので、もうちょっとひねりたい気持ちはあつたが準備が出来なかった。

6月内部アンケート 感想など

A	山本	(回答なし)
B	太田道宏	(回答なし)
C	吉田	今回、幹事を務めさせて頂きましたが、不慣れな点が多く、色々、問題点があったと思いますが、皆さんにフォローして頂き、無事、終える事ができました。 大変、有難うございました。
D	赤木	・大きな目標である地域本部間の交流は達成できたと考えます。
E	古川	(回答なし)
F	松田	・統括の交流キーワード(相手を知る、己を知る、アウトプット)をバランス良く取り入れられたと思います。 ・改善したい部分もありますが、制約がある中での企画で、想定範囲内だと認識しています。 ・全部をまとめると、キャンプ場で合宿とかをするのが究極の形だと思いました(退任の分際で好き勝手言ってすみません)
G	竹入	(回答なし)
H	中村	かなり質の高い2日間になったと感じた。 地域本部の方も楽しんでいただけたように感じた。
I	高橋	・退任される皆さん、お疲れ様でした。 仕事と両立させるのは大変だと思いますが、皆さんの活動への姿勢はとても刺激となり、私にとって大きな糧となりました。 ありがとうございました。 また、きっとお会いすると思いますので、今後ともよろしく願いいたします。
J	瀧川	退任される皆様、いろいろ勉強させていただきましてどうもありがとうございました。 個人的には皆様に甘えっぱなしでしたので、あとをしっかりと引き継いでいけるよう 気を引き締めていかなければと思っております。 今後いろいろな機会にお会いできることを楽しみにしています！
K	田角	(回答なし)

行事名	7月例会: English Workshop 及び青年委員会国際グループ活動報告
日時	2015年7月25日 13:30~17:00
場所	荻手第二ビル 5F 会議室 C,D
講師、発表者	講師: Steven Ashton 氏 国際グループ活動報告: 2名
担当者: (○印: リーダ)	松井、竹入、松田、細野、佐藤、○丸山
参加者数	28名 (+委員12名)

1. 背景・目的

グローバル化が進む中、英語も重要なビジネススキルとなりつつある。文法やリーディングは個人で勉強できても、英会話はなかなか実践の機会がなく、個人で勉強するのは難しい。そこで英会話を実践するためのワークショップを企画した。

今年は国際交流に興味がある方、英語で話したいけど機会がない方へのヒントとなるべく、青年技術士交流実行委員会国際グループの紹介も併せて行った。

2. 例会内容

1) English Workshop (13:30-15:40)

以下の内容で実施された。

アイスブレイク。

国際会議を想定した簡単な挨拶の練習。(絵を用いて好きなものや嫌いなものを説明。)

二人ペアによるせりふ(会話文)の作成、練習、発表。他

2) 青年委員会国際グループ活動報告 (15:55~16:30)

以下の内容で実施された。

ミャンマーで実施された CAFEO について公費派遣者による英語での発表。

日韓について、青年委員会メンバーによる英語での発表。

Workshop 講師による講評(よかった点、アドバイスなど。)

3) 実施しての感想

- ・昨年同様講師を依頼した講師の Steve Ashton 氏は参加型のワークショップを実施するのがとても上手で、青年委員としても交流会などで参考になる方法がたくさんあった。。
- ・英会話を実践する機会が多く設けられ、参加者は英会話を実践する機会とともに、交流をする有益な場が提供できたと思われる。
- ・例会開始の 30 分以上前から参加者が集まり、普段よりも早めに来られた方が多かった。少し手持ち無沙汰感があったので、何か英語の読み物やトピックス等、他に情報提供ができる資料を用意して、おもてなし感を出せば良かったと思う。
- ・参加は 30 名弱だったが、CD 会議室ではすこし手狭だった。

3. 成果と所感

- ・今回は英語力を強化させるという主旨のもと、委員長の挨拶、国際グループも含め、全てを英語によって実施した。参加者も英語に興味を持っているため、例会の進行については抵抗なくスムーズに受け入れられたと料する。
- ・昨年同様、講師が徐々に盛り上げていくワークショップだった。参加者も英会話を実践し、ペアになりせりふを作成するなど、大いにアウトプットが図られたが、途中参加・退場は難しい内容だった。
- ・英語企画は参加者の関心が大きく、他のところであり無企画であるため、青年委員に興味を持ってもらうきっかけには有効な企画であると考えられる。
- ・1ヶ月前から優先順位をつけて、参加を募集した。開催直前には定員に近い人数まで応募があったが、当日のキャンセルも多く、幹事としては、例会の告知、募集のタイミング、人数調整を読むスキルが必要だと感じた。
- ・第二部のプレゼンでは、CAFEO や青年委員の活動について英語で発表を行った。国際交流に興味がある方、英語で話したいけど機会がない方への提案になったと考えられる。英語で青年委員について発表をする際のよいベースができたと思われる。

4. 今後の展開

参加者のアンケートでは今後も定期的に、年1回よりも頻繁に開催して欲しいなどの要望があった。英語企画は一定の要望があり、今後も継続して実施してもよいと考えられる。実施頻度に関しては英語をスキルを上達させることを考えると、年に数回実施できると望ましいが、費用、準備や他の例会との兼ね合いもあり、工夫が必要である。今回のアンケート結果を参考にし、次回へのステップアップに繋げていきたい。

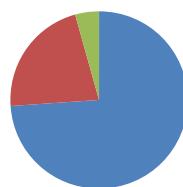
文責 丸山

English Workshop	
	
講師 Steven Ashton 氏	国際会議を想定した挨拶の練習
	
二人ペアによるせりふ(会話文)の発表	
国際グループ	
	
CAFEO 報告	日韓サッカー

●今回の例会について

Q1-1. 講師の話し方や進め方

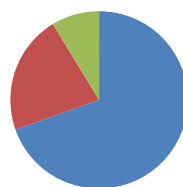
満足度	人数	割合 (%)
(a) 満足	17	73.9
(b) ほぼ満足	5	21.7
(c) 普通	1	4.3
(d) やや不満	0	0.0
(e) 不満	0	0.0
合計	23	100.0



- (a) 満足
- (b) ほぼ満足
- (c) 普通
- (d) やや不満
- (e) 不満

Q1-2. ワークショップの内容

満足度	人数	割合 (%)
(a) 満足	16	69.6
(b) ほぼ満足	5	21.7
(c) 普通	2	8.7
(d) やや不満	0	0.0
(e) 不満	0	0.0
合計	23	100.0



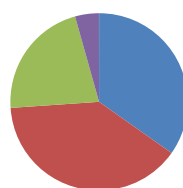
- (a) 満足
- (b) ほぼ満足
- (c) 普通
- (d) やや不満
- (e) 不満

Q1-3. 講師に伝えたいこと

- ・Thank you so much for your workshop.
- ・来年も同様に開催してもらえるとありがたいです。
- ・みなにアイデアを出さす。日本人の表現方法の特徴を教えるのは良いこと。多くの人に発現させるのは良い。
- ・語る機会を作ってくれて良かったです。
- ・来年も是非お願いします。
- ・大変楽しく、身になりました。
- ・英語力向上の機会を得ることができました。
- ・ホワイトボードのアドバイスはプリントアウトして配ってほしい。
- ・The tpe of sorkshop is very interested.

Q1-4. 国際グループ紹介の内容

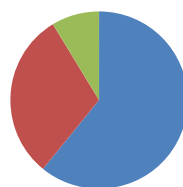
満足度	人数	割合 (%)
(a) 満足	8	34.8
(b) ほぼ満足	9	39.1
(c) 普通	5	21.7
(d) やや不満	1	4.3
(e) 不満	0	0.0
合計	23	100.0



- (a) 満足
- (b) ほぼ満足
- (c) 普通
- (d) やや不満
- (e) 不満

Q2-1. スタッフの対応

満足度	人数	割合 (%)
(a) 満足	14	60.9
(b) ほぼ満足	7	30.4
(c) 普通	2	8.7
(d) やや不満	0	0.0
(e) 不満	0	0.0
合計	23	100.0



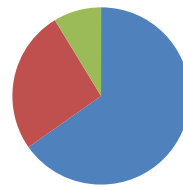
- (a) 満足
- (b) ほぼ満足
- (c) 普通
- (d) やや不満
- (e) 不満

Q2-2. スタッフに伝えたいこと

- ・ありがとうございました。
- ・英語を仕事で使う機会が増えています。大変とは思いますが、このようなイベントを継続して続けてもらえるとうれしいです。
- ・国際グループの紹介は、もう少し練習しておいて良かったのでは？
- ・先生のやっていること、示しているものが全ての人に見える、聞こえるよう、部屋、使い方を変えてほしかった。
- ・①英語がものすごく苦手な私にとっては正直キツかったです自身の語学レベルを確かめるいい機会でした。②できる人向け、苦手な人向けでわりきったイベントだった方がいいですね。③英語力のふりわけ(A-C)の意図が分かりませんでした。
- ・A、B、Cのランク分けを活用した方がよいと思いました。
- ・ワークショップはエンジニア的なことも行うとなおよいと思います。

Q3. 全体として

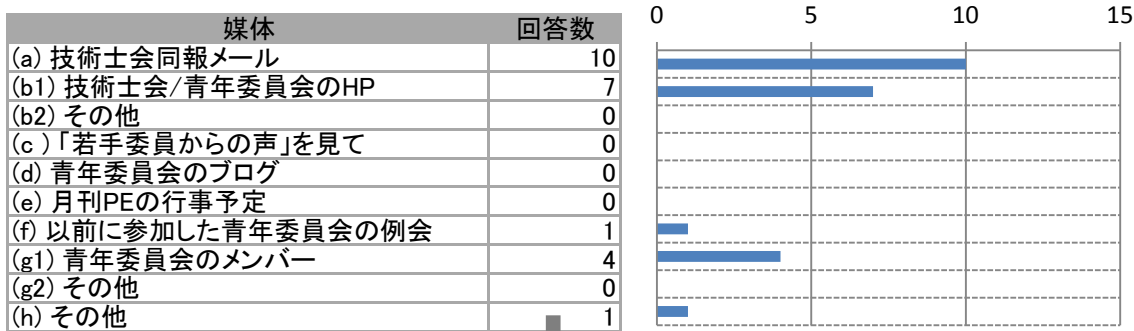
満足度	人数	割合 (%)
(a) 満足	15	65.2
(b) ほぼ満足	6	26.1
(c) 普通	2	8.7
(d) やや不満	0	0.0
(e) 不満	0	0.0
合計	23	100.0



- (a) 満足
- (b) ほぼ満足
- (c) 普通
- (d) やや不満
- (e) 不満

●参加するまで

Q4-1. 今回の例会をどのように知りましたか

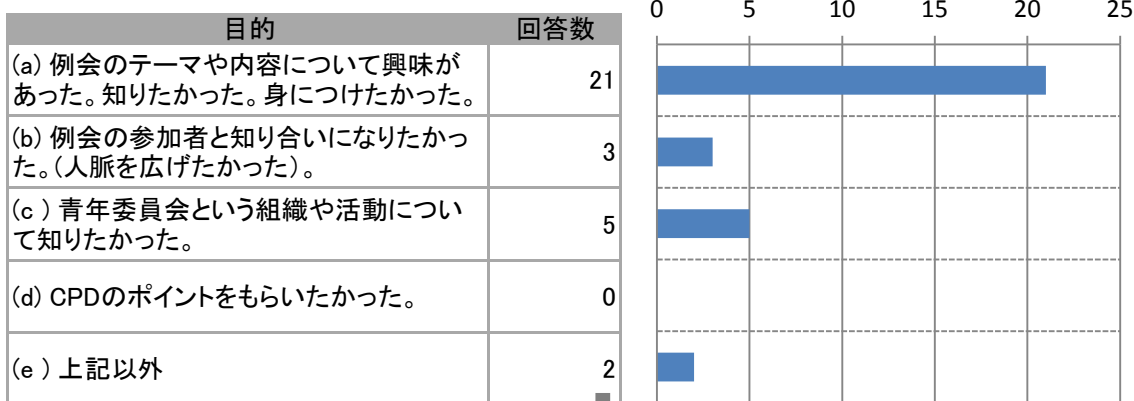


・4月例会後の飲み会

Q4-2. 参加のきっかけ



Q5. 参加目的



・丸山さんの活躍を拝見したくて。
・英語のアウトプットの訓練をしたい。

Q6. 青年委員会への参加回数



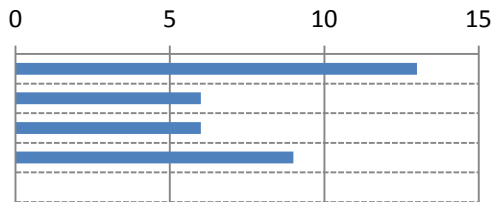
Q6-1. 過去の例会で印象深かった・面白かったテーマ

- ・4月の合格者交流会
- ・国際交流
- ・英語の会
- ・TRIZによる発明: 科学的発想
- ・TRIZ
- ・4月例会
- ・TRIZ勝名の手法原理
- ・講演会
- ・合格者の交流会・ワークショップ (back to the futureのやつです)

●青年委員会の活動について

Q7-1. 開催してほしいイベント

満足度	回答数
(a) 情報の提供	13
(b) 変化の提案	6
(c) 楽しみの場の提供	6
(d) 人脈形成の場の提供	9
(e) その他	0



具体例 ↓

- (a) 二次試験の情報等、技術の国際動向等の講演(日本人、外国人どちらでも)、見学会、APEC、TPP参加による交流について、講演、ワークショップ
- (b)
- (c) 英語でのゲーム
- (d) 今回のようなワークショップ等、英会話ワークショップはもっと増やしてもよいと思う、交流の場、国際交流
- (e)

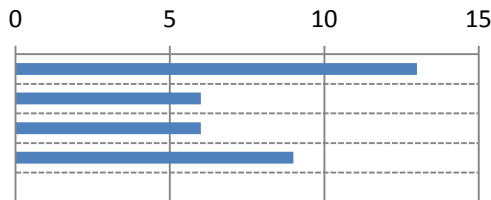
Q7-2. 内容以外についての希望

- ・横浜市市内での開催を希望します。またEnglish Trainingの機会があれば参加したいです。
- ・土曜日開催希望

●技術士または技術者としての活動について

Q8. 技術士または技術者としての本業に加えての活動

満足度	回答数
(a) 自身の向上	14
(b) 周囲の支援	3
(c) 周囲との関係	7
(d) その他の活動	1
(e) 特になし	2



具体 ↓

- (a) English Training、他の技術部門専門に関する情報収集etc.、専門書の執筆、学会の発表、資格取得×3、セミナーへの参加×2、電験3種受験
- (b)
- (c) 交流会×4、上尾市国際交流協会
- (d) 国際委員会のオブザーバーになりました。よろしくお願ひします (by松田さん)

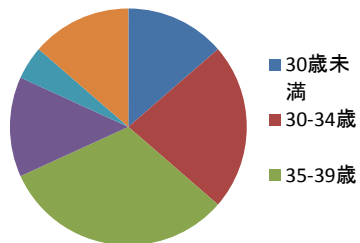
●参加者基本情報

Q9-1. 技術部門



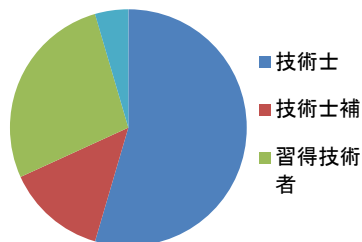
Q9-2. 年齢層

年齢	人数	割合 (%)
30歳未満	3	13.6
30-34歳	5	22.7
35-39歳	7	31.8
40-44歳	3	13.6
45-49歳	1	4.5
50歳以上	3	13.6
合計	22	100.0



Q9-3. 会員層

会員層	人数	割合 (%)
技術士	12	54.5
技術士補	3	13.6
習得技術者	6	27.3
JABEE学生	0	0.0
その他	1	4.5
合計	22	100.0



以上

1. 良かった点

- 1) 先生の授業が面白く、活気があった
- 2) 参加者の多くが「また参加したい」と感想を述べていた（と思う）
- 3) 懇親会も盛り上がってよかった
- 4) 昨年同様、講師の先生のワークショップは上手だったと思います。
- 5) 国際Gも竹入さん、高橋さんに忙しい中準備をしていただき、英語で素敵な発表をしていただきました。
- 6) 講師のアイスブレイクがうまかったので、英語を話す機会になる良い企画と思いました。
- 7) 国際会議で話すきっかけをつくる自己紹介の練習という場面設定は、うれしかったです。
- 8) 参加者みんなが楽しんでいたこと。
⇒ぼくは内容の80%は理解していませんでしたが、みなさんそれを感じ取ってくれて、優しく接してくれたので楽しかったです。
⇒特に、白井さんにだいぶ救われました！ありがとうございました！
- 9) わからない人(ぼくのことですが)に対する運営側のフォローがあったこと。
⇒丸山さん、ありがとうございました！
- 10) 高橋さん、竹入さんがとても良い顔で英語のスピーチをしていたところ。
⇒今回ほとんど内容が分からなかったことも含めて、「自分もがんばろう！」と思ういい刺激になりました！
- 11) 講師の方が何をいっているのかが英会話能力はあまりない自分でもなんとなく把握できました。わかりやすかったです。
- 12) 参加者も積極的に刺激になりました。
- 13) 丸山さんの司会進行、とてもスムーズで大変勉強になりました。
- 14) 竹入さん、高橋さんのプレゼン、おふたりにとってよい勉強の機会になったのではないかと思います。
- 15) 松井さんの締めの挨拶、うまいこと言ってましたね、さすがですb
- 16) 講師の先生の教え方が上手く、参加者の皆さんが楽しく充実した時間を過ごせたと思います。
- 17) 参加者の英語力のレベルが違うため、参加者の皆さんはご自身の英語力を客観的に把握できたと思いますし、今後の英語力向上の指針も得られたと思います。
- 18) 何はともあれ、参加者の皆さんが終始笑顔で過ごせたことが一番良かったと思います。
- 19) 先生の英語の発音がきれいで、とても聞き取りやすかったです。（略語やスラング、最新の流行語を使わない、などの配慮に好感が持てました。ユーモアを忘れない所も良かったです。）
- 20) 何はともあれ、話す機会を設けて頂けたことが嬉しかったです。言いたいことを頭の中で組み立てているうちに時間が過ぎる、ということが何度もあり、学習する上での課題が見つけられました。
- 21) ランク分けが活かしきれなかった、というご意見もありますが、Aの人を見ると自分も頑張ろう、と思いましたし、Cの人を見るとゆっくり正確に話そう、と思いました。そういう意味で、無意味ではない気がします。
- 22) 参加者が比較的若手で自信とやる気に満ち溢れている方が多かったこと。触発された方も多かったと思います。受付でレベルをお尋ねしたときに、A（上級）と迷わずお答えになれる方が複数いらっしゃいました。

2. 改善すべき点

- 1) 部屋が狭く、幹事以外の委員がいる場所がなかった
- 2) 国際Gの発表時間が比較的長かったため、最後に少しダレてしまった
- 3) ホワイトボードをとなりの会議室からお借りして、ご迷惑をお掛けしたこと。
- 4) 懇親会のおつりを用意していなかったこと。
- 5) C,D 会議室にはマイクが使えないことを当日知ったこと。
- 6) 年1回といわず、何回かあってよい企画かと思います。
- 7) 参加者到着以降は、机や椅子の移動等、会場設営作業が発生しないようにしたいですね。
⇒運営委員会終了後から1番目の参加者が到着するまで30分くらいでした。ある程度、例会用のレイアウトを整えてから運営委員会ができれば良いかなと思いました。
- 8) 英語のイベントについては、定量化が難しいですが、レベル設定(TOEIC●点以上等の目安)したいですね。
⇒今回、参加者のA~Cでのランク分けがありましたが、それによる効果は不明でした。仮に近いランク同士でペア組みましようになっても、キレイに分かれることは稀でしょうし、ペアが固定化されることでの不満も出てくるかなと。次回からランク分け無くても良いと思います。
⇒今回、レベルが極端に低かったのはぼくくらいだったので、運営側のフォローも可能でしたが、同レベルの人がいっぱい来てしまうとフォローしきれないかなと。その点からも、レベル設定しておいた方が良いと思います。
⇒周りの雰囲気から、参加者が求めるレベルとしては、今回はちょうど良かったのかなと感じました。ざっと見た感じ、Bランクが多数派だったので、レベル設定の目安になるかなと。
- 9) 今回は名札に英語のレベルをA・B・Cとわけましたが急いでペアを組んだりしたのであまり意味がなかったように感じました。
- 10) あらかじめ、英語のレベルに応じてグループ分けしておこなったりレベルごとに日程を変えたりしてもよいかなと思いました。
- 11) ほかの方も回答していましたが、準備するほうは大変とおもわれますが参加者の立場からすると1年に1度といわず定期的にはほしいイベントです。
- 12) ワークショップの内容にもう少し介入したい。このままならCAFEO/YEAFEOの募集 or 報告の目的以外にやる我々がやる意味がない。
- 13) 会議室が少々狭かったので、次回はAB会議室で開催できると良いと思います。
- 14) 事前に英語力のレベル分けをしていましたが、それが活かされていたようには見えませんでした。
- 15) もし今後もランク分けを取り入れるのなら、BランクはB1、B2のように2分割した方が気がしました。500点と800点って結構開きがあります……。後、事前に参加者のランクを聞いておき、グループ分けするのはどうでしょうか。前半は同ランク者どうし、後半はフリー、といった感じで。
- 16) 会計(私)のお釣りの用意が不足していたこと(途中おつりをつくりに行くなど、あたふたしてしまって申し訳ございませんでした。500円貯金を始めました(笑))。

3. その他

- 1) 1年間隔ではなくてももう少し短期間で開催できるといいなとおもいました。
- 2) 募集人数は32名でしたが、ぎりぎりでしたので、もう少し人数を減らしてもよかったかなと思います。
- 3) これは個人的に理解していないからトンチンカンな話でしたら失礼します。
課題は、発表内容の話（技術士らしい交流内容の紹介が足りない）と思います。
会議では各国の取組み内容でどのような発表がありどう刺激を受けたのか、見学会で見聞した内容と日本との違い、参加者全員で各国ごとに何人名刺交換した（個人情報はいさなくてもできる集計）、各国共通課題（技術者人材育成・環境問題対応など）に対する取り組みの事例紹介の内容、などが、発表の本筋であってほしい。本筋でない話が多い印象でした。今回お聞きしたところによると野々垣さんのように国際連携にて本格的に専門技術分野で用いる英語をサポートする事業につながった事例があるわけですから、より質の高い魅力的なアウトプット・発表ができるはず！と思います。
- 4) ほんとにいい刺激になりました。ぼくも TOEIC 受けて、現状認識して、高めていきます。
- 5) 懇親会のおきも、みなさんの名前なり、部門がわかると良いと感じました。
⇒懇親会のおき、これから電気電子で二次試験受けるんだけど、聞ける人いませんか？というような問い合わせがありました。
- 6) 例会アンケートも、ペーパーレス化できませんかね？
⇒運営側としても集計、取りまとめが楽になると思います。
⇒例会申込時にアンケートの種類(紙・電子)を選択できれば、スマホない人、紙がいい人をカバーできるかなと思います。
- 7) 例会を開始するのに若干時間がかかってしまったかなと思いました。参加者の来訪する時刻にばらつきがあるのはしょうがないですが、早く来た人はそのぶん待たされるでしょうから開始時刻をうまく調整できないかなと思いました。
- 8) 次回やるときは丸山さん以外に、幹事、渉外、司会進行をやってもらいたいですね。丸山さんに何度も同じことをやってもらっても丸山さんの糧にならないので。
- 9) 今回の参加者の皆さんは大丈夫そうでしたが、私のように中学レベルの英語力だと、臆してしまう方もいるかもしれません。(私は太田さんから英語で話しかけられて怯みましたから(^^;)) ということで、英語力のレベル毎に例会を開催すると嬉しいかも
と思いました。
そういう意味で年 1 回でなく、数回開催できると良いですね。
- 10) 私も、年に 1 回と言わずに定期的に開催してほしいと思います。もちろんネイティブの講師が居るに越したことは無いのですが、日本人だけでもある程度の経験になるのではないのでしょうか。
- 11) 青年メンバーみなさまの英語力の高さに触発され、帰りに早速 TOEIC の本を買いに走りました。学生以来の英語の勉強・・・いい刺激をありがとうございました。

以上

行事名	8月例会: Dreams Project 平成27年度 夏休み子供理科教室
日時	2015年8月1日(土) 13:30-16:30
場所	北とぴあ 901 会議室
講師、発表者	佐藤前委員、山本委員
担当者: (○印:リーダー)	○安力川前委員、佐藤前委員、田中委員長、山本委員、中川委員、太田(望)委員、瀧川委員、白井委員、田角委員、古川委員補佐、山田委員補佐、[サポーター] 川崎、藏重、北元、米原
参加者数	参加者:31名(うち児童17名、保護者14名)、スタッフ:15名

1. 背景・目的

我が国が目指している科学技術力立国とは裏腹に子供達の理科離れが進んでいる。この現状を打破すべく、子供達に工作実験を通じて科学の面白さを伝えることを主目的とした。またこれを機に、技術士の知名度向上を図った。特に今年度は、企画の継続性を持たせることと、家庭でも再現できる内容にテーマを絞って実施した。

2. 例会内容

はじめに、中川委員よりスケジュール及び注意事項について説明を行った。中川委員は以降当日の総合司会を務めた。

2. 1. 技術士の紹介(13:35~13:50): 安力川前委員

技術士の知名度アップを図る目的で、「技術者について」をクイズ形式で説明を行った。子供たちの活発な発言もあり、特に詳しい内容を回答した児童もおりスタッフ側も驚いた。参加者にはよいアイスブレイクでもあり、スタッフには児童にも一般レベルを超える学力の者もいるというよい教訓となった。

2. 2. テーマ①「くだもの電池を作ってみよう」(13:50~14:30): 佐藤前委員

最初に、「くだもの電池を作ってみよう」をテーマに講義および実験を行った。全体に実験のやり方の説明と、実験を並行して行う方式とした。

- ・実験1 レモンで電池をつくってみよう
- ・実験2 金属板の種類を変えてみよう
- ・実験3 音をもっと大きく鳴らそう

くだもの電池は結果が出やすく、児童アンケートでも身近な果物であるレモンを使って音が出る面白さについて挙げられていた。冒頭で乾電池を使ってくだもの電池との音の強弱を比較しやすかったのが良かった。最後のレモンをつなげる実験では、班により一人占めして実験を進めて他の子が手出しできない場面もみられたので、各子供に公平となるよう今後注意が必要。また、実験後のテーブルの果汁汚れについても課題が残った。プレゼン資料は好評で、配布を希望する保護者も多かった。

2. 3. テーマ②「クリップモータを作ってみよう」(14:40~15:55): 山本委員

二つ目の実験では、「クリップモータを作ってみよう」をテーマに講義および実験を行った。本テーマでは、最初にクイズ形式を交えた身近なモータや電磁石についての説明を行い、その後手順を説明しながら実験を行った。手元カメラの使用は非常に効果的であった。

- ・講義・基礎実験(フレミングの実験) 手元カメラで撮影・プロジェクターで投影
- ・本実験(クリップモータ製作)
- ・応用実験(リニアモーターカー) 手元カメラでデモを撮影・プロジェクターで投影

クリップモータを回るようにするのが難しかった半面、試行錯誤があったためかモータ作りを面白いと思った児童が事後アンケートでも大勢いた。結果的に全員のモータが回ったが、事前デモでもうまく回らなかったのも、その場のスタッフの努力によるものが大きい。反省点としては、クリップモータの進捗に個人差が大きく、早く終わった児童へのフォローが必要であった。リニアモーターカーの実験では見学した児童の興味を引いたものの、予想外にも全ての班の児童が勝手に手出しし、中川委員が苦勞して作成した長いコイルを引き伸ばしてしまったので、余計うまく走らない結果となったのが残念であった。

2. 4. まとめ・アンケート(16:05~16:20)

昨年度の反省をふまえ、実験のまとめ・アンケートを記入する時間と机を設けた。太田(望)委員作成の詳細な実験ノートは事後アンケートでも保護者から大変役に立つと高い評価を受けた。

2. 5. 講評(16:20~16:25): 田中委員長

最後に田中委員長より、自身の子供時代の経験を例とした講評があった。「ラジオの音をいかによく聴こえるようにするか」様々な形式のアンテナを作って実験したことがそのまま現在の仕事に直結しているという、好奇心と情熱にあふれる話が素晴らしく、やはり子供時代に理科が面白いと感じた経験が将来の理科好きにつながるという Dreams のコンセプトにも合致した。

最後に全員の集合写真を撮影し、理科教室を終了した。

3. 成果と所感

前回とは異なり、大掛かりな装置や衣装もなく、講師の講義と説明の工夫、理科工作実験キットのみで理科教室を企画・実施したが、事後アンケートでも前回に引き続き、保護者・児童の全員より「非常に良かった」または「良かった」との回答を得、また保護者全員から「次回もぜひ参加したい」、「機会があれば参加したい」との回答を得たのは大きな成果であった。実験ノートも非常に好評で、講義スライドの配布希望も多く、佐藤前委員、山本委員、太田(望)委員の尽力によるものが大きい。

スタッフは佐藤前委員以外初めて理科教室を開催するメンバーであったが、安力川前委員の全体とりまとめと進行管理は秀逸で、非常にスムーズに企画・準備を行うことができた。また、メンバー全員が当日まで何らかの役割を担い、全員参加で行えたことと、安力川前委員のメンバー全員への役振りなど采配が素晴らしかった。

4. 今後の展開

今回の理科教室では、比較的簡易な教材で安価に実施でき、準備期間も約4ヵ月と前回に比べ短縮されたが、結果参加者の評価も高かったため、今後も同様にメンバーの負担が少なく、継続的に理科教室を実施できるものと思われる。

また今回参加者から参加費を徴収し、会場費・保険費・教材費等に充当したため、前回に比べ青年予算の出費をかなり低減できた。今後は独立予算でも実施できるよう、理科教室の内容やコストを考慮して実施していく。

次回以降も、年1回もしくは年複数回行うものとして、理科教室を開催していきたい。

5. 実施状況



準備状況



安力川前委員による技術士の話



佐藤前委員によるくだもの電池の講義



教室全体風景



くだもの電池実習



山本委員によるクリップモータの講義(手元カメラ)



クリップモータ実習



リニアモータ実演



田中委員長講評

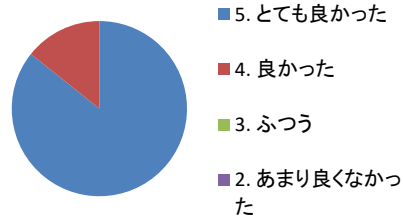


集合写真

●平成27年度 夏休み理科教室 ～電気の力を確かめてみよう！～ 保護者様用(表面)

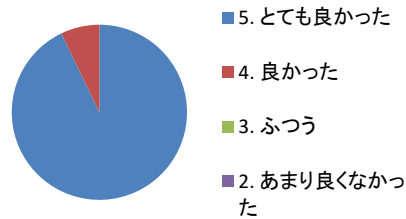
Q1. 今回の理科教室は全体的にどのように感じましたか。

満足度	人数	割合 (%)
5. とても良かった	12	85.7
4. 良かった	2	14.3
3. ふつう	0	0.0
2. あまり良くなかった	0	0.0
1. 良くなかった	0	0.0
合計	14	100.0



Q2-1. スタッフの対応はいかがでしたか。

満足度	人数	割合 (%)
5. とても良かった	13	92.9
4. 良かった	1	7.1
3. ふつう	0	0.0
2. あまり良くなかった	0	0.0
1. 良くなかった	0	0.0
合計	14	100.0

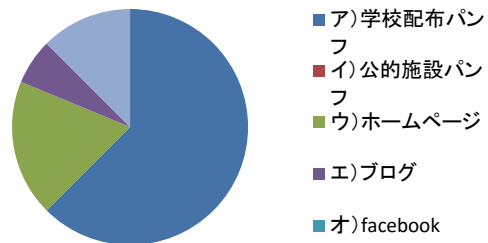


Q2-2. Q2-1で1または2とお答えの方、具体的に良くなかった点をお聞かせ下さい。

- ・とても良かったです。
- ・モーターがはじめまわらなかったのですが、まっすぐにくるようになおしていただいて

Q3. この教室を知ったきっかけを教えてください。(複数回答あり)

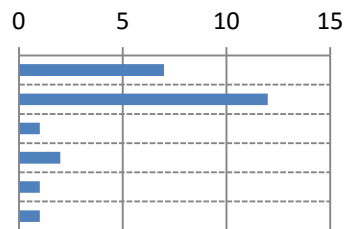
きっかけ	人数	割合 (%)
ア)学校配布パンフ	10	62.5
イ)公的施設パンフ	0	0.0
ウ)ホームページ	3	18.8
エ)ブログ	1	6.3
オ)facebook	0	0.0
カ)知人からの紹介	0	0.0
キ)その他	2	12.5
合計	16	100.0



- ・王子第二小学校 3名、豊川小学校 2名、滝野川第2小学校 1名、滝野川第3小学校 2名、滝野川第5小学校 1名、東十条小学校 1名
※学校配布パンフをみて参加された保護者数の内訳です。

Q4. なぜこの理科教室に参加したいと思いましたか。(複数回答可)

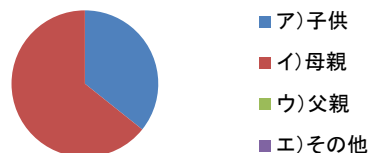
目的	回答数
ア)子供が興味を示していたから	7
イ)子供に理科を好きになってもらいたいから	12
ウ)子供に勉強させたいから	1
エ)将来、子供に研究者や技術者になってもらいたいから	2
オ)テーマが面白そうだから	1
カ)その他	1



- ・少し前に理科の授業で電気の流れを勉強したので、実際に自分で体験してほしかったため。
- ・昨年も楽しく参加でき、ふつうの実験でもいろいろな解説や質問に対する回答をしていただい

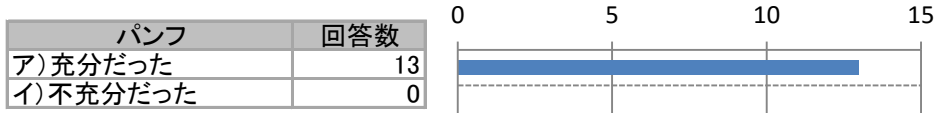
Q5. はじめに参加をしようと思ったのは誰ですか。

	人数	割合 (%)
ア)子供	5	35.7
イ)母親	9	64.3
ウ)父親	0	0.0
エ)その他	0	0.0
合計	14	100.0



●平成27年度 夏休み理科教室 ～電気の力を確かめてみよう!～ 保護者様用(裏面)

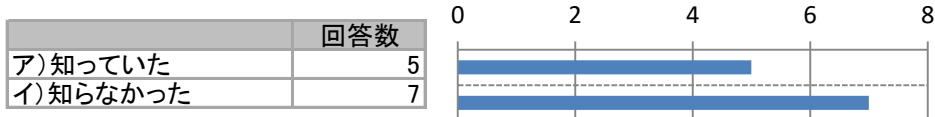
Q6. パンフレットには安心して申し込むための必要な情報は記載されていましたか。



↓ 記載してほしい情報

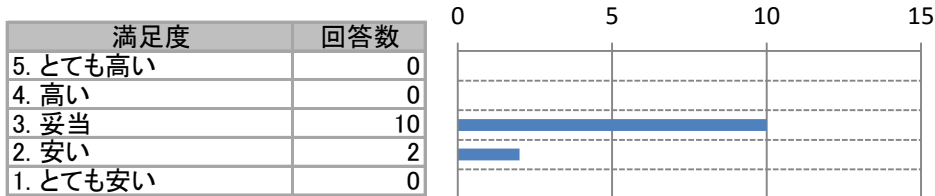
- ・「ウェブサイトのみでしたが、十分な情報でした。」
- ・未回答 1名

Q7. 「技術士」という資格を以前から知っていましたか。



- ・未回答 2名

Q8-1. 参加費について教えてください。

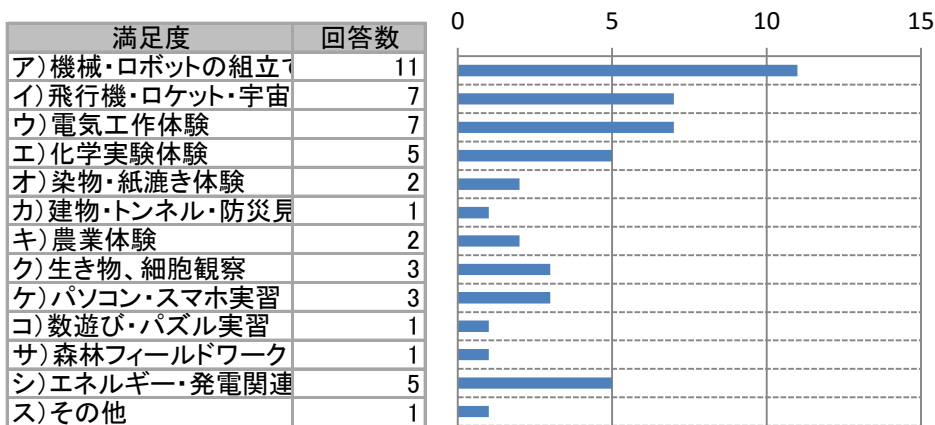


Q8-2. Q8-1で3以外とお答えの方、妥当な参加費はいくら位だと思いますか。

空欄回答が多い。

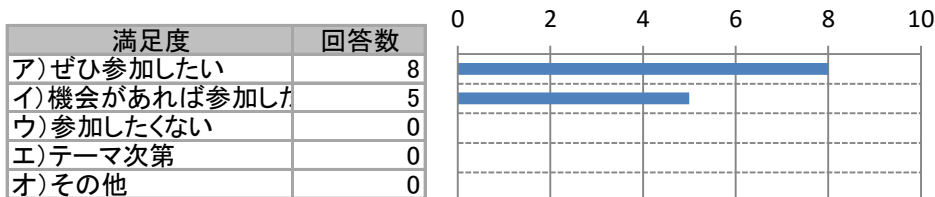
- ・「教材費など実験分、保険分+会場代など考え、最低1000円～だと思います。」

Q9. 今後、どのような内容の理科教室を希望されますか。(複数回答可)



- ・その他、「プログラミングなど」
- ・未回答 1名

Q10. 今後も技術士会が主催する理科教室に参加したいですか。



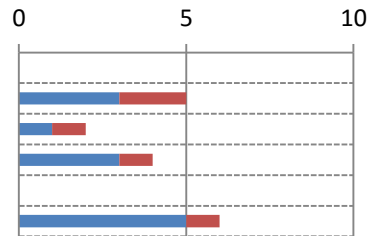
- ・未回答 1名

Q11. この教室へのご意見、ご感想をご自由にお書きください。

- ・とても楽しかったです。
- ・実験ノートが書き込み式なのが助かりました。また、自宅での実験のヒントもいただけて子供がうれしそうでした。本や教科書で知っていても、実際の実験はすぐには成功しないのがまた面白く
こういう実際にやってみることができるのはとてもありがたいです。
スライドショー(PP)の資料をいただけるとありがたいです。
- ・実験ノートで、自分のやったことをまとめられるので、どんなことを考えたのか、振り返ることができて良いと思います。
実験もわかりやすく子どもも取り組みやすかったと思います。
- ・子供と楽しく参加できてよかったです。
- ・ありがとうございました。いつも子どもにスマホやPC、ネットのWiFiなど質問を受け困っています。
このような機会をキッカケに興味を持ってもらい将来どんどん好きになってもらえればと思い

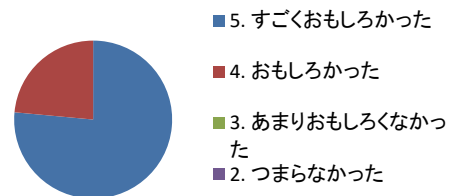
Q1. あなたの学年と性別を教えてください。

参加者	男子	女子
6年生	0	0
5年生	3	2
4年生	1	1
3年生	3	1
2年生	0	0
1年生	5	1



Q2-1. 今日の教室は、おもしろかったですか？

満足度	回答数	割合 (%)
5. すごくおもしろかった	13	76.5
4. おもしろかった	4	23.5
3. あまりおもしろくなかった	0	0.0
2. つまらなかつた	0	0.0
1. すごくつまらなかつた	0	0.0
0. わからない	0	0.0
合計	17	100.0

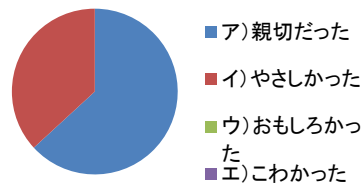


Q2-2. こんなところがおもしろかった、つまらなかつた、あれば教えてください。

- ・つくる。・作ったこと。・レモンで電池がつけれるところがおもしろかった。
- ・くだものででんちをかんとんにつくれてよかつたです。・さい後回つたところがおもしろかつた。
- ・クリップをうちがわにしてみてもそとがわにしてみてもとまるのがおもしろかつた。
- ・クリップモータたのしかつたです。・とくにない。
- ・どうしてクリップ、コイルなどでモーターができるのかなあ？と考えるのが楽しかつた！
- ・レモン電池に垂鉛版や銅板をさした所。・後半のクリップモータを作るのが楽しかつた。
- ・コイルを回すのに必死だつた。・自分で作れるところ。
- ・うまいつたのがよかつた。うまいかなかつたのは、めんどーだつた。

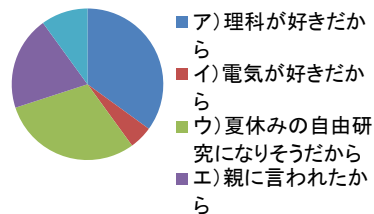
Q3. スタッフのお兄さん、お姉さんはどうでしたか？(複数回答あり)

印象	人数	割合
ア) 親切だつた	12	63.2
イ) やさしかつた	7	36.8
ウ) おもしろかつた	0	0.0
エ) こわかつた	0	0.0
オ) その他	0	0.0
合計	19	100.0



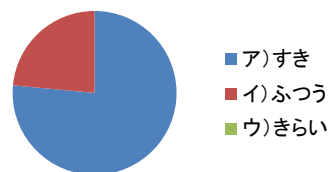
Q4. どうしてこの教室に参加しようと思ひましたか？(複数回答あり)

目的	人数	割合
ア) 理科が好きだから	7	35.0
イ) 電気が好きだから	1	5.0
ウ) 夏休みの自由研究になりそうだから	6	30.0
エ) 親に言われたから	4	20.0
オ) 学校で紹介されたから	2	10.0
合計	20	100.0



Q5. 理科や科学は好きですか？

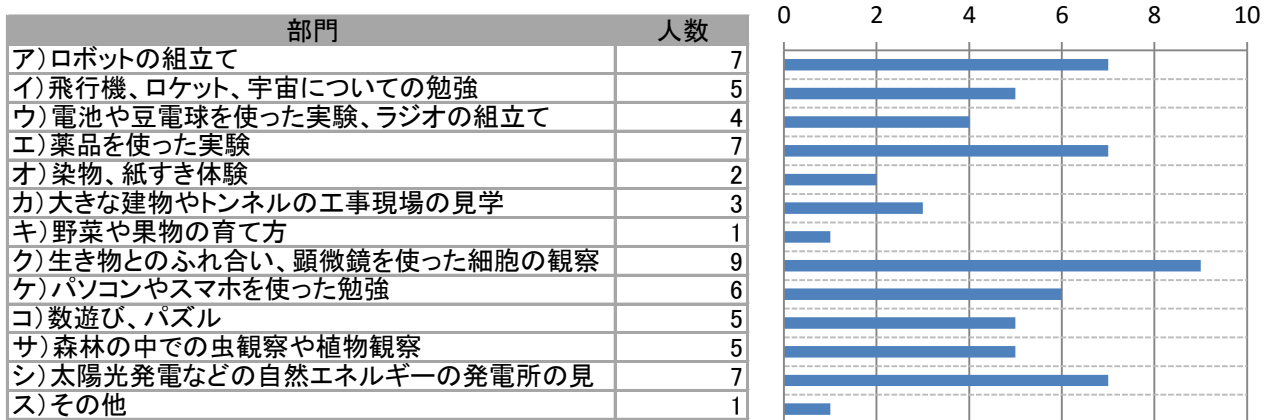
	人数	割合
ア) すき	13	76.5
イ) ふつう	4	23.5
ウ) きらい	0	0.0
合計	17	100.0



理由があればおしえてくださ

- ・さいぼうがすきだから。・1年生からやりたいと思ひてた。・やってみておもしろかつた。
- ・なつやすみのし おもしろいから。・静電気でなにかなと思ひたから。
- ・実験をやつて自分で結果見られるから。・にがてなものが多いから。

Q6. 今、興味があることや、これから知りたいことを教えてください。(複数回答あり)



Q7. 意見や感想、将来の夢など自由に書いてね。

- ・未チェック 2名
- ・ありがとうございました。(3名)
- ・モーターがたいへんだった。
- ・しょう来のゆめはバレエ
- ・とてもおもしろかったとくに、自分でモーターを作るのが楽しかった。しょう来は一級建ちく士になって家を建てたりビルを建ててみたいです。
- ・とても楽しかったです。私は、あまり理科が得意じゃないし、好きじゃなかったんです。しかもとくに、モーターの勉強すごくにがてだったけど、モータや電気の実験がおもしろいということがわかったのでよかったです。
- ・オルゴールの音を全部同じにしないで色々な音があると楽しいなと思いました。
- ・レモンで音がなるのがおもしろかったです。
- ・しょうらいのゆめはきょうですこしかがくしやになってみたいとおもいました。

以上

8月例会 夏休み理科教室 内部アンケート

【概要】

◆ 良かった点

今回の理科教室は、スタッフ側でも成功したという感想と満足度が高かった。計画・準備では工程・準備品等詳細をスプレッドシートで一括管理を行ったことで、役割分担や漏れのない事前準備に役立った。当日はトラブルもなくスムーズに進行し、講義および実験ノートとも完成度が高かった。モータの展示や事後の写真アルバム共有なども良かった。

◆ 改善すべき点

内容としては成功したが、実際の実験を事前に行ったスタッフが限られていたため、当日の対応がアドリブとなりヒヤヒヤしたスタッフが多かった。スタッフは全員デモ実験を体験しておくのが望ましい。また、子供により実験の早い遅いが生じたことについて、早く終わった子のフォローを用意しておくべきであった。また、果物を使用したことで実験後のテーブルの清掃・養生が問題となった。

その他、次回開催時のアドバイス、保護者や子供たちからイベントの内容と異なることで質問を受けた事項、その他何でも思うことについて記載した。

やはり、スタートが遅かったが参加者が定員に達した勝因としては、昨年の広報の結果から、会場周辺の小学校にターゲットを絞ってチラシの配布を行った点である。配布を断られた学校もあったが、各児童に配布してくれた学校では、参加者が集まった。次年度はこの結果を基に、より効果的な広報を行っていく。

アンケートの具体的なコメントを次頁以降に示す。

夏休み理科教室 内部アンケート

良かった点

コメント	回答者
計画・準備	
パンフレットの配布依頼として多くの小学校に直接電話依頼をしたのは良かった。実際には参加申し込みをしてもらえなかったとしても、多くの人の目に触れたのではないかと思います。	田中
実験材料の準備。山本さん、本当にありがとうございました。	佐藤
電線などを共用できたので、材料費は安く上がっているはず	山本
材料の必要数を、参加見込み人数から事前に見積もっていたので、材料の仕入れがスムーズにできました	山本
支払い記入シートに購入品を一括管理してくださっていたこと。他の例会でも活用したいです。	瀧川
お金をかけずに、手ごたえのある会に仕上がっていたこと。みなさまが丁寧に時間をかけてくださったおかげです。	瀧川
安力川さんを中心に、プロジェクト全てのメンバーが各々の役割をきちんと果たしていたこと。	佐藤
理科教室全体	
テーブルに3~4人はちょうどいい。	安力川
座席を学年ごとにしたのはレベル感が近くてよかった。	安力川
関連して、難易度の低いレモン電池→難易度の高いクリップモータという順番が良かった。	田中
佐藤さん、山本さんの説明とプレゼン、太田さんの実験ノートといずれも素晴らしかったです。本当の先生みたいですわね！	田角
低学年のこどもたちも説明に釘付けになっていたこと。	太田
ほぼタイムスケジュールどおりに進行できたこと。	太田
今回の時間配分はベストだと思います。これ以上長くすると、こどもたちの集中力も途切れてしまうのかなと。	太田
こどもにも退屈させずに、進行がスムーズだった点。	白井
皆様の持ち場や担当テーブル以外の周囲の状況にも気を配れているところが、凄いと感じました。私のテーブルで進捗が悪いような時、色々フォローいただきありがとうございました。	米原
こどもだけでなく、大人も笑顔がたくさんあった点。	白井
くだもの電池	
佐藤さんの説明がとてもよかったです。快活で笑顔で動きもあり、子ども目線でもとてもキャッチーでした。たいへん参考になりました。	田中
クリップモータ	
ビデオカメラの投影はわかりやすくとても良かった。	安力川
ビデオカメラ投影時に白色LEDで照らして頂いたので見やすくなり良かった。	山本
クリップモータの難易度がちょうどよく子供たちにも達成感があつたのではないかと思います。結果もわかりやすい。「ここ難しいよ」って説明部分に何度も言っていたので、その難しいことができたという達成感がなおあつたのではないかと思います。	田中
みんなのクリップモータが回ったこと。	太田

良かった点

コメント	回答者
クリップモータ	
クリップモーターの難易度が良かった。スタッフとしてひやひやしましたが、最終的に皆回ったのは一体感を持てた。	古川
実験ノート	
実験ノートに宿題の例が載っていたのが良かったです。	田中
実験ノートの完成度が高い。太田さんに感謝。	安力川
展示	
休み時間中にもこどもたちとふれあえたのが良かったです。端っこの机に置いてあった扇風機のモーター、乾電池、テスター、デジタル一眼レフにこどもたちは興味を示していました。乾電池の力をテスターで見てみようかってときに時間切れになってしまったのが残念でした。	太田
扇風機のモータを展示できたのは良かったです。実験工作の内容が身近なところで活かされていることがこどもたちに伝えやすかったです。	太田
開催後フォロー	
アルバムサイトでの写真共有はナイスアイデアだと思います。	北元

改善すべき点

コメント	回答者
理科教室全体	
悪い点というわけではないですが、ワニロクリップは1年生には開きづらいみたいです。	太田
太田さんと同じ意見ですが、ワニロクリップは5年生でも女の子には開けづらそうでした。	藏重
レモンでクラフトペーパーがぐしゃぐしゃになってしまったので、レモン電池用、クリップモータ用の数量を調達した方がいいと思いました。	太田
クラフトペーパーがかなり濡れたので、クリップモータとくだもの電池の順番を入れ替えるか、交換用のクラフトペーパーを人数分用意しておくべきと思いました。	田角
レモンの汁でかなりベタベタになっていたのも、テーブルにビニールのを敷くなど対処が必要かと思いました。最後までいなかったので確認できてないですが、床や椅子などは大丈夫でしたでしょうか？	瀧川
ケガをしないよう保護者が注意と言っておきましたが、それでもバンドエイドや消毒薬など、簡易救急セットみたいのを用意しておくべきでした。(幸い今回はケガなしでしたが)	田角
休憩の時に、ドアを閉めておいたら、子供が騒ぎながらボタンと開けて出て行くらしく、向かいの和室を借りている方から、「重要な会議をしているので、ドアの開け閉めに注意して下さい」とクレームが来ました。休憩時間はドアを開放しておくのと、子供が騒がないようドアのところで注意するようにしておけばよかったと思いました。	田角
くだもの電池	
レモンなどで手が汚れるので、テーブルにひとつティッシュがあれば良かったと思いました。	田中
テスターが意外に重宝。テーブルに一つあれば良かった。	安力川
アナログテスターよりもデジタルテスターを使ったほうが理解しやすい。	安力川

改善すべき点

コメント	回答者
くだもの電池	
レモン電池は非常に良かったです。ヒントを幾つか時間ごとに与えて、直列(音を大きくする)に子供自身がたどり着けるプロセスがあるともっと良かったかも。(時間は無い中で、結果論ですが、強いて言うなら)	古川
レモン電池、高学年の子はテスターに興味アリだったので、スムーズに教えられなくてちょっとあわてました。	白井
安力川さんが個別に出していた小ネタ(電車が何ボルトで動いているか、とか)のようなものを、事前にリスト化しておいて、メンバー間でシェアできていると良かったと感じました。	田中
クリップモータ	
スタッフも事前にクリップモーター作りを体験しておく、本番で回らなかったときの対処がもっと良くなると思いました。回らなかった時、だいぶドキドキしました。	太田
クリップモータが動かなかった原因はメモっておいたほうがいいかも。ノウハウですし、次回の進行が楽になります。何より我々がドキドキだったので	安力川
動かなかった原因1: エナメル線の被覆が十分削れていなかった	山本
動かなかった原因2: ワニ口クリップが電線被覆をつかんでいて、電線金属部が接触していなかった	山本
黒マジックはテーブルに2本くらいあるといいと思いました。	太田
強いて言うならば、クリップモーターが成功した子供とそうでなかった子供の時間的ギャップがありました。成功した子供たちは、ちょっと手持ち無沙汰になっていました。その間に、実験ノートを書かせたり、果物電池でその他の果物でのデモをやってもよかったかな、と後になって思いました。	佐藤
クリップモータの作り方を説明しているとき、すぐに説明どおりにできてしまう子と、ちょっと1テンポ必要な子がいました。全員ができるまで次の説明を待っていましたが、できてしまっている子(主に高学年)がじれったそうでした	山本
クリップモータ、なぜまわるんですか?の親御さんの質問に的確に応えられたか、ちょっと不安アリです。	白井
実験ノート	
こどもは書く文字が大きいので、実験ノートの記入スペースは広めに設けたほうがいいと思いました。	太田
実験ノートは、実験中にメモしてほしいことと、おうちでやるときにはこんなところに注目してね、の構成にしたほうが良さそうです。	太田

次回開催時のアドバイス

コメント	回答者
会場	
来年は、葦手の会議室を早めにおさえたいですね。	佐藤
可能であれば午前から同じ会場を借りたいですね。	太田
広報	
小学校への電話は1~2人で担当したほうがいいかもしれません。慣れてくると効率、成功率が上がります。	北元

次回開催時のアドバイス

コメント	回答者
広報	
今回の実績を元に次回は教育委員会への協力要請や北区の広報誌に掲載してもらおうとも検討を	安カ川
今回、簡易情宣方法(郵送)が出来たので、いずれはダメ元で、教育委員会にプレゼンしに行くのはいいかも。	?
→次回はまた北区開催→小学校と繋がりを固める(怪しくない)→いずれは教育委員会公認	古川
その他準備	
プロジェクトはHDMI入力ができるものを借りるとビデオカメラが繋がります	山本
当日	
開始時間直前に一階入口まで降りましたが、カンバンかのぼりがあれば、誘導にラクだと思いました。でももってくるのは大変ですね。	白井
誘導には、3組くらい、参加者にお声かけいただいたので、最初から誘導係を予定しておくとういと思いました。	白井
自分たちも楽しんでください。たぶんこれ重要。	田中

保護者や子どもたちからイベントの内容と異なることで質問を受けた事項

コメント	回答者
実験に使えるような電気部品や試薬はどうやって調達したらよいですか？	田中
親御さんからの質問で、「遺伝子の染色体をみせたい」にはちょっと戸惑いました。「毒劇物は一般に入手することはできません。一般に入手できる実験キットが売ってるので、科学技術館に試してみてください。」と切り返しました。これまた、楽しいやりとりでした。	白井
子どもの自由研究に関して、お母さんにイライラ棒を作りたいが動線などの材料はどこで買えばいいかと聞かれました。自分の答えられる範囲でア)	?

その他何でも思うこと

コメント	回答者
アナログテスターの読み方が勉強になりました笑	田中
おっさん相手のイベントよりも将来を担う子供たちを対象にした今回のイベントの方が、企画・運営として純粋に楽しかったです。その楽しさがモチベーションにもつながっており、メンバー個人個人が当事者意識をもって運営に当たれたため、すばらしいイベントになったのだと感じました。	田中
ひとつのレモンにすべての金属板を刺したり、レモンの皮から金属板を突き刺したりと、こどもの柔軟な発想に触れることができたのは良い刺激でした。	太田
リニアモーターカーの実験にとっても感動しました。	太田
参加者数、スタッフ数、タイムスケジュール、実験のレベル、テーマがちょうど良いと感じたので、振り返りからの改善、ルーチン化、開催回数増やして、一人でも多くのこどもの『理科って面白い！』のきっかけになれば良いですね。	太田

その他何でも思うこと

コメント	回答者
一つのレモンに金属板を全部刺してあるのは衝撃的でした。子供の柔軟な発想に応えたり、また思いもよらぬケガのないよう、もっといろいろな状況をシミュレーションすることが必要な・・・と思いました。	田角
北区の小学校は好意的だし会場の予約がしやすかったのでしばらく北とぴあか赤羽会館続けて胸を張れる実績を残せるといいと思います。その後ヨコ展開かな	安カ川
はじめの準備から最後の打ち上げまで大変楽しめました。	安カ川
初めに安カ川さんの話で、教師と私たちの教えられることの差別化を皆の中で明確にしたのは良かった。意識統一の面で	古川
当日参加できませんでしたが、次回は参加したいです	山田
他団体の催しを参考にするのもいいかと思います。しかし、参加対象のお子さんが家族にいないければ、参加できないですね	山田
子供達の素朴な質問に答えることが、意外と難しかったです。相手のレベルに合わせて理解してもらえるような説明を考えることで、自分自身が勉強になりました。	米原
最初に5分ぐらい自己紹介の時間を設けてみてもいいのかなと思いました。一応個別に回って名前聞いて自己紹介ぐらいはしましたが子ども達にも親御さんにもちゃんと「この人は何者？」というのを認識してもらった方がいいかなと思いました。	川崎
「理科の実験楽しい！」「科学ってすごい！」だけじゃなくて「技術士のおじさんすごーいカッコイイ」みたいな感想を持ってくれるようになるともっといいのかなと思いました。「将来モーターとか作る人になりたい」と思ってくれるといいな。	川崎

行事名	9月例会:ディベートの基本を学び、体験しよう
日時	2015年9月5日 13:00~17:00
場所	葦手第二ビル 5F 会議室 A,B
講師、発表者	講師:松村弁理士、説明:道家委員 ディベート参加者:16名 講評:3名
担当者: (○印:リーダー)	○道家健太郎、小野寺純、伊藤友加里、細野 雄治
参加者数	16名(内委員 11名)

1. 背景・目的

これまでに例会では、2011年6月例会「エネルギー問題についてディベートしてみよう」、2013年3月例会「ディベートを体験しよう!」及び2014年3月例会「ディベートを体験しよう!」といったディベートに関する例会を開催し、定番例会の一つと言えるまでになった。これらの実績、成果を踏まえ、本企画の準備を実施した。

初心者向け、ディベート入門編として、講師を招いて、ディベートの基本を学んだ上で実践することとし、幅広く参加して頂ける会とした。講師からは、ディベーターの視点の他、審査者の視点を踏まえた説明をして頂き、採点する立場の視点についても学べるよう工夫した。

2. 例会内容

1) テーマ:「リニア新幹線は廃止すべきか」の提示

テーマは当日に告知した。説明用資料は当日コピーし、配布した。

2) 選手、評価者、タイムキーパー、オブザーバーの選出および役割定義

選手

・各チーム4名、4チーム(Aチーム、Bチーム、Cチーム、Dチーム)構成とした。

・ディベート実践の前に、講師である松村弁理士から説明を受ける。

1回目

肯定側:Aチーム

藤森さん(電気電子)、大庭さん(建設)、安樂さん(情報工学)、百瀬さん(環境)

否定側:Bチーム

グエンさん(農業)、名古屋田さん(衛生工学)、田辺さん(電気電子)、石野さん(建設)、大下さん(機械)

2回目

肯定側:Cチーム

武内さん(情報工学)、竹下さん(航空・宇宙)、早川さん(機械、衛生工学)、沼畑さん(電気電子)

否定側:Dチーム

竹内さん(化学)、花岡さん(環境)、大平さん(電気電子)、吉岡さん(建設)

講評者(ディベート採点票に従い、ディベートの採点および講評);

1回目:山本委員、伊藤委員、白井委員、松村講師

2回目:外山さん(電気電子)、山本(恵)さん(電気電子)、細野委員補佐

タイムキーパー(松村先生に担当していただいた。):

3) 司会(道家委員)からテーマであるリニア新幹線の現状の説明を実施

4) ディベートの実施

ディベートはチームで1回行った。肯定派・否定派の交代はしなかった。

3. 成果と所感

・初心者には焦点をあてディベートを体験することを主目的としたため、テーマ選定がやや難しかった。技術の集大成的位置にもあり、かつ技術倫理的な議論も展開出来る「リニア新幹線は廃止すべきか」を選定した。参加者の身の回りにあるテーマではないものの、様々な技術要素からのアプローチが可能であり、参加者は抵抗無くディベート進行できたと感じた。

・テーマは事前に参加者にお伝えしたが、参考資料の配布は当日に行った。以前のディベート例会において、事前に資料配布した事例があるが、スムーズな例会の進行、中身の濃い議論のためには、事前に配布した方が良かったと感じた。

・目的の通り、私も含め、ディベート初心者の方に多く参加いただいた。講師から、初心者向けのディベートの基礎を含めた説明をしていただいたが、もう少し、講師と参加者が話せる時間を増やしたかった。グループでの作

戦を練る際に、講師に各グループを回っていただく予定であったが、十分な時間を確保できなかった。各グループに委員を配置する等して、グループ内議論をリードすることが必要であったと思う。

- ・アンケート結果から、講師の話し方・進め方、スタッフの対応について、十分にご満足いただけなかったと理解した。当日の時間配分、事前の資料提供等により、この点は改善できたのではないかと思う。

4. 今後の展開

- ・様々な側面から物事を見て、ロジカルに説明を組み立て説明するスキルは技術士、技術者にとって不可欠の素養であるが、今回実施したディベートが大きな一助となることを確認した。
- ・委員長からご提案いただいた、ディベート例会のテンプレート作成を行い、初心者にもディベートにすんなり入れるような、また、ディベートでの議論に厚みを持たせるための工夫を行う必要があると感じた。

文責 道家 健太郎

9月例会「ディベートの基本を学び、体験しよう！」写真



村崎委員補佐によるディベートの基本説明



講師からの講義



講義に聞き入る参加者



作戦会議



ディベート実践の状況



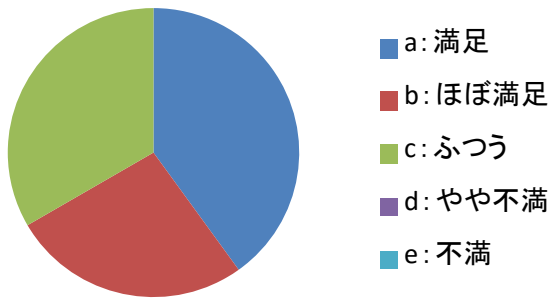
戦略タイム



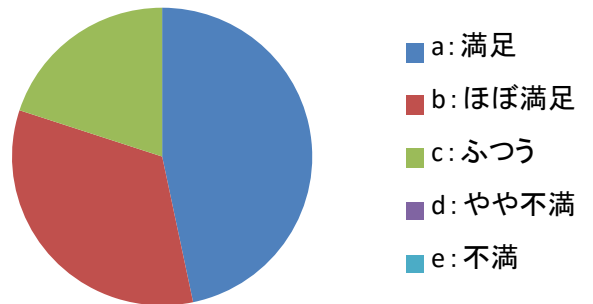
講師による公表

アンケート集計結果

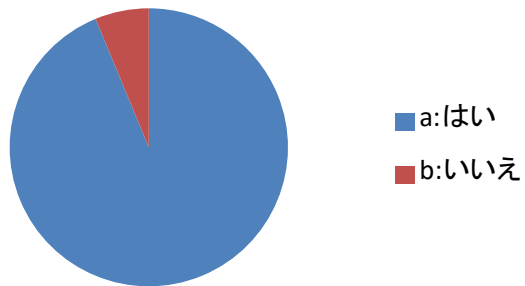
Q1.講師の話し方、進め方



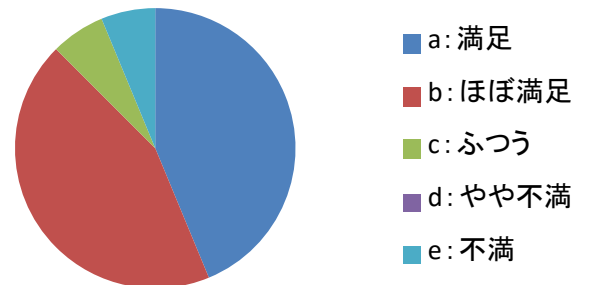
Q2-1,スタッフの対応



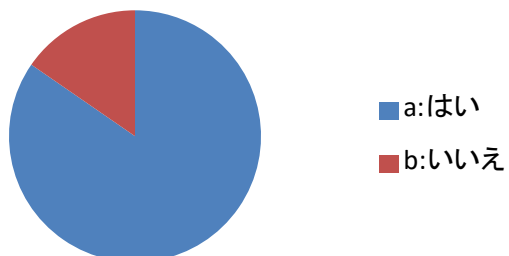
Q3,ディベートの基本



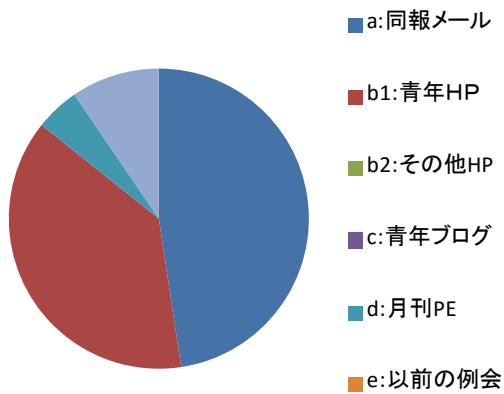
Q4,全体として



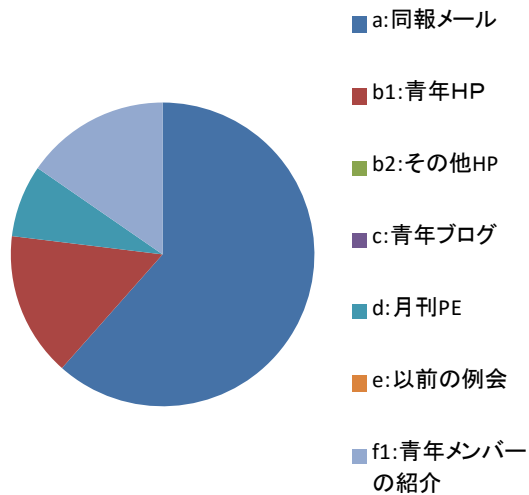
Q5,また参加したい?



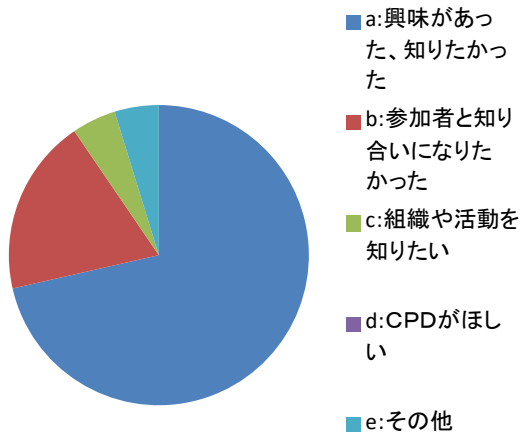
Q6-1, 今回の例会をどの ように知ったか



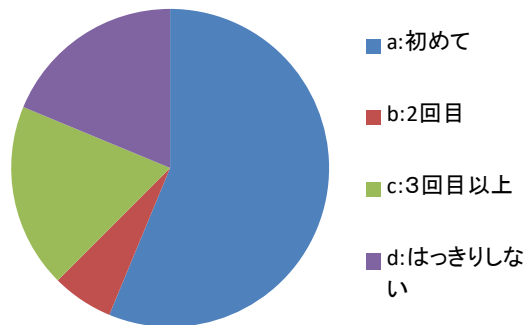
Q6-2, 参加きっかけ



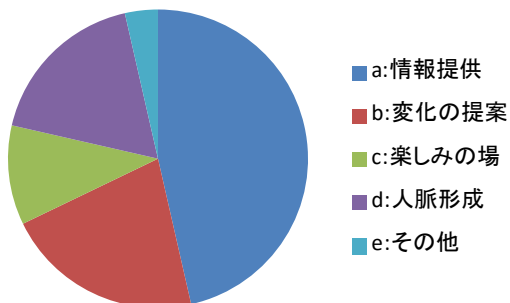
Q7, 目的



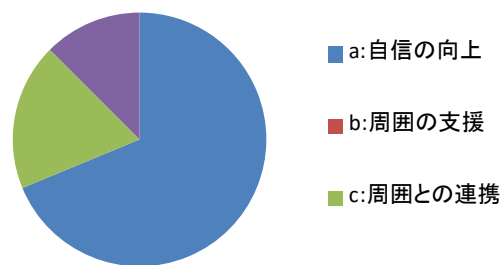
Q8, 参加回数



Q9, 開催してほしいイベント



Q10, どのような活動をしているか



スタッフに伝えたいこと

- ・ 技術士でディベートというので、アカウンタビリティや客先への説得手法というものを期待していました。
- ・ ディベートのルール、ゲームの構成について、事前を知っておけば（資料の事前配布）時間の短縮につながると思います。
- ・ もっと時間がほしい
- ・ 次回ディベートがありましたら、肯定⇄否定の入れ替わりをお願いいたします。
- ・ ひな型や即時の指導があればよい。資料の準備が出来たらよい。

行事名	10月例会：自己紹介プレゼン大会
日時	2015年10月10日(土)
場所	葺手第2ビル 5階 CD会議室 13時～17時30分
講師、発表者	参加者全員
担当者： (○印：リーダー)	○諸田(記)、高橋、中村、瀧川、田中
参加者数	20名 (磯部、太田道宏、太田望斗、小野寺、川崎、北元、藏重、小塚、下野、白井、高橋、瀧川、竹入、中川、中村、古川、細野、村崎、諸田、横田) ※敬称略

1. 背景・目的

青年技術士交流委員会(以降、委員会と記す)は、7月に半数の委員が入れ替わった。これを受け、先月は各月の例会担当、および各Gの担当が決まり、新体制での委員会運営が本格的に始まった。
 以上を踏まえ、10月の例会は、今後の委員会運営を円滑に進めることを目的に、自己紹介プレゼン大会を実施し、委員内における交流の促進や連帯感の醸成を図る。

2. 例会内容

前述の背景、目的を踏まえ、「自分を(熱く)語り、自分をよく知ってもらおう!」というコンセプトのもと、自己紹介プレゼン大会を実施した。
 自己紹介プレゼン大会は、委員各自で事前に作成した自己紹介用プレゼン資料を基に、以下のスケジュールで実施した。

時間	活動内容	ねらい/目的
13:00-13:10	オープニング (例会の目的、進め方、ルールの説明)	例会の目的、進め方、ルールを説明(共有)し、例会を円滑に進めるよう協力をお願いをする。
13:10-14:20	・自己紹介(第一幕) ・発表者(敬称略)：横田、磯部、太田道宏、太田望斗、小野寺、川崎、北元、藏重、小塚	発表者9名の自己紹介プレゼンを円滑に進める。
14:30-14:40	休憩	
14:40-16:00	・自己紹介(第二幕) ・発表者(敬称略)：下野、白井、高橋、瀧川、竹入、中川、中村、古川	発表者8名の自己紹介プレゼンを円滑に進める。
16:00-16:10	休憩	
16:10-16:40	・自己紹介(第三幕) ・発表者(敬称略)：細野、村崎、諸田	発表者3名の自己紹介プレゼンを円滑に進める。
16:40-17:20	副委員長の講評 (太田副委員長、中村副委員長)	新体制における各委員の自己紹介プレゼンへの講評をしつつ、今後の委員会運営への期待を共有する。
17:20-17:25	成績発表 (最優秀賞、副委員長特別賞、努力賞)	発表者の成績を発表することで、各自のプレゼン能力(発表手法・資料作りなど)の向上を促す。
17:25-17:30	クロージング	参加者へのお礼と今後の例会への期待を込める。

3. 成果と所感

成果としては、主に以下があった。

- ・ 7月の委員の入れ替え後、早い段階で自己紹介をすることで、委員の皆さんの「人となり」を知ることができ、コミュニケーションが深まった。
- ・ 参加者の全員の発表を時間内に終わらせることができた。
- ・ 例会の盛り上がりをそのまま懇親会へ持って行くことができたため、参加者全員が楽しむことができ、結束力の強化にもつながった。
- ・ このような内部向け企画は、委員同士の交流の促進や、連帯感の醸成、および結束力強化に役立つので、定期的(年に数回)に開催できると良いという意見をいただけた。

以上のような成果により、11月以降の委員会運営を円滑に進めることができると思われる。

なお、参加者全員の評価表、およびアンケート結果は、別紙にまとめて Owncloud へ Upload した。

また、例会の様子は、青年技術士交流委員会のブログにも掲載した。

4. 今後の展開

今回の例会の反省点として、集計時間に時間がかかった点が多く挙げられた。対応策として、集計要員を増やす、集計ツールを用意するなどの仕組みの検討が必要である。

また、欠席者のプレゼン資料は、発表せずに各自で見とくようになってしまったので、休憩時間にスライドショー形式で流しておくなどの対応策を検討する必要がある。

以上の反省点を次回以降に活かすことで、委員会運営がより良くなることを期待する。

－以上－

2015年10月例会 内部アンケートまとめ

【良かった点】

発言者	意見	例会内容	事前準備	当日の幹事の対応	懇親会	その他・全体的に
高橋	新体制になって早い段階で委員会メンバの自己紹介イベントができた点はよかった。	●				
	皆さんの熱い気持ちが伝わってきて、とても楽しく、懇親会も盛り上がった。				●	●
諸田	例会の目的である「今後の委員会運営を円滑に進めること」に寄与できたのではないかと思います。	●				
	例会のコンセプトは「自分を(熱く)語り、自分をよく知ってもらおう！」でしたが、それ以上に皆さんが前向き、且つ熱く自己紹介をしていただいたので、大変盛り上がった。					●
	普段の会話でしか皆さんの「人となり」を知ることができませんでしたが、パワポ資料で発表することで、より深く知ることができました。→視覚からの情報は有効ですね。百聞は一見にしかず！					●
	皆さんの協力で、時間内に終わることができた。			●		
古川	例会の雰囲気がそのまま懇親会へ引継がれ、大変盛り上がった。				●	
	タイムキーパーの時間管理がしっかりしていた。			●		
村崎	時間管理、ほぼ定刻通り進んだこと。			●		
	メンバーの背景を知ることができたこと。	●				
	プレゼンの勉強になったこと。(自分の発表はともかく、順位が下位の人の発表も自分にとって得るものが多く、非常に参考になりました。)	●				
小野寺	2年前はプレゼンが8分ぐらいで、質疑応答なしでちょっと聞き手にとって辛いところがあった。					●
	今回のプレゼン5分、質疑応答2-3分、バッファ2分というのは非常にバランスの良い構成だったと思います。					●
	メンバーの相互理解が深まった。	●				
	このイベントはやはり必須だと思いました。	●				
川崎	委員会メンバーのお名前やお仕事など印象をもって覚えることができた。	●				
	時間通りに進行した。			●		
	5分はちょうど良い長さでした。					●
太田望	時間配分がよかったです。(事前のスケジュールリング、当日の諸田さんの進行とともに。)			●		
	何より、みなさんのことを知る機会として、内容、実施時期ともによかったです。	●				
磯部	青年メンバーのお顔、お名前、人物像がようやく一致した。	●				
	自分という人間に関して、再認識する良い機会になった。	●				
	スタートするまで発表者のスライド画面を映さないよう配慮されていた。			●		
	プロジェクター画面が歪み無く、映りを丁寧に調整されていた。(台形みたいな時とか、スクリーンからはみ出てる時とか、結構ありますよね)			●		
	昔ながらの卓上ベルが良い味を出していた。					●
	F5を押すとスライドショーをスタートできる事を知った(笑)。					●
太田道	とてもセンスの良い優勝景品だった。(大村智 著「人生に美を添えて」他)			●		
	皆さん個性的な発表で、おもしろかった					●
	進行がスムーズだった。時間が余ったのは想定外でした。				●	
横田	懇親会のお店の雰囲気が良かった					●
	途中まで参加でしたがどのプレゼンも力作だったので、委員・委員補佐の方々のバックグラウンドを知ることができ理解が深まった。	●				
中川	委員同士のコミュニケーションが確実に深まりました。諸田さん、高橋さん、ありがとうございました。	●				
細野	例会進行が遅れることなく順調であったところ			●		
	懇親会会場がとても良かった。				●	
	努力賞の製品がいい本だと感じたこと(そう思うのは私だけでしょうか?)			●		
白井	進行がしっかりしていたところ。			●		
	ひとりひとりが前に出て自分のことを話す機会だったこと。	●				
	内部イベントにより、結束力が高まった印象あり。	●				
竹入	メンバーのことをよく知る機会となった	●				
	時間通りに終わった			●		
	タイムキーパーがしっかりしていた			●		
	適度に休憩があった					●
北元	時間配分が絶妙だったこと。			●		
	みなさんの専門部門、仕事、趣味などがわかり、お互いに深く知り合えたこと。	●				
	メンバー同士、お互いをより深く知る良い機会となった。	●				

瀧川	プレゼン形式で自己紹介を行ったことで、各人の個性が発揮されていたこと。	●			
	十人十色の話し方、パワポのつくり方を拝見、採点することによって良いプレゼンとはどういうものか、学習できる機会を得たこと。	●			
	時間配分、休憩の取り方が良かったです。			●	
中村	自己紹介を通じて、みなさんの今まで知られていない一面を見つけることができました。	●			
	委員どうしのコミュニケーションの場となり、お互いの理解が深まった。	●			
	諸田さんの当日の司会が良く、時間通りに会が進んだ。			●	
	高橋さんの懇親会のお店のチョイスが良かった。(例会の進捗に合わせた開始時間の変更交渉もGOODでした) 例会でのネタで、懇親会も大いに盛り上がった。			●	●

【悪かった点】

発言者	意見	例会内容	事前準備	当日の幹事の対応	懇親会	その他・全体的に
高橋	集計時間に時間がかかった。					●
	集計人数を増やしたり、集計を休憩ごとに行ったり等の検討が必要だと思います。					●
	欠席した方のプレゼンをあまり紹介できなかった。	●				
	集計中にプロジェクトに移しておくのもよかったかも知れない。		●			
諸田	司会進行は、ぶっつけ本番(台本等なし)だったので、イマイチ感が満載でした。(すみませんでした)			●		
	集計時間が掛かると想定し、EXCELのマクロを作っていたが、それでも集計時間が掛かってしまい、皆さんをお待たせさせてしまった。(すみませんでした)					●
古川	集計の時間を上手いかせたかも。。(結果論ですが)					●
村崎	欠席者もプレゼン資料を要提出にしていたが、会で活かせなかったこと。(集計中などに、代理で誰かが発表するか、発表しなくても、自動で流すようにすれば良かったかも?)					●
小野寺	紙の点数集計が非常に大変なことは、前回も同様でした、引き継ぎ点として、私も含めて事前に諸田さんにフィードバックできなかったのは、大変申し訳なかったです。					●
川崎	集計で間延びしてしまったところ(手分けや合計点を各自集計しておいても良かったのかと思います)					●
	講評を聞いて(大田さんの個性や時間を守る点について)、皆さんの採点の判断基準を聞きたかった(懇親会に参加して聞ければよかったのですが・・・)					●
太田望	ほかの方と同意見ですが、集計に労力を有する点。					●
磯部	大田(ポ)副委員長も言っていた通り、制限時間に対する意識が少し緩かった。					●
	質問の数(時間)が同じでないので「質疑応答」の項目を平等に評価できない。(これも制限時間を厳守しないことに起因するかも)					●
	集計の方の苦労を少なくする工夫がほしい。					●
太田道	質問が少なかった。発表聞いて質問が無いというのは失礼に当たると思います。					●
	結果はともあれ、何がどう「良くて」何が「悪い」のかを共有したかったです。					●
横田	とくにありません。					
中川	集計に時間がかかっていました。ただ全体がすんなり進んだためか、あまり気になりませんでした。					●
	必要時間とあらかじめ見込んで、全員が採点基準や気づいた点を発表するなど、まとめ時間として活用するのもよいかも。					●
細野	特になし					
白井	話す時間10分で勝手に想定してしまっていた。思い込み癖、注意します。					●
竹入	集計するのに時間がかかった					●
北元	集計に時間がかかったこと。					●
瀧川	集計に時間がかかってしまったこと。					●
中村	発表時間をオーバーする人が多かった。					●
	集計にすこし時間がかかりすぎた。(みんなで手分けすればよかった?)					●

【その他・気が付いた点】

発言者	意見	例会内容	事前準備	当日の幹事の対応	懇親会	その他・全体的に

高橋	内部企画も年に数回行えるとよいかと思ひます。	●					
諸田	内部向け例会は、委員同士の繋がり強めるので半期に1回位あってもいいかと思ひました。 →「例会」といった公式なものでなくてもいいか。来年は我々がホストの全国大会です。	●					
古川	他の人の仕事について飲み会以外の場で聞くことが出来たのは初めて(私は)で、とても面白かった。	●					
	また、違う手法(内容を限定してとか)で定期的にやってもいいかも。	●					
村崎	集計が非常に大変そうなので、ここは要検討と感じた。					●	
	ほとんどの方が、運営委員会用にPCやタブレット等を持参していたので、電子ファイルベースで各個人のデータを集める方向でも良かったのかも？						●
	それであれば、諸田さんが用意して下さったマクロもより活かされたのかも、と思ひます。						●
	また、紙ファイルで行うなら、採点をより簡素化するなどの対策が必要と感じました。		●				●
小野寺	サイバー集計ツールには、マーケツールとして頻用される「Survey Monkey」があります： https://jp.surveymonkey.com/					●	
	無料版では機能がかなり制限されていて、微妙ですが同様課題のソリューションにはなるかも。						●
	小野寺が業務で作成し、使用しているもの。 https://jp.surveymonkey.com/r/TSKG5NK						●
川崎	今回初参加でしたが、ちょうど自己紹介という内容は非常に助かりました。	●					
	懇親会参加できず、すみませんでした。					●	
太田望	全員の順位付けをするのではなく、最優秀者を投票する方式もありかなと思ひます。					●	
磯部	まずは、皆様に良い点数を付けて頂き、どうも有難うございました。					●	
	少し力み過ぎの感も有ったかと思ひますが、「熱く」というメインテーマを強調した仕上りに対して、高い評価を頂いたのだと思っております。						●
	PPスライドの準備は少し大変でしたが、所詮私は参加しただけの立場。会を準備してくれた諸田さん他担当の方々あつての事と痛感しました。深く感謝致します。						●
太田道	このような内部向けの会はもっと増やしたいのですが、外部向けの会との兼ね合い(回数減らしていいのか?)など悩ましいと思ひました。	●					
横田	真の努力賞はたぶん自分だと思ひます…。					●	
中川	採点用紙、もう少し丁寧に書けばよかったです。備忘メモ程度しか書いていないため(しかも雑)…個人的な反省です。					●	
細野	もっと早めに準備をしておけばよかったですと反省しております。		●				
白井	オモシロクナ〜ル、効きましたね!!!					●	
	白井資料のConfidential消し忘れてましたが、企業秘密は全部消してあります。つまり、会社で使ってた資料の転用ですが、一般的な情報だけです。誰も気にしてないでしょうがお気になさらず。念のため。						●
竹入	写真を撮ってみて、賞を取った方3人の集合写真を撮れば良かった。せつかくの内部例会だったので、全員での集合写真を撮れば良かった。			●			
北元	このような機会が増えれば団結力がより強くなるかなと思ひました。	●					
瀧川	自己紹介ネタで懇親会が盛り上がったこと。					●	
	懇親会でのお店のお料理がとても美味しかったこと。いいお店でした。					●	
中村	このような会(内部向け)は委員どうしの理解を深め、委員会の活性につながると感じました。	●					
	定期的に(年に数回)内部向けの例会があつても良いと思ひます。					●	

行事名	11月例会：45歳以下限定／【同世代】の技術者仲間を作ろう！
日時	2015年11月21日(土)
場所	グループワーク：葺手第2ビル 5階 AB会議室 13時30分～17時30分 交流会：串特急 神谷町店 18時～20時
司会	太田(望)
担当者： (○印：リーダー)	太田(道)副委員長、白井委員、○太田(望)委員
参加者数	グループワーク：一般参加者18名＋委員2名(白井委員、横田委員)、合計20名 交流会：一般参加者18名＋委員7名、合計25名

1. 背景・目的

日本技術士会は各種部会、委員会等、技術者自身の研鑽と技術者同士の交流を行うことができる場を備えている。幅広い年齢層の技術者と情報交換することが可能であり、資質向上のうえで有意義なものといえる。

一方で、同世代(青年層)同士が交流することにより得ることができるものもあると考え、45歳以下限定企画を立案した。そして、参加者の資質向上と同世代の仲間作りができる場を提供することを本例会の目的とした。

2. 例会内容

上記の本例会の目的を達成すべく、グループワークとして「技術者としての自己紹介」とその情報を用いた「技術戦隊の結成」を行った。

2.1 事前準備作業

参加者の確保と例会当日のスムーズな進行の実現を目的として、例会当日までの間に以下の準備作業を行った。

表 例会当日までの主な準備作業

No.	担当	作業項目	目的	効果
1.	太田(望)委員	本委員会ブログへの例会案内の掲載	○本委員会に興味を持っている方に対するの広報のため。	○掲載後、2名の参加申込があった。
2.	広報G	月刊技術士への掲載	○日本技術士会会員に対するの広報のため。	○ブログ、同報メールと併せて参加申込を促すことができた。
3.	田中委員長	(第1回)同報メールの発送	○日本技術士会会員に対するの広報のため。	○メール発送後、9名の参加申込があった。
4.	田角委員	4月特別例会参加者への案内メールの発送	○本委員会に興味を持っている方に対するの広報のため。	○メール発送後、5名の参加申込があった。
5.	田中委員長	(第2回)同報メールの発送	○日本技術士会会員に対するの広報のため。	○メール発送後、4名の参加申込があった。
6.	太田(望)委員	グループワーク用記入様式の作成	○グループワークを進行しやすくするため。	○グループワークを円滑に実施することができた。
7.	太田(望)委員	グループワーク説明用PPTの作成	○グループワークの目的、進め方を参加者へわかりやすく伝えるため。	○グループワークを円滑に実施することができた。
8.	太田(道)副委員長 太田(望)委員 白井委員 諸田委員	自己紹介例、戦隊結成例の作成	○グループワークでの成果物をイメージしやすくするため。	○事前に例を作成したことで、グループワーク実施時の注意事項や効果を確認できた。 ○グループワークを円滑に実施することができた。

No.	担当	作業項目	目的	効果
	竹入委員補佐			
9.	太田(望)委員	申込者への案内メール ※申込確認のメールと 例会前日の案内メール の2種を送った。	○申込者をフォローし、例会 への参加の確実性を高め るため。	○メールのやりとりにより、例会 への参加の確実性を高めるこ とができた。 ○連絡無しでの欠席者は1名の みであった。
10.	瀧川委員	お菓子の調達	○グループ内の雰囲気をも とめるため。	○グループ内の雰囲気をもた らせた。

2.2 例会当日の状況

一般参加者が18名であったため、委員2名(白井委員、横田委員)を加えて、5人のグループを4つ作り、グループワークを行った。

表 例会当日の流れと活動内容

時間	項目	活動内容
13:30-13:40	委員長挨拶	○田中委員長により、挨拶と本委員会の紹介を行った。
13:40-14:10	オープニング	○太田(望)委員により、例会の内容、目的、進め方の説明を行った。 ○自己紹介、技術戦隊結成の例を示すことで、グループワークの内容を具体的にイメージできるように努めた。
14:10-14:30	検討時間	○参加者による自己紹介内容の検討を行った。
14:30-14:55	グループワーク 自己紹介	○グループ内で各参加者が自己紹介と質疑応答を行った。 ○自己紹介を3分間、質疑応答を2分間で実施した。
14:55-15:05	休憩	○休憩時間内においても参加者同士の自主的な交流が行われた。
15:05-16:35	グループワーク 戦隊結成	○グループごとに技術戦隊を結成するための話し合いを行った。
16:35-16:45	休憩	○休憩時間内においても参加者同士の自主的な交流が行われた。
16:45-17:20	発表	○各グループが結成した戦隊の発表を行った。 ○1グループあたり8分間を目安としたが、発表を完結することを優先した。8分を超え、熱く語るグループもあった。
17:20-17:30	クロージング	○田中委員長による講評を行った。 ○アンケートを実施した。

3. 成果と所感

主な成果を以下に挙げる。

- ・ グループワークから交流会に至るまで、終始、参加者の笑顔と会話が絶えず、名刺交換も活発に行われた。本例会内容に対する参加者のアンケート結果としても95%が“とても良かった”、“良かった”であり、また、“参加者同士で会話する機会が多く、楽しかったです”という声もあり、「交流」の場を提供することができた。
- ・ 自己紹介と技術戦隊の結成を通して、参加者が以下の事項を獲得することができ、技術者としての資質を向上することができた。
 - 「自己紹介力」、得た情報に関する「分析力」・「まとめる力」の向上
 - 「他分野の技術」に関する知識

このような成果を得ることができたのは、本例会当日までの約3か月間、例会担当者、委員の協力があったことであると感じている。これは、10月例会において委員内の交流を深めたことによる効果である。

なお、参加者のアンケート結果は、別紙にまとめて Owncloud へ Upload し、例会の様子は、本委員会のブログにも掲載した。

4. 今後の展開

本例会のような「年齢制限イベント」は、4月特別例会（一次・二次試験合格者交流会）の参加者から本委員会に興味のある青年層の抽出に有効である。

本例会では今年の4月特別例会と類似したグループワークとなったが、年齢制限付きの講演会や見学会としても面白いと考える。そして、委員側の主観だけでなく、4月特別例会において青年層参加者がどのようなイベントを期待し、何に興味を持っているのかをアンケートで抽出し、その情報を含めたうえで企画を行うことが参加者の獲得において必要な取組である。

実施時期についても検討が必要である。参加者が4月特別例会において得た、本委員会への興味が薄れる前、例えば5月、6月、7月あたりで年齢制限イベントを実施することも検討の余地がある。

年齢制限イベントが本委員会委員の拡大と日本技術士会の会員拡大への“繋ぎ”のイベントとして、さらにブラッシュアップされていくことを期待する。

－以上－

～ 例会の様子～



田中委員長 挨拶・本委員会紹介



太田(望)委員 司会進行



自己紹介シート記入中



自己紹介

～ 例会の様子～



技術戦隊結成



技術戦隊発表



田中委員長 講評



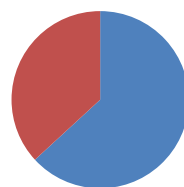
白井委員 交流会乾杯の挨拶

●平成27年度 ～同世代の技術者仲間をつくらう！～（表面）

●今回の例会について

Q1. スタッフの対応はいかがでしたか。

満足度	人数	割合 (%)
5. 満足	12	63.2
4. ほぼ満足	7	36.8
3. ふつう	0	0.0
2. やや不満	0	0.0
1. 不満	0	0.0
合計	19	100.0



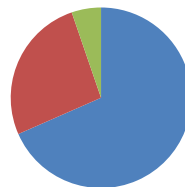
- 5. 満足
- 4. ほぼ満足
- 3. ふつう
- 2. やや不満
- 1. 不満

Q2. スタッフに伝えたいこと(コメントなど)ありましたら、お書きください。

- ・他の人ともっと話せる時間が欲しかった。 ・お疲れ様でした。
- ・ありがとうございました。 ・たのしかったです。
- ・また例会に参加させてください。 ・久しぶりに来て良かったです！

Q3. 今回の例会は、全体としていかがでしたか。

満足度	人数	割合 (%)
5. とても良かった	13	68.4
4. 良かった	5	26.3
3. ふつう	1	5.3
2. あまり良くなかった	0	0.0
1. 良くなかった	0	0.0
合計	19	100.0

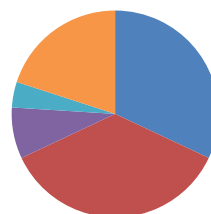


- 5. とても良かった
- 4. 良かった
- 3. ふつう
- 2. あまり良くなかった
- 1. 良くなかった

●今回の例会に参加するまでの経緯について

Q4-1. 今回の例会をどのように知りましたか。(複数回答あり)

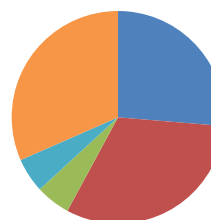
きっかけ	人数	割合 (%)
a)同報メール	8	32.0
b)ホームページ	9	36.0
c)青年委員ブログ	0	0.0
d)月間PEの行事予定	2	8.0
e)前に参加した例会	1	4.0
f)人からの紹介	5	20.0
g)その他	0	0.0
合計	25	100.0



- a)同報メール
- b)ホームページ
- c)青年委員ブログ
- d)月間PEの行事予定
- e)前に参加した例会
- f)人からの紹介
- g)その他

Q4-2. Q4-1の中で特に参加のきっかけとなったものはどれですか。(複数回答あり)

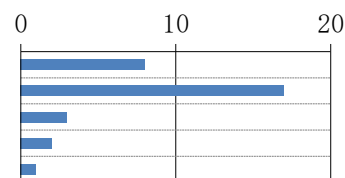
きっかけ	人数	割合 (%)
a)同報メール	5	20.0
b)ホームページ	6	24.0
c)青年委員ブログ	1	4.0
d)月間PEの行事予定	0	0.0
e)前に参加した例会	1	4.0
f)人からの紹介	6	24.0
g)その他	0	0.0
合計	19	76.0



- a)同報メール
- b)ホームページ
- c)青年委員ブログ
- d)月間PEの行事予定
- e)前に参加した例会
- f)人からの紹介
- g)その他

Q5. 今回の例会に参加した目的は何ですか。いくつでもお選びください。(複数回答可)

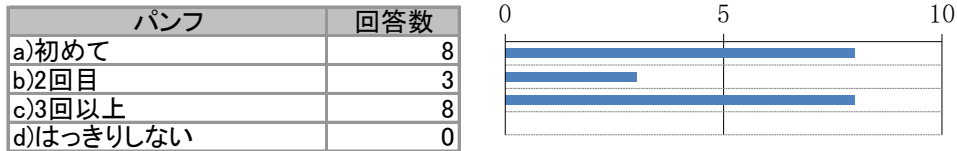
目的	回答数
a)例会のテーマや内容に興味あり、知りたかった	8
b)例会の参加者と知り合いになりたかった(人脈形成)	17
c)青年委員会という組織や活動について知りたかった	3
d)CPDのポイントをもらいたかった	2
e)上記以外	1



- ・指示する側の仕事についてその知見を見つけないと思います。

●平成27年度 ～同世代の技術者仲間をつくらう!～ (裏面)

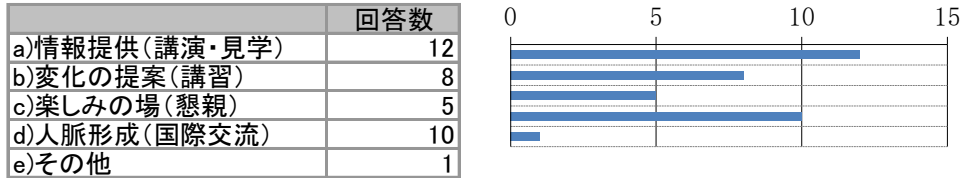
Q6. 青年委員会の例会に参加するのは、今回で何回目ですか。



Q6-1. 2回目以上の方にお伺いします。過去の例会で印象深かったテーマや面白かったテーマ

- ・ディベート 3名
- ・発電所見学、博物館見学(技術士による解説付き)
- ・グループワーク
- ・英語コミュニケーション
- ・ビアパーティ
- ・TRIZ
- ・講演会

Q7-1. 青年委員会の活動として開催して欲しいイベントについて、ご希望の内容(複数回答可)

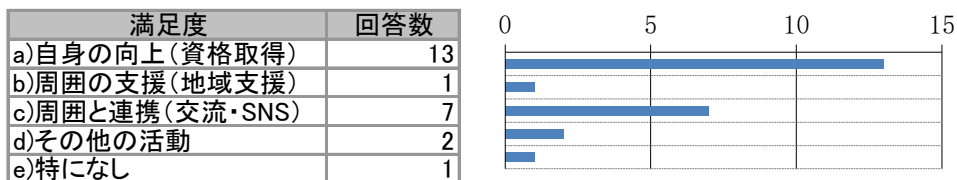


Q7-2. また、内容以外でご希望ございましたらお書きください。

- ・東京周辺
- ・海外ENGの方とフリーセッション
- ・土日開催希望 2名
- ・平日夜
- ・産業遺産見学
- ・少子化時代の効率化システム
- ・在日外国人技術者との交流
- ・生産技術の情報交換
- ・技術士のいろは
- ・部門横断的な内容
- ・アクティブラーニングに関する研修
- ・TRIZ、タグチメソッドなど手法
- ・45～55歳の会

●技術士または技術者としての活動について

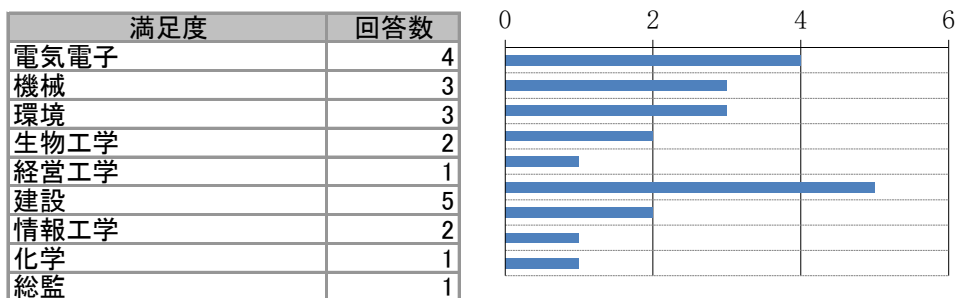
Q8. あなたご自身は技術士または技術者としての本業に加えてどのような活動をなさっていますか。



- a) ・電験三種
- ・技術士会の参加
- ・コンクリート系資格
- ・作業環境測定士
- ・電験二種
- ・技術士
- ・放送大学の学生
- ・資格取得
- b) ・地域発展
- c) ・環境部会幹事
- ・上尾市国際交流協会
- ・Facebook 2名
- ・mixi
- ・大学地域との連携
- d) ・社内勉強会の実施

●あなたご自身について

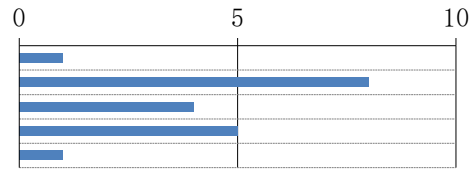
Q9-1. 技術部門。(複数回答可)



・ここでは技術士(総監、環境、情報工学、建設)の方は、各部門で4人分に数えました。

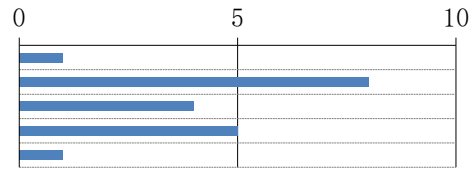
Q9-2. 年齢層をお選び下さい。

満足度	回答数
a)30歳未満	1
b)30歳～34歳	8
c)35歳～39歳	4
d)40歳～44歳	5
e)45歳～49歳	1



Q9-3. 会員層(技術士制度での位置付け)について、該当する項目をお選び下さい。

満足度	回答数
a)技術士	7
b)技術士補	2
c)修習技術者	9
d)JABEE認定プログラム	0
e)その他	0



・複数部門の技術士をお持ちの方は、技術士1名としました。

以上

●平成27年度 ～同世代の技術者仲間をつくろう！～（内部アンケート）

●良かったところ

- ・赤木さん、開始前に参加者の方へ声がけしていただいた
- ・みほしさん、進行うまかった
- ・刺客(白井さん、横田さん、小塚さん、田辺さん)が分かれたのが良かった
- ・グループワークから交流会まで盛り上がっていただけたこと。
- ・タイムスケジュール通りに終えることができたこと。
- ・参加者全員に発表の場を設けることができたこと。
- ・補充参加で自分を見直し、キャッチフレーズ増えたこと
- ・みな言いたい放題だったわりに進行が時間通りだったこと
- ・参加者が積極的だったこと
- ・年齢制限を設けたことで、年齢が近い人と知り合えた
- ・みほしさんの事前準備がとても安定しており、安心感があった。
- ・とても盛り上がり、参加者が満足しているようだった
- ・参加者間の交流が活発であった。
- ・参加者のほぼ全員が懇親会へ出席した。
- ・欠員対応が考慮されていたため、あわてることなく対応できた。
- ・企画が理解しやすく、参加者が積極的に参加していた。
- ・アイスブレイクの内容が素晴らしかった。
- ・クイズ形式だったため、自然にグループ内で盛り上がった。
- ・クイズの内容が身近な話題で考えやすかった。
- ・司会進行の対応が臨機応変でありスムーズだった。プレゼンの説明もわかりやすかった。
- ・自分が参加していたグループは技術分野から実際に全員でできそうなことや色(役割)の配分をきめるところが盛り上がった(最終的に会社の役職になった)。

●改善したいところ

- ・各テーブルにお菓子のゴミを捨てる袋があればよかった。
- ・各スケジュールにゆとりを持ち過ぎた(ゆっくり交流できたという声もあった)
- ・飲み会の参加人数が前日確認より5名少なかった。
- ・グループワークの説明で今回は一気に全て説明されてたが、自己紹介が終わった後でもよかったかも
- ・交流会の人数を大きく取り違えたこと。
- ・懇親会の予約人数と参加人数に差異があった。
- ・まとめの発表にスライド投影があってもよい。
PPTもしくは模造紙など、5月例会で使用した書画カメラもよい
- ・事前準備がすばらしく、特に気になる点ありませんでした。
- ・自分が参加していたグループは発表前にまとまるのが比較的はやかった。
雑談がはずみ相互理解は深まったとおもうが、早く終わった時には別に+αで取り組むことがあるとよいかもと思った。
- ・他のイベント(合格者交流会等)も参加者のグループ内での紹介→グループでのワークショップという形式が多いとおもうが、今後連続参加するかたが飽きないようなワークショップのテーマを考えなければいけないと感じた。

●その他

- ・懇親会は席に座ると他の方と懇親する機会が少ない。
- ・例会に向けてサンプル戦隊を作ったのは、イメージできてよかった。
- ・他の班の人ともっと交流したかったという参加者の声があった。
- ・二次会を考えておく必要があるかもしれない。
- ・青年の活動に興味があるという参加者の申し出が2名あった。

以上

青年技術士交流委員会 活動報告

報告日:2016年1月14日

行事名	12月イベント「就活前に聞いておきたい技術者の話」
日時	2015年12月19日(土)13:30~17:30
場所	葦手第二ビル5階AB会議室
講師、発表者	諸田委員、山本委員 田中委員長 小塚委員 大田(望)委員 古川委員 中川委員
担当者: (○印:リーダー)	○磯部委員、伊藤委員、細野委員
参加者数	9名

1. 背景・目的

就職活動を控えた学生に対し、会社説明会では聞けない技術系職業の魅力や遣り甲斐等を、各分野で活躍している技術者が情熱的かつ解り易く説明する。これにより、参加した学生が、将来自分が就きたい仕事を考える機会を与え、さらには技術者(技術士)に対する憧れを学生に芽生えさる。

2. 例会内容

本イベントは、部門の異なる技術士6名(当委員会メンバー)が、自身の技術者としての仕事について講演する「講演の部」と、講演者6名が前に座り、参加者からの質問や司会者が予め準備しておいたテーマに対し○×プレートで回答しながらフリートークを行う、「交流の部」で構成された。

2.1. 準備

No.	準備項目	実施内容	担当者
1	イベント概要決定	イベントの概要を決定し、企画書を作成した。	伊藤・細野・磯部
2	イベント案内配布	参加者募集チラシを作成し、委員より大学関係者へ配布した。	細野・磯部
3	技術士会 HP、PE 掲載	技術士会 HP および PE(12月号)の行事予定に掲載を依頼した。	磯部
4	講演準備	青年委員(6名)に講演とその準備を依頼した。	磯部
5	参加者名簿作成	前日夜の段階で参加者募集を終了し、名簿を作成した。	細野

2.1. 当日

No.	行事	時間	内容	担当者
1	直前準備	12:30~13:30	座席レイアウト、PC・プロジェクター設置	伊藤・細野・磯部
2	開会の挨拶	13:30~13:45(15分)	イベントの趣旨・概要、スケジュール等を説明	磯部
3	青年委員会の説明	13:45~13:50(5分)	青年技術士交流委員会の活動概要を説明	細野
4	講演の部(前半)	13:50~14:15(25分)	講演① 情報工学 セキュリティー	諸田
		14:15~14:40(25分)	講演② 電気電子工学 アンテナ	田中
		14:40~15:00(20分)	講演③ 機械工学 鉄道車両製造	小塚
5	講演の部(後半)	15:10~15:35(25分)	講演④ 衛生工学 廃棄物管理コンサル	大田(望)
		15:35~16:00(25分)	講演⑤ 環境工学 上下水道	古川
		16:00~16:25(25分)	講演⑥ 金属工学 製鉄・表面処理	中川
6	交流の部	16:30~17:30(60分)	参加者の簡単な自己紹介 講演者への質疑応答 準備したテーマに対し講演者の○×回答	磯部
7	開会の挨拶	17:30~17:45(5分)	青年委員長からのご挨拶とお礼	田中

3. 成果と所感

学生向けの企画は当委員会にとって初の試みであったが、委員有志による積極的な募集活動により、9名の参加者を獲得することに成功した。

また当日の素晴らしい講演等により、就職前の理系学生に技術職の情熱を伝えることができ、終了後のアンケートでは、参加者全員から満足の回答を得ることができた。

このイベントに参加してくれた学生が、会社規模や知名度にとらわれず、自身の思い描く理想の技術職に就き、近い将来個性ある優れた技術者(技術士)として活躍してくれる事を願う。

4. 今後の展開

今後は、より多くの参加者獲得し、さらに有意義なイベント内容にしてゆける様努力するとともに、別途、学生向けの活動を増やしてゆきたいと考える。

5. 実施状況



写真1 講演の部(前半)



写真2 講演の部(後半)



写真3 講演者の皆様



写真4 交流会(参加者の皆様)



写真5 交流会(質疑応答:○×形式)



写真6 閉会の挨拶(田中委員長)

〔資料1〕 参加者募集先リスト

〔資料2〕 参加者リスト

〔資料3〕 内部および外部アンケート結果

〔資料1〕参加者募集先リスト

ハッチングなし：メール配信による募集

ハッチングあり：紙のチラシによる配布先

No.	所属		お名前		送付元
1	北里大学	海洋生命科学部	天野 勝文	教授	田角委員
2	北里大学	海洋生命科学部	筒井 繁行	講師	田角委員
3	北里大学	海洋生命科学部	水澤 寛太	准教授	田角委員
4	横浜市立大学	国際総合科学部	塩田 肇	准教授	田角委員
5	日本大学	水産部会	新井 健次	非常勤講師	田角委員
6	東京海洋大学	海洋生物資源学部門	近藤 秀裕	准教授	田角委員
7	東京海洋大学	—	—	—	伊藤委員
8	中央大学	大学院理工学研究科	研究室(3室分)	院生の方々	田角委員
9	中央大学	中央大学技術士会	—	—	小柳殿(※)
10	芝浦工業大学	経営企画部	野村 安希子	様	濱田殿(※)
11	日大生産	工学部	坂本 恵一	教授	川崎委員
12	東海大学	工学部 光・画像工学科	前田 秀一	教授	川崎委員
13	慶應義塾大学	物理情報工学科	神原 陽一	准教授	横田委員
14	慶應義塾大学	理工学部 管理工学科	櫻井 彰人	教授	横田委員
15	慶應義塾大学	理工学部 管理工学科	篠沢 佳久	専任講師	横田委員
16	慶應義塾大学	物理情報工学科	田中 敏幸	教授	横田委員
17	慶應義塾大学	機械工学科	桂 誠一郎	准教授	横田委員
18	慶應義塾大学	理工学部 応用化学科	清水 史郎	様	白井委員
19	慶應義塾大学	理工学部 応用化学科	奥田 知明	—	白井委員
20	微生物科学研究会	—	高橋 良昭	様	白井委員
21	微生物科学研究会	—	関 淳	様	白井委員
22	東京農工大学	農学部	鈴木 絵里子	様	白井委員
23	工学院大学	先進工学部	大野 修	様	白井委員
24	東海大学	—	和田	非常勤講師	竹入委員
25	明治大学	理工学部	—	助教	諸田委員
26	首都大学	知能機械科	—	—	細野委員

※印は、技術士会金属部会の方

〔資料2〕参加者リスト

参加者：9名

ハッチングあり：メール配信・チラシ配布先からの参加者

No.	氏名	年齢 学年	学校名	専攻	申込者 ID
1			—	海の生物・サンゴ	—
2			中央大学 理工学研究科生命科学専攻	水処理	一次試験合格
3			—	生物	—
4			中央大学 理工学部	光合成	—
5			中央大学	窒素	—
6			杏林大学	水処理	一次試験合格
7			日本大学	道路	—
8			東京農業大学 応用生物科学部	発酵	インターン先から
9			東京農業大学 応用生物科学部	発酵	インターン先から

〔資料3〕 外部および内部 アンケート結果

2015年12月例会(2015/12/19開催) 学生向けイベント「就活前に聞いておきたい技術者の話」
外部および内部アンケート結果

●外部アンケート

参加者9名全員からアンケート用紙の提出あり。以下、回答数、回答内容について赤字で示す。

1. 今回のイベントについて

Q1-1. 講演者（技術者）の話し方や内容は、いかがでしたか。

(a) 満足 **8** (b) ほぼ満足 **1** (c) 普通 **0** (d) やや不満 **0** (e) 不満 **0**

Q1-2. 講演者に伝えたいこと（コメントなど）がありましたら、お書きください。

技術士というものがどういうものか知ることができた 1

Q1-3. スタッフの対応（イベントの連絡、会場の準備、当日の進行など）は、いかがでしたか。

(a) 満足 **9** (b) ほぼ満足 **0** (c) 普通 **0** (d) やや満足 **0** (e) 不満 **0**

Q1-4. スタッフに伝えたいこと（コメントなど）がありましたら、お書きください。

(記入者なし)

Q1-5. 今回のイベントは、全体としていかがでしたか。

(a) 満足 **8** (b) ほぼ満足 **1** (c) 普通 **0** (d) やや不満 **0** (e) 不満 **0**

2. イベント参加までについて

Q2-1. 今回のイベントを、どのように知りましたか。（複数可）。

(a) チラシ、ポスター **2**

(b) ホームページ(HP) ・次のいずれかをお選びください。

(b1) 日本技術士会のHP **1** (b2) 青年委員会のHP **1** (b3) その他 **0**

(c) 人からの紹介

・次のいずれかをお選びください。

(c1) 学校の先生 **1** (c2) 知り合いの技術士や技術士補 **3** (c3) 先輩、友人 **4**

(c4) その他 **0**

(d) その他 **0**

Q2-2. 今回のイベント参加にあたり、事前に知りたかった情報はありますか。あれば下にお書きください。

講演者の専門分野 2

当日の服装 2

3. 今後のイベントについて

Q3. 青年委員会は今後も学生向けのイベントを企画予定です。期待する内容の項目に○印を付けてください（複数可）。また、具体例がございましたら、お書きください。

(a) 日本技術士会に関する情報提供 **3** 具体例 **技術士制度について 1**

(b) 技術職に関する情報提供 **6** 具体例 **(記入者なし)**

(c) 科学技術に関する情報提供 **0** 具体例 **(記入者なし)**

(d) 自己の能力を高める場の提供（リーダーシップ力、論理的思考力、コミュニケーション力等の勉強会） **5**

具体例 **(記入者なし)**

(e) その他 **0**

具体例 **(記入者なし)**

●内部アンケート

当日参加者のうち12名の青年メンバーから返信あり（重複した内容は一部編集しています）

1. 良かったこと

- 青年メンバーによる参加者募集活動
- 磯部さんの司会進行
 - 具体的に…
 - 発表者ひとりひとりへコメントがあった
 - 交流の部での発表者へ質問があった（質問が出にくい場合を想定して事前準備）
 - 進行に安定感があり、スムーズかつ配慮に富んでいる
 - フランクで、学生がリラックスしてイベントに参加できる導入部の語りが勉強になった
 - 〇×クイズは、一度に複数人の回答が見えるので別の機会にも応用可
 - 〇×クイズは面白く、進行もしやすい
 - 2択しかないことで（回答者も）一瞬深く考えられる
- 小塚さん、太田望さんの参加者への声掛け
- 細野さんの青年委員会紹介プレゼン
 - 具体的に…
 - いい意味での素朴感があった
 - 参加者の緊張が緩んだのではないか
- 講演者の仕事紹介プレゼン
 - 具体的に…
 - こだわり、プロ意識を持って仕事をしているのが伝わった
 - 技術職の面白さ、技術士の魅力が伝わった
 - みなさんがそれぞれ輝いていた
 - （青年メンバーも）講演者の仕事を改めて知り、真剣に聞いてしまった
 - イメージしにくい業務の技術活動と日常生活への関わり等勉強になった
 - 講演者ごとに個性が発揮され、素晴らしい人選だった
 - 講演内容がパーフェクト
 - 20分×6講演は丁度良かった
- 意欲があり、大人しくてまじめな学生が9名も参加（CAFEO参加学生も参加）
- 参加者全員がドタキャンや遅刻なし
- 急きょ開催した懇親会に、学生4名もの参加があった（参加しなかった学生も笑顔で帰途へ）
- 部屋を仕切りで区切り、学生への圧迫感を抑えられた
- 「学生と話す」という慣れない感触や雰囲気を感じ、今後に役立つ

2. 改善したいこと

- 当日の服装を事前通達すべき
- 講演者の専門を事前通達すべき（参加者の専門に講演内容を合わせるべき）
 - （一方で、専門にこだわらない定理、真理を提供する意図もあるので問題はないという意見も）
- タイムスケジュールを守るべき
- 学生同士の交流があっても良い
- 学生からのアウトプットがあっても良い（終始受け身の印象）
- 良い企画なのでさらに多くの参加者を集めたい

- ・学生からの発言が段々とノッてきた頃に閉会した印象(早い段階での会場一体感作りが必要)
- ・質疑応答は各講演修了の都度受け付けた方が良い
- ・(青年メンバーからの) 質問やコメントに高度すぎる内容があった
- ・(さらに発展して) 技術者だけではなく、なぜ「技術士」なのかまで持って行きたい
- ・配布資料が著作権問題にならないか確認が必要 (今回は配布していないので問題なし)
- ・準備道具に不備があった (名札、カメラ)

3. その他何でも

(イベントについて)

- ・参加者が次回以降の学生向けイベントに興味を持っていた
- ・参加者には非常に有意義な内容と繋がりを持てる場である
- ・今後も継続すべきであり、ゆくゆくは学生さんが運営する企画を青年がサポートできればよい
- ・就職活動を始めてから初めて業界にどのような職種、会社があるのか知る学生も多い
(質問に対し) もう少し準備してくればよかったと思うことしか回答できなかった
就職活動の一つと捉えて、参加した学生もいたかと思われるので学生 wg 内で補足ができればよい
- ・様々な技術者像を知ることで、生きていく上での選択肢の幅が広がるので、継続して開催すべき
- ・(自分が技術士を知ったのが遅かったので) 学生さんに情報提供できたのは良かった
- ・学生の分野に偏りは、「技術職を知る」ことにおいて然したる問題ではない
- ・実験的行為としての成果は十分に得られた
- ・得られた所見は今後の学生関連イベントに活かされると良い

(技術士の視点から)

- ・CAFEO でも就職に関する問題があるようなので、このような活動もアピールになる
- ・(青年委員会だけでなく) 技術士会においても、当日だけでなく勧誘等の事前準備を通じて、1つの窓口のようなものを示せたのではないか
- ・技術士の知名度は低いので、学生など技術士以外の人に技術士をアピールする活動が重要
技術士が身近な存在になると、目指してくれる人が増える

(広報戦略について)

- ・効果的な広報ルートを検証すべき (特に高専)
- ・次回の学生向けイベントは、今回の様子の写真を使って勧誘したい
- ・参加者募集に関しては、今回蒔いた種が次回に効果を発揮するものと期待

(個人的に)

- ・参加者から (終了後に) お礼のメールがあった
- ・(自分の専門外でも) プレゼンを聞いてくれて、質問までしてくれたのは嬉しかった
- ・学生の気を引こうと、パワポにマンガやアニメなどの素材を使い過ぎた

以上

行事名	1月例会:見学会 ～横浜・八景島シーパラダイス 水族館の裏側をのぞいてみよう～
日時	2016年1月16日(土) 13:00-16:00
場所	横浜・八景島シーパラダイス
講師、発表者	横浜・八景島シーパラダイス 野村氏、金崎氏、田角委員、古川委員補佐、竹入委員補佐
担当者: (○印:リーダー)	○田角委員、古川委員補佐、竹入委員補佐
参加者数	参加者:38名(うち通常参加者26名、参加者家族12名)、スタッフ:11名

1. 背景・目的

横浜・八景島シーパラダイスにおいて、水族館の社会的役割、平成27年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰を受賞した当館の環境保全に関する取り組み、水族館スタッフによるバックヤードツアーと水族館の水処理施設について、施設見学および講演等を通じて学んだ。

2. 例会内容

2. 1. 開会(13:00～13:02): 田角委員、田中委員長

はじめに、古川委員補佐より注意事項について説明を行った。その後、担当リーダーの田角委員より開会の挨拶、田中委員長よりはじめの挨拶を行った。古川委員補佐は以降当日の総合司会を務めた。

2. 2. 青年委員会の紹介(13:02～13:05): 小野寺委員

小野寺委員より、青年委員会の説明を行った。日本技術士会内での青年委員会の立ち位置から、技術士の「総合力」を高める青年委員会のイベントとして、青年委員会の活動意義をアピールした。

2. 3. お魚カード正解発表(13:05～13:10): 田角委員

アイスブレイクとして今回考案した「お魚カード」の正解発表を行った。「お魚カード」は、受付で魚の写真・種名の入ったカードを参加者へ1枚ずつ配布、会場ではテーブルを6班に分け、それぞれに魚類のハビタット6種(サンゴ礁、藻場・アマモ場等)の名前を付けた。参加者は受け取ったカードの魚の「主にすみかとする場所」を考えて着席する。正解発表では、各ハビタットと魚類の簡単な説明を行い、誤ったテーブルに着席した参加者に正しいテーブルへ移動してもらった。アイスブレイクと見学先が水族館であることから魚類のハビタットについての簡単な知識を増やすため盛り込んだ。

2. 4. 自己紹介ゲーム(13:10～13:30): 古川委員補佐

続いて、さらにアイスブレイクとして古川委員補佐により「自己紹介ゲーム」を行った。自己紹介ゲームでは、各班で自分の名前などを順に言い、記憶する。次からは「二つ左隣の人の名前」などお題を設けて順に言い、わからない場合はパス、間違った場合は他の人が答えるなどしながら順に回していく。名前、出身地など簡単な内容ですぐ出来るゲームであり、参加者からもかなり好評であった。

2. 5. プレゼン①「水族館ってどんなところ?」(13:30～13:35): 古川委員補佐

アイスブレイク後、3題続けて青年委員で独自に調査・取材によりとりまとめたプレゼンを行った。プレゼン内容は概要を「見学のしおり」として参加者へ配布した。

最初は古川委員補佐により水族館の社会的役割について説明を行った。日本は水族館数が世界でもトップクラスであることや、水族館の社会的役割について、他の水族館での事例を含めわかりやすく解説した。

2. 6. プレゼン②「横浜・八景島シーパラダイスにおける環境保全の取り組みのご紹介」(13:35～13:45): 田角委員

続いて、田角委員より横浜・八景島シーパラダイスの環境保全の取り組みについて紹介を行った。特に当館は今年度「地球温暖化防止活動環境大臣表彰」を受賞したばかりで、表彰内容に基づき、横浜市と連携したブルーカーボン事業、環境教育活動、東京海洋大等と連携した「電力見える化」、「非常時船舶からの給電設備」や海水熱を利用したヒートポンプ施設などについて紹介した。

2. 7. プレゼン③「横浜・八景島シーパラダイスの水処理施設」(13:45～13:55): 竹入委員補佐

最後に、竹入委員補佐より横浜・八景島シーパラダイスの水処理施設について説明を行った。水族

館の水処理施設に必要な要件は、高密度の魚類飼育により発生するアンモニアの硝化、展示水槽の見栄えをよくするための透明度の維持など、特有の内容が必要とされる。発表にあたっては竹入委員補佐の独自調査により、アクアミュージアムの基幹水処理設備を設計・施工した日立造船㈱、ふれあいラグーンのおゾン浄化設備を施工した三菱電機㈱からも資料提供を受けており、時間不足により発表内容が削られてしまったのが心残りであった。

2. 8. うみファーム、ふれあいラグーン見学(14:00~14:45): 田角委員、竹入委員補佐

レクチャールームでのプレゼン終了後、うみファーム、ふれあいラグーンへ移動して見学を行った。うみファームでは田角委員により環境大臣表彰内容の「横浜ブルーカーボン事業」、「船舶からの給電設備」、「製鋼スラグを用いた環境環境改善実験」等について、ふれあいラグーンでは竹入委員補佐により三菱電機㈱のおゾン浄化設備を導入している海獣水槽について、それぞれ現地で説明を行った。しかし、事前にワイヤレスハンドマイクを購入したにもかかわらず、野外ではまったく声が聴こえなかったとの苦情があった。また、それぞれの場所が遠く、移動や安全ビデオを見る時間などもかかり、ゆっくり見学する余裕もなく、猛省する次第である。

2. 9. バックヤードツアー(15:00~15:45): 八景島スタッフ 野村氏、金崎氏

15:00 からは、八景島スタッフの方にご案内いただき、水族館の水処理施設その他水族館のバックヤードにつき見学を行った。水処理施設として砂ろ過槽、汚泥回収庫、環境大臣表彰関連施設として海水熱を利用したヒートポンプ、その他冷凍庫、調餌室、イワシ水槽上部、バックヤード水槽等拝見した。その場で参加者の質問にも応じて下さり、わかりやすいご説明をいただいた。

2. 10. 質疑応答・記念写真撮影(15:45~16:00): 八景島スタッフ 野村氏、金崎氏

事前に参加者よりいただいていた質問事項について、八景島スタッフの方にご回答いただいた。大変詳細にご回答いただき、質問を受け付けた全員につき最低1問は詳しいご回答をいただき感謝している。アクアミュージアム前で全員で記念撮影を行い、八景島スタッフの方にお礼を申し上げた。

2. 11. 委員長挨拶・アンケート(16:00~16:10): 田中委員長

レクチャールームへ戻り、最後に田中委員長よりご挨拶をいただいた。

委員長挨拶後、アンケートを記入してもらい、記入が終わった方からチケットを渡し、水族館の自由見学とした。17:30 より八景島島内で海鮮バーベキューによる懇親会を行い、参加者の約半数が参加してさらに交流を深めた。

3. 成果と所感

今回は見学先予約の都合により、通常より早めに参加募集を行い、早く締め切ったが、一時キャンセル待ちも出るなど盛況であった。

八景島スタッフの方にご説明・ご案内いただける内容も時間も限られていたため、我々担当で独自に調査・取材を行いプレゼンテーションや見学のしおりを作成したり、アイスブレイクで取り入れたゲームも参加者同士の交流を深めるため効果的と好評であった。

しかし、特にリーダーをはじめ全体の進行に問題があり、全体的に時間不足であったり、野外での説明では声が聞き取りにくいなどの苦情もあり、そのような点はよく見直し改善していきたいと考えている。

八景島スタッフの野村氏には年末年始の繁忙期を含め、非常に丁寧で誠実なご対応をいただき、心より感謝申し上げます。

4. 今後の展開

今回の見学会は、横浜・八景島シーパラダイスが見学先に決定したことで、水族館・遊園地というレジャー施設でもあるため、技術士・修習技術者本人だけでなく、家族の方にも一緒に参加してもらい、一日楽しんでもらおうと、「家族参加型」で企画を行った。あいにく、バックヤードが狭く入場可の定員に限られるとのことで、家族と別行動にせざるを得なかったが、本来見学会全体も一緒に体験してもらいたいと考えていた。

青年委員会メンバーも小さい子供を含む家族を持つ者が多く、参加対象の同世代技術士も同様の家族構成を持っていると考えられるため、今後は家族全員で参加してもらい、家族で技術について学ぶ企画が出来ればと考えている。

今後も、家族参加型の企画を提案し行っていきたい。

5. 実施状況



小野寺委員による青年委員会の説明



自己紹介ゲーム



古川委員補佐による水族館の社会的役割の講義



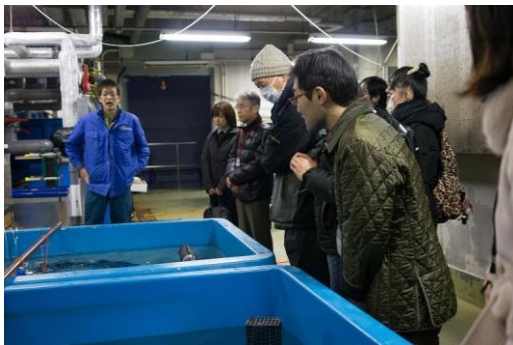
竹入委員補佐による水族館の水処理システムの講義



ふれあいラグーン見学



バックヤードツアー



バックヤードツアー



水族館スタッフへの質疑応答



集合写真



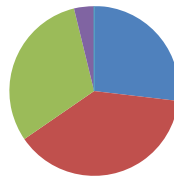
懇親会

●平成27年度 ～水族館見学会～（表面）

●青年委員会独自企画(13:00～)について

Q1-1. 話し方や進め方はいかがでしたか

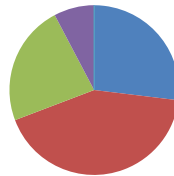
満足度	人数	割合 (%)
5. 満足	7	26.9
4. ほぼ満足	10	38.5
3. ふつう	8	30.8
2. やや不満	1	3.8
1. 不満	0	0.0
合計	26	100.0



- 5. 満足
- 4. ほぼ満足
- 3. ふつう
- 2. やや不満
- 1. 不満

Q1-2. 用意した資料(配布資料、プレゼン資料)の内容はいかがでしたか

満足度	人数	割合 (%)
5. 満足	7	26.9
4. ほぼ満足	11	42.3
3. ふつう	6	23.1
2. やや不満	2	7.7
1. 不満	0	0.0
合計	26	100.0

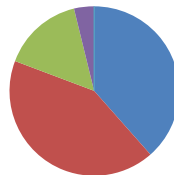


- 5. 満足
- 4. ほぼ満足
- 3. ふつう
- 2. やや不満
- 1. 不満

●バックヤードツアー(15:00～)について

Q2-1. バックヤードツアーは期待どおりでしたか

満足度	人数	割合 (%)
5. 満足	10	38.5
4. ほぼ満足	11	42.3
3. ふつう	4	15.4
2. やや不満	1	3.8
1. 不満	0	0.0
合計	26	100.0



- 5. 満足
- 4. ほぼ満足
- 3. ふつう
- 2. やや不満
- 1. 不満

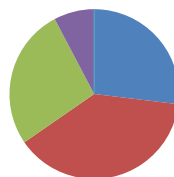
Q2-2. 水族館ガイドに伝えたいこと(コメントなど)ありましたら、お書きください。

・いろいろ見せていただきまた質問にも答えていただきありがとうございました。・お疲れ様でした。・通信分野で話したいことがあれば伺います。・大変お世話になりました。・水槽の裏側をもっと見たかった。・丁寧にご対応くださりありがとうございました。・普段見ることができない場所を案内して頂きありがとうございました。・スタッフの皆さんが生き活きと働いておられたのが良かったと思います。・わかりやすく説明いただきありがとうございます。・お忙しい中ありがとうございました。・わかりやすい説明ありがとうございました。・ありがとうございました。・日本の水族館の現状および当施設の歴史など紹介してほしい。・

●スタッフについて

Q3-1. スタッフの対応はいかがでしたか

満足度	人数	割合 (%)
5. 満足	7	26.9
4. ほぼ満足	10	38.5
3. ふつう	7	26.9
2. やや不満	2	7.7
1. 不満	0	0.0
合計	26	100.0



- 5. 満足
- 4. ほぼ満足
- 3. ふつう
- 2. やや不満
- 1. 不満

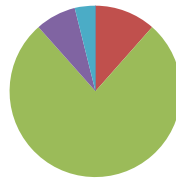
Q3-2. スタッフに伝えたいこと(コメントなど)ありましたら、お書きください。

・拡声器の声がもっと大きければよかったです。・ありがとうございました。・段取りがよくない。・マイクの準備、大勢では声が伝わりにくいので。・がんばってください。・企画おつかれさまでした。・いろいろと企画を準備して頂き、有意義に過ごせました。・段取り良く、技術説明の準備が不十分。・場所移動までの詳細。いろいろなお準備お疲れ様でした。・おつかれさま。・一生懸命に努力されていて感謝しますが、誘導などへタ

● イベント全体を通して

Q4-1. イベント全体の時間はどのように感じましたか

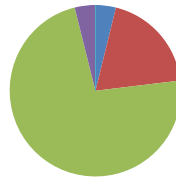
満足度	人数	割合 (%)
5. 長い	0	0.0
4. やや長い	3	11.5
3. 良い	20	76.9
2. やや短い	2	7.7
1. 短い	1	3.8
合計	26	100.0



- 5. 長い
- 4. やや長い
- 3. 良い
- 2. やや短い
- 1. 短い

Q4-2. イベント参加費は高いですか、安いですか

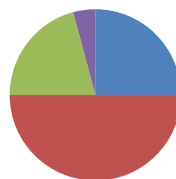
満足度	人数	割合 (%)
5. 高い	1	3.8
4. やや高い	5	19.2
3. ふつう	19	73.1
2. やや安い	1	3.8
1. 安い	0	0.0
合計	26	100.0



- 5. 高い
- 4. やや高い
- 3. ふつう
- 2. やや安い
- 1. 安い

Q4-3. 今回のイベントは全体としていかがでしたか

満足度	人数	割合 (%)
5. 満足	6	23.1
4. ほぼ満足	12	46.2
3. ふつう	5	19.2
2. やや不満	1	3.8
1. 不満	0	0.0
合計	24	92.3



- 5. 満足
- 4. ほぼ満足
- 3. ふつう
- 2. やや不満
- 1. 不満

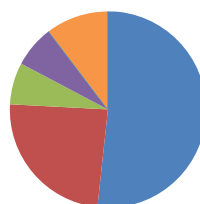
Q4-4. 全体を通してなにか伝えたいことがありましたら、お書きください。

・場所柄高くつくのはやむを得ないと思いますが早く来て水族館を見たいケースにも対応できればコスパが良くなると思います。・またの企画を楽しみにしています。・独自企画のプレゼンはとてもよかったです。・バックヤードのハードウェアについてもう少し詳しくご説明いただきたかった。・進行に改善の余地ありと思います。家族参加型はよかったです。・お疲れ様でした。・運営に対する経験不足を感じました。・班割りなど、移動時間短縮できたら説明よく聞けたと思います。・すばらしいイベントでした。・魚についての話も聞きたかった。今後とも他部会でも参加できる企画をお願いします。・水族館見学前のレクリエーション(ゲーム)は、他の参加者の方との親睦を深める意味でとても良かったと思います。・たくさんの方が参加したので、なかなか思い通りに進行できないのは仕方ないと思います。ただ、もう少し「先導的取組」と言う部分が見学できたかと思いました。・うみファームは人数が多くて見学は難しいとの事でしたが2班くらいに分かれて見るとかも有りかと思えます。(自由時間は水族館に使っちゃいました。)・見学後の交流会も、いろいろお話が出来て良かったです。・技術士会関連の行事は初参加でしたが、本当に楽しい企画でした。ぜひ、また青年技術士交流委員会イベントに参加させていただきたいと思えます。

● 今回の例会に参加するまでの経緯について

Q5. 今回の例会をどのように知りましたか。(複数回答あり)

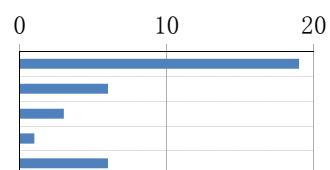
きっかけ	人数	割合 (%)
a)同報メール	15	51.7
b)ホームページ	7	24.1
c)青年委員ブログ	2	6.9
d)月間PEの行事予定	2	6.9
e)前に参加した例会	0	0.0
f)人からの紹介	3	10.3
g)その他	0	0.0
合計	29	100.0



- a) 同報メール
- b) ホームページ
- c) 青年委員ブログ
- d) 月間PEの行事予定
- e) 前に参加した例会
- f) 人からの紹介
- g) その他

Q6. 今回の例会に参加した目的は何ですか。いくつでもお選びください。(複数回答可)

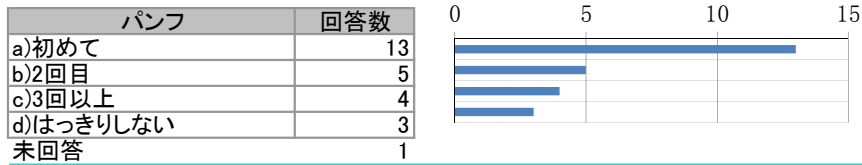
目的	回答数
a)例会のテーマや内容に興味あり、知りたかった	19
b)例会の参加者と知り合いになりたかった(人脈形成)	6
c)青年委員会という組織や活動について知りたかった	3
d)CPDのポイントをもらいたかった	1
e)上記以外	6



・家族参加型だったから。・八景島シーパラダイスに行きたかった。・家族が参加しやすい企画だったから。・家族帯同が可能とのことだったので。・家族も一緒に参加できたから。・バックヤードの見学

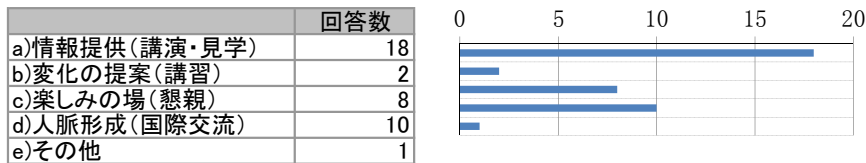
●平成27年度 ～同世代の技術者仲間をつくらう！～（裏面）

Q7. 青年委員会の例会に参加するのは、今回で何回目ですか。



Q7-1. 2回目以上の方にお伺いします。過去の例会で印象深かったテーマや面白かったテーマ
 ・講演会・特になし・なし・ビアパーティ・二次合格飲み会・講演会

Q8-1. 青年委員会の活動として開催して欲しいイベントについて、ご希望の内容(複数回答可)

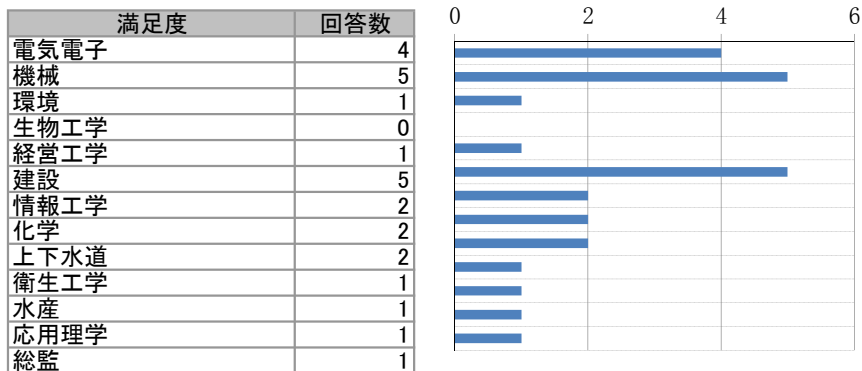


Q8-2. また、内容以外でご希望ございましたらお書きください。

・懇親会・平日の開催・家族参加型を増やしていただけるとありがたいです。・思った以上に年齢層が高かった。・土曜午後が良い

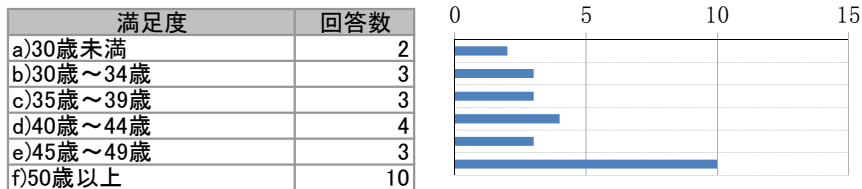
●あなたご自身について

Q9-1. 技術部門。(複数回答可)

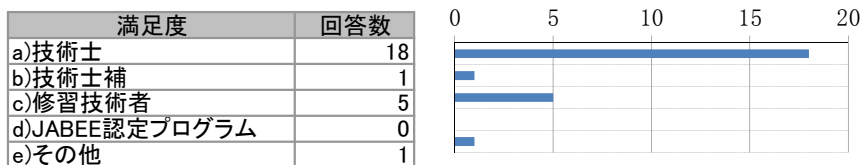


・ここでは技術士(総監、環境、情報工学、建設)の方は、各部門で4人分に数えました。

Q9-2. 年齢層をお選び下さい。



Q9-3. 会員層(技術士制度での位置付け)について、該当する項目をお選び下さい。



・複数部門の技術士をお持ちの方は、技術士1名としました。

●平成27年度 ～同世代の技術者仲間をつくろう！～（内部アンケート）

●良かったところ

<ul style="list-style-type: none">・八景島のバックヤード、濾過設備をみられたことは、貴重な経験になりました。青年メンバーのプレゼン、話題も資料もよく準備されたものでした。着席時のゲーム、自己紹介ゲーム、場をあたためる仕掛けがたくさんありました。
<ul style="list-style-type: none">・青年委員による講演3題は、聴き応えがありました。・バックヤード見学は、これぞテクノという醍醐味を感じました。・BBQ懇親会は、寒そうで大丈夫かと思いましたが、非常に交流盛り上がり寒さなど途中から忘れてしまいました。
<ul style="list-style-type: none">・独自の企画 見学会を水族館側に任せるだけでなく、アイスブレイク、講演、ふれあいラグーンの案内など青年独自の要素を加えており、青年らしい大変すばらしい見学会でした。交流会は参加できていないので、よくわからないのですが、そこでも企画があったようなので素晴らしいですね。今後の青年の見学会のあるべき姿を垣間見ました。・家族といっしょに来て帰れる ご家族といっしょにこられていた方には大変好評でした。家族といっしょに来て帰れるということでこのたび参加できたとおっしゃっていた方もいました。・講演会、ふつうにめっちゃ勉強になりました。興味深いご講演をありがとうございました。・田角さんの事前の参加者とのやり取りに脱帽です。
<ul style="list-style-type: none">①八景島と連携をとり、企画を進められたこと②下見により、当日の現場見学は想定時間内に終えることが出来たこと③青年の発表をしおりにまとめ、後に振り返れる型式に出来たこと
<ul style="list-style-type: none">・アイスブレイクで参加者が馴染んだ点・資料がしっかり作り込まれていたところ・魚カードと生息域の問題が、丁度いい難易度だったこと
<ul style="list-style-type: none">・統括がいままで苦手としていたテクニカルツアーですが、講演会→バックヤードツアー→懇親会と、充実した素晴らしい企画だったと思います。今後の良い足掛かりができたと思います。・担当である田角さん、竹入さん、古川さんのそれぞれの部門がうまく生かされた内容だったこと。・懇親会が盛り上がっていたこと。
<ul style="list-style-type: none">・担当の3名でMLを通じて活発に意見交換しながら出来たこと・古川さんの自己紹介ゲームが面白かった。今後のイベントでも活用できると思う。・竹入さんがエコプロダクツ展まで行って3社くらい？八景島の水処理等に関する重要な資料を収集して来て下さったこと。また、資料の利用・再配布についても問合せをして下さって助かりました。・竹入さんと12月に八景島へ下見に行き、レクチャールーム管理者の飯田さん、八景島の野村さんと十分な打ち合わせが出来たこと。野村さんはお忙しい中我々の質問事項がたくさんあったにもかかわらず全部その場で細々とご回答くださって大変助かりました。
<ul style="list-style-type: none">・見学会と青年の企画を組み合わせることで、技術的な面と交流がうまいバランスで行えた・田角さんの人脈で八景島の見学会が実現した・しおりに注意事項等記載されていたのでわかりやすかった

●改善したいところ

<p>・屋外の見学では、案内・説明の声がほとんど聞こえなかったです。 (あたらしいマイクが登場しましたが、、、あまり効果がない。) 拡声器で参加者側に右左向きながら話すくらいしないと、人数増えたら案内しきれない。 今回ですら、一参加者だったら、誰が話しているかすら、わからなかったと思います。 まとまって立ち止まったとき他の一般客の邪魔にならないように、くらいは気が回っても、 トイレに一時的に離れた参加者など増減把握して案内し迷子を出さない、 ということまで、フォローできなかったです。一般客と入り混じって全員いるかもわからない。 (安全第一、人員点呼、主催者は災害時に大変。人数が増える全国大会では想定すべきリスク)</p>
<p>・アイスブレイクは、ちょっとだけ長かったかもしれないです。 グループで相互理解を深めても、それを発揮できる場があまりなかったかも。 ・屋外での誘導者の声が聞こえなかったこと 公衆中であるので、大きな音を出せばよいというわけでもないのが難しいところですね。 地声で通るような、少人数での誘導案内にすることが解決策なのでしょうか。</p>
<p>・屋外での見学会の難しさを痛感しました。 参加者へ説明の声が届いているか、だんまり良く案内できるか、 ほかのお客さんの迷惑になっていないか等、気を配るべき点がたくさんあります。 青年全員が誘導する意識を持つことが大切です。幹事3人だけでは無理ですね。 屋外見学はグループ分けをし、少人数で行った方がいいですね。 ・広報において、家族と一緒に来れることをもっと押し出しても良かったですね。 その際、家族と一緒に来て帰れるけど内容は家族向けではないと ことわっておいても良いかもしれません。 ・さらに上を目指すために、見学会中の待ち時間や見学中でも 参加者同士で交流が取れるような工夫があればより青年らしくなるかと思いました。 そのようなことは望んでいない参加者もいるかと思いますが、 交流の機会が多いほうが青年らしいのでそうしたいです。 青年メンバーが積極的に参加者に声掛けをするだけでも良かったかもしれません。</p>
<p>①現場移動中(青年企画)に各個人で楽しめる企画があればよかった。 (しおりに〇〇を探してみようとか、他の人の名前を集めようとか、、、) ②青年による現場案内は複数人(スタッフ)が案内出来る仕組みが良かった。 →拡声器ではみんなに伝えるのが難しい 2グループにするとか、周りのスタッフも案内出来るとか、</p>
<p>・拡声器の声があまり聞こえなかったところ 移動時は小グループに分かれての説明など、工夫が必要かもしれませんね。</p>
<p>・外部でのハンドマイク使用の際、音が聞こえたので何らかの 対策が必要かと思いました。 ・会計作業において、10円単位までの細かい精算でしたが、 思った以上に1万円でのお支払いの方が多かったので 事前におつりの無いよう準備していただくアナウンスを出すか、 もしくは細かいおつりがでない対策をとったほうがよいように感じました。 (田角さんが事前にお釣りを用意してくださったので助かりました) ・私個人の反省になってしまいますが、自分の役割を いまいち理解しておらず、ご迷惑をおかけしまして申し訳ございませんでした。</p>
<p>・うみファーム、ふれあいラグーンとも、事前の下見で移動時間・安全ビデオを 観る時間など計って行ったにもかかわらず、やっぱり時間が足りなかった (時間がとれなかった)！かなり焦りました。 ・ハンドマイクをせっかく買ったにもかかわらず、室内と野外では必要な ボリュームが全然違いますね！聞こえないと皆に怒られ焦るわガックリするわ・・・ 2,000円くらいの拡声器でもよかった・・・ ・うみファーム・ふれあいラグーン前での人の誘導。どなたか書いていましたが、 他のお客さんのじゃまになったかも・・・ ・自己紹介ゲームは、面白く効果的でしたが、最初の3問(好きな魚分類) まででやめておけばよかった・・・時間が足りなくなりましたので。 ・同様に、田角のプレゼンは時間が適切だったか心配です。せつかくの 竹入さんの水処理のプレゼンが最後はしよらねばなりませんでした。 ・A4でうみファーム・ふれあいラグーンで使う補助資料を用意したが、 現場で活用できなかった。 ・寒い中トイレ休憩等の時間が十分とれなかった。 ・バックヤードツアーの前に2班に分かれると打合せしていたのを 忘れていた。とっさに何とかりましたが・・・ ・交流会の場所が案の定寒すぎました。八景島ではほかに飲める場所が ありませんでしたが・・・家族と合流した人もいたので、場所としては 島内でよかったように思いましたが、季節が真冬じゃない方がいいかも・・・</p>
<p>・施設見学会を独自で行う場合は誘導3人はキツイ、人数が多く必要 ・屋外の活動の場合、グループは15人程度が適切かも ・誘導する人と説明する人は別の人が望ましい ・今回の場合は2グループに分けて、説明する人はその場に滞在し、 それぞれのグループが来たら説明する形式の方が効率良かった ・事前の下見をしたが、実際にどう誘導するかまでは頭になかった 誘導する時間帯に一度練習をするのが望ましい (同じ時間帯に下見すればショーの時間とかに重なるか等予め予測できていたはず)</p>

●その他

<p>・とてもよい見学会に参加させていただき、幹事のみなさんに感謝します！ 帰り道の横浜で二次会しよう！とっておきながら はぐれて勝手に飲みにいってしまいました。酔っ払いだったんでご愛嬌ということで！（しらい）</p>
<p>・幹事の皆様の入念な準備に、いつものことながら感心いたしました。 お疲れ様でした。今後のレベルを下げないように、3月イベント頑張ります。 2次会は、酔っ払いの白井さんについて行ってしまい、はぐれてしまい大変恐縮でした。（小野寺）</p>
<p>夢のような企画をありがとうございました。 個人的には大満足です！！ 念入りな準備もありがとうございました！！ 私は毎月のすべてのMLに入っていますが、MLのやり取りは1月が一番多かったかと思います！ 量も多かったですが、内容もかなり濃かったです笑（笑っちゃうくらい笑） 個人的な備忘録ですが、 最後の青年委員長の挨拶が参加者の満足度に影響していると感じました。 最後のあいさつで盛り上げることができればそれなりに満足して帰っていただけたと思います。 当日は寝不足で対した挨拶ができず申し訳なかったです。（田中）</p>
<p>焼き屋では、あんまり内容を詰めていない（私が）企画をしましたが、皆さんの協力で何となく上手く行ったような気がします。ありがとうございました。（古川）</p>
<p>・普段は表側しかみないのでなかなか気づかないですが、裏にはたくさんの技術があるということがわかったところが良かった。 ・私は電気電子なので、このような他分野の技術を知る機会があるといい刺激になります。（北元）</p>
<p>準備をしてくださった皆様に心から感謝です！（瀧川）</p>
<p>青年に入って3年目になりますが、そのほとんどが出産・育児に費やされていたため、実は今回自分が担当として初の外部向け企画でした。 見ず知らずの方々向けに企画を行うのは大変だな～と今ごろですが実感しました。 顔合わせで打ち合わせの機会がぜんぜんとれず、竹入さん、古川さんにはご不便をおかけしましたが、MLで何とかしていただいて大変感謝しております。 振り返っても反省点ばかり浮かんで来ますが、とりあえず今回やるだけはやった！ と思いますので、次回以降この反省を活かしていきたいと思います。 どうもありがとうございました！（田角）</p>
<p>・飲み会が盛大で参加者のみなさまのパワーが凄かったです。 会社とはまた違った「何か貢献したい・高めたい」という技術者の方って結構いるのではないのでしょうか。 同じ志を持ったエンジニアの輪を青年が提供できればいいなって思います。（竹入）</p>

技術士を目指そう、修習ガイダンス 2016 参加報告

行事名	① ポスター展示
日時	2016年2月20日(土) 10:00-12:00
場所	日本教育会館 9階宴会場(喜山倶楽部)
参加者	田中、北元、山本、白井、中川、磯部、中村、道家、瀧川、太田(望)、田角、赤木、太田(道)、諸田、横田、小野寺、丸山、伊藤、細野、小塚、高橋、竹入、山田
担当者: (○印:リーダー)	○横田(記)、瀧川、山田
参加者数	約300名

1. 背景・目的

修習技術者に向けて日本技術士会の支部・部会・委員会の活動の紹介、活動参加の動機付けが目的である。その中でも青年技術士交流実行委員会が主催するポスター展示は以下を目的とする。

- ・青年技術士交流実行委員の活動内容の紹介・勧誘
- ・青年技術士交流実行委員主催の3月・4月例会への勧誘
 - ・3月例会(一次試験合格者・JABEE認定対象)
 - ・4月特別例会(一次・二次試験合格者交流会)

2. 内容

- ・ポスター展示およびビラの配布
- ・各委員・委員補佐による青年技術士交流実行委員の各ワーキンググループの活動の紹介
委員・委員補佐各自で所属する部会も手伝いながら任意におこなった。

3. 成果と所感

3-1. 成果

ポスター展示:

新規に作り直したデザインも好評であった。

展示場所も立地条件がよく活動内容を効率的にアピールできた。

ビラの配布:

ポスター展示と祝賀会で配布した。参加者ほぼ全員に配布できた。

3-2. 所感

ポスター展示:

展示場所の配置は当日になって明らかになり、2スペース分あったという想定外があった。しかし、配置は人が集まり注目しやすく良好な場所であったといえる。余ったスペースは今回、配布したビラに加えて2月末に学生ワーキンググループが実施するビラを貼り付け学生ワーキンググループの活動のアピールができたといえる。

ビラの配布:

行事の終盤では、ビラを配布しようとして既に持っていると思われるケースが多かったため逆に十分に配布がいきわたったことが確認できたといえる。

4. 今後の展開

青年技術士交流実行委員の活動に興味をもっていた方を中心に3月例会・4月特別例会への参加の斡旋や今後の青年委員の例会告知をおこなう。

行事名	② パネル討論
日時	2016年2月20日(土) 14:30-15:55
場所	日本教育会館 3階大ホール
講師、発表者	コーディネーター:赤木宏匡*(経営工学) 技術士パネリスト:中川暢子*(金属、総合技術監理)、米原一智(電気電子) 修習技術者パネリスト:細野雄治*(機械)、峯田真悟(金属) PC操作:山本恵一*(電気電子) *は、青年委員/補佐
担当者: (○印:リーダー)	○赤木(記)、中川、村崎、細野、小野寺
参加者数	約300名

1. 背景・目的

修習技術者に向けて第二次試験受験および日本技術士会参加への動機づけが修習ガイダンスの目的である。その中でも青年委員会が主催するパネル討論は以下を目的とする。

- ・ パネリストの実体験を共有
- ・ 技術士試験突破への意欲増進
- ・ 技術士としての将来像の認識

2. パネル討論内容

パネル討論は以下の構成で実施した。

No.	時間(分)	内容	説明
1	5	オープニング	・ コーディネーター挨拶 ・ パネリスト紹介 ・ パネル討論の目的と流れ
2	12 (6×2)	技術士パネリスト講演	・ 受験動機 ・ 第二次試験突破の工夫 ・ 技術士とは
3	12	パネル討論 1 技術士までの道のり	・ 受験動機 ・ 試験へのモチベーション維持
4		パネル討論 2 技術士になってからの変化	・ 資格取得前後の変化 ・ 周囲の関係
5	18 (6×3)	修習技術者パネリスト講演	・ 第二次試験への取り組み ・ 悩み、不安
6	8	パネル討論 3 第二次試験に向けて	・ 第二次試験への取り組み ・ 勉強方法
7	5	パネル討論 4 日本技術士会の活用	・ メリット ・ 具体的な活用方法
8	8	パネル討論 5 技術士として生きる道	・ 技術士の在り方 ・ キャリアプラン
9	7	質疑応答	
10	5	クロージング	・ 修習技術者の決意表明 ・ 技術の激励 ・ 締め挨拶

3. 成果と所感

3-1. 成果

- ・ 当日参加予定の村崎委員補佐が欠席となったが、適度な時間で終わることができた。
- ・ 個性の違うパネリストにより、より多くの勉強方法、キャリアプランなどを示すことができた。
- ・ 今年はパネル討論後、祝賀会が開催されたため、パネリストが引き続き質問を受けることができたため、参加者の満足度も高かった。
- ・ 祝賀会で感想を聞いた複数の参加者から「参加してよかった」との評価をいただいた。

3-2. 所感

- ・ 前回のコーディネーターである小野寺委員が作成された台本ほど細かくはないが、概略のシナリオを作成し、パネリストと共有した。質問事項もある程度決めていたため、討論全体をスムーズに進めることができた。
- ・ ある程度アドリブを加えることで、自然な流れになるよう考慮した。
- ・ 事前リハーサルを2回予定していたが、結果として1回の実施となった。しかし、多くの委員／委員補佐に出席していただき、コメントをいただくことで、パネリストの講演の質を向上させることができた。

4. 今後の展開

- ・ 討論時間が今回と同様である場合、パネリストは4人とするべきである。
- ・ 討論テーマについても冗長な部分をなくし、4つにするなど、検討が必要である。例えば、「テーマ 2:技術士になってからの変化」と「テーマ 5:技術士として生きる道」は重複する部分もあるため、どちらかでまとめて行うなど。
- ・ 今回はコーディネーターがパネリストを指名するスタイルであったが、パネリスト同士で討論する場面があってもよいと考える。例えば、パネリストが他のパネリストに質問する、もしくはパネリストの発言に対して他のパネリストが質問するというスタイルである。

【添付資料: パネル討論の開催状況】



写真1 会場全体



写真2 パネリスト



写真3 パネリストの中川委員



写真4 パネリストの米原さん



写真5 パネリストの細野委員補佐



写真6 パネリストの峯田さん



写真7 コーディネーターの赤木



写真8 集合写真

以上

行事名	技術士を目指そう、修習ガイダンス2016 合格祝賀会
日時	2016年2月20日(土) 16:30～18:30
場所	日本教育会館（東京都千代田区一ツ橋2-6-2）
司会	小野寺委員
担当者	諸田委員、須藤委員補佐、○北元委員

1. 背景目的

参加者の合格・修了をお祝いし、技術部門・地域別に技術士と参加者の出会い、ネットワークをすることで技術士二次試験への不安を解消してもらう。また、技術士二次試験にチャレンジしてもらう。

2. イベント内容

① 事前準備状況

No.	項目	詳細	担当
1	祝賀会タイムスケジュール作成	・台本作成 ・スケジュール作成	諸田委員
2	余興担当	・○Xクイズ作成 ・クイズ台本作成	須藤委員補佐
3	景品購入	・1～5位用の景品購入	諸田委員
4	参加者取りまとめ	・参加申込状況の共有	修習委員会
5	喜山倶楽部との交渉	・会場交渉、席配置検討など	修習委員会

② 当日タイムスケジュール

時間	内容
16:30	祝賀会開始 <ul style="list-style-type: none"> ●修習委員会の川村委員長からの挨拶（3分程度） ●青年委員の田中委員長から乾杯の挨拶（3分程度） ●部会別／技術部門別のテーブルで歓談（40分程度）
17:20	クイズ大会 <ul style="list-style-type: none"> ●クイズ：15分間 ●じゃんけん：5分間 ●入賞者コメント：10分間 入賞者の3～5名からのコメント（一人あたり2～3分） 入賞者の数は、5名くらいを予定
17:50	地域別のテーブルで歓談
18:25	閉会の挨拶（5分以内） <ul style="list-style-type: none"> ●修習委員会の石附副委員長からの挨拶
18:30	祝賀会終了

3. 成果と所感

今回は数年振りの祝賀会開催ということで、まったくノウハウがない状態からのスタートであった。また、修習委員との連携が必要であり、当初は青年と修習の役割分担など不明確な部分も多かった。しかし、要所でしっかりと確認（メール、対面など）することで、大きな課題が発生することはなかった。

祝賀会の中では、前半は部門別、後半は地域別に分けることで、より多くの参加者と交流できたのではないかと考えられる。テーブルの偏りがあったが、来年からも続けていきたい。

参加者のアンケートからは祝賀会全体やスタッフの対応についてはすべて普通以上であったが、〇Xクイズについては不満や厳しい意見もあったため、改善が必要である。

4. 今後の展開

青年委員が参加する意義としては、青年のアピール、各種イベントへの集客が1つの目的である。祝賀会開催前に、目的を共有するべきであった。

参加者の交流を促すために、テーブルごとでの名簿の作成や集合写真という企画があったが、自然消滅していた。今回の雰囲気では必要ないかもしれないが、来年度は改めて検討したい。

祝賀会が盛り上がっている中で、クイズを開催することに無理があった。〇Xクイズという単純明快な企画であったが、話を聞いてもらうことや、参加者に動いてもらうということが難しかった。また、クイズが簡単すぎかつ同じ答え（X）が続くということで、盛り上がり方に欠けた。次回は今回の反省を活かした企画としたい。

以上

祝賀会写真



会場風景 その1



会場風景 その2



川村修習委員長挨拶



田中委員長乾杯



クイズ風景



ジャンケンマン登場



景品授与



受賞者スピーチ



石附修習副委員長挨拶

行事名	3月例会:一次試験合格者向けイベント
日時	2016年3月26日(土) 13:00-17:30
場所	葦手第二ビル5階 AB 会議室
司会	山田 栗野委員補佐
担当者: (○印:リーダー)	○山田、栗野委員補佐、小野寺委員
参加者数	参加者: 19名 内準会員7名 JABEE修了者3名

1. 背景・目的

今年度の第一次試験合格/JABEE 修了見込者である新たな修習技術者を主対象として、第二次試験受験資格などの情報提供、および同試験突破に必要なモチベーションの付与、グループワークや懇親会を通じての交流促進により試験突破に向けた仲間づくりを目的とする。同時に青年委員会の活動を強力にアピールし、4月の合格者交流イベント参加への流れの道筋を付ける。

2. 例会内容

①準備

実施した準備項目とその内容を以下に示す。

No.	準備項目	進捗状況	主担当者
1	イベント概要決定(企画書作成)	完了	3月担当
2	タイムスケジュール作成	完了	小野寺
3	HP および同報メール	完了	栗野 小野寺
4	参加者募集	完了	山田
5	講演者、ファシリテータの決定	完了	山田
6	当日配布資料の作成	完了【印刷分を持参】	山田 栗野
7	参加者リスト・名札作成	完了【印刷分を持参】	小野寺
8	講演スライド作成	完了【データを栗野氏 PC に保管】	司会者、講演者
9	アンケート	完了	例会 G 須藤

②当日担当(順不同 敬称略)

【司会・進行役】山田 栗野 【受付】太田道宏 瀧川 栗野 【参加者リスト、名札作成】小野寺
 【ファシリテータ】太田望斗、山本、白井、赤木、北元 早川 明山 【講演】小野寺、太田望斗、小塚
 【パソコン手配】栗野

③当日スケジュール

当日の開催スケジュールとその内容を以下に示す。

第一部

No.	時間	内容	主担当者
1	13:30~13:32	開会挨拶	田中委員長
2	13:32~13:37	青年委員会の紹介	山田
3	13:37~13:45	本イベントおよび第一部の紹介	山田
4	13:45~14:00	技術士および第二次試験受験資格について	小野寺
5	14:00~14:10	青年委員(技術士)の事例紹介	太田望斗
6	14:10~14:20	青年委員(修習技術者)の事例紹介	小塚
7	14:20~14:40	キャリアプランシートの記入	参加者
8	14:40~15:25	キャリアプランワークショップ(自己紹介)	参加者
9	15:25~15:30	休憩	

第二部

No.	時間	内容	主担当者
1	15:30~15:45	第二部紹介・手順説明	栗野
2	15:45~16:30	各チームでアイデア検討	参加者
3	16:30~17:20	各チームのプレゼン(1チーム7分、3分質疑応答)	参加者
4	17:20~17:25	投票・結果発表	栗野
5	17:25~17:30	講評	田中委員長
6	17:30~18:00	片付け・移動	
7	18:00~21:00	懇親会 (@串特急)	

3. 成果と所感

今回のイベントでは二部構成とし、参加者自身の振り返りと目標設定、自己紹介(第一部)、自身とチームの専門知識を活用するグループワーク(第二部)を行った。非常に盛りだくさんの内容で参加者も運営側も慌ただしくあったが、熱意をもって企画に参加して頂いた。最後のグループワークでは真剣で、かつ笑いもあるよい雰囲気でのディスカッションとなり、「目的」に掲げていたモチベーションの付与と仲間づくりに少しでも貢献できたかと考えている。

また、今回は一次試験合格者だけでなく、募集を行った JABEE 修了者も小数ながら参加頂いた。これまでは技術士会における一次試験合格者と JABEE 修了者へのアプローチは私自身別口であると考えていたが、広い範囲での募集で JABEE 修了者へのさらなるアプローチも視野に入ると思われる。

(例えば学生～若手技術者で募集し、「就職・転職やキャリアについての話」をする
青年委員の中には経験豊富な方が多い)

4. 実施状況

当日の写真



写真1 (田中委員長挨拶)



写真2 (小野寺さんご講演)



写真3 (太田さんご講演)



写真4 (小塚さんご講演)



写真5 (第二部栗野さんご説明)

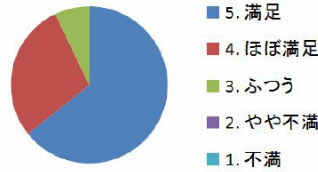


写真6 (第二部発表会)

●今回の例会について

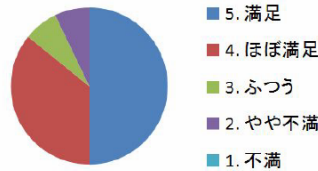
Q1-1. 講演者(技術者)の話し方や内容はいかがでしたか。

満足度	人数	割合 (%)
5. 満足	9	64.3
4. ほぼ満足	4	28.6
3. ふつう	1	7.1
2. やや不満	0	0.0
1. 不満	0	0.0
合計	14	100.0



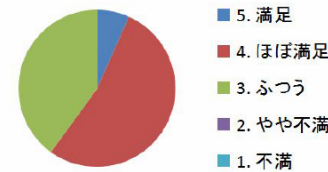
Q1-2. スタッフの対応

満足度	人数	割合 (%)
5. 満足	7	50.0
4. ほぼ満足	5	35.7
3. ふつう	1	7.1
2. やや不満	1	7.1
1. 不満	0	0.0
合計	14	100.0



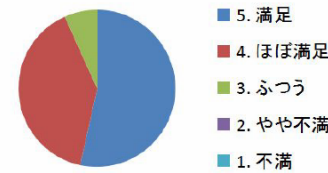
Q1-3. 今回のイベントで二次試験に対する不安や疑問は解消されましたか。

満足度	人数	割合 (%)
5. 満足	1	6.7
4. ほぼ満足	8	53.3
3. ふつう	6	40.0
2. やや不満	0	0.0
1. 不満	0	0.0
合計	15	100.0



Q1-4. 今回のイベントは全体としていかがでしたか。

満足度	人数	割合 (%)
5. 満足	8	53.3
4. ほぼ満足	6	40.0
3. ふつう	1	6.7
2. やや不満	0	0.0
1. 不満	0	0.0
合計	15	100.0



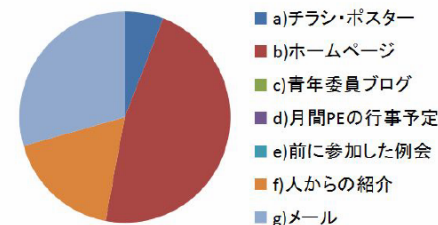
Q1-5. 今回のイベントの感想があればお聞かせください。

- ・グループワークが出来たのでいい経験になりました
- ・スケジュールがタイトであった。技術士試験のタイトさを身につけるにはよかった。
- ・プレゼンテーションを行うなどなかなかないいい機会を得られよかった
- ・ワークショップがいいトレーニングになりました
- ・ありがとうございました！ちょっと前半が時間不足でした。
- ・自分の状況と今後のことを考えるうえでとてもよかった
- ・いろんな人と話すことができた
- ・自己紹介の時間が短く早足になって話せない点があった。やるならもう少し時間があつたほうがよい
- ・説明不足な部分があつた

●今回の例会に参加するまでの経緯について

Q2-1. 今回の例会をどのように知りましたか。(複数回答あり)

きっかけ	人数	割合 (%)
a)チラシ・ポスター	1	5.9
b)ホームページ	8	47.1
c)青年委員ブログ	0	0.0
d)月間PEの行事予定	0	0.0
e)前に参加した例会	0	0.0
f)人からの紹介	3	17.6
g)メール	5	29.4
合計	17	100.0



2015年 3月例会 外部アンケート

Q2-2 今回のイベント参加に当たり、事前に知りたかった情報はありますか。あれば下にお書き

- ・技術士になることとは？ということ
- ・グループディスカッションの課題

Q3. 今後期待する内容があればお聞かせください。

目的	回答数
a) 日本技術士会に関する情報提供	3
b) 技術職に関する情報提供	4
c) 科学技術に関する情報提供	4
d) 自己の能力を高める場の提供	10
e) 上記以外	1



- ・リーダーシップ力向上の勉強会を開催してほしい
- ・具体的な試験対策をしてほしい

内部アンケート(一部抜粋)

①良かったこと

- ・2 発目の同報メールの文面が、1 発目の繰り返しではなく、参加を促す工夫がされていたこと
- ・事前の Skype 会議 当日の内容や役割説明などがあり、ファシリテーターとして参加しやすかった
- ・共通点探しのために専門やできることをポストイット列挙するプロセス
- ・技術士を目指す人向けとして良い内容
- ・人前でプレゼンする機会を持てた事
- ・技術士を目指すというテーマが明確であったためか、参加者のモチベーションが高かった
- ・講演者の熱い講演が良かったです。さすが青年メンバー
- ・小野寺さんのプレゼンは二次試験の仕組みから技術士に求められているものを解説

②改善したいこと

- ・参加者への声かけで会話が続かないので、話のネタをストックする
- ・リストにない参加者 参加フォームが前日も残っていました
- ・ローテーションの不都合には大変失礼しました 参加者と一緒に戸惑ってしまい、事前シミュレーション不足
- ・キャリアプランシートの記入時間が短いなど、全体的に密度が濃いと感じたため、キャリアプランシートは事前配布でもよかった
- ・前半のキャリアプランと後半のアイデアコンペのつながりを明確にしたかった。前半の自己紹介の際に後半用のシートに記入してもらおう案内がほしかった
- ・プレゼンの制限時間を守ること
- ・CPD 受講票が配布されていましたが、これが何かわかってない人がいて質問されました

③その他・コメント

- ・皆様のご協力で無事企画が終了致しました。参加者が笑顔になってくれたことで救われました
 - ・今回の反省点等は 6 月イベントで活かし、参加者により充実してもらえる企画をこれからも考えていきたいと思いません
 - ・複数の参加者さんから交流会でもう少しお話したいと誘われたことから、何とかチーム完成した！と感じました
 - ・パーティションは閉じたほうが良い
 - ・青年委員の懇親会参加人数は、運営委員会の中で再確認したほうが良い
 - ・懇親会開始時の待ちがもったいなかった 懇親会担当を別に設けてもよかったかも
 - ・串特急での懇親会が良かった。席配置も均等で青年と参加者がうまく交流できていた
 - ・参加者の懇親会出席率が高いことは良いこと
 - ・田中さんから「委員補佐によるチャレンジングな企画である」
- このように話をしておくことで参加者から青年に親近感を得てもらい、また活動参加にも興味を持ってもらえたのではないのでしょうか

行事名	4月特別例会:技術士第一次・二次試験合格者交流会
日時	2016年4月16日(土)
場所	日本教育会館 第五会議室 および 喜山倶楽部
講師、発表者	講師: なし 第一部 司会進行 中川委員 青年委員の紹介 赤木副委員長 国際交流活動紹介 松井副委員長 サッカー紹介 高橋委員補佐 インタビュータイム説明 白井委員、小野寺委員 グループワーク説明 白井委員 講評 田中委員長 第二部 司会進行 中川委員、古川委員補佐 乾杯発声 中川委員 閉会挨拶 白井委員
担当者: (○印:リーダー)	田中委員長、太田副委員長、松井副委員長、瀧川委員、横田委員、中川委員、 ○白井委員 (以上が4月特別例会の幹事) 北元、川崎、磯部、太田望、田角、赤木、下野、小野寺、丸山、伊藤、 細野、小塚、古川、高橋、竹入
参加者数	第一部 76名(一般54名、委員22名) 第二部 64名(一般48名、委員16名)

1. 背景・目的

今年度の第一次試験合格/JABEE 修了者である新たな修習技術者、および第二次試験合格者を対象として、参加者間の交流を促すことで、技術士仲間をつくること。

例年の企画趣旨を引き継ぐことで、継続的に新合格者を受け入れる交流の場を提供すること。

2. 例会内容

2.1. 第一部の司会挨拶(13:30~13:35):中川委員

熊本地震へのお悔やみ、会場案内、本日のスケジュール案内、配布資料確認、注意事項

2.2. 青年技術士交流委員会の紹介(13:35~13:40):赤木副委員長

総合力を研鑽する場として交流を企画していることを説明し、多様な取り組み事例を紹介。

2.3. 国際交流活動の紹介(13:40~13:45):松井副委員長

CAFFEO への参加、ミャンマーへの募金活動など紹介。次回 CAFFEO をご案内。

2.4. サッカーの紹介(13:45~13:50):高橋委員補佐

地域本部間、国際交流の場として定期的にサッカーを企画。次回の日韓交流予定をご案内。

2.5. インタビュータイムの説明(13:50~13:55):白井委員

短時間で他分野の相手技術者と交流するために、どのような話題で質問するか、逆に相手に自分を理解してもらうためにどうやってアピールするか、進め方を説明。

2.6. シート記入および休憩(13:55~14:10)

2.7. インタビュータイムのデモンストレーション(14:10~14:15):小野寺委員、白井委員

実際に参加者が実施する前に、スタッフの実演で会場を盛り上げた。

2.8. インタビュータイム(14:15~14:45):中川委員、白井委員(2分交代でひと組4分を7組実施)

1テーブル8人のグループ内で、総当たりで交互インタビューを実施

1回のインタビュー時間2分、1組あたり時間4分、計7組で28分

2.9. 席替えの案内(14:45~14:50):白井委員

次の席では、すべての参加者が新しい人に出会える仕組みで席替えを案内。

2.10. 休憩(14:50~15:00)

2.11. グループワークの説明(15:00~15:20):白井委員

多様な部門からの参加者に共通する最新の技術動向として「第4次産業革命」の背景と考え方、展望について概説した。この話をヒントに各グループで架空の技術アイデアを出し合う模造紙発表をしてもらうことを説明。目的は他已紹介なので、先のテーブルにいた方々の技術分野を含めて部門横断的なアイデアが望ましいとルール説明した。

2.12. グループワーク(15:20~16:40)

1. 席替え後グループでの自己紹介

2. 議事進行、模造紙作成、発表者、時間配分の決定

3. 架空アイデアの議論

各グループに参加したスタッフが進行をフォローしながらグループワークを進めた。

2. 13. 各グループの発表(16:40~17:20):中川委員(4分を8グループ)

立候補順に全グループから模造紙発表を実施した。

2. 14. 委員長講評(17:20~17:30):田中委員長

発表で最も他己紹介された参加者を委員長表彰(情報工学部門 荒木夕起子様)

発表で青年委員幹事を他己紹介した参加者を特別表彰(化学部門 古谷俊輔様)

森信三先生の名言を紹介

「人間は一生のうち逢うべき人には必ず逢える。しかも一瞬早過ぎず、一瞬遅すぎない時に。」

<参考: 講評に使ったデータ>

- ・チーム別に発表で個人名をしっかりと出した数をカウント
- ・括弧内は参加した青年メンバー名
- ・発表順に記載しています

C: 5(竹入)

B: 0(明山)

F: 6(蔵重)

H: 13(太田望)

E: 14(小塚)

A: 5(早川)

G: 12(川崎)

D: 7(下野)

2. 15. 次回予告/5月例会のご案内(17:30~17:35):下野委員

5/28(土)開催予定の5月例会の告知を行い、継続的な参加を促した。

2. 16. 第一部おわりの挨拶(17:35~17:40):中川委員

アンケート記入のお願い、第二部の案内

会場の移動、および参加者の誘導

2. 17. 第二部 乾杯の挨拶(18:00~18:05):中川委員

2. 18. 青年委員会の活動紹介(18:30~):古川委員補佐

2. 19. インタビュータイム(19:00~):中川委員、古川委員補佐

歓談中の会場内を散策し、マイクを向けて数名の参加者にインタビューを実施した。

インタビューは、歓談中の参加者を含めて注意を惹くためではなく、

手持無沙汰の参加者がいないように目配りをしながらスタッフと交流する目的で実施した。

2. 20. 第二部締めめの挨拶(19:50~19:55):白井委員

参加への感謝に加え、青年委員会イベントへの継続参加を呼び掛けた。

3. 成果と所感

- ・参加者の積極参加姿勢と笑顔が、なによりの成果であった。
今後とも参加したい、青年委員会に興味があるという参加者がいたことは成功と考えている。
- ・タイムスケジュール通りに進行できた。
- ・外部会場に例会用道具(茸手倉庫)の搬出が必要となった点で、準備に負荷がかかった。
- ・インタビュータイムで参加者全員が一気に話を始める仕組みなので、会場が盛り上がった。
これはデモンストレーションを見て自己紹介のイメージをつかんでもらえた効果があった。
- ・当日に多数キャンセルが発生したことに対応して、
多くの青年スタッフに参加者席に着いていただくことになり、役割変更が多数発生し混乱があった。
しかし、スタッフの臨機応変な対応で、予定していた64名でのイベントシステムを踏襲できた。
- ・委員長講評で「他己紹介」というキーワードに沿った客観的指標によって参加者を表彰したので、
イベントの趣旨がわかりやすくまとまった。
- ・昨年より規模を落とさなかったために田中山の代替となる外部会場を用意した点は、よかったと考えているが、会場が少し狭く感じた。並び替えてたんだ机、搬入した資材、スタッフの居場所、受付の設置、発表者の立ち位置など考慮すると、もう少し余裕のある会場を選ぶ方が好ましい。
- ・直前に多数のキャンセルが発生したことに対する対策に課題を残した。

4. 今後の展開

- ・大変有用なイベントシステムなので、継続実施できるよう引き継ぐことが重要。
- ・参加者が何も話さずに帰ることのないよう、雰囲気作り・仕組み作りに継続して取り組んでいく。
- ・新規参加者が少なかったことを反省し、非会員への広報活動という課題に取り組んでいく。

5. イベントの様子

第一部の司会挨拶



青年委員会の紹介



国際 CAFFEO の紹介



サッカーの紹介



インタビュータイムの説明



デモンストレーション



インタビュータイム1



インタビュータイム2



インタビュータイム3

インタビュータイム4



グループワークの説明



グループワーク1



グループワーク2



グループワーク3



グループワーク4



グループワーク5



グループワーク6



グループワーク7



グループワーク8



グループワーク発表



委員長講評



乾杯



交流会1



交流会2



交流会3

交流会4



交流会5



交流会6



交流会7



締め挨拶



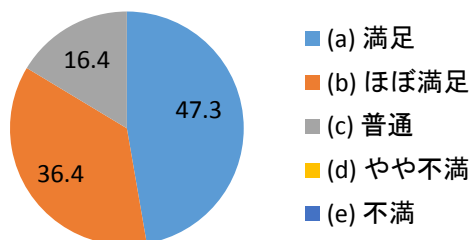
以上

●平成28年度 4月「技術士一次・二次合格者交流会」 外部アンケート結果

●今回の例会について

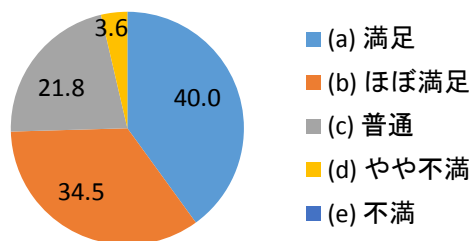
Q1-1. 今回の例会は、全体としていかがでしたか？

回答	回答数	割合(%)
(a) 満足	26	47.3
(b) ほぼ満足	20	36.4
(c) 普通	9	16.4
(d) やや不満	0	0.0
(e) 不満	0	0.0
合計	55	100.0



Q1-2. 青年委員会の用意した資料の内容はいかがでしたか？

回答	回答数	割合(%)
(a) 満足	22	40.0
(b) ほぼ満足	19	34.5
(c) 普通	12	21.8
(d) やや不満	2	3.6
(e) 不満	0	0.0
合計	55	100.0

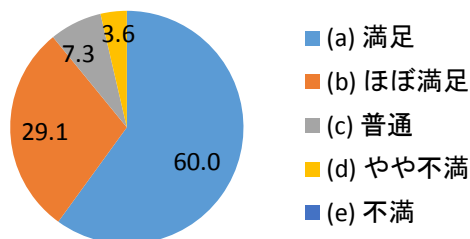


Q1-3. 発表者にお伝えしたいことがありましたら、お書きください。

- ・グループで一所懸命考えた内容を伝えようという気持ちが伝わってきました。
- ・聞く人を引き付けるプレゼンでした。
- ・楽しかったです。
- ・また参加します。
- ・他己紹介は非常に面白かったです。
- ・(発表しました)他己紹介という目的を達せず、反省しています。同グループの皆さまには感謝です。
- ・とてもわかりやすい発表でした。
- ・お疲れさまでした。
- ・目的の明確化。
- ・うまくまとめていただきました。ありがとうございます。

Q2-1. スタッフの対応はいかがでしたか？

回答	回答数	割合(%)
(a) 満足	33	60.0
(b) ほぼ満足	16	29.1
(c) 普通	4	7.3
(d) やや不満	2	3.6
(e) 不満	0	0.0
合計	55	100.0



Q2-2. スタッフに伝えたいことがありましたら、お書きください。

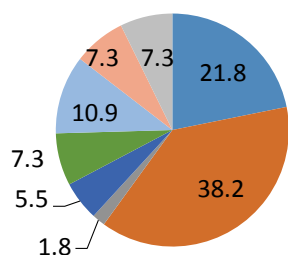
- ・自分の課題が見えて勉強になりました。
- ・色々な方とお話する機会ができて良かったです。サポート、ありがとうございました。
- ・スタッフの方のネックストラップは目立つ色の方がよいと思います。
- ・非常にスムーズな運営でした。
- ・初めての参加でしたが、多くの方と交流できて楽しかったです。
- ・お世話になりました。
- ・分かり易い説明をありがとうございました。
- ・会場での手続きや段取りが分かりにくい。
- ・グループワークで他の分野の人たちと交流できたのは良かったです。テーマが漠然としていて難しかったです。
- ・目的の明確化・強調不足。
- ・ありがとうございました。
- ・会場が手狭間です。
- ・本日は大変充実した時間となりました。ありがとうございます。

● 今回の例会に参加するまでの経緯について

Q3. 今回の例会をどのように知り、何で参加を決めましたか(複数回答あり)?

【認知】

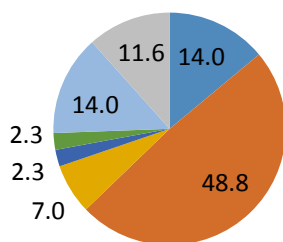
回答	回答数	割合(%)
(a) 日本技術士会の同報メール	12	21.8
(b1) 技術士会/青年委員会のHP	21	38.2
(b2) その他のHP	1	1.8
(c) 青年委員会のブログ	0	0.0
(d) 月刊PEの行事予定	3	5.5
(e) 以前に参加した青年委員会の例会	4	7.3
(f1) 青年委員会のメンバーからの紹介	6	10.9
(f2) その他の人からの紹介	4	7.3
(g)その他	4	7.3
合計	55	100.0



- (a) 日本技術士会の同報メール
- (b1) 技術士会/青年委員会のHP
- (b2) その他のHP
- (c) 青年委員会のブログ
- (d) 月刊PEの行事予定
- (e) 以前に参加した青年委員会の例会
- (f1) 青年委員会のメンバーからの紹介
- (f2) その他の人からの紹介
- (g)その他

【判断】

回答	回答数	割合(%)
(a) 日本技術士会の同報メール	6	14.0
(b1) 技術士会/青年委員会のHP	21	48.8
(b2) その他のHP	0	0.0
(c) 青年委員会のブログ	3	7.0
(d) 月刊PEの行事予定	1	2.3
(e) 以前に参加した青年委員会の例会	1	2.3
(f1) 青年委員会のメンバーからの紹介	6	14.0
(f2) その他の人からの紹介	0	0.0
(g)その他	5	11.6
合計	43	100.0

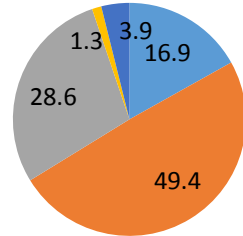


- (a) 日本技術士会の同報メール
- (b1) 技術士会/青年委員会のHP
- (b2) その他のHP
- (c) 青年委員会のブログ
- (d) 月刊PEの行事予定
- (e) 以前に参加した青年委員会の例会
- (f1) 青年委員会のメンバーからの紹介
- (f2) その他の人からの紹介
- (g)その他

- ・ 応用理学部会/他分野との交流目的
- ・ 誘われたため
- ・ 合格時に郵送されてきた資料
- ・ 竹入さんからの誘い
- ・ 会場が通勤経路に近かったので
- ・ 社内技術士の紹介
- ・ 直感
- ・ 案内用紙

Q4. 今回の例会に参加した目的は何ですか(複数回答あり)?

回答	回答数	割合(%)
(a) テーマや内容に興味等	13	16.9
(b) 参加者への興味(人脈の拡大)	38	49.4
(c) 青年委員会への興味	22	28.6
(d) CPDのポイント取得	1	1.3
(e) 上記以外	3	3.9
合計	77	100.0

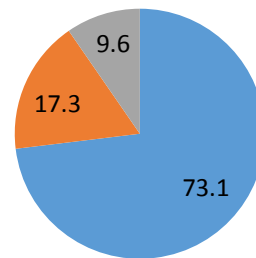


- (a) テーマや内容に興味等
- (b) 参加者への興味(人脈の拡大)
- (c) 青年委員会への興味
- (d) CPDのポイント取得
- (e) 上記以外

- ・ 技術士会に興味があった。

Q5-1. 青年委員会の例会に参加するのは今回で何回目ですか?

回答	回答数	割合(%)
(a) 初めて	38	73.1
(b) 2回目	9	17.3
(c) 3回目以上	5	9.6
(d) はっきりしない	0	0.0
合計	52	100.0



- (a) 初めて
- (b) 2回目
- (c) 3回目以上
- (d) はっきりしない

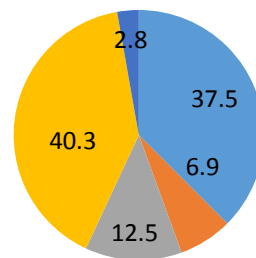
Q5-2. 過去に参加した例会で、印象深かったテーマや面白かったテーマは何ですか?

- ・ グループワーク
- ・ 今回とても面白かったです。いろいろな分野の方のお話を聞いてよかったです。
- ・ 英語イベント、合格者交流会
- ・ 前回同様、グループワークが楽しかったです。
- ・ 英語でのコミュニケーション

●青年委員会の活動について

Q6-1. 青年委員会の活動として開催してほしいイベントは何ですか(複数回答あり)?

回答	回答数	割合(%)
(a) 情報の提供	27	37.5
(b) 変化の提案	5	6.9
(c) 楽しみの場の提供	9	12.5
(d) 人脈形成の場の提供	29	40.3
(e) 上記以外	2	2.8
合計	72	100.0



- (a) 情報の提供
- (b) 変化の提案
- (c) 楽しみの場の提供
- (d) 人脈形成の場の提供
- (e) 上記以外

- ・ 講演会/講習会
- ・ 業界、キャリアプラン、その他
- ・ 部門別会合
- ・ 国際交流
- ・ リスクマネジメント、若手・後輩の混載、経験者の失敗等
- ・ 技術部門に関する現場等の見学会
- ・ 外国人技術士との交流
- ・ 懇親会

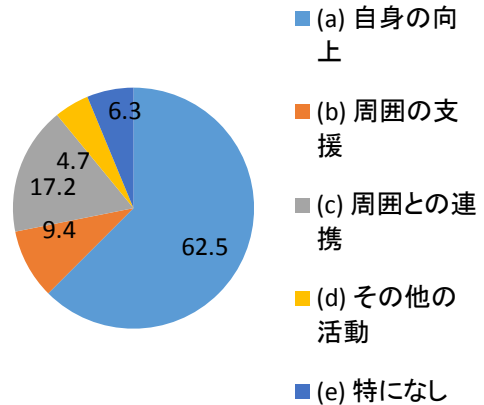
Q6-2. イベントの内容以外について、ご希望がありましたらお書きください。

- ・ 土日の都内が希望です。
- ・ 土曜日開催を希望します。
- ・ 工事の工場見学

●技術士または技術者としての活動について

Q7. 技術士または技術者としての本業に加えて、どのような活動をなさっていますか(複数回答あり)?

回答	回答数	割合(%)
(a) 自身の向上	40	62.5
(b) 周囲の支援	6	9.4
(c) 周囲との連携	11	17.2
(d) その他の活動	3	4.7
(e) 特になし	4	6.3
合計	64	100.0

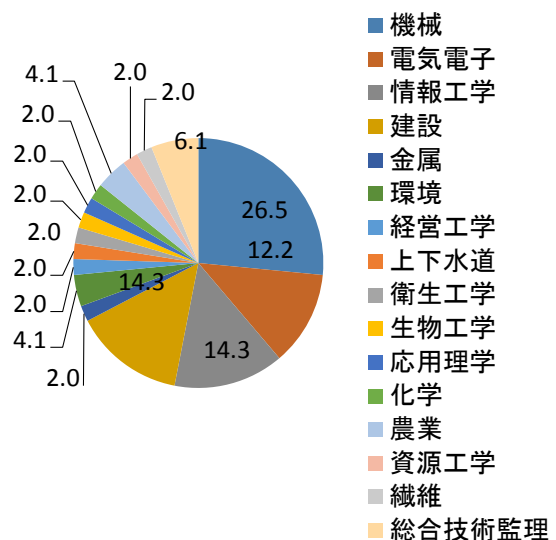


- ・ 博士号
- ・ 社内外の教育参加
- ・ 資格取得
- ・ TOEIC
- ・ 環境部会で幹事
- ・ 同僚からの情報提供
- ・ 労働安全コンサルタント
- ・ テーマを決めて研究
- ・ 後輩の指導・部下の教育
- ・ SNS等で情報交流
- ・ 知識を増やす
- ・ 中小企業支援、世界の平和、地域創生
- ・ 資格の勉強、ボランティア(学習支援)
- ・ 情報処理技術者試験の受験
- ・ 他資格者団体交流/高校・大学同窓会・大学技術士の交流
- ・ 作業環境測定士/国際交流

●あなたご自身について

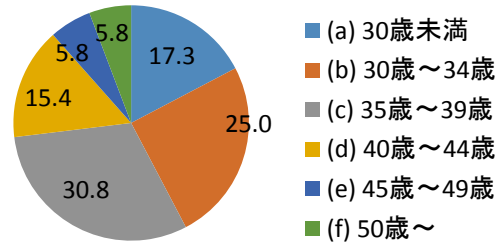
Q8-1. 技術部門は何ですか?

回答	回答数	割合(%)
機械	13	26.5
電気電子	6	12.2
情報工学	7	14.3
建設	7	14.3
金属	1	2.0
環境	2	4.1
経営工学	1	2.0
上下水道	1	2.0
衛生工学	1	2.0
生物工学	1	2.0
応用理学	1	2.0
化学	1	2.0
農業	2	4.1
資源工学	1	2.0
繊維	1	2.0
総合技術監理	3	6.1
合計	49	100.0



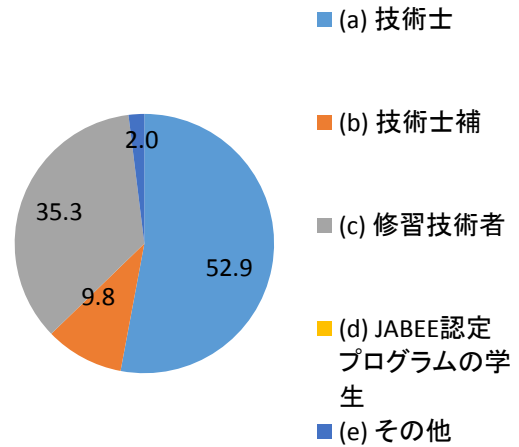
Q8-2. 年齢層について、該当する項目を選択してください。

回答	回答数	割合 (%)
(a) 30歳未満	9	17.3
(b) 30歳～34歳	13	25.0
(c) 35歳～39歳	16	30.8
(d) 40歳～44歳	8	15.4
(e) 45歳～49歳	3	5.8
(f) 50歳～	3	5.8
合計	52	100.0



Q8-3. 会員層について、該当する項目を選択してください。

回答	回答数	割合 (%)
(a) 技術士	27	52.9
(b) 技術士補	5	9.8
(c) 修習技術者	18	35.3
(d) JABEE認定プログラムの学生	0	0.0
(e) その他	1	2.0
合計	51.0	100.0



平成 28 年度 「技術士一次・二次試験合格者交流会」 内部アンケート

1. 良かった点

田角	<ul style="list-style-type: none"> ・中川さんの司会進行がスムーズで本当にプロ並み！だったこと。一班一班よくみてコメントしていた点もよかった。 ・白井さんはやっぱり面白い！小野寺さんとのデモインタビューのかけあいに始まり、会場をゆるませたりどっと沸かせたりして参加者の方も楽しんで下さったと思います。いよっ！シライ節！！ ・田中さん&赤木さん&太田さんの冷静な観察と講評がよかった。本当によくみていますね！ ・交流会会場がすぐそばというのがよかった。参加できませんでしたが、古川さん皆さんが交流会の段取りもよく練られていたようで良かったです。
竹入	<ul style="list-style-type: none"> ・ドタキャンが出てもうまく対応できた。 ・気品ある中川さんとなごみ系白井さんの進行で、質は落とさずリラックスした雰囲気となった。 ・採点方法がわかりやすかった。 ・白井さんと小野寺さんのかけあい。 ・北元カメラマンが撮った写真が臨場感あふれている。 ・懇親会の会場が近く、料理もおいしかった。
横田	<ul style="list-style-type: none"> ・外部の会場でおこない、当日の欠席者多数という崖っぷちに近い状況にもかかわらず、参加者にも運営側にも勢いがありました。 ・ワークショップの発表内容もグループ毎のバラツキがあつてよかったのではないかと思います。
小塚	<ul style="list-style-type: none"> ・中川さんの司会 →冒頭の熊本地震に対するお見舞いの言葉、直前に追加になった事項も抜けなく話されていたところ、間のつなぎ方など安定感があり、イベントの進行にストレスを感じませんでした。 ・白井さんの場の盛り上げ方 →白井さんは序盤は大変緊張されていたことが感じられましたが、インタビューのデモ辺りで「シライ節」が花開いていて、良い雰囲気のイベントになったと思います。2次会までお疲れ様でした。 ・企画内容 →4月イベントには初めて参加(?)させていただきましたが、「仲間」を増やすこと、グループワークを通して、普段触れることが少ない技術内容を知るきっかけができるなど、メリットが多いように感じました。個人的には来年度以降も続けて欲しいです。 ・懇親会の会場 →立食形式というのが良かったと思います。座席が決まっている場合よりも色々な方とお話をする機会が増えるので。
赤木	<ul style="list-style-type: none"> ・白井さん、中川さんによる絶妙な司会。 ・インタビュータイムの掛け合い。 ・上記により参加者がなごむ雰囲気を作られていました。

太田望	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者が楽しんでいた。 ・白井さんと中川さんの司会進行が参加者を盛り上げていた。 ・参加者キャンセルが多く出たものの、スタッフの協力によって乗り切ることができた。
北元	<ul style="list-style-type: none"> ・白井さんの面白さが会場の盛り上げていたこと。 ・中川さんの進行がとても丁寧で上品であったこと。 ・欠員も問題なく対応できていたこと。
川崎	<ul style="list-style-type: none"> ・外部会場にも関わらず、担当の方がとても細やかに準備をされていた点。 ・非常に盛り上がり、参加された方も満足されたようであった点。 ・当日のキャンセルや遅刻・早退などにも臨機応変に対応されていた点。
磯部	<ul style="list-style-type: none"> ・中川さんの上品さと、白井さんの絶妙なグダグダ感（←褒め言葉）が相まって、造っては出せない良さが生まれた。 ・インタビュー実演中の白井さん・小野寺さん両名の掛け合いが楽しかった。 ・「名刺忘れた人用の紙」はとても良いアイデア。 ・エアコンの温度調整等、経験あるサポートスタッフの配慮はさすが。 ・雰囲気が出来てきた後は、参加者の皆様とても楽しそうだった。
田中	<ul style="list-style-type: none"> ・正直、過去 3 回の合格者交流会と比べて、一番良かったと思います。（企画の秀逸さとしては前回は最高でしたが） ・白井さんと中川さんの名コンビを、経験を積んだ優秀な皆さんがサポートすれば、まあいいものはできるのではないかと予想していましたが、予想以上でした。 ・こまごまとしたトラブルはあったとは思いますが、だいたい想定内です。私が見えていない部分もあったかと思いますが、皆さんがなんとかしてくれるのも想定内です！笑 ・古川さんの 2 部以降の立ち振る舞いもかっこよかったですね！いやあ、成長したと思います。もともとあんな感じだった気もしますが！
丸山	<ul style="list-style-type: none"> ・白井さんの人柄が現れたアットホームな特別例会にだった。 ・中川さんの司会がステキだった。 ・第 2 部のお料理がおいしかった。
細野	<ul style="list-style-type: none"> ・目的をしっかりと表示し、共有できたことで委員及び委員補佐の行動がとりやすかったと思います。 ・参加人数が少ない中イベントの質が落ちていなかったのはすごいと思った。 ・司会進行が丁寧でした。（勉強になりました。） ・白井さん、初幹事で時期が年度末、さらにビックイベントをこなす姿に尊敬しました。
伊藤	<ul style="list-style-type: none"> ・細々とした点はさておき、全体的には成功裏に終わったこと。 ・幹事のみなさんは年度代わりのお忙しい中、ご準備に大変だったと思います。私も数回前の担当でしたので。本当にお疲れさまでした。
小野寺	<ul style="list-style-type: none"> ・私が新合格者として参加した 3 年前は、スタート前からスタート後しばらくの間は、ピリピリとした緊張感に漂う環境で、参加者として結構辛いものがありました。この点は、皆で問題意識をもって解決（明るくフレンドリーな受付、着席後の声掛け、元気な司会進行、インタビュー実演…）に努め、年々改善してゆき、今年の開始前の会場の雰囲気は、本当に和やかなものでした。開始後も、白井さん・中川さんの素晴らしい司会進行で、参加者にナーバスな表情は、ほぼ見られませんでした。はっきり言って、今年に関しては、インタビュー実演で和み（笑い）を取りに行く必要などなかった。「敢えて言おう、蛇足である！」年々、実演コーナーの重要性は低下していますな。

	<ul style="list-style-type: none"> ・発表中の他己紹介引用件数は、絶対数えていると思っていたら、やっぱり数えていた！GW評価基準について過年度の反省が運営委員会で議論されたが、その議論を踏襲されており、溜飲が下りた感じがした。
下野	<ul style="list-style-type: none"> ・交流という目的が達せられたと思います。 ・グループワークの採点基準が客観的でよかったと思います。
太田道	<ul style="list-style-type: none"> ・盛り上がった。 ・欠員が多かったですが、当日の現場力で何とかなりました。皆さんほんと凄いです。
中川	<ul style="list-style-type: none"> ・外部会場でもスムーズに運営できた。 ・事前打合せ、物品持ち運び、会計、各担当の段取りが的確に準備されていたためと思います。 ・司会進行の観点では、会場が横長で全体を見渡しやすかった。
白井	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者のみなさまが真摯に取り組み、楽しんでいた。 ・司会と PC 動作のおかげでタイムスケジュールがピタリだった。 ・青年スタッフの臨機応変な積極対応で多くのキャンセルという事態を乗り切れた。キャンセル連絡にも丁寧に対応できた。役割変更にご対応いただいたみなさまありがとうございます。 ・ファシリテータの方々、オブの方々含めることにはなったが、64名の予定人数で実施できた。 ・受付時への誘導を積極的にしていただいた。 <p>インタビューのデモンストレーションで場を和ませることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部会場の実施経験になった。 ・会計面でも会場の協力が得られた。 ・当日のスライド修正にて、アメの席替えシステムで参加者に混乱なく実施できた。 ・事前打ち合わせできなかったけど委員長講評がよかった。 ・交流会では想定通りに歓談を止めずにインタビューできていた。 ・当日にはなったが、神保町アリゴに事前に予約電話できた。
古川	<ul style="list-style-type: none"> ・講評や優勝者の決定に根拠があったこと。
瀧川	<ul style="list-style-type: none"> ・汗だくになりながらも「シライ節」を発揮し場を盛り上げてくださった幹事長の白井さんとプロ並みの司会ぶりを発揮し、和やかな進行且つ各所で場を引き締めてくださった中川さんの組み合わせが絶妙であったこと。 ・実際の準備期間は例年より短かったにも関わらず、昨年度太田道さんが整備してくださったデータと、白井さんの集中力と皆の支援で乗りきれたこと。 ・いつのまにか委員長と副委員長が他己紹介をした件数を数えていて、脱帽でした。

2. 改善したい点

田角	<ul style="list-style-type: none"> ・受付ですが、私のさばきがダメで回りきらず、もともと外に出る予定だった伊藤さんに流れで入ってもらうことに。座っていただく場所も十分でなく、申し訳ございませんでした。 ・前年度までの席決め&席替えシステムを取り入れるとすれば、昨年のシステムをそのまま持ってきて、ドタキャンの際の抜ける順番など踏襲すればよかった。そういう面倒なところをはしよるためにシステムティックにした部分があって、そこはそのまま継承すれば楽が出来たはず。
----	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマの「第4次産業革命」は、事前告知の際もっと使ってもよかったのでは？ ・やはり昨年使った PPT フォーマットは全員がみやすくいいかな～と思ったのですが、今年是不採用でした。 ・会場も奥まったところにあったので、案内看板（掲示用・誘導者用）がそれぞれ用意があった方がよかった。
竹入	<ul style="list-style-type: none"> ・会場セッティング・持ち物・準備しておくものの段取りをもう少し具体的にイメージできていたら良かったと思います。
横田	<ul style="list-style-type: none"> ・特にありません。ベストだったと思います。
小塚	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークで欠席者が出た場合の対処方法を事前に考えておくこと。当日、白井さんが随分悩まれていたのを見て、申し訳なく感じました。4月に限らず、グループワーク系のイベントは他にもあると思うので、イベント全体の課題として対処方法を全体で共有できないものかなと思います。
赤木	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者のチーム分けをしながらの人数調整について、誰でもできるように手順をまとめたいです。 ・毎回のイベントについていえることですが、ファシリテータの参加目的について確認が必要かと思います。
太田望	<ul style="list-style-type: none"> ・飴の配分 (今回の場合、グループワーク時に青年スタッフ1名のグループが4つ、2名のグループが4つとなるのが理想形。実際には青年スタッフ3名のグループができてしまった) ・(個人的に) ファシリテータとしての役割以上にグループワークに参加してしまった。(参加者として普通に楽しんでしまった。)
北元	<ul style="list-style-type: none"> ・委員長の批評で他己紹介ゼロチームがあったこと。仕方ないことですが、該当チームには厳しかったのではと思います。
川崎	<ul style="list-style-type: none"> ・飴と席の埋まり具合を管理しきれなかった点。 →残数(席)管理1人、テーブルへの誘導で2人の計3人が適当かと思いました。 ・会場が受付や荷物置き場などまで含めると狭かった点。 ・白井さんや中川さんが全体進行を進める際に、話に夢中になっている参加者が多かった点 →多少の声かけなど、補助をすれば良かったかと思いました。 ・グループワークで使う道具について、事前に確認した方が良かった点。 →書けないことを想定して、赤青色2本ずつマジックもって行きましたが、不足したらしく、瀧川さんに後で調整頂きました。(お手数かけてすみませんでした)
磯部	<ul style="list-style-type: none"> ・最初の記入時間が静かすぎる。(計画的な場繋ぎトーク、または少し音楽が欲しい?) ・インタビュー実演では2分をやや余し気味で、「2分は短い！」が伝わってこなかった。 ・インタビュー開始後は騒がしく、声が聞き取りづらそうにしている方がいた。
田中	<ul style="list-style-type: none"> ・1部、いい雰囲気で行くところ私のドSな講評が水をさしましたかね。 (もっとオブラートに包むつもりだったのですが、まったくできていませんでした！) あんな畏にはめたような講評したらだめですね。提案内容がメインの発表になることはわかっていてあんな講評をしていますから。中川さんに何度も他己紹介してくださいって言うてもらいましたが、そうならないことわかってますから。 ・Bグループが0だったのはさすがに気まずかった。ただ、本当に他己紹介を全面に出すと面白くないし他己紹介も盛り上がりませんよ。そのバランスまで鑑みて発表してくれる人がいたら優勝ですね。ってか三上さんが優勝です。しょっぱなすげえのがきてビビりまし

	た。来年どうしますかね。もう広い会場は取れないですし、今回で有終の美をかざって終わりでもいい気がします。
丸山	・パソコンで臨機応変に対応いただきましたが、今後のイベントではチェック用の受付用紙を用意していただけるとよいかと思います。
細野	・特になし
伊藤	・参加する側の視点で見ると、細々としたところではありますが、やはり配慮したいところがありました。(受付での案内手法、企画や評価の説明方法などなど)
小野寺	・やはり会場の問題でしょうか。でも教育会館は、コストの兼ね合いにおいてベターであったと思っています。1班分スケールダウンして(49人か…)、フキデ AB でやるのも一案ですね。フキデ CD は委員の控え用。じゃあ、懇親会はどうするの? という問題もありますが。
下野	・私自身の改善点なのですが、ファシリテータなのに、「あめ」やグループワークのルールを当日に質問するまで理解できていませんでした。
太田道	・資料も含め、全体的に事前準備が不足していたように思います。 →当日のイメージを担当の皆さんに伝えきれていなかった点を反省しています。 ・直前の欠席を防ぐために、もっと引き止めておくような対策が必要だったかも。 →メールやブログ、他の手段の活用など。これ以上は難しいのかも(永遠の課題?) ・会場が狭かった。
中川	・今回のポイントは「他己紹介」だったが、参加者の方からは技術提案の中身をもっと充実させたかった、といった声も。交流会としてのテーマをどのように掲げるか、その中で学びや技術知見の共有をどう含めて満足度を高めるか今後の課題。
白井	・全般に準備がもっと早く進められたはず。 ・青年スタッフの役割分担が当日にしか明示できなかった。 ・準備手順をなるべく標準化して青年スタッフの負担を減らしたい。 ・フキデ倉庫の荷物移動が必要になった。協力的な会場だったが、他に会場がないのか継続調査が必要。 ・インタビューのデモンストレーションは事前に概要を決めておいたほうがよかった。 ・インタビューの順番があいまいなお順かアルファベット順か、資料が統一されてなかったことに気付いてなかった。 ・会場の机配置や名簿だけでなく、当日する作業が多かった。 ・配布資料重ねる作業やアルファベットシールの準備は、クリップボードにつけて箱に入れておくまで、事前にしておける内容とおもった。だから配布資料一覧スライドの順番とお手元で重なってる順番が違った。 ・名札は事前に切り出して準備できたが、ストラップの色で事前準備に不足。スライド修正が必要となった。 ・チラシとホームページの時間の案内に差があったことに気付いてなかった。 ・スクリーンや模造紙が司会席からみえなかった。 ・G グループからもみえなかった印象。斜めにしてよかったかも。 ・運営委員会で他の議題の時間をほとんどとれなかった。ごめんなさい。 ・当日緊張からか着込みすぎか、汗をかきすぎた。 ・交流会のメのあいさつは気のきいたことを言えなかった。 ・神保町アリゴではスタッフ含めて30人近く参加あったが、参加者数が確定せず、移動時の誘導が難しかった。

古川	・特になし
瀧川	<ul style="list-style-type: none"> ・CPD 表のナンバリングをしておらず、当日バイндаを外してナンバーを書く事になってしまったこと。竹入さん、一緒に書いて下さり、ありがとうございました。 ・受付名簿はあいうえお順のほうがよい。 ・買ったネームホルダーを当日忘れ、皆様にご迷惑をおかけしました。当日持ち込みはしないようにします。100 均が近くにあってよかったです。会場が変わるときは、いざという時のため近くの 100 均(青年の道具はほぼ揃う)を要チェック。

3. その他なんでも！

田角	<ul style="list-style-type: none"> ・4月特別例会は、毎年準備がとても大変だと思います。今回も皆さんお忙しい中、企画・準備をしてくださったことと思いますが、今年もスムーズな進行で大変盛り上がり、よいイベントになったと思います。4月担当の皆さんありがとうございました。 ・古川さん、細野さんは今回で委員をやめられるとのこと、とても残念です。お二人ともお仕事がとても忙しくなってしまったようで、大変そうとは思っていたのですが……。古川さんの場をなごませて話を盛り上げるプレゼン術はすばらしかったです。1月見学会でも大変お世話になりました。細野さんは直接は一緒にイベントをやったことはないのですが、特別例会後の交流会の人集め(去年まで)など、何かとイベントごとに一生懸命奔走して下さっていたイメージです。お二人が抜けると穴がでかいなあ……。本当にどうもありがとうございました。
竹入	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて4月のイベントに参加できました。人数増えてもほとんどの参加者の方が笑顔でお帰りになられるのですごいですね。またC班でも技術に走りがちになってしまい、他己紹介は後半にばあーっと上げる形になりました。「このさいぶっ飛んだもの考えようぜ！」とみなさま目をキラキラさせていたので、タイミングを計って1回だけそれとなく誘導しました。本題からズレてるけど楽しそうに議論している姿をみると主催者が意図する方向にもっていくのって難しいですね。
横田	<ul style="list-style-type: none"> ・2次会での白井さんのテーブルの飲みっぷりが印象に残りました…。
小塚	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークは「他己紹介」が主であることを事前に説明はしていたので、これを基準に順位付けすることに問題は無かったのではと思います。 ただ、その意識が全グループ同じレベルで共有されるように、ファシリテータが助言するように事前に申し合わせておけば良かったのではとも思います。 ・60名近い参加者のあるイベントの企画・運営は苦労が絶えなかったのではと思います。4月担当の皆様、ありがとうございました。
赤木	<ul style="list-style-type: none"> ・外部会場のため、会場確保から会場との調整など大変だったと思います。4月担当の方々おつかれさまでした。 ・細野さん、古川さん、おつかれさまでした。ぜひ青年に復帰してください。
太田望	<ul style="list-style-type: none"> ・細野さん、古川さん、短い間でしたが、一緒に活動できて楽しかっただけでなく、研鑽意欲が高いお二人から刺激もいただきました。ありがとうございました！
北元	<ul style="list-style-type: none"> ・外部会場ということや、当日欠席となる申込者への対応など、いろいろなことで大変ご苦労があったことだと思います。とてもいいイベントでした。本当にお疲れ様でした。
川崎	<ul style="list-style-type: none"> ・白井さんと小野寺さんのインタビュー、アドリブとは思えない掛け合いの上手さでした。

	<ul style="list-style-type: none"> ・中川さんの進行やコメントが非常に上手でした。 ・外部なので不足あったときの対応が困難な中、用意を周到にされていたことが素晴らしかったです。 ・荷物や、資料枚数多く大変だったと思います。お疲れ様でした。 <p><ファシリテーターを担当して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・他己紹介、最初のインタビュー結果の利用を6回程度言いましたが、提案案件作成に参加者は向かってしまいました。 ・議事進行は参加者に任せましたが、他の参加者の話を遮ってしまったりする参加者もいて、交流を目的としているので、進行や整理をもう少し行っても良かったかと思います。
磯部	<ul style="list-style-type: none"> ・青年の伝統行事を理解出来ました。大規模イベントの準備、幹事の皆様本当にお疲れ様でした。
田中	<ul style="list-style-type: none"> ・2部の料理、けっこう余っちゃいましたね。 <p>みなさん食事も忘れて盛り上がってくれていたということであればいいですね。</p> <p>2部の間、フキデに荷物を戻してくれたお三方、ありがとうございました！</p> <p>赤木さんはわざわざ戻ってきてくださりありがとうございます！</p> <p>横田さん、二次会のお店を確保してもらい有難うございます！</p> <p>ご友人にご迷惑でなかったか心配しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年ならここで少し気を緩めちゃうのですが、今年はまだ全国大会がありますね！全国大会もこの勢いでいきたいですね！！ ・5月もいくつか申し込みがきているようでいい感じですね。下野さんの宣伝が良かったですね。5月以降もよろしく願います！ ・細野さん、古川さん、ほんとうにお疲れ様でした。たくさん貢献して頂きありがとうございました。全国大会くらいは遊びに来てくださいねb
丸山	<ul style="list-style-type: none"> ・特別例会担当の皆さまお疲れ様でした。 ・古川さん、細野さんもお疲れ様でした。最後まで責任も持ってお仕事されていて素晴らしいと思いました。
細野	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間、大変お世話になりました。時間ができれば、参加者として顔出します。 <p>(大学の先輩である岡本さんをよろしく願います)</p>
伊藤	<ul style="list-style-type: none"> ・青年メンバーの名札管理を何とかしたいです。毎回誰かしらの名札がホルダーから抜き取られていたり、名札そのものが見当たらなかつたりです(;^ω^) 無くなった分を作って翌月持参しても、また別の人の名札が無くなつたりで。みなさま、抜き取ったり移動させたりした場合は、例会終了後は元通りに戻して下さいますようお願いいたします～。
小野寺	<ul style="list-style-type: none"> ・白井さん、中川さん、お疲れ様でした！現形式での、交流という目的達成という意味では、かなりの面で、サミット状態に達してしまったかも。来年からどうするー??
下野	<ul style="list-style-type: none"> ・準備された方、お疲れ様でした。
太田道	<ul style="list-style-type: none"> ・白井さんと中川さんのコンビは最強ですね。台本があるようでした。 ・松井さん、本当にありがとうございました。 ・受付の場所や荷物搬送の手間を考えると、今後は葺手で開催することを考えてもいいかもしれません。
中川	<ul style="list-style-type: none"> ・今回を最後に卒業の古川さん、細野さん、お疲れさまでした。ご一緒できてとても楽しかったです。ありがとうございました。

白井	<ul style="list-style-type: none">・青年スタッフのみなさまのおかげで当日乗り切れたと感謝いたします。どうもご協力ありがとうございました。
古川	<ul style="list-style-type: none">・皆さんありがとうございました！
瀧川	<ul style="list-style-type: none">・白井さん、中川さん、古川さん、ご参加されたみなさま、ありがとうございました。・第二部にご参加された方、後日 1500 円ずつ徴収させていただきます。よろしくお願ひします。・古川さん、細野さん、いろいろとお世話になりました。どうもありがとうございました。今後の益々のご活躍をお祈りしています！

行事名	課題解決手法の体系とその応用:クロス SWOT 分析を用いた技術者としてのキャリア戦略作成演習
日時	平成 28 年 5 月 28 日(土) 13:30~17:00
場所	葺手第 2 ビル 日本技術士会 会議室 C・D
講師、発表者	講師 熊坂治氏
担当者: (○印:リーダー)	○下野五月、丸山奈緒子、赤木宏匡
参加者数	25名

1. 背景・目的

5月の例会(以下「本例会」という。)は、4月の例会「一次・二次試験合格者交流会」に参加された方を主な対象に、1次試験又は2次試験の合格を受けてこれから技術士又は修習技術者として活躍するために重要な能力の研修を行うこと、及び今後も技術士会のイベント(青年技術士交流委員会の例会を含む。)に参加してもらえるようにすることを目的とする、リピータ向け企画とした。但し、技術部門にとらわれない汎用的なもので、多くの人にとって意味があり、興味を持つことを要件とした。

2. 例会内容

2. 1. 内容について

技術士として重要な能力の1つに、課題解決能力、解決策のデザイン能力があり、このような能力を開発するための研修とした。

このような能力の開発には専門家による新たな知識の習得が有益と考えたため、委員以外から講師を招聘することとし、課題解決手法の専門家であり、技術士であり、コンサルティング業務を行っており、独立経験と起業経験がありそのキャリアが多くの技術士にとって参考になる点を重視し、熊坂治氏にお願いした。

形式は、新たな知識を身に付けることを意図した講演と、「参加型」及び「発信」を意図したグループワークを合わせた2部構成とした。

第1部では、講師の経歴を含む自己紹介と、課題解決能力に係る体系的な知識を身に付けることを意図した課題解決手法の体系の講演を行った。

第2部では、応用として、課題解決手法のなかからクロス SWOT 分析手法を取り上げた。参加者は、自身のこれからの技術者としてのキャリア戦略を考える手がかりとし、どんな人生を送りたいか考える機会を持ってもらうため、その手法で自己分析を行い、CPDの積み方のプランを立ててもらった。その際、70歳でどうなりたいかをゴールとして設定し、60歳、50歳と年齢の逆順に分析を進めた。分析にはクロス SWOT 分析シートを用いた。参加者には事前に70歳、60歳、50歳の姿を描いてきてもらった。グループは、4人から5人で1グループとした。

2. 2. 講師について

熊坂氏は、1979年に東北大学工学部応用物理学科を卒業し、同年にパイオニアに入社。2009年12月に独立し、熊坂技術士事務所を開設し、製造業を中心とする技術経営コンサルティング業務を行っている。一方で、株式会社産業革新研究所を立ち上げ、ものづくりの課題解決を支援するポータルサイト「ものづくり.com」を運営する。また、2010年より山梨学院大学現代ビジネス学部の講師をつとめて「ものづくり経営論」を教えている。技術士(経営工学部門、総合技術監理部門)。

2. 3. 対象者について

本例会の目的に徴して、技術士一次試験又は二次試験の新規合格者を主な対象とした。また、年齢制限は設けなかった。但し、グループワークの内容から70歳以上の人向きではないが、年齢制限を設けない代わりに、各種案内では70歳を技術者としてのゴールに設定したグループワークを行うことを明示した。

2. 4. 参加費について

例会は無料、交流会は2000円とした。

2. 5. 役割分担について

スタッフの役割分担を次表に示す。

項目	担当者
【広報・事前準備関連】	
参加者の人数管理と名簿管理	下野
参加者との連絡	下野
ブログ執筆	丸山
同報メール	下野、田中
月刊『技術士』への行事予定掲載依頼	下野、小野寺
日本技術士会 HP への CPD 行事予定掲載依頼	下野、小野寺
4 月例会での案内(案内資料の配布と口頭での案内)	下野
4 月例会参加者へのお礼メールでの案内	4 月例会幹事(松井)
3 月例会参加者への案内	3 月例会幹事(山田)
クロス SWOT シートの準備	丸山
外部アンケート、CPD 参加票、封筒の準備	赤木
名札カードとストラップの準備	下野
【講演及びグループワーク関連】	
受付	瀧川、高橋
司会	丸山
主幹事による挨拶	下野
委員長による挨拶	中村(委員長代理)
写真撮影	北元
【交流会関連】	
交流会(ケータリング準備等)、二次会候補準備	赤木
買い出し	赤木、川崎

2. 6. 開催日までの作業について

開催日までの作業を次表に示す。

日程	作業
2/13(土)	運営委員会で熊坂氏、高木氏、及び鎌田氏を講師の候補とし、順に打診することを決定。
2/16(火)	熊坂氏へ依頼を行い、講師に決定。
2/27(土)	熊坂氏と品川の喫茶店ルノワールで打合せ。
3/26(土)	午前の運営委員会で企画案の説明と議論を実施。
3/30(水)	5/1 発行の月刊『技術士』への行事予定掲載を下野から小野寺へ依頼。
4/3(日)	当委員会のブログで案内を掲載。その際、未だ申込み受付していない旨を記載。
4/4(月)	日本技術士会 HP の CPD 行事予定に案内を掲載(申込みボタンなし)。参加希望者を当委員会のブログへ誘導。
4/16(土)	午前の運営委員会で企画案の説明と議論を実施。例会で参加者全員に案内資料を配布し口頭で案内。
4/17(日)	4 月例会幹事より 4 月例会参加者へのお礼メールで案内。
4/16(土)～ 4/23(土)	4 月例会参加者の優先的受付期間。event05 の ML へ参加申込のメールを送ってもらう。
4/23(土)	CPD 支援委員会主催の合格者祝賀会で案内資料を配布して案内。
4/24(日)	一般受付開始の旨を当委員会のブログに掲載。
4/25(月)	日本技術士会 HP の CPD 行事予定に申込みボタンを設置。
4/25(月)	3 月例会参加者へ案内資料を用いた案内を 3 月イベント担当者へ依頼。
4/25(月)	案内資料を用いた案内を青年委員全員に依頼。
4/26(火)	同報メールを配信。
4/28(木)	定員に達したため、日本技術士会 HP の CPD 行事予定の申込みボタンを撤去。また、キャンセル待ちを開始した旨を掲載。
4/28(木)	定員に達したのでキャンセル待ちを開始した旨を当委員会のブログに掲載。
5/21(土)	申込受付を締切り。
5/28(土)	午前の運営委員会で当日の動きの確認等を実施。午後に本例会を実施。
5/29(日)	例会の終了報告を当委員会のブログに掲載。ブログには集合写真を掲載した。また、コメントを残せるようにした。

2. 7. 開催日の進行について

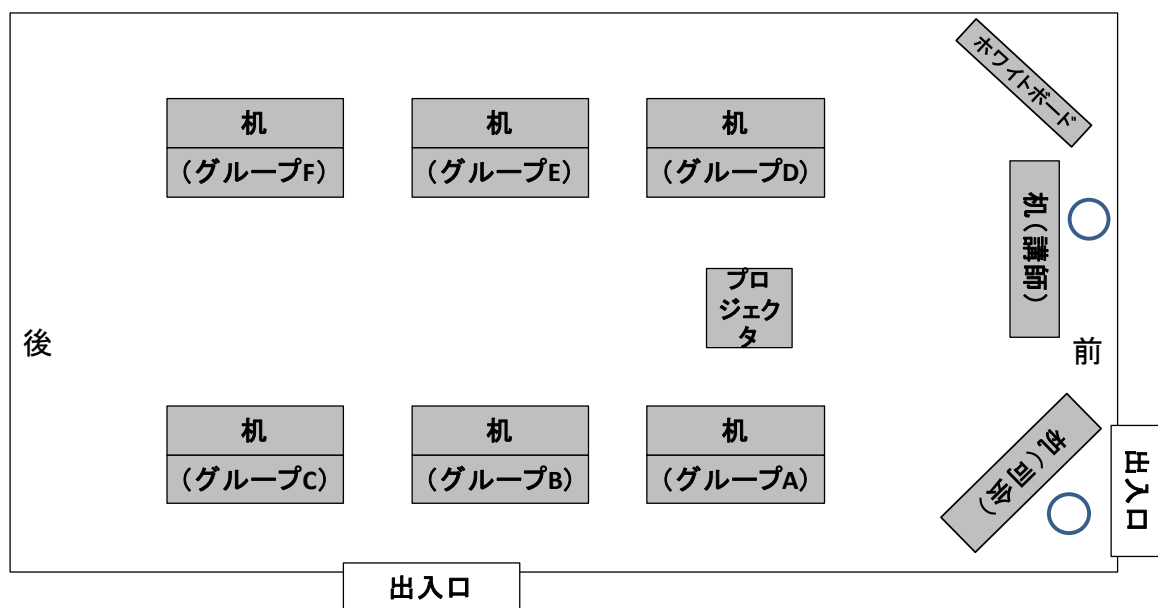
当日の進行を次表に示す。

13:00	・受付開始
13:30～13:45(15 分間)	・司会による開始の挨拶 ・主幹事による挨拶 ・委員長(委員長代理)による挨拶と青年技術士交流委員会の紹介 ・司会による当日の流れの説明、講師の紹介
13:45～15:35(110 分間)	・講師による講演
15:35～15:45(10 分間)	・休憩
15:45～17:15(120 分間)	・グループワーク 1. 実施方法の説明 2. 個人ワーク 3. グループディスカッション 4. 各グループの代表者による発表(3分×6グループ) 5. 講師による講評
17:15～17:30(15 分間)	・交流会の準備
17:30～19:00(90 分間)	・交流会(講師は参加した)

特記事項を以下に示す。

(1) 机のレイアウト

次図のレイアウトのとおり、6 グループ作成した。参加者は 25 人なので 4 人グループが 5 つと 5 人グループが 1 つとなった。参加者の着席場所は自由とした。



(2) プロジェクタ

講師が持参したノート PC をプロジェクタに接続した。

(3) 資料

各参加者に、「レジユメ」、「なりたい自分シート」、及び「クロス SWOT 分析シート」を各人 1 部ずつ配布した。但し、レジユメの電子ファイルは予めメール添付で参加者に送った。

(4) 名札

事前に名札カードを作成し、それをストラップに入れて装着した。ストラップの色は、写真撮影可能な参加者が青、写真撮影不可な参加者が赤、講師と運営スタッフが黒又は緑である。

2. 9. 交流会について

イベント開催場所で立食形式の交流会を開催した。交流会ではアルコール飲料を提供した。食事はケータリング業者(SEASON 社)でのデリバリー及びマルエツでの購入とした。飲料はカクヤスでのデリバリーとした。マルエツでの購入はスタッフによる買い出しを行った。

購入品の明細および会計収支は以下のとおりである。

食事(SEASON) http://catering-season.com/	<ul style="list-style-type: none"> ・デリバリーコース、スタンダードプラン(6品) 990 円/人 ・追加 1 品(唐揚げ) 270 円/人 ・取り皿セット 30 円/人 ・別途、配達料(2,100 円)、消費税を含め、31 人分で合計 43,201 円 ・事前に受領した見積では 45,457 円だったが…。差額はあえて不問。
酒(カクヤス) http://delivery.rakuten.co.jp/g/ka-kuyasu/?scid=a_del_pc_ss_kakuyasu	<ul style="list-style-type: none"> ・アサヒ クリアアサヒ(350ML) 24 缶 2,767 円 ・サントリー 金麦(350ML) 24 缶 2,767 円 ・サッポロ ホワイトベルグ(350M) 24 缶 2,767 円 ・キリン ほろにがレモンライム(350ML) 8 缶 1,064 円 ・キリン ほろにがグレープフルーツ(350ML) 8 缶 1,064 円 ・サントリー 角ハイボール(350ML) 8 缶 1,632 円 ・サントリー シトラスハイボール(350ML) 8 缶 1,632 円 ・計 104 本で、13,693 円
その他(マルエツ)	<ul style="list-style-type: none"> ・ウーロン茶(2L) 1 本 138 円 ・緑茶(2L) 1 本 138 円 ・ポテチなどつまみ 4 袋 869 円 ・コップ(10 個) 2 袋 216 円 ・計 1,452 円
一次会小計	<ul style="list-style-type: none"> ・収入 60,000 円 (2,000 円/人 × 30 人) ・支出 58,346 円 (43,201 円 + 13,693 円 + 1,452 円) ・収支 1,654 円 (60,000 円 - 58,346 円)
二次会(モリガンズ) http://tabelog.com/tokyo/A1307/A130704/13055688/	<ul style="list-style-type: none"> ・収入 22,000 円 (2,000 円/人 × 1 人(早退) + 2,500 円/人 × 8 人) ・支出 22,626 円 ・収支 -626 円
合計収支	<ul style="list-style-type: none"> ・1,028 円 (1,654 円 - 626 円)

3. 成果と所感

3. 1. 参加者について

4 月イベント参加者の優先受付期間である 4/16(土)~4/23(土)の間に 4 月例会参加者から 9 名の申込みがあった。最終的に参加者数は 25 名となり定員と同数となった。キャンセル待ちは 3 人であり、そのうち 1 人が最終的に参加した。全参加者のうち交流会には 19 名が参加した。開催場所の制約から定員を 25 名としたが、同報メールを送信してから約 1 日で定員に達した。今後同様な例会を開催する場合はより大きな開催場所が好ましいと考える。

70 歳を超えた参加者が 1 名いたが、グループワークの内容が 70 歳を超える参加者向きではないことを事前に説明したが、クロス SWOT 分析に興味があるとのことであった。

外部アンケートの結果からは、25 人中 17 人(68%)が 2 回以上参加者であり、リピーター企画としての狙い通りであった。

3. 2. 例会の内容について

前半の講演のうち講師の自己紹介からは、講師の生き方や経営コンサルとしての仕事が興味深く受け取られたことがうかがえる。前半の講演のうち課題解決手法の体系からは、個々のツールについての説明だけではなく、目的に合ったツールの選び方についての説明が反響が大きかった。後半のグループワークでは講演で学んだ課題解決手法を用いて、講師の経歴を参考に、自身のキャリアプランを考察できたと考える。

外部アンケート結果で 90%以上の参加者から「ほぼ満足している」以上の評価を得られていることなどから、全般的に好評であった。

3. 3. 交流会について

交流会を立食形式にするのは、講師や参加者同士で話しやすく、「交流の場」として良かったと考える。

3. 4. その他の事項について

外部アンケートの結果で参加目的が「安価(無料)」との回答もあったが、参加費を無料とするのは参加者の参加意欲を高めるためには好ましくないとの意見もあり、今後の検討課題としたい。

当委員会のブログの終了報告で、参加者同士の交流を図るため、コメントを付けられるようにした。また、集合写真を掲載して参加者がブログを見るためのインセンティブとした。集合写真については参加者から参加者同士の顔を思い出すのに有効との意見があった。今後は、コメント数やコメント内容等を今後調査して、その有効性を検証していきたい。

講師から、参加費を熊本地震の被災者へ募金されたいとの希望があったが技術士会内に窓口が無く断念した。このような場合の窓口を技術士会内で作れないか議論したい。

日本技術士会 HP の CPD 行事予定で、定員に達すると自動的に申込みボタン消えて、キャンセルがあると自動的に申し込みボタンが付くようにして、参加者数を定員丁度に自動的に調整するシステムがあると便利に感じた。

3. 5. アンケートの結果について

外部アンケートの結果と内部アンケートの結果を別紙に示す。

4. 今後の展開

本例会が目的とした「これから技術士又は修習技術者として活躍するために重要な能力の研修を行うこと」や、「これからの技術者人生を考える」ことは、参加者から好評だったと考えるので、来年度以降も「リピーター向け企画」として同様のコンセプトで実施することは有効と考える。

以上

4. 実施状況



講演の状況



グループワークの状況



講演の状況



交流会の状況



講演の状況



交流会の状況



グループワークの状況



交流会の状況



グループワークの状況

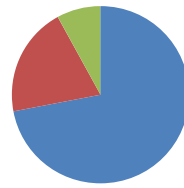


集合写真

●今回の例会について

Q1-1. 講師の話し方や進め方

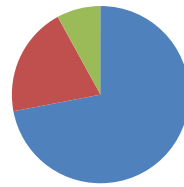
満足度	人数	割合 (%)
(a) 満足	18	72.0
(b) ほぼ満足	5	20.0
(c) 普通	2	8.0
(d) やや不満	0	0.0
(e) 不満	0	0.0
合計	25	100.0



- (a) 満足
- (b) ほぼ満足
- (c) 普通
- (d) やや不満
- (e) 不満

Q1-2. 講師の用意した資料

満足度	人数	割合 (%)
(a) 満足	18	72.0
(b) ほぼ満足	5	20.0
(c) 普通	2	8.0
(d) やや不満	0	0.0
(e) 不満	0	0.0
合計	25	100.0



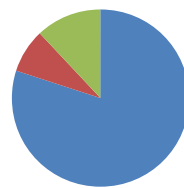
- (a) 満足
- (b) ほぼ満足
- (c) 普通
- (d) やや不満
- (e) 不満

Q1-3. 講師に伝えたいこと

- ・とても勉強になりました。話がとてもききとりやすく、分かりやすかったです。
- ・ものづくり工学マトリクス活用させていただきます。
- ・ご紹介のあった手法、これから勉強させていただきたいと思います。
- ・熊坂さんの姿が目標になりそうです。
- ・大変良かったと思います。
- ・難しいから価値があるというのがとても納得しました。
- ・おもしろかったです。
- ・将来経営コンサルタントとして仕事をしていきたいと考えていたところでしたので、経営に関するお話が沢山うかがえてよかったです。ありがとうございました。
- ・昨夜、ものづくり.comを拝見しました。活用させていただきます。どのようにモチベーションを保っていらっしゃるのですか？
- ・わかりやすく、ものづくりに対する考え方や分析など、ご教授くださり、ありがとうございました。
- ・ツールを全て覚えるより、課題にあったツールを使うというのが目からウロコだった。
- ・ものづくり革新プロセスについて、さらに詳しい講義をいただきたいと思いました。
- ・ありがとうございました。分析方法勉強したいです。
- ・東北大学(青葉会幹事)技術士会、東北工大技術士会、仙台の大学の技術士会交流会を促進してください。
- ・半生記も興味深かったです。
- ・半生、興味深かったです。
- ・初めから本題に入ったほうが良かったような・・・。

Q2-1. スタッフの対応

満足度	人数	割合 (%)
(a) 満足	20	80.0
(b) ほぼ満足	2	8.0
(c) 普通	3	12.0
(d) やや不満	0	0.0
(e) 不満	0	0.0
合計	25	100.0



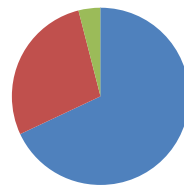
- (a) 満足
- (b) ほぼ満足
- (c) 普通
- (d) やや不満
- (e) 不満

Q2-2. スタッフに伝えたいこと

- ・良い企画だと思います。
- ・スムーズな進行をありがとうございました。
- ・準備等してくださってありがとうございました。
- ・午前からの準備、おつかれさまでした。
- ・ワークショップがおもしろかったです。会社でもやってみようと思います。
- ・事前の準備から、当日ご説明や丁寧にご対応くださり、ありがとうございました。
- ・お世話になりました。
- ・おつかれさまでした。また参加したいです。

Q3. 全体として

満足度	人数	割合 (%)
(a) 満足	17	68.0
(b) ほぼ満足	7	28.0
(c) 普通	1	4.0
(d) やや不満	0	0.0
(e) 不満	0	0.0
合計	25	100.0

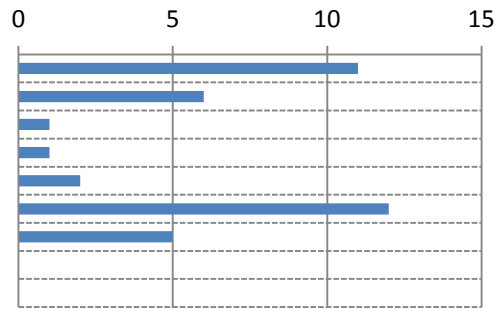


- (a) 満足
- (b) ほぼ満足
- (c) 普通
- (d) やや不満
- (e) 不満

●参加するまで

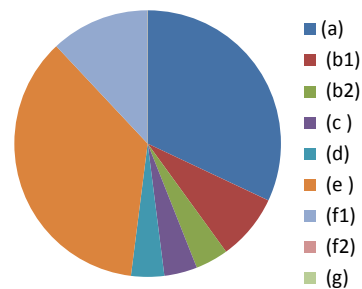
Q4-1. 今回の例会をどのように知りましたか

媒体	回答数
(a) 技術士会同報メール	11
(b1) 技術士会/青年委員会のHP	6
(b2) その他	1
(c) 青年委員会のブログ	1
(d) 月刊PEの行事予定	2
(e) 以前に参加した青年委員会の例会	12
(f1) 青年委員会のメンバー	5
(f2) その他	0
(g) その他	0



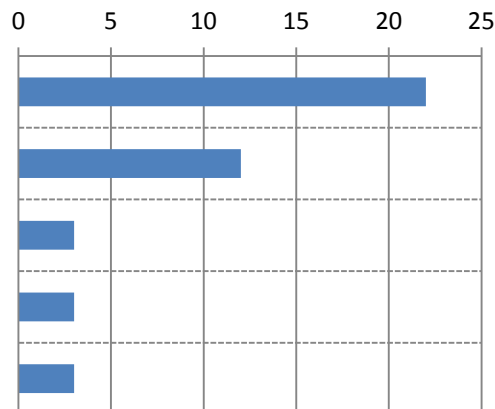
Q4-2. 参加のきっかけ

媒体	回答数	割合 (%)
(a) 技術士会同報メール	8	32.0
(b1) 技術士会/青年委員会のHP	2	8.0
(b2) その他	1	4.0
(c) 青年委員会のブログ	1	4.0
(d) 月刊PEの行事予定	1	4.0
(e) 以前に参加した青年委員会の例会	9	36.0
(f1) 青年委員会のメンバー	3	12.0
(f2) その他	0	0.0
(g) その他	0	0.0
合計	25	100.0



Q5. 参加目的

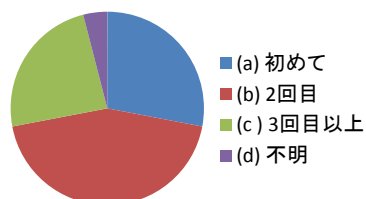
目的	回答数
(a) 例会のテーマや内容について興味があった。知りたかった。身につけたかった。	22
(b) 例会の参加者と知り合いになりたかった。(人脈を広げたかった)。	12
(c) 青年委員会という組織や活動について知りたかった。	3
(d) CPDのポイントをもらいたかった。	3
(e) 上記以外	3



- ・安価(無料)である。
- ・今回オブザーバとして参加させていただき、イベントには不参加の予定でしたが、参加させていただき、ありがとうございました。
- ・知識などの向上

Q6. 青年委員会への参加回数

回数	人数	割合
(a) 初めて	7	28.0
(b) 2回目	11	44.0
(c) 3回目以上	6	24.0
(d) 不明	1	4.0
合計	25	100.0

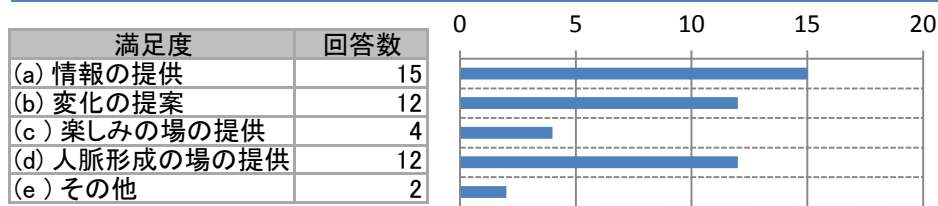


Q6-1. 過去の例会で印象深かった・面白かったテーマ

- ・3回目ですが、今回が特に興味深く、勉強になりました。
- ・合格者交流会(4月)×4名
- ・サッカー
- ・今回は講師よかったです。新宿での居酒屋は場所的に怖かったです。

●青年委員会の活動について

Q7-1. 開催してほしいイベント



具体 ↓

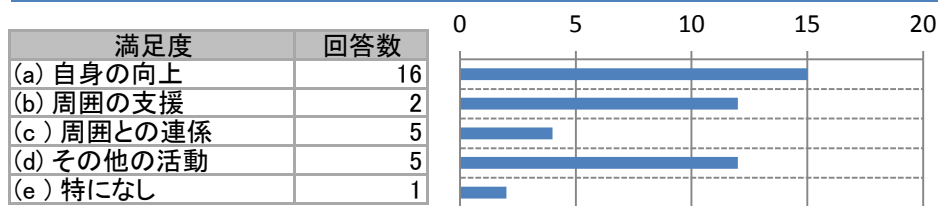
- (a)
- (b) 語学、国際交流
- (c) 交流会
- (d) 国際交流
- (e) 英語の勉強会、具体的ではありませんが、技術から離れたところでのイベント

Q7-2. 内容以外についての希望

・土曜日でいいと思います。

●技術士または技術者としての活動について

Q8. 技術士または技術者としての本業に加えての活動



具体 ↓

- (a) 資格取得、勉強会への参加、交流をアクティブに、TOEIC・キャリアカウンセラーの資格取得、技術士(総監)受験、通信制大学院
- (b)
- (c) 交流会、Facebook、Mixi
- (d) 部会の幹事、NPO法人の参加、中小企業の技術支援、技術士の資格取得支援、社内で技術士試験の勉強会講師、地元の町内会(青年部)
- (e) 英語の勉強会、具体的ではありませんが、技術から離れたところでのイベント

●参加者基本情報

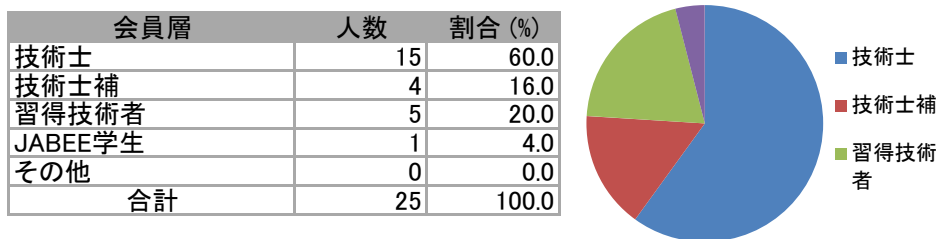
Q9-1. 技術部門



Q9-2. 年齢層



Q9-3. 会員層



以上

1. 良かった点

- 4月合格者交流会参加者の優先受付ができたこと。
- 4月例会のリピーターの方が多く、イベントに満足されているのが実感できた点
- リピーター企画の目的であるリピーターの獲得がうまくできていた。→4月からのつながりが機能していた。
- リピーターの獲得の目的に沿っていたこと。
- 懇親会で聞いたところ、参加者の満足度が非常に高かった点(企画がいい、普段考えないことを考えたり、他の方の考えが聞けた、熊坂先生にお会いできた などの声を頂きました。)
- セミナーの内容が良かった。懇親会での話で、参加者の満足度が高かった。
- キャリアプランを考えるというテーマが、5月の時期にあっていた。(ような気がした)
- 技術者共通の話題であったため、参加者の満足度が高かったと思う。
- 技術士を講師として招聘したのは技術士からの発信の観点から好ましいと思う。
- 講師が技術士であり、技術士としてのキャリアを意識させる内容だったこと。
- 青年委員からの参加者が早く来た一般の参加者方と同じテーブルに座り、交流をしてくださったこと。おかげで、会場全体も開始前から名刺交換をしたりと良い雰囲気になりました。
- 事前課題により、グループワークに入りやすかったのではないのでしょうか。
- 交流会を立食形式にするのは、講師や参加者同士で話しやすく、「交流の場」として良かったと思う。
- 立食形式の懇親会はいろいろな人と話しやすく良かったと思います。(赤木さん、ありがとうございました。)
- 交流会の料理の質が良かった。量も多すぎず、少なすぎず、ちょうど良かった。
- 集合写真は参加者同士で互いに顔を思い出すのに有効との意見があった。
- 参加者の集合写真を青年ブログにアップしたこと。
- 集合写真をブログに載せるのは、後から参加者の顔が思い出せるし、参加できなかった方も雰囲気を感じてもらえるのではと思った。
- 案内資料を作るのは各所で勧誘するのに省力化や内容の統一ができて都合がよかった。

2. 改善したい点

- グループワークの時間がやや短い印象でした。(個人の発表に対して、内容を深めるには時間が短い印象でした。熊坂さんが、回りつつアドバイスしていましたが、タイミングの問題もあったように見受けられました)
- 5月例会の目的には「リピーター向け企画」として「これからの技術者人生を考える」をもっと打ち出しても良かった気がする。「これから技術士又は修習技術者として活躍するために重要な能力の研修」よりもこっちの方が参加者にとって反響が大きかった気がする。
- 講師から、参加者の席を予め決めておかないと、知人同士がかたまってしまう可能性があるとの意見があった。
- 参加費を無料とするのは参加者の参加意欲を高めるためには好ましくない、との意見があった。
- セミナーの内容(熊坂先生の話)から、参加費無料では参加の効果が少ないとのこと。(参加費を徴収することで「もとをとってやろう」として、真剣度が増す)→(少額の)参加費の徴収を検討しても良いかもしれない。
- C,D 会議室はやはり狭いですね。青年の居場所がきつかったです。
- 隣の会場のマイクがうるさく感じられた点(会場のつくり上、仕方ないことかもしれませんが)
- A,B 会議室でマイクを使用されると音が漏れてうるさかったです。こちらもマイクを使用するべきでしたでしょうか。
- CPD 行事予定で定員に達すると自動的に申込みボタン消えてキャンセルがあるとボタンが付いてほしい。
- 定員割れや交流会の準備のため、ドタキャンがどれくらいの割合発生するのか統計データがあると良かった。
- 4月合格者交流会の優先受付をメールで行ったため、かなりきめ細かいやり取りと手間が必要でした。(下野さんありがとうございました。)
- 下野さんの参加者調整が大変だった。毎回のことですが、ボタンの制御、キャンセル待ちの対応など、個人に集中する仕組みを変えたいです。案は思いつきませんが・・・。
- 参加者に「写真撮影不可」を聞く際には、写真を撮られること自体が不可なのか、それとも、写真を撮られても良いがHP等に掲載されることが不可なのか、を区別すべきだった。
- CPD 行事予定で交流会に参加するかどうかを聞くには「参加・不参加」を選んで書いてもらうのではなく、参加

2016年5月例会 内部アンケート

希望の場合のみ「参加」と書いてもらう方が良かった。そうしなかったので空欄の場合に別途確認のメールのやりとりが発生した。

- 講師から、参加費を熊本地震の被災者へ募金されたいとの希望があったが技術士会内に窓口が無く断念した。このような場合の窓口を技術士会内で作れないか議論したい。
- 例会のほとんどの時間を CD 会議室から出ているので、グループワークなどみられませんでした。ごめんなさい。

3. その他

- 熊坂講師の人柄もよく、参加者の方も満足されていました。企画・準備された皆さんお疲れ様でした。
- 皆様のおかげで楽しく有意義な会になったと思います。どうもありがとうございました。
- 幹事の方々、お疲れ様でした。おかげさまで成功裏に終わったと思います。私も楽しむことができました。
- 下野さんをはじめ幹事の方々おつかれさまでした！
- 幹事でありながら、参加が遅くなり申し訳ありませんでした。
- 4月化学部会祝賀会でご案内した方が、青年にもきてくれた。
- 70歳の自分をイメージして、60、50に達成するアクションが見えてくると来月には英語例会に参加ですね、と交流会で宣伝しておきました。リピート率が高い方は、勧誘されてみてはどうでしょうか
- ケータリングは便利で費用を抑えられるのですが、時間指定の幅(1時間)があり、開始時刻に間に合うかひやひやすると、片付けが大変なのが課題ですね。
- 葦手を出たあとの二次会にも、来ていただけた参加者がいた。

以上

行事名	English Workshop および国際活動報告
日時	2016年6月25日（土）13:30-17:30
場所	葺出第二ビル 5階 会議室 AB
講師／報告者	Steven Ashton 氏／栗野 委員補佐、高橋 委員補佐、中川 委員
担当者（○：リーダー）	横田、栗野、○松井
参加者数	32人

1. 背景・目的

- ・ English Workshop を通して、若手技術者が持つ『英会話への苦手意識』を克服する。
- ・ 国際活動報告を通して、若手技術者の国際感覚を醸成すると共に、同活動への参加者を獲得する。

2. 例会内容

2.1 English Workshop: Can't stop talking! How to keep an English conversation flowing

1. 講師

Steven Ashton 氏：

英国、ロンドン出身。University of Sussex で物理学を専攻、Imperial College, London で修士号取得。1997年に来日。現在は、大学、会社などで英語講師として従事。日本の中学、高校の英語教師に対する研修や文科省認定の英語教科書のレビューなども実施。また、声優、俳優としても活躍。声優としては、英国版「料理の鉄人」の服部幸雄氏の吹き替えとして、俳優としては、NHK 教育の「基礎英語ミニ(2012)」のプレゼンターとして出演。最近では、「八重の桜」のペリー役としても活躍。

2. 内容

<前半：Icebreaker>

- ・ ボディランゲージを用いた英単語の推測
- ・ 質問カードを用いた会話（初級・中上級と上級に分割）

<後半：Workshop>

- ・ 事前に調査した『尊敬する科学者・技術者』の紹介

2.2 国際活動報告

1. 報告者

栗野 委員補佐： CAFEO 33/YEAFEO Meeting 22 公費派遣者、国際グループサブリーダー

高橋 委員補佐： 第45回日韓技術士国際会議派遣者、国際グループサブリーダー

中川 委員： 英語 Working Group リーダー

2. 内容

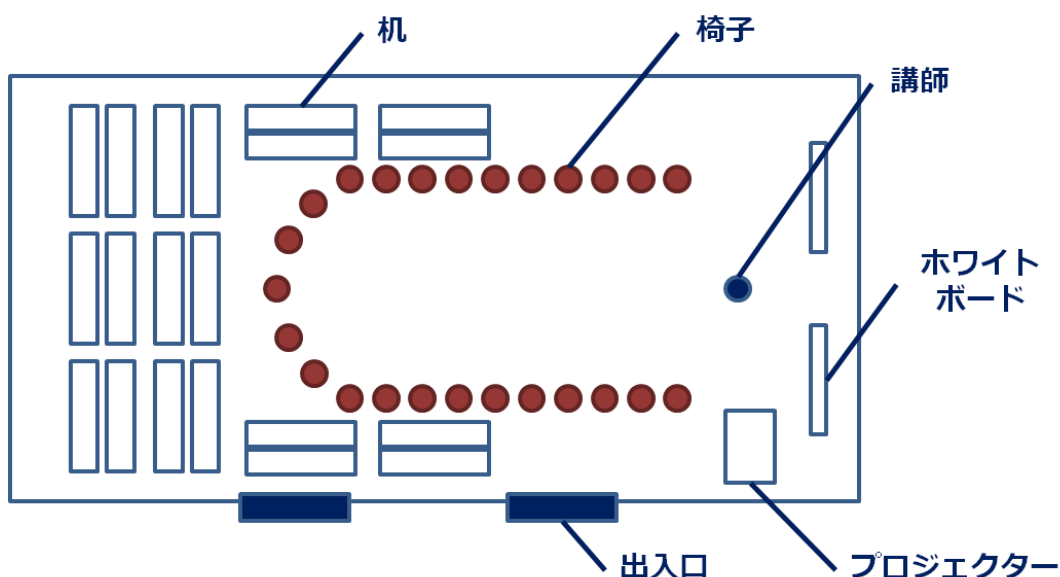
栗野 委員補佐： CAFEO 33/YEAFEO Meeting 22 参加報告および次回派遣者の募集

高橋 委員補佐： 第45回日韓技術士国際会議参加報告および次回派遣者の募集

中川 委員： 英語 Working Group 活動報告および活動参加者の募集

2.3 タイムスケジュール／会場レイアウト

13:00–13:30	受付
13:30–13:40	委員長挨拶
13:40–16:00	第一部：English Workshop
16:00–16:15	休憩
16:15–17:20	第二部：国際活動報告
	(1) CAFE0 33/YEAFEO Meeting 22参加報告（発表10分、質疑5分）
	(2) 第45回日韓技術士国際会議参加報告（発表10分、質疑5分）
	(3) 英語Working Group活動報告（発表5分）
17:20–17:30	講師より講評
18:00–20:00	懇親会



3. 成果と所感

3.1 成果

- ・ English Workshop では、参加者がとぎれることなく会話を楽しんでおり、英会話への苦手意識が払拭されると共に、継続的な学習へのきっかけを作ることができた。
- ・ 国際活動報告では、英語による報告の後、質疑が活発に行われ、今後の同活動への参加者を募ることができた。

3.2 所感

<横田>

- ・ 同報メールを打ったにもかかわらずほとんどの方が課題について認識されていない実感があり、事前連絡と調査すべき内容についてもう少し徹底したほうがよかったかもしれない。
- ・ Wi-Fi のアクセスポイントのパスワードご間違っており、調査時間をロスした方がいた。今後は

準備中にチェックした方が良いと思われます。

- ・ グループは初級が7割、中上級・上級で3割くらいであった。レベルわけで会話や質問カードの難易度わけができて適切だったと言える。
- ・ リピーターは少数(前回、前々回ともに2~3名程度)で内容も変わっているためにワークショップの内容の重複にもならず、楽しんでいただけたと考えています。

<栗野>

- ・ 参加者から「とても良い内容なのに、なぜ年に1回しかないのか」というコメントを多くいただき、英語への関心の高さが伺えました。また、「技術者にとって必要なのはTOEICではなくTOEFLや工業英検だ。」という意見も3件頂き、今後どのように反映していくか検討したいです。
- ・ 懇親会では「YEAFFEOに行きたいです。」と参加者の方から声を掛けていただき、プレゼンが不十分だった件のフォローをする機会が十分得られたのがラッキーでした。昨年の経験談や英語の学習方法、青年委員について簡単に説明しておきました。
- ・ 当日は忙しくてアシュトン先生とは少ししかお話できませんでしたが、やっぱり英語は使ってナンボだと思いました。何のために英語を勉強するのか、を再考するいい機会でした。英語学習のモチベーションも上がりましたので、今年のYEAFFEOでは去年以上に積極的に発言したいです。

<松井>

- ・ English Workshop について、一昨年から同じ講師にご担当頂いているため、「対象が誰で、レベルがどの程度であるか」、「どういった形式が好ましいか」を十分にご理解頂けており、想定通りの成果が得られたと考える。ただ、これを実現する上で、次の事項に配慮する必要があったことを明記しておく。
 - Speaking および Listening に特化し、参加者全員にその機会を提供する。
 - 参加者の『英会話の習熟度の差』に配慮する (ex. レベルに応じたグループ分け)。
 - リピーターを想定し、前回との内容重複を避ける。
- ・ 国際活動報告について、過去一年間の活動実績を F2F で伝えることができ、若手技術者にとって今後の国際交流の契機になったと考える。特に CAFEEO/YEAFFEO Meeting について、興味を持つ方から既にお問い合わせ頂いており、今年の公費/私費派遣者になって頂くべくフォローアップを行う。

4. 今後の展開

外部アンケートにて「よい企画なので続けて欲しい」、「今回の様な機会が多くあればもう少し上達しそう」との声を頂いていることから、英語 WG との協業による「年複数回開催」の実現性を検討したい。ただこの場合、毎回外部講師を招くことは予算、スケジューリングの観点で困難が予想されるため、YECメンバー主体の企画も併せて議論したい。



講師 Steven Ashton 氏



『尊敬する科学者・技術者』の紹介



CAFEO 33/YEAFEO Meeting 22 参加報告



第45回日韓技術士国際会議参加報告



英語 Working Group 活動報告



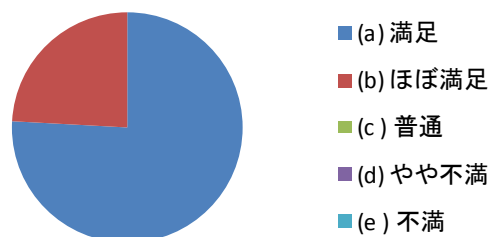
集合写真

以上

●今回の例会について

Q1-1. 講師の話し方や進め方

満足度	人数	割合 (%)
(a) 満足	22	75.9
(b) ほぼ満足	7	24.1
(c) 普通	0	0.0
(d) やや不満	0	0.0
(e) 不満	0	0.0
合計	29	100.0

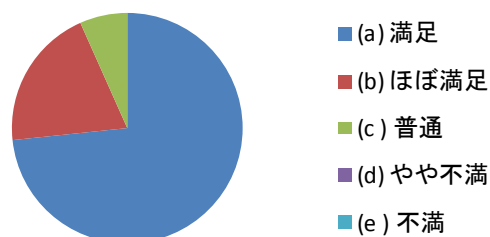


Q1-2. 講師に伝えたいこと

- ・ English brain storming → English presentationがあると良いです。
- ・ 今までに受けたことがないユニークさで楽しく受講できました。
- ・ いろいろと工夫して、参加者に話をさせようとしているのが分かりました。
- ・ 分かりやすく説得力のある内容でした。
- ・ 時間的な制約はありますが、個人の評価もしてもらえればよかったです。
- ・ 楽しく学べました。普段、職場で同僚と英語を使わないので、良い経験でした。
- ・ 講演有難うございます。
- ・ Great lecture.
- ・ 自信が付くように考えられたプログラムでした。
- ・ YECの紹介は分かりやすかったです。
- ・ 英語でしたが、分かりやすかったです。

Q1-3. スタッフの対応 (イベントの連絡、会場の準備、当日の進行)

満足度	人数	割合 (%)
(a) 満足	22	73.3
(b) ほぼ満足	6	20.0
(c) 普通	2	6.7
(d) やや不満	0	0.0
(e) 不満	0	0.0
合計	30	100.0

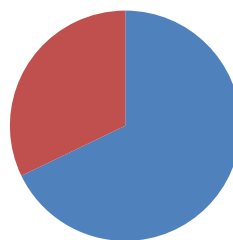


Q1-4. スタッフに伝えたいこと

- ・ 良い企画なので続けてください。
- ・ このような場を作っていただき、ありがとうございます。会話のハードルが下がりました。
- ・ 準備などお疲れさまでした。ありがとうございました。
- ・ 楽しい時間をありがとうございました。恥ずかしい感情をどう克服できるか課題です。
- ・ 準備ありがとうございます。
- ・ 運営がスムーズでよかったですと思います。
- ・ ご苦労様でした。今後もよろしくお願いします。
- ・ 司会の人はずっと英語ができる人が良いと思います。
- ・ 企画、準備、大変ご苦労様でした。ありがとうございました。
- ・ 楽しいイベントを企画いただきありがとうございます。

Q1-5. 今回のイベント全体について

満足度	人数	割合 (%)
(a) 満足	19	67.9
(b) ほぼ満足	9	32.1
(c) 普通	0	0.0
(d) やや不満	0	0.0
(e) 不満	0	0.0
合計	28	100.0



- (a) 満足
- (b) ほぼ満足
- (c) 普通
- (d) やや不満
- (e) 不満

Q1-6. 今回のイベントへの参加目的

- ・ 英語の会話力向上のため。
- ・ Brush up English skill.
- ・ Training English output ability, conversation for presentation.
- ・ 英語を話す機会をもっと持ちたいから。
- ・ 英語と長年付きあってきましたが、なかなかモチにならないので参加しました。
- ・ 社内で英語を必要とする機会が増えたため。
- ・ 英語を復習したいと思っており、英語とふれあえる機会を作りたいと考えたから。
- ・ I think it's very good chance to speak English more. And I would like to know about YEC activities.
- ・ 自分のレベルを確認したいため。TOEICは760ですが、会話はあまりできません。
- ・ どういったWorkshopなのかのぞかせて頂こうと思ったので。
- ・ 米国から教育体制の導入をしており、英語の勉強が必要なため。
- ・ Improving communication skill in English cause I will go to UK this summer to work.
- ・ 英語の上達。
- ・ 技術士会の様子を知ること。
- ・ 英語の学習方法、特にヒアリングのUP方法があれば説明お願いしたい。
- ・ 語学力向上。
- ・ 仕事に役立てたい。
- ・ To have opportunity of conversation.
- ・ Great job.
- ・ 英語を使う機会が多くなったので学習する気になりました。また、国際グループの活動を知りたいと思いました。
- ・ 職場で英語を話す機会が無いので、英語を話すきっかけに。
- ・ 実践形式で英語の勉強を行いたかったため。
- ・ Improvement of my English skill.
- ・ 英語を話せるようになるヒントを得たかった。
- ・ When we take English program lesson, we need to pay. But today's lesson is free. It's so nice.
- ・ 英語でのコミュニケーション力アップのため。
- ・ 英語を映画など以外で耳にして話したかった。
- ・ 英語アウトプットの場として。

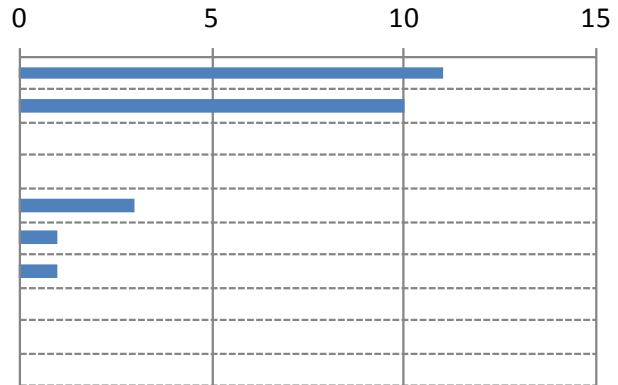
Q1-7.. 今回のイベントはどのように役にたったか?

- ・シャイにならずに、ミスを恐れずに積極的になることの重要性を感じた。
- ・ I love Steven-san's performance!
- ・短時間でまとめて話す訓練ができて精度が上がった。
- ・参加者相互の英語を通じた交流をもつことができた。
- ・今回のような機会が多くあれば、もう少し上達しそうな気がします。
- ・自ら英語で話す必要性がよく分かりました。
- ・英語を聞き、話し、伝える機会を得ることができました。
- ・学習方法の参考になりました。連想ゲームなどで発想を展開していくなど。
- ・徐々に英語を使う機会が得られました。
- ・日々、前向きに努力する必要性を再確認しました。
- ・自信が持てた。英語で話すことに。
- ・ワークショップの進め方、どうアイスブレイクしていくか、とても参考になりました。
- ・何でも良いから単語を発する。
- ・考える時間を多く取ってくれたのがよかったです。これからもこのようなイベントを期待します。
- ・今後の自分の指針となった。
- ・ To get opportunity of conversation in English.
- ・おかげさまで、会話にスムーズに入っていけそうです。
- ・相手の話を別の第3者に分かりやすく伝えることが重要だなと気づきました。
- ・ YES、NOで終わらせない、話を広げる会話の方法が勉強になりました。
- ・ I get the confidence to speak English. Thank you.
- ・英語は怖がらずに話さないと上達しないことが理解できました。
- ・ I was glad to take today's lesson. It's so friendly and enjoyable.
- ・間違っても良いので、とにかく話すことの大切さを学びました。
- ・ Naitive Englishを耳で聞くことができてよかった。
- ・アウトプットの重要性。

●参加するまで

Q2-1. 今回の例会をどのように知りましたか

媒体	回答数
(a) 技術士会メール	11
(b1) 技術士会のHP	10
(b2) その他	0
(c) 知りあいの技術士	0
(d) 青年委員会のブログ	3
(e) 月刊PEの行事予定	1
(f) 以前に参加した青年委員会の例会	1
(g1) 青年委員会のメンバー	0
(g2) その他	0



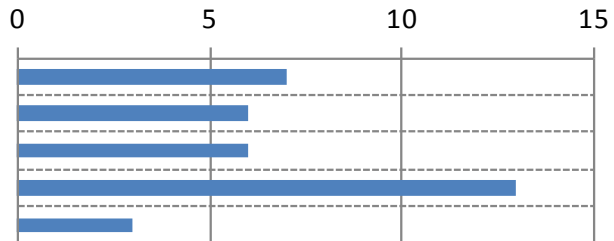
Q2-2. 今回のイベント参加にあたり、事前に知りたかった情報

- ・ 大まかに講義内容(トーク中心、座学)を知りたかったです。
- ・ 当日行う内容(ジェスチャー、言語、ペアワーク)。
- ・ 会話の骨子、英会話レベルの事前収集。
- ・ 特に無し。
- ・ イベント会場のアクセスマップがあればよかった。
- ・ イベント内容がもう少し詳しく記載されていたら良かったです。
どんなことをやるのかイメージがつかみにくかったため。
- ・ 昨年度の参加者の部門。
- ・ もう少し、詳しいアジェンダ、内容、年齢層。
- ・ 事前情報は英語なのか日本語なのかを明らかにしていただければ、専門用語をしっかりと調べることができると思います。
- ・ タイムスケジュール(何時から何時まで何をする等)。
- ・ 通常、このようなイベントは有料。無料の理由は?

●青年委員会の活動について

Q3. 今後のイベントについて

期待する項目	回答数
(a) 技術士会について	7
(b) 技術職に関して	6
(c) 科学技術に関して	6
(d) 自己能力を高める場	13
(e) その他	3



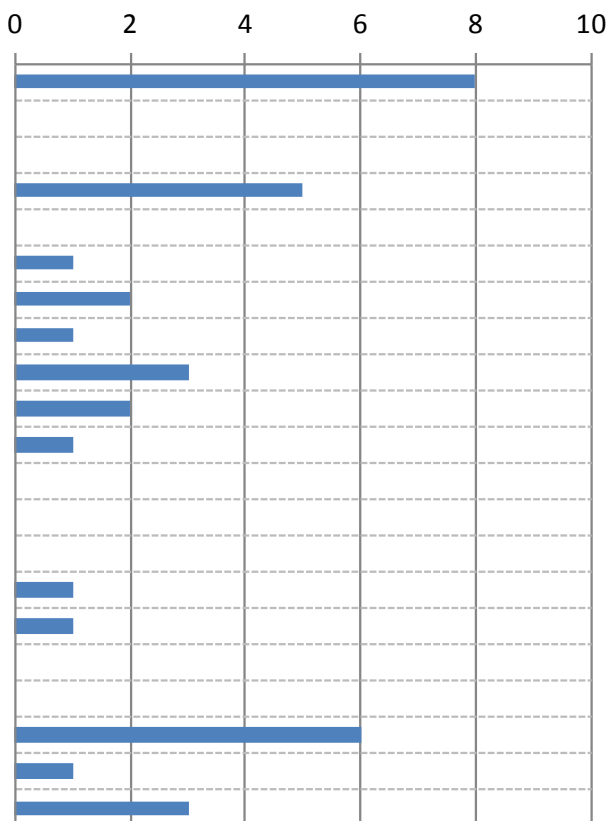
具体例

- (a) 将来必要な技術者像、活動内容
- (b) 学生の時に取得すべき知識、大学技術士会での行事
- (c) 話題に上がる科学技術、生物工学
- (d) 自己分析→能力をあげるプロセス、ディベート、論理的思考力、英語力、組織内での活動について
- (e) 若い人に技術士を受験するように広めて欲しい

●参加者基本情報

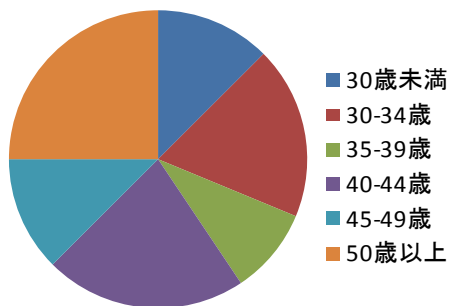
Q9-1. 技術部門

部門	人数
機械	8
船舶・海洋	0
航空・宇宙	0
電気電子	5
化学	0
繊維	1
金属	2
資源工学	1
建設	3
上下水道	2
衛生工学	1
農業	0
森林	0
水産	0
経営工学	1
情報工学	1
応用理学	0
生物工学	0
環境	6
原子力・放射線	1
総監	3



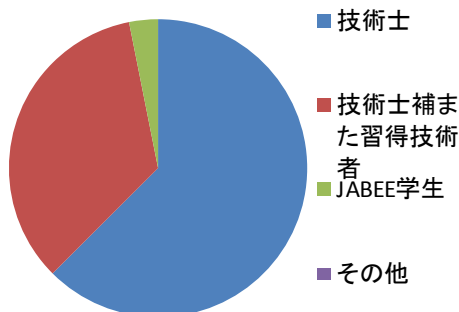
Q9-2. 年齢層

年齢	人数	割合 (%)
30歳未満	4	12.5
30-34歳	6	18.8
35-39歳	3	9.4
40-44歳	7	21.9
45-49歳	4	12.5
50歳以上	8	25.0
合計	32	100.0



Q9-3. 会員層

会員層	人数	割合 (%)
技術士	20	62.5
技術士補また習得技術者	11	34.4
JABEE学生	1	3.1
その他	0	0.0
合計	32	100.0



1. 良かった点

- 1) 参加者の方々が積極的に話をされていた。
参加者さんの英語能力向上の意欲が感じられた。
Steven Ashton 先生が相変わらずよかった。盛り上げがうまい。
青年のプレゼンに対して、参加者から質問が出ていた。
惹きつけるプレゼンだったからと思います！
- 2) 英語学習に興味のある方が多く、YEAFFO や工業英検に関する質問を多くいただきました。
「年に1度ではなく、もっとやってほしい」という嬉しい声も。
- 3) 意外と TOEFL に挑戦している方が多かったです。「技術者向けの英語を学びたい」という意見があったので、何らかの形で今後反映していきたいです。
- 4) お酒やケータリングの食べ物が余りすぎたらどうしよう、と心配していましたが、閉会時にはパスタとミニカップケーキが少し残っている程度だったので丁度よかったです。
- 5) なんとか、あまり問題なく無事におわりました。
アシュトン先生の力のおかげなのですが、参加者みんなが笑顔で
会話もリラックスしてはずんでいたのが嬉しいです。
ケータリングの料理も絶妙な量でしたね。調度良かったと思います。
- 6) Steven Ashton 先生の人柄がとにかく良い！（3年前から参加されている方や去年私が発表したことまで覚えていてくださったことに感銘を受けた）
- 7) 参加者の方が積極的に英語で交流を図っていた
- 8) 英語の企画だけあって参加者のやりがいを感じた。
- 9) 講師のパワフルな進行で英語の魅力を感じることができた。
- 10) 個人的には英語で発表する機会を与えてもらえてよかった。
- 11) 青年メンバーの英語レベルがちょうどいい。丸山さんばりの英語も刺激的ですが、あのく
らいの英語もチャレンジしている感があっていいですね。
- 12) 立食はやっぱり交流が取りやすくいいですね。
- 13) 前回の反省を受け、レベル分けが活かされていた。
- 14) Steven Ashton 先生の聴衆を惹きつける進行が素晴らしく、3時間以上の長丁場でしたが、
中だるみも無く、終始盛り上がりを見せていたところ。（3時間以上、マイク無しで声量
が続くのはすごい…。声のお仕事をなさっているが故か…？）
- 15) 後ろでずっと見ていましたが、グループワークが多く、ジェスチャーもありで、初対面同
士の参加者でも打ち解けやすい進行であったように感じました。
- 16) 松井さんの海外出張、直前の懇親会会場消滅のハプニングなど、「まさか…」な出来事が
続いた中でのイベントでしたが、当日はそれを感じさせない進行であったと思います。
- 17) 懇親会は急遽ケータリングに変更となりましたが、立食形式となり、多くの方と懇親を深
めやすかったのではないかと思います。

2. 改善すべき点

- 1) はじまった様子から不要そうではありましたが、
エレメンタリ参加者の補助を名乗り出ておきながら
何もしなくてごめんなさい。 いっぱなし気をつけます。
- 2) 参加者には申し込み後や3日前にフォローメールを送っていましたが、当日の無連絡キャンセルが多かったので、何らかの改善方法を考えたいです。特に懇親会参加予定の方がキャンセルした場合、キャンセル費用が発生してしまうため、リスクが大きいです……。
- 3) 自分の英会話能力もうすこしあげたいなあと思いました。
- 4) 懇親会場がつかえなくなってしまうたりし、事前準備にバタバタしてしまった。
(懇親会やドタキャンのリスクをもうすこし考慮したいです。)
- 5) 今回のイベントの構成で改善したい点はとくに見当たらないです。竹入の撮影技術向上は改善したいです。
- 6) 国際交流等の報告資料についての提出のタイミングがわからなかった。
そのためか、PPTの切り替え時に若干時間がかかった。
- 7) 日韓報告は「サッカー」しかしていないですね。
- 8) 青年の担当は「サッカー」なので、それはそれでよいのか？見直してみたいところです。
- 9) 一終了時間が予定よりもかなり早く終わってしまった。
- 10) せっかく松井さんがつながっていたのだから、松井さんから一言あってもよかったですね。
- 11) 英語のプレゼンをしたことがない私が申し上げるのは憚られますが、青年のプレゼンでの質疑応答も英語で行うとより本格的になる気がします。(純粹に「青年のPRをしたい!」という意図であったのであれば、「質疑応答は日本語で確実に…」ということで、日本語で良かったと思います。)

3. その他

- 1) 英語 WG に興味ある参加者さんもいらっしゃいましたので、何らかの形で取り込んでいけるといいですね。
- 2) 内部向けにもアシュトンさんの英語ワークショップやりたいです。土曜は私も参加したかった・・・。
- 3) 皆様、設営・運営にご協力いただきありがとうございました。m(_ _)m
- 4) カメラはできれば事前に打診が欲しいです。今回はもしかして。。。と思って持ってきました。いつも持っているわけではないです。
- 5) YAFEO の発表について発表というよりは宣伝というコンセプトだったのでしょうか。これは私の個人的な意見ですが、私は時間を割いて広聴してくださっている方（私も含む）に今回の成果や参加者の気づきをシェアして欲しかったです。（工業英検のことはお話をされていましたが。）
- 6) 国際グループとしても「ミャンマーへの義捐金」「防災 WG に投稿している」等 1 年間で素晴らしい成果があったにも関わらず、もったいないですよ！
そうするとこの発表、日本語の方がいいかもしれませんね。伝わってなんぼですから。
- 7) 松井さんの出張や懇親会会場の変更等があったので、大変だったと思います。お疲れ様です。
- 8) イレギュラーなことが多々あったかと思いますが、それを感じさせないすばらしい運営でした。お疲れ様でした。
- 9) 6 月担当の皆様は当日までハプニング続きで、しかも当日は英語続きで大変だったのではないかと思います、とても良いイベントになったと思います。お疲れ様です。ありがとうございます。
- 10) 青年を含め、皆様、英語能力が高いと感じました。中部ではこのような英語イベントを行ったことは私の経験上無いので、英語は統括青年の強味として、どんどん前面に押し出して行くと良いのではと思います。
- 11) 気になっていることなのですが、事前に「お気に入りの科学者・技術者を 1 名」をピックアップしておくことになっていましたが、ピックアップする目的が何なのかによって調べる内容が大きく変わると思うので（名前だけで良いのか？西暦と紐付けされた経歴まで調べるのか？）、具体的にどこまで調べるように参加者に依頼していたのだろうか…ということが気になりました。（当日、調べるする時間が与えられましたが、事前調査が不十分な上にスマホやタブレットを持っていない方が居たとしたら焦ったと思いますので…。また、当日「お気に入りの科学者・技術者が居ない…。」と相談に来られた方が 1 名いらっしゃいました…。）

行事名	8月例会: Dreams Project 平成28年度 夏休み子供理科教室
日時	2016年7月30日(土) 13:30~16:30
場所	日本技術士会 AB 会議室
講師、発表者	北元委員、大田(望)委員
担当者: (○印:リーダー)	○山本委員、中川委員、太田(望)委員、下野委員、田角委員、磯部委員、諸田委員、北元委員、白井委員、田中委員、瀧川委員*、[サポーター] 熊原、鈴木、古川、米原、安力川、岡本*、山田* (*は当日不参加)
参加者数	参加者:35名(うち児童20名、保護者15名)、スタッフ:15名

1. 背景・目的

我が国が目指している科学技術立国とは裏腹に子供達の理科離れが進んでいる。この現状を打破すべく、子供達に工作実験を通じて科学の面白さを伝えることを主目的とした。また、これを機に、近隣の小学校、参加された児童、およびその保護者に対して、技術士の知名度向上を図った。今年度も昨年度に引き続き、家庭でも再現できるテーマで実施した。

2. 例会内容

はじめに、田中委員長より理科の面白さについて、導入説明を行った。携帯電話が、電線が無いのに話ができることを一例として、身近で当たり前に使っているものに対して、「ふしぎだな」という気持ちを持ち続けることが大事であること、田中委員長は、その気持ちを持ち続けて携帯アンテナの技術者になったことなどを紹介した。

2. 1. 技術士の紹介(13:35~13:50): 山本委員

技術士の知名度アップを図る目的で、「技術者について」、クイズ形式で説明を行った。子供たちはとても活発に発言していて、良いアイスブレイクになった。児童のクイズへの回答は、スタッフの予想を超える詳しい内容もあり、充実した発表となった。

2. 2. テーマ①「モータをまわそう」、テーマ②「モータで電気を作ってみよう」(13:50~15:05): 北元委員

最初に、「モータをまわそう」をテーマに講義および実験を行った。

実際のモータは巻線が金属ケースの中に入ってしまったので、巻線が回る様子がわからないので、クリップモータで巻線が回る様子を確認してもらう目的で、制作済のクリップモータを配布した。子供たちは、巻線の場所を変えたりして、回り方が変わる様子確かめていた。モータが回るしくみについて、プレゼン資料だけでなく、目の前で巻線が回る様子を見てもらったのが良かった。

次に、「モータで電気を作ってみよう」をテーマに講義および実験を行った。

モータが、電気エネルギーと機械エネルギーをお互いに変換できる機能を持つことを講義にて説明した。そのうえで、モータの端子にLEDを繋いで、モータ軸を回転させるとLEDが点灯する様子を実験してもらった。

2. 3. テーマ③「風で電気を起こしてみよう」(15:15~16:00): 大田(望)委員

三つ目の実験では、「風で電気を起こしてみよう」をテーマに講義および実験を行った。

本テーマでは、ペットボトルを切り開いて羽根を作り、その羽根をモータに取り付けることで風力発電をする実験を行った。

ペットボトルを切り開く工作と、羽根に油性ペンで色塗りをする工作を子供たちにしてもらった。工作には予想以上に子供たちが熱中していた。講義だけでなく、工作を取り入れることで、子供たちに最後まで飽きずに参加してもらえた。

また、時間が余った子が、2つの風車を使って、一方を電池を使って回して風を起こし、もう一方を、その起こした風でモータを回して発電する試みをしていた。モータが、電動機にも発電機にもなるという、テーマ①と②の内容を理解して、すぐに応用してしまう力に感心した。

3. 成果と所感

前回と同様、講師の講義と説明の工夫、理科工作実験キットのみで理科教室を企画・実施した。参加者の事後アンケートでは、児童全員、保護者全員より5段階評価の「5:非常に良かった」または「4:良かった」との回答があり、そのうち、児童・保護者の90%以上が「5:非常に良かった」との回答で満足度は高かった。また、保護者全員から5段階評価の「5:次回もぜひ参加したい」、「4:機会があれば参加したい」との回答を得たのは大きな成果であった。

4. 今後の展開

青年委員会主催の理科教室は、今回で3回目を迎えた。今までの経験の蓄積が出来てきたため、スタッフの負担は、以前よりも少なくなっている。一方で、参加者の評価は高いまま維持できており、継続的に理科教室を実施できるしくみが出来あがってきていると考える。

今回、参加者から参加費を徴収し、会場費・保険費・教材費等に充当したため、青年予算の出費をかなり低減できた。保護者アンケートでは、参加費は妥当、もしくは安価であったとの回答をいただけており、参加者の満足度も高かった。今後は独立予算でも実施できるよう、理科教室の内容やコストを考慮して実施していく。

次回以降も、年1回もしくは年複数回行うものとして、理科教室を開催していきたい。

5. 実施状況



北元委員によるモーターの講義



「①モーターをまわそう」の実習



「②モーターで電気をつくってみよう」の実習



レモン電池の展示(休憩時間中)



太田委員による風力発電の講義



「③風で電気を起こしてみよう」羽根の工作



「③風で電気を起こしてみよう」うちわで発電実習



参加者の工夫:電池で風を起こし、その風で発電!



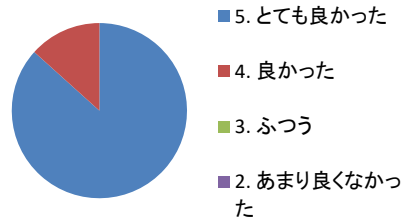
理科教室の全景



集合写真

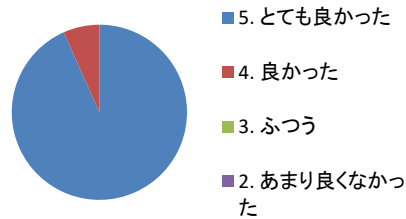
Q1. 今回の理科教室は全体的にどのように感じましたか。

満足度	人数	割合 (%)
5. とても良かった	13	86.7
4. 良かった	2	13.3
3. ふつう	0	0.0
2. あまり良くなかった	0	0.0
1. 良くなかった	0	0.0
合計	15	100.0



Q2-1. スタッフの対応はいかがでしたか。

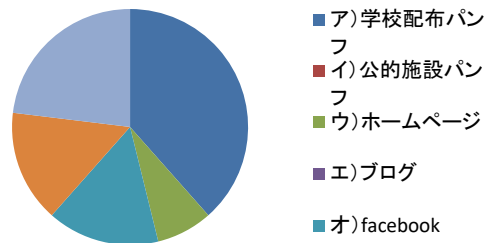
満足度	人数	割合 (%)
5. とても良かった	14	93.3
4. 良かった	1	6.7
3. ふつう	0	0.0
2. あまり良くなかった	0	0.0
1. 良くなかった	0	0.0
合計	15	100.0



Q2-2. Q2-1で1または2とお答えの方、具体的に良くなかった点をお聞かせ下さい。

Q3. この教室を知ったきっかけを教えてください。(複数回答あり)

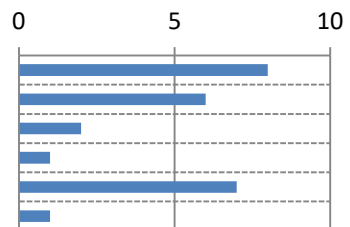
きっかけ	人数	割合 (%)
ア)学校配布パンフ	5	38.5
イ)公的施設パンフ	0	0.0
ウ)ホームページ	1	7.7
エ)ブログ	0	0.0
オ)facebook	2	15.4
カ)知人からの紹介	2	15.4
キ)その他	3	23.1
合計	13	100.0



・麻布小学校 3名、赤坂小学校 1名、本村小学校 1名、王子第二小学校 1名、
※学校配布パンフをみて参加された保護者数の内訳です。

Q4. なぜこの理科教室に参加したいと思いましたか。(複数回答可)

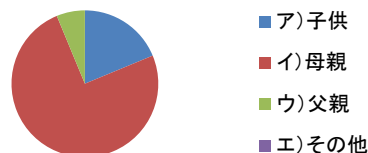
目的	回答数
ア)子供が興味を示していたから	8
イ)子供に理科を好きになってもらいたいから	6
ウ)子供に勉強させたいから	2
エ)将来、子供に研究者や技術者になってもらいたいから	1
オ)テーマが面白そうだから	7
カ)その他	1



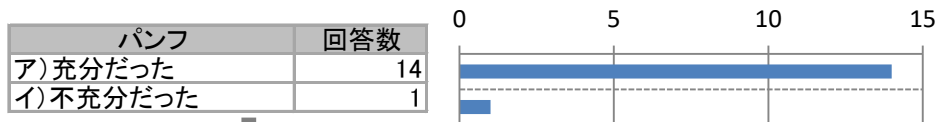
・私もやってみたかったから。

Q5. はじめに参加をしようと思ったのは誰ですか。

	人数	割合 (%)
ア)子供	3	18.8
イ)母親	12	75.0
ウ)父親	1	6.3
エ)その他	0	0.0
合計	16	100.0



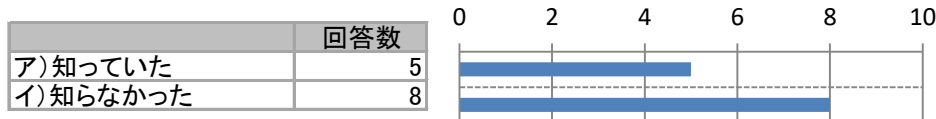
Q6. パンフレットには安心して申し込むための必要な情報は記載されていましたか。



↓ 記載してほしい情

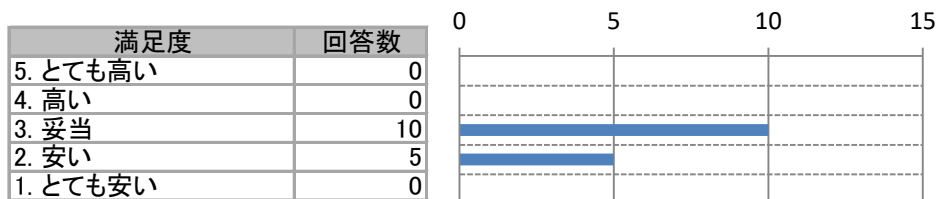
・もう少し詳しいワークショップの中味

Q7. 「技術士」という資格を以前から知っていましたか。



・未回答 2名 うち1名は、「半々」と欄外に記載あり

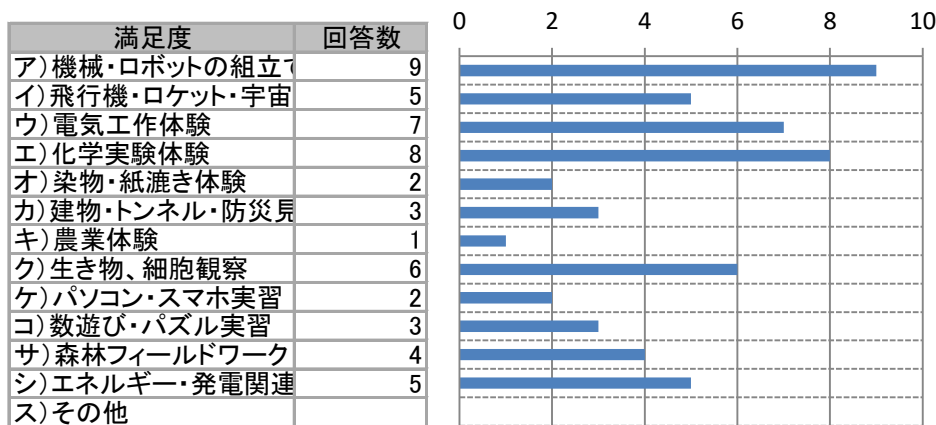
Q8-1. 参加費について教えてください。



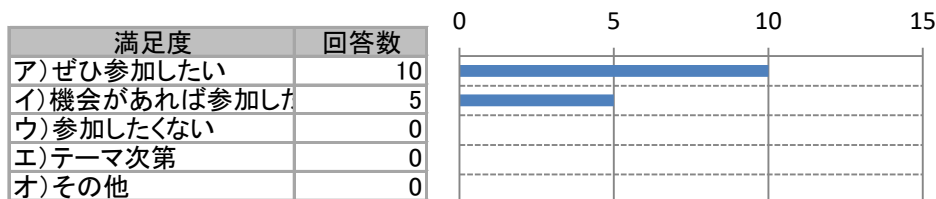
Q8-2. Q8-1で3以外とお答えの方、妥当な参加費はいくら位だと思いますか。

- ・3,000円 1名
- ・2,000円 1名

Q9. 今後、どのような内容の理科教室を希望されますか。(複数回答可)



Q10. 今後も技術士会が主催する理科教室に参加したいですか。

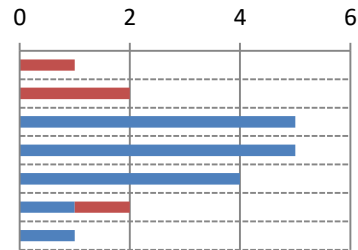


Q11. この教室へのご意見、ご感想をご自由にお書きください。

- ・工作は自宅のできる難易度のものでも、自宅にて時間と場を作るのが意外と難しいので本教室はとてもありがたいです。
- ・おやことも分かりやすく楽しめました。ありがとうございました。
神谷町近辺で来年もやって頂けると嬉しいです。来年のお知らせもメールで頂けると嬉しいです。
- ・実験が好きらしいので本人はとても楽しかったらしいです。
大人は中途半端な知識がじゃまをして素直に質問できませんでした。残念。
- ・保護者が理科に暗いので、子供に説明する時間に手間取った事。
- ・子供が電気やモーターの仕組みについて学習するいい機会になりました。
手作り感が大変良かったです。お世話になりありがとうございました。
- ・大変興味深い実験／工作で、子供とともに楽しめました。ありがとうございました。
- ・スタッフの方が、技術士として活躍される場がこの様な機会ですとどんどんふえると良いなと思いました。
楽しく参加させていただきました。ありがとうございました。

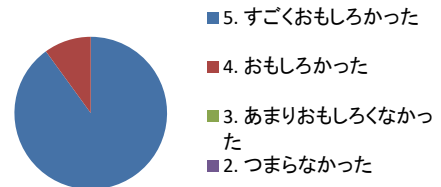
Q1. あなたの学年と性別を教えてください。

参加者	男の子	女の子
6年生		1
5年生		2
4年生	5	
3年生	5	
2年生	4	
1年生	1	1
年長	1	



Q2-1. 今日の教室は、おもしろかったですか？

満足度	回答数	割合 (%)
5. すごくおもしろかった	18	90.0
4. おもしろかった	2	10.0
3. あまりおもしろくなかった	0	0.0
2. つまらなかった	0	0.0
1. すごくつまらなかった	0	0.0
0. わからない	0	0.0
合計	20	100.0

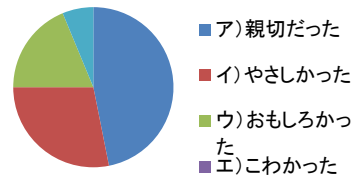


Q2-2. こんなところがおもしろかった、つまらなかった、あれば教えてください。

- ・せんぷうきをつくれた ・風力発電 ・電気をつくったり電気であそんだりのしかった
- ・風車が回るころ ・風力発電所をつくるのが楽しかった。
- ・モーターなど以外は身近なものがつくれておもしろかったです。
- ・モーターでせんぷうきみたいにし、もう一つの風車を回して遊べたのでとても楽しかったです。
- ・自分だけはやいモーターがあったからよかったです。つまらなかったところはないです。
- ・もっとたくさんやりたかった。 ・プロペラをきれいにぬるところがおもしろかった。
- ・全部たのしかった。 ・全部の実験 ・いろいろなじっけんをしたところ
- ・ふうしゃをつくったこと ・わからなかった事知れた事 ・手回し発電機

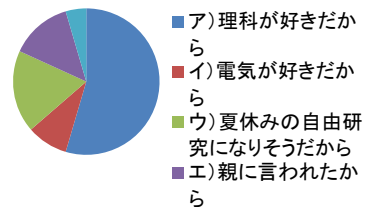
Q3. スタッフのお兄さん、お姉さんはどうでしたか？(複数回答あり)

印象	人数	割合
ア)親切だった	15	46.9
イ)やさしかった	9	28.1
ウ)おもしろかった	6	18.8
エ)こわかった	0	0.0
オ)その他	2	6.3
合計	32	100.0



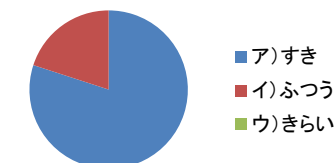
Q4. どうしてこの教室に参加しようと思いましたか？(複数回答あり)

目的	人数	割合
ア)理科が好きだから	12	54.5
イ)電気が好きだから	2	9.1
ウ)夏休みの自由研究になりそうだから	4	18.2
エ)親に言われたから	3	13.6
オ)学校で紹介されたから	1	4.5
合計	22	100.0



Q5. 理科や科学は好きですか？

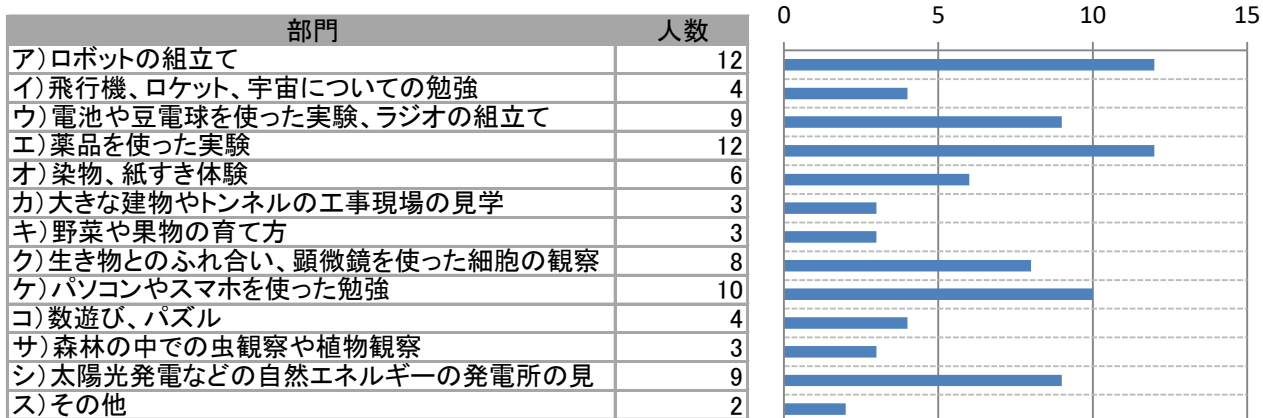
	人数	割合
ア)好き	16	50.0
イ)ふつう	4	12.5
ウ)きらい	0	0.0
合計	20	62.5



理由があればおしえてくださ ↓

【ア)好き】・どうしてこうなるのか かんがえてためすのが好きだから ・じっけんが好きだから ・わからないことがあるから ・じっけんとかわくわくして楽しいです。 ・いろいろなじっけんができる。虫のかんさつができるから ・なし ・なぜそうなるのかと考えるのが好きだから ・アインシュタインが好きだから。 ・実験や工作が好きだから

Q6. 今、興味があることや、これから知りたいことを教えてください。(複数回答あり)



・プログラミング 1名 ・自動はんばいき 1名 ・

Q7. 意見や感想、将来の夢など自由に書いてね。

- ・また、参加したいです。 ・しょうらのゆめは、プロ野きゅうせんしゅです。(読売ジャイアンツ)
- ・まだまだ色々な質問はありますがもっと色々実験してみたいです。 ・わたしはふうしゃをつくるのがおもしろかったです。
- ・ながくなりますのでやめておきます。一言、科学者などになりたいです。 ・電気がついたり、うごいたりした実験が楽しかったです。
- ・テーマの他にも風車がまわる原理とかちがうことも知れたのがおもしろかった。
- ・つくるのがむずかしかった。 ・いろいろなもののしくみがわかった。生ぶつがくしゃになって新しゅを見つけいりょうにやく立たいです。
- ・しょうらのゆめはパイロットになることです。いけんはありません。楽しかったのでまたり科じっけんをやりたいです。
- ・電気の発電がおもしろかったです。理科が好になりました！

裏があるのに気付いていない？ 裏全面白紙 2名

以上

スタッフ振り返り

締め切り：2016年8月12日（金）

※各項目へコメントおよび末尾にお名前をご記載ください。（何件でも可）

■良かった点

- 展示物の周りがとても盛り上がっていた（下野）。
- 説明のときの質問に皆がよく手を挙げていた。質問の仕方が良かったのだと思う（下野）。
- 準備段階で電池のショートやペットボトルを切った際の危険性を周知してもらえたのでスタッフとしての対応がうまくできた（下野）。
- 前週に事前準備をしていたので、当日午前はドタバタしなかったこと。（北元）
- 時間通りにイベントが完了したこと。（北元）
- 各班のサポーターの皆様のご協力で、スムーズに実験、工作を進められたこと。（太田みほし）
- 始まる直前に、風車の工作セット（はさみやペットボトル等）をいったん引き上げ、工作直前に再配布したこと。もし、最初から机の上に置いてあったら気がそっちに向いてしまっていたような気がしました。（鈴木）
- 受付にいて全部は見れていないのですが、北元さん、みほしさんのプレゼンとてもよかったです！話し方もはきはきして聞き取りやすいし、説明もわかりやすくて素晴らしいと思いました。（田角）
- 積極的に発言をする子が多く、それも一人だけでなくたくさんの子から手が挙がるのがよかった。発言しやすい雰囲気になっているのだと思います。
- 子供たちとの対話がうまくできていたと思います。プレゼンに、クイズを盛り込んで、うまく対話ができるような工夫があってよかったと思います。（山本）
- 青年委員以外のサポーターにも、事前準備や当日の実験補助に入っていただけたこと。この企画を通して、スタッフ同士の交流も深めることができました。（山本）
- 参加者が皆笑顔で楽しんでいたのは嬉しかった。特に昨年成功しなかったクリップモーターを今年成功できたと喜んでくれた方がいたので、頑張って作った甲斐があったです。（諸田）
- 質問者が多かったのは良いことですね。（諸田）

■悪かった点・改善点

- テスターに興味を持つ子供を多く見かけたので、テスターをもっと押し出しても良かったと感じた（下野）。
- 開始前(13:00~13:30)スタッフ同士で後ろで集まり会話をしているのはあまりいい印象とは言えません。（古川）
- マイク、鉛筆は準備しておく必要があることに気がつきました。（太田みほし）
- 事前に班分けをしていましたが、部屋に入ってから迷われているようでした。ホワイトボードに班を書いたり、誘導したりしていましたが、各机に班名を書いた立て札でもおいておけばわかりやすかったかもしれません。（鈴木）

- 配布したパンフレットについてですが、1校、配布物を見せてもらってから対応の可否を決めると言っていただきましたが、その日に解決できなかったのは失敗でした。(鈴木)

■次回開催時のアドバイス

- c班だけかもしれませんが、他の小学校の保護者の方やスタッフと交流したいように見受けられる保護者様がいらっしゃいました。可能であれば、スタッフを含めた班内での自己紹介の時間があっても良いと思いました。(古川)
- 太田望斗さんが行ったプレゼンの冒頭での簡単な自身の職種紹介(ゴミ処理場に関わる仕事をしています)が、保護者受けが良かったように感じました。プレゼン発表者は簡単に自身の職種を紹介した方が、保護者の方は、発表者に対する親近感がわくのかもかもしれません。(古川)
- 申し込み開始の日時のアナウンスを告知メディア(パンフレット、サイト、メール等)に乗せておいたほうがよかったのではと思いました。一つは公平感という点で、もう一つは申し込む側や対応するスタッフも準備しやすいのではと思います。(鈴木)

■保護者や子どもたちからイベントの内容と異なることで質問を受けた事項

- どんな職業か?(古川)
- 保護者の方から、何年生向けのイベントなのかと聞かれました。さすがに低学年には難しいので、対象学年を書いて欲しいとのこと。一応全学年向けですとは答えましたが。。。(北元)

■その他何でも思うこと

- ビラは毎年同じ小学校に配れるとは限りません。(年々規制が厳しくなっているようにも感じます)。登録しておけば、来年は優先的に連絡が来るシステムを構築し、リピーター率を増やすのも良いかもしれません。(年々、会場を大きくする前提で。)
- 最後の質問は難しかったですね。我々が当たり前と思っていることを不思議だと感じて質問してくるため、モーターや発電機の知識だけでなく、基礎的な部分を自分でなんとなくしか理解していないことを改めて気づかされました。(北元)
- 実験ノートの記入を親御さんが書いているケースと子供が書いているケースがありました。プレゼンターの方々は丁寧に説明されていましたが、特に子供にとって短い時間で、初めてのことを聞いて、理解して、文字に起こすのは簡単ではないな一と思いました。大切なのは、文字に起こすことではなくて、興味をもってもらうことだと思うので、書ききれなくてもよいのかなとも思いましたが。(鈴木)
- ビラの配布ですが、可能であれば会場のある区の教育委員会には事前に話を出来るといいですね。

行事名	9月例会：ディベートを体験しよう
日時	2016年9月24日(土)
場所	例会：葺手第2ビル 5FAB 会議室 13時30分～17時00分 交流会 HUB 神谷町店 17時30分～
司会・審判	司会：川崎委員 審判：白井委員・横田委員・下野委員
担当者：	川崎委員（リーダー）・横田委員・中村委員・田中委員長・白井委員
参加者数	11名

1. 背景・目的

ディベートは、技術士としての論理構成力・プレゼン力・傾聴力・合意形成力など、多岐に渡る資質向上に適しており、例年参加者からも好評を得ている。

今回は、「外国人材受け入れとして、日本語能力を条件に加えるべきか」というテーマから討論を通し、テーマの現状と課題について理解を深めて頂く事とした。

2. 例会内容

事前申込み 16名に対して、参加者は 11名であった。

2. 1. 委員長挨拶 (13:30～13:35)：田中委員長

ディベートを通じて磨かれる能力・アウトプットを中心とする青年委員会のイベントに適していることを説明頂いた。

2. 2. ディベートのやり方、およびテーマに関する概況説明 (13:35～14:15)：川崎

ディベートの進めかたの説明、および「外国人材受け入れとして、日本語能力を条件に加えるべきか」というテーマについての現状と課題を説明した。

2. 3. ディベート実践(14:25～16:50)

肯定・否定各チーム4名に分かれ、立案・質疑・反駁・結論の各フェーズにて1名ずつ発表を行う形式で2ラウンド行った。参加人数の関係から、希望者は肯定・否定の立場を変更し、2ラウ

ンド目にも参加頂いた。審判は横田委員・白井委員・下野委員が行い、それぞれの講評を述べた後、勝敗を決定した。

3. 成果と所感

募集人数はチーム作成から 20 名の予定に対し、16 名の申込みであった。修習技術者からの申込みもあり、技術士会会員ニーズを満たせたと考える。

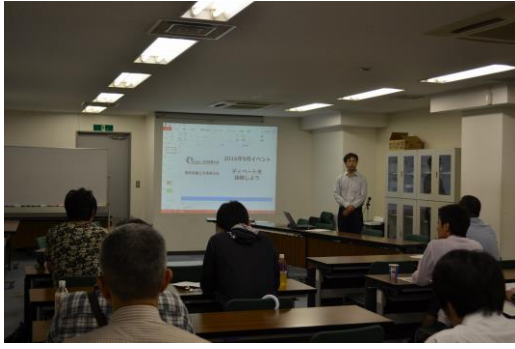
アンケートによると、参加者はディベート形式により、論理構成力などを求めており、今回の例会に対して、交流会の参加率や反応を見る限り概ね満足頂けたようであった。

また審判を担当した委員も、論理性を採点することで、非常に良い学びの機会となったとのことであり、運営側も得られたことが多いと思われる。

今回のテーマは、9/27 の一億総活躍社会に向けた働き方改革実現会議(首相官邸 HP)にて、"高度外国人材の受入規制"が政策の話題として挙げられ、運営としても非常にホットなテーマを選定できたと考えている。

4. 今後の展開

今回のディベート企画も好評を頂けたことから、定期的にディベート企画を行い、技術士としての論理構成力・プレゼン力・傾聴力・合意形成力など、多岐に渡る資質向上の機会と、政策課題に対して様々な意見交換を提供する場として、会員活動や交流を支援していきたい。



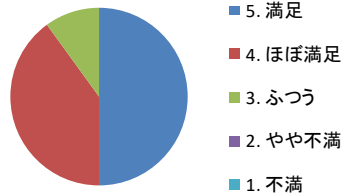
以上

●平成28年9月度 ～ディベートを体験しよう！～（表面）

●今回の例会について

Q1. スタッフの対応はいかがでしたか。

満足度	人数	割合 (%)
5. 満足	5	50.0
4. ほぼ満足	4	40.0
3. ふつう	1	10.0
2. やや不満	0	0.0
1. 不満	0	0.0
合計	10	100.0

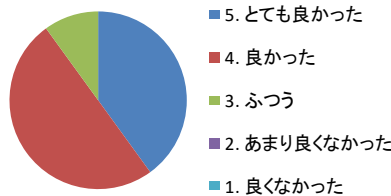


Q2. スタッフに伝えたいこと(コメントなど)ありましたら、お書きください。

- ・講評を詳しく述べていただき大変参考になりました。
- ・大変よい経験になりました。
- ・また参加したいです。

Q3. 今回の例会は、全体としていかがでしたか。

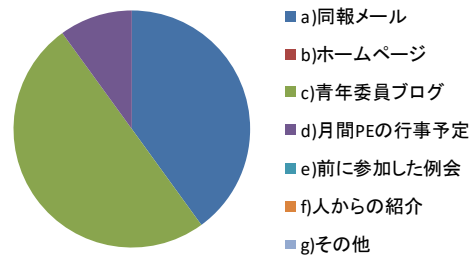
満足度	人数	割合 (%)
5. とても良かった	4	40.0
4. 良かった	5	50.0
3. ふつう	1	10.0
2. あまり良くなかった	0	0.0
1. 良くなかった	0	0.0
合計	10	100.0



●今回の例会に参加するまでの経緯について

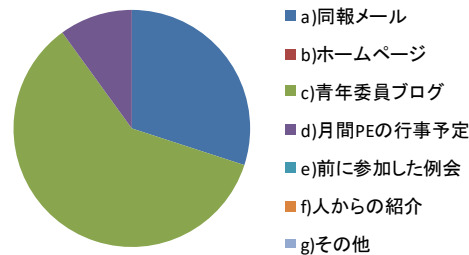
Q4-1. 今回の例会をどのように知りましたか。(複数回答あり)

きっかけ	人数	割合 (%)
a)同報メール	4	40.0
b)ホームページ		0.0
c)青年委員ブログ	5	50.0
d)月間PEの行事予定	1	10.0
e)前に参加した例会		0.0
f)人からの紹介		0.0
g)その他	0	0.0
合計	10	100.0



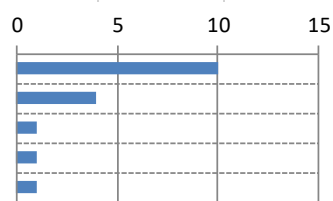
Q4-2. Q4-1の中で特に参加のきっかけとなったものはどれですか。(複数回答あり)

きっかけ	人数	割合 (%)
a)同報メール	3	30.0
b)ホームページ		0.0
c)青年委員ブログ	6	60.0
d)月間PEの行事予定	1	10.0
e)前に参加した例会		0.0
f)人からの紹介		0.0
g)その他	0	0.0
合計	10	100.0



Q5. 今回の例会に参加した目的は何ですか。いくつでもお選びください。(複数回答可)

目的	回答数
a)例会のテーマや内容に興味あり、知りたかった	10
b)例会の参加者と知り合いになりたかった(人脈形成)	4
c)青年委員会という組織や活動について知りたかった	1
d)CPDのポイントをもらいたかった	1
e)上記以外	1



- ・職場でディベート能力(話す能力)が低いと言われていたので、伸ばしたいと思って参加した。
- ・できる人の技をぬすみたかった。ぬすんだ。
- ・社内のディベート研修でデキル感をだしたかったので勉強しておこうと思った。

Q6. 青年委員会の例会に参加するのは、今回で何回目ですか。		0	2	4	6			
パンフ	回答数							
a)初めて	2							
b)2回目	2							
c)3回以上	5							
d)はっきりしない	2							
Q6-1. 2回目以上の方にお伺いします。過去の例会で印象深かったテーマや面白かったテーマ								
・英会話(6月)、国際交流、英語コミュニケーション、ディベート、英語例会、6月のくまのさんが来られたセミナー、								
Q7-1. 青年委員会の活動として開催して欲しいイベントについて、ご希望の内容(複数回答可)								
	回答数	0	2	4	6			
a)情報提供(講演・見学)	5							
b)変化の提案(講習)	2							
c)楽しみの場(懇親)	1							
d)人脈形成(国際交流)	5							
e)その他	2							
Q7-2. また、内容以外でご希望ございましたらお書きください。								
・ヨーロッパの人にあってみたい ・今回のような基礎向上 ・国際交流 ・若い人々の感性的な話 ・今回のような勉強会								
●技術士または技術者としての活動について								
Q8. あなたご自身は技術士または技術者としての本業に加えてどのような活動をなさっていますか。								
	満足度	回答数	0	2	4	6	8	10
a)自身の向上(資格取得)		8						
b)周囲の支援(地域支援)		1						
c)周囲と連携(交流・SNS)		3						
d)その他の活動		2						
e)特になし		1						
a)・計量士(勉強中) ・資格取得 ・TOEIC b)・理科教室 c)・ d)・トーストマスターズ ・オーケストラ ・里山活動 e)・								
●あなたご自身について								
Q9-1. 技術部門。(複数回答可)								
	満足度	回答数	0	1	2	3	4	
電気電子		3						
機械		1						
環境		3						
経営工学		1						
建設		1						
情報工学		2						
総監		1						
.								
Q9-2. 年齢層をお選び下さい。								
	満足度	回答数	0	2	4	6		
a)30歳未満		1						
b)30歳～34歳		5						
c)35歳～39歳		1						
d)40歳～44歳		3						
e)45歳～49歳								
f)50歳～		1						
Q9-3. 会員層(技術士制度での位置付け)について、該当する項目をお選び下さい。								
	満足度	回答数	0	2	4	6	8	
a)技術士		3						
b)技術士補		2						
c)修習技術者		6						
d)JABEE認定プログラム								
e)その他								
.								
以上								

●平成28年9月度 ～ディベートを体験しよう！～（内部アンケート）

●良かったところ

- ・外部講師なしでもディベートを体験できるイベントにできたこと
- ・懇親会や二次会への参加があり、参加者の興味を惹けたこと
- ・事前に担当者打合せが設定できて、準備が進んだこと
- ・豊富な情報を川崎さんから参加者に事前配布できたこと
- ・下野さんの講評のロジックが説得力があり、よかったこと
- ・議論が盛り上がったこと。＝テーマの選択がよかった
- ・2回目のディベートが1回目比べて良い議論ができるようになっていた
- ・楽しんで体験していただけたように感じた
- ・証拠資料の事前準備が適切だと感じた
- ・経験者の下野さんが審判に入り、打合せ段階で内容をつめることができたこと
- ・ドタキャンもあったが、人数的に工程否定両方の立場で参加できた方が多かったこと
- ・各フェーズ話すのは1人と決めたので、スムーズに進んだこと
- ・テーマ選定・資料に関して、懇親会で好評だったこと
- ・当日、田中さんからのフォローが適宜入り、助かりました。ありがとうございます。
- ・議論が盛り上がったこと。＝テーマの選択がよかった
- ・みほしさんが開始前に参加者に話しかけていた。
- ・ディベート前にディベート解説があった点

●改善したいところ

- ・外部講師有無やテーマ設定など、方向が定まるのが遅かったこと
- ・参加者名札の準備を忘れ、手書き名札だったこと
- ・CPD票の番号打ちを参加者に指摘されてから対応したこと
- ・受付（開始終了）時間の案内に間違いがあったこと
- ・直前打合せとは違って講評時に投票を言ってしまったこと
- ・可能であれば全員が2回の試合（肯定側と否定側）を体験できた方が良かった。
- ・ディベートを見たことがない未経験者はディベート試合のイメージを持ってもらうために、実際のディベートを見る機会をもってもらった方が良かった。例えば、おすすめのディベートのyoutubeのURLを送って事前に見てもらおうとか。
- ・最後の肯定側の結論からすぐに審査員によるコメントを行うことになってはいたが、その間に少し頭の整理をする時間がほしい
- ・今回は時間をかけて本格的な形式で実施したが、もっと短時間のディベートを複数回やると教育的効果が高くなるように感じた
- ・ディベートのルールに関する配布資料を準備しても良かったと思う。
- ・準備段階、意思決定と役割分担決定のプロセスが不明瞭のまま最後まで進んだこと（遅延も予定して進めていましたが、それでも大幅に遅れたり、緊急対応など）
- ・手が回らない場合は、早めのギブアップと進め方や分担の見直しを・・・
- ・開始時間の連絡ミス
- ・ディベートの進行方法（誰がどのタイミングでどういうことをする）を参加者にもっと丁寧に伝えるか、事前に伝えておくべきだったこと
- ・司会とタイムキーパーを兼ねたが、時間が気にかかり司会としてはほったらかしになっていたこと（参加者の質のおかげですが、事前禁止事項を行う人が出た場合に、何もできなかった気がします。）
- ・下野さんも言っていますが、審判講評に即入っていたので厳しかったですね。観戦されていた方々の感想とか数分ならつなげた気もします。

●その他

- ・懇親会では参加者から提案あり。「本格的なディベート観戦をしたい」青年スタッフの資質向上にも役立つと思いますので、要検討ですね。
- ・昨年したのに、もうすこしまとまな講評をしたかったです。くやしい。。
- ・集合写真は良かったと思います。継続したいですね。
- ・今回は政策に関するディベートでしたが、価値観に関するディベートにすると証拠に基づく立証というより理論展開自体の優劣を競えるので、1日だけの例会で行う上での欠点である、証拠資料の収集時間が無いという問題が緩和されるように感じた。
- ・懇親会で準備段階の松村先生の提案を話したところ、参加者から参加を希望。→松村先生とつなげることに、青年のメリットはあるのか個人的には疑問。
- ・肯定否定の立場交代で行った方が望ましいが、時間の問題から集客は10人程度？と小規模になるイベントになりそう。
- ・イベントを主催する側のスキルが高い、難しいイベントの運営だと思いました。

以上

国際活動報告書

行事名	33 rd Conference of ASEAN Federation of Engineering Organizations (CAFEO 33) 22 nd Young Engineers of AFEO Meeting (YEAFFEO Meeting 22)
日時	2015年11月22日-11月25日
場所	Hotel Equatorial (ペナン、マレーシア)
派遣団 (○：リーダー)	18名 <公費> 松井 聡大 技術士 (機械)、高橋 義也 修習技術者 (情報工学)、栗野 美智子 修習技術者 (経営工学) <私費> ○安力川 幸司 技術士 (電気電子、情報工学)、松田 みゆき 技術士 (繊維)、佐藤 理英 技術士 (化学)、豊田 充洋 技術士 (機械)、坂東 大輔 技術士 (情報工学)、北元 芳明 技術士 (電気電子)、金高 智之 技術士 (建設)、塚越 基 (情報工学)、川崎 大輔 修習技術者 (機械)、利根川 聡史 (学生)、酒井 大輝 (学生)、江藤 大智 (学生)、稲葉 未華 (学生)、明山 公也 修習技術者 (機械)、園家 研一郎 技術士補 (航空・宇宙)
担当者：	高橋、栗野、北元、明山、松井 (記)
参加者数	約200名

1. 背景・目的

「ASEAN 諸国の青年技術者組織との情報交換」、「青年技術者の国際感覚の醸成」、「国際活動機会の提供」および「2国間交流の実現」を目的として、青年技術士交流委員会 (YEC) は2003年から継続して CAFEO/YEAFFEO Meeting に派遣団を送っている。2015年にペナン(マレーシア)で開催された CAFEO 33/YEAFFEO Meeting 22 へは、公費派遣者3名、私費派遣者15名が参加した。なお、同会議には ASEAN 諸国 (ラオス欠席)に加えて、香港、台湾、韓国、オーストラリア、日本がオブザーバーとして参加した。

2. 派遣内容

2.1 準備

派遣準備として、次の6項目を行った。

- (1) 事前 Mtg 開催 (2回)： 主題会議への参加目的を確認、準備の進捗状況を共有。
- (2) 名刺作成： 日本派遣団でフォーマットを統一した名刺を作成 (顔写真入り)。
- (3) プレゼント調達： ASEAN 各国代表およびメンバー宛てに万華鏡、菓子を用意。
- (4) 渡航準備： 航空券、宿泊施設、会議参加登録を実施。
- (5) Country Report 作成： 各国青年技術者組織との情報交換を目的として PPT を作成。
- (6) 演舞準備： Closing Ceremony で披露する演舞の企画、練習。

2.2 スケジュール

- 11月21日（土）： Arrive at Penang
- 11月22日（日）： Futsal、YEAFFEO Lunch
- 11月23日（月）： Heritage Hunt、Welcoming Dinner
- 11月24日（火）： Opening Ceremony、Disaster/Publication/Graduation WG、Country Report、Board Mtg、Exchange Souvenir、YEAFFEO Dinner、Café/Bistro
- 11月25日（水）： Technical Seminar、YEAFFEO Technical Visit、Closing Ceremony、Gala Dinner
- 11月26日（木）： Leave Penang

2.3 結果

1. 総括

- ・ 日本派遣団全員（計18人）が CAFFEO 33/YEAFFEO Meeting 22 に参加した。
- ・ Futsal、Heritage Hunt、Lunch/Dinner を通して、各国参加者と交流を深めた（名刺、FB アカウントの交換）。
- ・ Disaster/Publication/Graduation WG の全てに日本代表が参加した（詳細後述）。
- ・ Country Report として、YEC の活動内容を各国参加者に報告した。
- ・ 各国代表およびメンバーとプレゼントを交換した。
- ・ Closing Ceremony にて、演舞（空手、AKB48）を披露した。

2. WG

<WG の位置づけ>

特定のテーマに対して各国のアイデア、取組みを共有するための枠組み。現在、「Disaster Preparedness（防災）」、「Publication（出版）」、「Graduation Affairs（教育）」の3つが組織されている。

<各 WG の活動報告>

■Disaster Preparedness WG

ミッション： 各国の防災施策の共有、被災地への緊急支援に向けた枠組みの構築。

参加者： 松井、北元

アクション： 次回 Mtg までに自国の防災計画を調査し YEAFFEO 内で共有する。

■Publication WG

ミッション： 各国の青年委員会の活動内容の共有、他 WG の情報交換の支援。

参加者： 栗野、明山

アクション： 毎月、最終月曜日に YEAFFEO 事務局に News Letter を提出する（事務局内でのレビュー後、一般に公開）。

■Graduation Affairs WG

ミッション： 各国の学生（若手技術者）の育成施策、キャリアパスの共有。

参加者： 高橋

アクション： 次回 Mtg までに自国の育成施策を調査し YEAFEO 内で共有する。また、随時、他国向けの就職、インターンシップ、オープンコースに関する情報を YEAFEO 内で共有する。

3. 考察

3.1 成果

- ・ 次の実績により日本の存在感をアピールすることができた。
 - － 過去最多 18 人が日本派遣団として参加した。
 - － 各 WG で積極的に議論に参加し、日本代表として意見を述べた。
 - － 複数回参加者が多く、初参加者と各国参加者との橋渡しを担った。
- ・ Facebook アカウントを交換したことで、会議終了後も継続的にコンタクトを取る環境が整った。
- ・ 学生をはじめとして、参加者の国際感覚（各国の勢い、意識・英語力の高さ、文化の違いなど）を育むことができた。また、それらを帰国後に共有する下地が整った。

3.2 提案

1. 今後の派遣の在り方

＜学生の勧誘＞

他国参加者の大部分は学生である。「交流の密度を高めるため」、また「早期から国際感覚を育むため」、今後も日本派遣団に学生の参加が不可欠である。これを実現するために、次の施策を検討する。

- ・ 新設された「学生 WG」を通じた参加者へのアナウンス。
- ・ 技術士組織（OB 会）を通じた大学、高専へのアナウンス。
- ・ 修習委員会との連携。

＜各地域本部メンバーの勧誘＞

CAFEO/YEAFEO Meeting をはじめとした国際活動機会は統括本部だけでなく、各地域本部メンバーあるいは他の技術士会会員・非会員に広く提供されるべきものである。これを実現するために、次の機会を活用する。併せて、青年委員会 HP、同報メールの使用可否を検討する。

- 6 月 10 日-11 日： ミニ全国大会（東北）
- 6 月 25 日（土）： 英語イベント（東京）
- 11 月 13 日-16 日： 全国大会（神奈川）

2. YEAFEO News Letter への寄稿

2015 年 12 月より、国際 G を中心として YEAFEO News Letter へ寄稿している。活動の継続性確保、オブザーバーとしての存在感・発言力向上、英語での自己表現力の訓練機会として、統括本部に限らず各地域本部メンバーに広く寄稿をご検討頂きたい（特に新設された「英語 WG」）。

3. CAFE0 34/YEAFEO Meeting 23

2016年開催地はマニラ（フィリピン）である。ASEAN 諸国内では日本との距離が短く、渡航しやすい環境である。今回と同様に多くの参加者を募り、実りある活動につなげたい。

3.3 引き継ぎ

- ・ 事前 Mtg、反省会、報告会の日程調整に苦慮するため、募集段階で日程を明示すべき。
- ・ 派遣団において、学生は社会人と同じ立場（参加者）であるが、委縮してしまう傾向がある。両者のコミュニケーションを深めるイベントを早期に実施すべき。
- ・ 参加者（特に学生）が多くなることにより、引率者のスケジュール管理が困難になる。可能な限りパッケージツアーを採用すべき。
- ・ 宿泊施設が分散してしまう場合であっても、互いに徒歩で移動できる範囲内に確保すべき。
- ・ 参加者同士の現地でのコミュニケーションは FB で行うため、ネットワーク環境の確保が不可欠である（WiFi ルータのレンタル、SIM カードの購入）。



Fig. 1 Futsal



Fig. 2 Heritage Hunt



Fig. 3 Welcoming Dinner



Fig. 4 Disaster Preparedness WG



Fig. 5 Publication WG



Fig. 6 Graduation Affairs WG



Fig. 7,8 YEAFEO Technical Visit



Fig. 9,10 Closing Ceremony



Fig. 11 Representatives of YEAFEO



Fig. 12 Japanese Delegation

以上

**サッカー&テクノ
活動報告書**

行事名	中部本部フットサル交流
日時	2015年8月8日(土) 15:00~18:00
場所	中スポーツセンター
講師、発表者	
担当者: (○印:リーダー)	○中村、古川、高橋(記)
参加者数	統括本部:3名 中部本部:4名(その他:約20名)

1. 背景・目的

日韓技術士国際会議の親善の一環として開催されている日韓親善サッカーでの勝利を目指して立ち上げられた「フットサル愛好会(2007年12月)」では、参加メンバを増やしながらかサッカーを通じた交流の輪を広げ、現在まで継続した活動を行っている。今回は、その一環として中部本部のサッカー部設立に向けてのフットサル大会に参加した。

2. 例会内容

- ・会場準備(ゴールの準備)
- ・ウォーミングアップ(準備運動、ボール回し)
- ・開会式
- ・試合(3チーム×3本)
- ・閉会式
- ・交流会

3. 成果と所感

今回は中日本建設コンサルタントの2チームと中部大学1チームと技術士会チームの総当たりのフットサル大会に参加した。全ての準備は中日本建設コンサルタントの皆さまが行った頂き大変感謝している。

技術士会チームは全体の年齢が他のチームよりも若干高かったため、他のチームと比較するとスピード感に劣る部分があった。しかし、長年の経験とサッカーで培った経験から要所での体を張った的確なディフェンスと一瞬のチャンスを逃さない攻撃により、徐々に調子を上げ確実に勝ち点をあげるようになった。最終的には、4チーム中2位と即席チームとしては好成績を上げることができた。

また、練習会終了後に交流会を行い、中部本部の技術士の方々と中日本建設コンサルタントの皆さまと、サッカーに限らず業務や技術、そして趣味に至るまで、様々な話題で盛り上がり、とても有意義な時間を持つことができた。交流会では、日本技術士会で支援しているミャンマーの洪水に関する支援について、資料をお渡しして協力を依頼した。

4. 今後の展開

- ・中部本部でサッカー部が設立されるため、定期的に中部本部ともサッカー交流を実施したいと考えている。

5. 写真



集合写真

チーム名	A	B	C	勝	敗	引き分け	得点	失点
中日本	1 0 1	3 1 1	3 0 2	1	2	0	3	3
中部大	2 1	0 0	0 0	1	0	1	1	1
技術士会	0 2	0 0	0 0	0	0	1	1	1
その他	1 1	1 1	0 0	1	1	0	2	2
合計	4 4	5 2	3 2	3	4	1	7	7

試合結果



交流会①



交流会②

以上

行事名	統括本部・北陸本部サッカー合同練習及びテクノツーリズム
日時	(サッカー合同練習)2015年9月5日(土) 12:00~15:00 (テクノツーリズム)2015年9月6日(日) 10:00~12:00
場所	(スポーツ交流)新潟県スポーツ公園多目的運動公園 北側運動公園 (テクノツーリズム)技術士センタービル 8階 A 会議室
講師、発表者	発表者:丸山英明先生 新潟大学 災害・復興科学研究所 特任教授 「オーストリアにおける土砂災害ハザードマップ」 発表者:小川尚之氏 株式会社キタック 「軟弱地盤について」
担当者: (○印:リーダー)	○中村、高橋(記)
参加者数	(スポーツ交流)統括本部:6名(佐藤、山中、高橋(邦)、金子、中村、高橋(義)) 北陸本部:18名 (テクノツーリズム)統括本部:4名(佐藤、山中、中村、高橋(義)) 北陸本部:10名

1. 背景・目的

日韓技術士国際会議の親善の一環として開催されている日韓親善サッカーでの勝利を目指して立ち上げられた「フットサル愛好会(2007年12月)」では、参加メンバを増やしながらかサッカーを通じた交流の輪を広げ、現在まで継続した活動を行っている。今回は、その一環として、北陸本部が開催した統括本部及び北陸本部とのサッカー合同練習及びテクノツーリズムに参加し、地域本部との交流を深めると共に、技術士としての知識の向上を目的として参加した。

2. 例会内容

2. 1. スポーツ交流(12:00~15:30)

北陸本部とのサッカー交流の内容は以下の通りである。

- ・グラウンドの準備(ゴールの設置等)
 - ・ウォーミングアップ(ジョギング、準備運動、リフティング練習)
 - ・練習試合①(北陸本部 vs 新潟大学・統括本部)
 - ・練習試合②(全体でミックス)
 - ・グラウンドの片付け
- ※交流会(新潟駅の張園)

2. 2. テクノツーリズム(10:00~12:00)

テクノツーリズムの内容は以下の通りである。

- ・講演①「オーストリアでのハザードマップについて」
 - ・講演②「新潟県における軟弱地盤について」
 - ・現地見学「新潟県内の軟弱地盤の現状と対策について」
- ※現地見学後、昼食をとり解散

3. 成果と所感

・【スポーツ交流】

今回は北陸本部主催のサッカー合同練習会に参加することができた。その前週に統括本部でサッカー練習会を予定していたが、天候に恵まれずに中止となったため日韓サッカーに向けての数少ない練習となり、統括本部から参加したメンバも楽しんでいた。

練習は主に試合形式で行い、最初に北陸本部チーム vs 新大・統括本部合同チームで開始した。開始早々に、新大・統括本部合同チームのピンポイントのセンタリングをヘッドで合わせて綺麗にゴールを決めることができた。同チームで4本ほど試合を行った後、チームを変更して、再度、試合形式で練習を行った。最終的な結果は忘れてしまったが、改めてサッカーの楽しさと難しさを実感した。

また、サッカー合同練習後に、北陸本部との交流会も行い、更なる親睦を深めることができ、地域

本部との交流の重要性そして楽しさを感じることができた。

・【テクノツーリズム】

新潟大学の丸山先生に、オーストリアでの土砂災害のハザードマップの構築とその活用について重要性・有用性の講演をいただいた。オーストリアは国土の多くが山岳地帯であり、平地は山岳地帯からの河川により形成された扇状地が多く、多くの国民がその扇状地に居住している。そのため、河川の氾濫や土石流等による土砂災害の発生を未然に防ぐために、ハザードマップを有効利用している。日本においてもハザードマップの整備が進められているが、オーストリアにおける整備は自治体やその地域の専門家が責任を持ち作成しているが、日本では政府主導で作成される場合が多い。そのため、自治体や地域住民自身の責任感が希薄になっている。その点がオーストリアと日本の大きな違いである。また、災害は一部の地域に限らず、その周辺地域にも大きな影響を与えるため、地域間での情報交換・情報共有の重要性を理解することができた。奇しくも、この翌週に茨城県常総市での洪水被害が発生し、改めてハザードマップの重要性や地域間の連携の重要性を理解することとなってしまった。

キタックの小川氏の講演では新潟県が軟弱地盤であり、軟弱地盤による構造物への影響を過小評価してはいけないことの重要性を理解することができた。米どころの新潟では農作物への水分供給のために水路が重要である。その水路は傾斜を持たせて用水等を正常に流す必要があり、地盤沈下に影響されずに一定の傾斜を持たせておかなければならない。それとは異なり道路の舗装は安全かつ円滑な通行が目的であり、地表面の整地・舗装が中心であり地盤沈下の影響を受けやすい。そのため、舗装道路が水路を横断している場合、水路部分は沈下せず道路部分のみ沈下し、その落差が大きくなれば安全に通行できずに、道路の封鎖という結果になることもあり、軟弱地盤の脅威を改めて感じる事ができた。また、軟弱地盤の対策として、従来の杭本数よりも本数を大幅に削減した新しい工法「アリエック工法」についての説明もあり、楽しく有意義な講演であった。

最後に、軟弱地盤の現状の視察とアリエック工法の堤防を見学した。軟弱地盤の現状視察では、移動中に農地の中の舗装道路で水路部分の舗装が盛り上がりつつあることを確認し、また地下に埋設している水槽とその周辺の舗装された地面で約 50cm 程度の落差を確認することができた。アリエック工法による堤防の現地見学では当然のことながらしっかりとした堤防が築堤され、費用を抑え同様の効果を発揮していることも確認することができた。軟弱地盤と共に生活している住民やその地域のために活動する技術者や企業の日々の研鑽の重要性を改めて感じる現地見学となった。

4. 今後の展開

- ・サッカー参加のメンバもだいぶ固定的になり年齢層があがってきている。新メンバの勧誘や若いかたの参加を増やして行ければと考えている。
- ・中部本部でもサッカー部が設立されているため、今後は北陸本部、中部本部、統括本部での合同練習を開催できるように活動を続けていきたい。
- ・統括本部でのサッカー合同練習を行うためにはサッカー場の確保が非常に重要であるが、なかなか定期的に活動場所を確保することが難しい。その点は、長年の課題であるが安く継続的に利用できるグラウンドの確保が必要であると考えている。

5. 写真



合同練習集合写真



丸山先生講演



小川氏発表①



小川氏発表②



現場見学①



現場見学②

以上

行事名	第45回 日韓技術士国際会議 第11回 日韓技術士親善サッカー大会
日時	2015年10月22日(木)～2015年10月24日(土)
場所	Elysian Gangchon Resort(エリシアン カンチョン リゾート)(韓国江原道春川市) 松岩 Leports Town 主競技場(韓国江原道春川市)
講師、発表者	10/22 日韓技術士親善サッカー大会 10/23 開会式、合同会議、分科会、晩餐会 10/24 テクノソールリズム
担当者: (○印:リーダー)	○中村聡、高橋義也(記)
参加者数	江川千洋、佐藤学、高橋邦幸、永田泰浩、山中淳至、中村彰文、田中真也

1. 背景・目的

日韓技術士の親善の一環として開催されている日韓親善サッカー大会でのサポートと本会議へ参加し、韓国若手技術士との交流を深めると共に、技術士としての知識の向上を目的として参加した。

2. 例会内容

2. 1. 日韓技術士親善サッカー大会(16:00～18:00)

- ・開会式
- ・親善試合
- ・前夜祭

2. 2. 本会議(9:00～21:00)

- ・開会式
- ・基調講演
- ・分科会
- ・晩餐会

3. 成果と所感

今年は第11回日韓技術士親善サッカー大会が開催された。昨年は日本で開催し勝利したので、韓国チームの試合への意気込みを強く感じた。

今年の日本からの親善サッカー大会への参加者は12名とぎりぎりの人数であり、主要なメンバが不在と厳しい状況であった。そんな中、前半は0-1と1失点となんとか食らいついき、後半は韓国チームの足が止まった所で1点を返したが1-1で終了し、最終的には1-2で敗れてしまった。

しかしながら、参加者が少人数だったため日本チームの結束を強めることができた。また、試合後の前夜祭での韓国チームと春川の有名なダッカルビを食しながら交流を持つことができ、とても有意義な時間を過ごすことができた。

4. 今後の展開

次回は栃木開催であるため比較的参加しやすい場所であり、多くの参加者を募り、日韓の交流を更に深めたいと思う。

5. 写真



開会式



集合写真



会場最寄駅



会場



本会議場



記念品

以上

行事名	日韓サッカーお疲れ練習会・テクノツーリズム
日時	(サッカー合同練習)2015年12月12日(土) 14:00~日没 (テクノツーリズム)2015年12月13日(日) 10:00~12:00 (オプションツアー)2015年12月13日(日) 13:30~15:00
場所	(サッカー合同練習)埼玉県川越市上戸緑地公園サッカー場 (テクノツーリズム)東上パールビルディング B1 会議室 (オプションツアー)小江戸川越散策
講師、発表者	発表者:吉武剛氏 元プロサッカー選手 「サッカー選手になれたからできた事」 発表者:松田みゆき技術士(繊維部門) 「パフォーマンスを上げる機能性繊維素材」
担当者: (○印:リーダー)	○中村、高橋(記)
参加者数	(サッカー合同練習)統括本部:6名 北陸本部:7名 (テクノツーリズム)統括本部:9名 北陸本部:9名 (オプションツアー)統括本部:7名 北陸本部:9名

1. 背景・目的

日韓技術士国際会議の親善の一環として開催されている日韓親善サッカーでの勝利を目指して立ち上げられた「フットサル愛好会(2007年12月)」では、各地方本部とサッカーを通じた交流の輪を広げ、現在まで継続した活動を行っている。今回は、その一環として、2015年の日韓親善サッカーのお疲れ会として統括本部主催の練習会とテクノツーリズムを企画し、北陸本部との交流を深めると共に、技術士としての知識の向上を目的とした。

2. 例会内容

2. 1. サッカー合同練習(14:00~日没)

サッカー合同練習は以下の通りである。

- ・ウォーミングアップ(ジョギング、準備運動、リフティング練習)
- ・練習試合①(北陸本部 vs 統括本部)
- ・練習試合②(全体でミックス)
- ※交流会(川越湯遊ランド)

2. 2. テクノツーリズム(10:00~12:00)

テクノツーリズムの内容は以下の通りである。

- ・講演①「サッカー選手になれたからできた事」
- ・講演②「パフォーマンスを上げる機能性繊維素材」
- ・現地見学「新潟県内の軟弱地盤の現状と対策について」
- ※現地見学後、昼食をとり解散

2. 3. オプションツアー(13:30~15:00)

オプションツアーの内容は以下の通りである。

- ・小江戸川越散策(蔵造り通り、時の鐘、菓子屋横丁等)

3. 成果と所感

3. 1. サッカー合同練習

今回は北陸本部から7名、統括から5名の参加であった。そのため、6対6での練習試合となった。最初は北陸本部 vs 統括で試合を行ったが、毎週練習を重ねている北陸本部に圧倒され、一方的にやられてしまった。ただ、統括も試合を重ねるごとにチーム間の連携がとれ、徐々に得点できるようになった。基本的にポテンシャルの高い参加者なので、日々の定期的な練習量が重要であると感じた。

後半は北陸本部と統括のミックスチームで試合を行った。

全体的には、定期的な毎週練習している北陸本部は選手間の意思の疎通があり、チーム力の差が歴然となって現れてしまった。また、遠方からお越しいただいたが、11対11でサッカーできず、統括の人数が少なさに大変申し訳なく感じた。

3. 2. テクノツーリズム

・講演①

講演内容は、「サッカー選手になったからできたこと」であり、試合に対する意識やモチベーションの向上そしてスイッチの入れ方など、最高のパフォーマンスを出すためのメンタルな部分を聞けてとても有意義であった。

また、アメリカサッカーへの挑戦でも、しっかりとした目標・目的を持ち、そこに至るために必要なものが何かを逆算して行動することの重要性を改めて感じた。この手法は仕事にも十分通じる内容であったが、プロとして活動するために全ての責任を背負わなければならないという覚悟が大きく異なっていると思う。常に、前を向いて前進し、何かの終わりは次のスタートであることを肝に命じて生活したいと思わせる講演であった。

・講演②

講演内容は「パフォーマンスを上げる機能性繊維素材」であり、スポーツウェアの機能素材についての講演であった。繊維という素材について、初めてしっかりと話を聞くことができ、非常に良かったと思う。基本的には考え方は、軽くて動きやすいことが、重要であることはなんとなく想像できていた。しかし、そのために吸水と撥水という相反する機能のバランスであったり、薄く軽くするための温冷機能であったりと様々な要因が絡み、競技やその目的によって、何が必要かも考えながら綿密に研究して作られていることが理解できた。

身近なスポーツウェアがこんなにも考えられていたとは、あまり想像していなかったので、今回の講演はとても有意義なものであった。

3. 今後の展開

4. 今後の展開

吉武さんの講演で、すでに次回の日韓の戦いは始まっていることを思い知らされた。10月まで期間はあるものの、日本チームとしての統一した意識を持つことが鍵であり、勝つために必要なものをチームとして考え、個人個人が目標を持って活動できるような枠組みを作っていきたい。

また、サッカーの交流といえども、北陸本部の皆さんにお越しいただいているので、北陸のメンバより多く集めなければ、次につなげることができない。そのためには、決まったホームでの開催ができることが望ましいと感じている。

今後のサッカー活動の予定としては以下の通りである。

- ・2016年3月 北陸本部主催合同練習会(酒の陣があるかも)
 - ・2016年6月 統括本部主催合同練習会
 - ・2016年8月 北陸本部主催合同練習会
 - ・2016年9月 サッカー合宿
 - ・2016年10月 日韓親善サッカー大会
- ※北海道でも練習会(時期未定)

5. 写真



練習会集合写真



交流会



吉武剛様講演①



吉武剛様講演②



松田みゆき技術士講演①



松田みゆき技術士講演②

以上

行事名	統括本部、中部本部、北陸本部サッカー交流試合及びテクノツーリズム
日時	■講演会 2015年3月12日(土) 12:30~14:00 ■現地見学 2015年3月12日(土) 15:00~17:00 ■サッカー・フットサル合同練習 2015年3月13日(日) 9:00~13:00
場所	■講演会 技術士センタービル 8階A会議室 ■現地見学 朱鷺メッセ ウェーブマーケット ■サッカー・フットサル合同練習 みどりと森の公園体育施設 多目的グラウンド
講師、発表者	講演者:長谷川慧 「納豆菌の不思議」 講演者:長谷川正 「シューズの選び方」
担当者: (○印:リーダー)	○中村、白井、古川、高橋(記)
参加者数	■講演会 統括本部:7名 北陸本部:7名 ■現地見学 統括本部:9名 中部本部:2名 北陸本部:9名 ■サッカー・フットサル合同練習 統括本部:10名 中部本部:2名 北陸本部:15名

1. 背景・目的

日韓技術士国際会議の親善の一環として開催されている日韓親善サッカーでの勝利を目指して立ち上げられた「フットサル愛好会(2007年12月)」では、各地方本部とサッカーを通じた交流の輪を広げ、現在まで継続した活動を行っている。今回は、その一環として、2015年の日韓親善サッカーのお疲れ会として統括本部主催の練習会とテクノツーリズムを企画し、北陸本部との交流を深めると共に、技術士としての知識の向上を目的とした。

2. 例会内容

2. 1. テクノツーリズム

- ・12:00 受付開始
- ・12:30~13:00 講演①「納豆菌の不思議」
- ・13:00~14:00 講演②「シューズの選び方」
- ・15:00~17:00 現地見学「新潟酒の陣 2016」
- ・19:00~22:00 交流会「日本海庄や」

2. 2. サッカー・フットサル合同練習

- ・9:00~9:30 ウォーミングアップ
- ・9:30~11:00 フットサル
- ・11:00~13:00 サッカー

3. 成果と所感

3. 1. テクノツーリズム

今回は統括本部から7名、中部本部から2名の参加予定であったが、諸般の事業に中部本部からの参加者は現地見学からの参加となった。

・講演①

講演内容は「納豆菌の不思議」であり、前半は菌類の特徴に関する分類の説明があり、球菌や桿菌等の種類があり、納豆菌は桿菌に分類されること、また、通常の菌類は高熱になると死滅するが納豆菌は127℃の高温であっても死滅しないという特徴があることを初めて知ることができた。さらに納豆の粘りにより風味が増し美味しく感じられるが、単に粘りを増加させるだけでは美味しくならないということを知ることができた。生物に関しては全くの素人であったため、非常に興味深く話を聞くことができた。

・講演②

講演内容は「シューズの選び方」であり、ランニングシューズのカテゴリとしては、サブ3、サブ4、サブ5、ジョギングシューズがあることをはじめて知った。各シューズメーカーで最も力を入れているカテゴ

リがサブ5ということで、全ての機能を備えバランスのよいシューズを多く販売している。ジョギングシューズはサブ5より低価格・低機能となり、サブ4、サブ3に進むにつれて高価格・軽量化されるとのことであった。また、シューズの履き方や紐の結び方で履き心地も大きく異なり、ひとつひとつが重要は要素であることを改めて確認することができ、次回、シューズを購入するときに非常に楽しみになった。

・現地見学

水上バスで現地見学の朱鷺メッセまで移動して現地見学を行った。現地見学では、新潟の代表的な発酵食品である日本酒の製造工程や製造手法による風味の違いを作り手から直接聞くことができた。また、海外向けへのマーケティングの方法等も聞くこともできた。改めて、新潟の良さを体験することができた。

3. 2. サッカー・フットサル合同練習

今回は統括から10名、中部から2名の参加であった。前は1チームにも満たなかったが今回は統括と中部の合同で1チーム作ることができた。

前半はフットサル、後半はサッカーとハードなスケジュールであったが、多くの参加者と交流することができ、非常に有意義であった。北陸本部は定期的な練習をしているため体力があり、また連携もしっかりしていたが、統括本部・中部本部は練習不足が顕著に表れる結果となった。

4. 今後の展開

今回は、前回と比較して、統括本部と中部本部の合同で1チームできるほどの参加者があったが、まだまだ参加者とくに若い参加を増やしていきたい。気候も徐々に暖かくなり、スポーツを行う良い季節になってきたため、更に参加者を増やして行きたいと考えている。特に、今年の日韓親善サッカー大会は栃木で開催されるため、練習会も踏まえて、参加者を集う活動を行いたい。

今後のサッカー活動の予定としては以下の通りである。

- ・2016年7月 統括本部主催合同練習会
- ・2016年8月 北陸本部主催合同練習会
- ・2016年9月 サッカー合宿
- ・2016年10月 日韓親善サッカー大会

5. 写真



講演①



講演②



講演②



現地見学



サッカー練習会



サッカー練習会

以上

行事名	統括本部サッカー合同練習会
日時	■2016年7月2日(土) 14:00~16:00
場所	■江戸川河川敷サッカー場
講師、発表者	
担当者: (○印:リーダー)	○中村、高橋(記)
参加者数	■22名

1. 背景・目的

日韓技術士国際会議の親善の一環として開催されている日韓親善サッカーでの勝利を目指して立ち上げられた「フットサル愛好会(2007年12月)」では、各地方本部とサッカーを通じた交流の輪を広げ、現在まで継続した活動を行っている。今回は、その一環として、統括本部サッカー合同練習会を企画した。

2. 例会内容

- ・14:00~14:30 準備運動、ウォーミングアップ
- ・14:30~16:00 15分ハーフ×3本、10分ハーフ×1本
- ・17:00~19:00 交流会「魚民」

3. 成果と所感

今回は中部本部、北陸本部にも参加連絡を行ったが、残念ながら統括本部のみの参加となった。統括本部からの参加者は22名の参加があり、フルコートでサッカーのできる人数を集めることができた。これは、青年委員会のイベント等でアピールした結果だと考えている。

当日はかなり天気がよく炎天下の中での練習はかなりハードな状況であったが、大きな怪我や事故もなく無事に活動を行うことができた。初参加や初心者の方も含めて試合形式でサッカーの練習を行い、初心者の方はサッカーの動きを覚えたり、経験者は声を出しながら初心者の方をサポートして連携を確認することができた。また、練習試合のハーフタイムでは休憩をとりながら、参加者と話しながら交流することができた。

練習後は交流会を行い、参加者と更に交流を深めることができた。

4. 今後の展開

今回は、22名の参加があり、2チームつくることができ、試合形式で練習することができた。今回、参加していただいた方々が参加できるように定期的に統括本部でも活動を行いたいと考えている。また、青年委員会のイベント等でのサッカーのアピールは効果的であることため、継続的に続けていきたいと考えている。今後のサッカー活動の予定としては以下の通りである。

- ・2016年8月 サッカー合宿
- ・2016年10月 日韓親善サッカー大会(宇都宮・鬼怒川)
- ・2016年12月 日韓サッカーお疲れ会

5. 写真

練習に夢中になりすぎて写真を撮ることを忘れてしまいました。最低でも集合写真をとるべきだったと反省しています。

以上

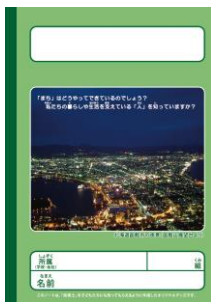
**地域本部
活動報告書**



やりたいことはたくさん!
「新企画」チャレンジの1年

平成元年設立から数えて「第14期」新体制始動!

積極的な情報発信～グッズ



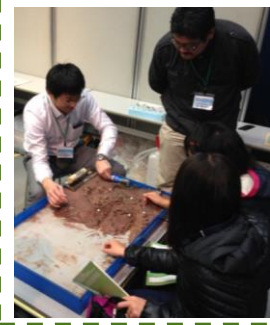
技術士ノート

(H26構想→H27完成)

【第1版】

小学生(高学年)を対象に**無料**配布(B5版)

※市内の各門ごとに、技術士の仕事を紹介しています!
記事の一部を彩りする4コマまんがをつけています。
QRコードから、ホームページ・スマホで動画が見れます。



ノート配布

寒地土木研究所コラボ
環境科学展の出展支援
(10/24(土)~25(日))

模型による河川蛇行等の説明サポート時に、
来場小学生に**無料**配布

研修会・ワークショップの開催



新企画: U-35
ワークショップ
(H27/6/13(土))



技術系教育機関での技術支援活動

「技術士を知ろう」

(旧: 学校へ行こう)

H27は3校で実施

(10/14(水) = 旭川工業高専、
10/30(金) = 北海学園大学、
12/15(火) = 函館工業高専)



「新企画」にもチャレンジ!
(より学生に近い20代幹事を中心とした
「技術士と話そう」)



外部へ

公開講演会

「伝える、伝わる。～実体験から学ぶ、
心を動かすコミュニケーション～」

(H27/11/13(金))
紀伊國屋書店札幌本店前)

テクニカルツアー



トンネル内で一番断面が大きい横取基地付近

青函トンネル等見学

(H27/7/8(水))

新企画 学生とのコラボ

「浄水場へ行こう!」

(H27/10/16(金))



「第14期」新体制の2年目 = 「できる限りを全てやる！」

大小含め、
年間16イベントの計画・実行！

限界への挑戦 / やらずに後悔するなら、やって後悔する！
36名の幹事だからできるWG体制の試行 / 分業・担当専化

- ### 全イベントの計画・報告
- ① 本部主催の合格祝賀会 (2次試験) ⇒ 青年2次会 (4/6)
 - ② 新合格者&U-35限定 ワークショップ (4/16)
○ 中部本部30周年記念例会・イベントへの参加 (5/20-21)
 - ③ 新: 「技術士を知ろう」@北海道科学大学 (6/2)
○ 北海道本部第51回年次大会 (創立50周年) 参加 (6/8)
○ ミニ全国大会@東北 への参加 (6/10-12)
 - ④ 「技術士を知ろう」@旭川高専 (6/16)
 - ⑤ 新: 「技術士を知ろう」@北海学園大学1年生 (6/23)
 - ⑥ テクニカルツアー@JR苗穂工場ほか (7/8)
 - ⑦ 講演会「札幌まちづくり」(外部講師) (7/20)
 - ⑧ 新: 幹事+家族交流「夏合宿(キャンプ)」(7/23-24)
 - ⑨-1 「技術士を知ろう」@函館高専 (8/4)
 - ⑨-2 テクニカルツアー@新幹線施工現場 (8/5)
 - ⑩ テクニカルツアー@石狩LNG発電所 (9/30)
- ここまで
終了!
- ↓
- 第46回日韓技術士国際会議 (栃木県・日光) (10/2-4)
 - ⑪ 環境科学展 (寒地土研×技術士会) (10/22-23)
 - ⑫ 「技術士を知ろう」@北海学園大学3年生 (11/4)
○ 全国大会 (青年イベント) @横浜への参加 (11/12-13)
 - ⑬ 新: 「技術士を知ろう」@札幌工業高校 (11/16)
 - ⑭ 幹事交流イベント「技術交流・冬合宿」(11/27-28)
 - ⑮ 公開型講演会 (北の技術を語り継ぐ(仮)) (12/4)
 - ⑯ 本部主催の合格祝賀会 (1次試験) ⇒ 青年2次会 (1/下)



▲新合格者&U-35限定ワークショップ



企画多数!



▲テクニカルツアー
JR苗穂工場



▲講演会「まちづくり」



順調にできた反面、課題も見えてきた。

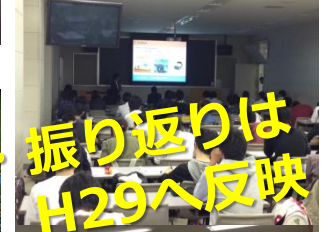


▲テクニカルツアー
新幹線施工現場



▲夏合宿(キャンプ)

「数をこなして」の反省・
これから=冬合宿で総括、



振り返りは
H29へ反映

その実現へ向けた
事前打合せ・調整
= 幹事会&WG
大小含め、~9/末
計20回以上を実施



▲「技術士を知ろう」
(上から)道科大打合せ、
旭川高専、学園大1年、
函館高専

東北地域本部活動報告

2015年度活動報告

- 定期委員会を1ヵ月おきに実施
- 委員による話題提供

2015年

- 6月24日：H27年度年次報告会、セミナー
- 6月27, 28日：本部 拡大委員会に参加
- 10月3, 4日：全国大会（富山）に参加
- 11月6, 7日：青技懇見学会（釜房ダム、エコキャン）
- 11月13日：宮城大へ技術士制度紹介
- 11月24日：仙台高専へ技術士制度紹介

2016年

- 1月9日：東北学院大へ技術士制度紹介
- 6月11日：ミ二全国大会女川町見学会実施

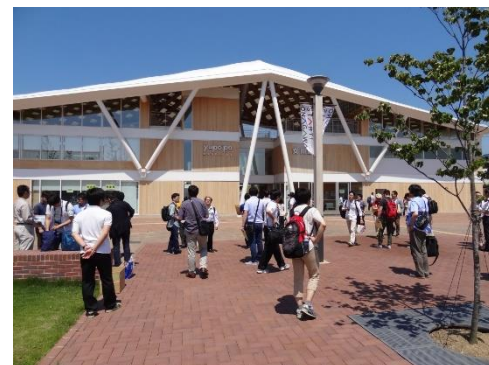
釜房ダム見学会



大学への技術士制度紹介



ミ二全国大会女川町



東北地域本部活動報告

2016年度活動計画

- 定期委員会を1ヵ月おきに実施
- 委員による話題提供
- 学生への技術士広報活動
- 11月11～13日：全国大会（横浜）参加
- 11月25～26日：青技懇見学会（山岳トンネル、エコキャン）
- 日韓技術士会議への参加
- 東北本部及び宮城県外支部との交流

メンバー紹介

- 委員：15名（その他オブザーバー参加者数名）
- 登録部門：建設、上下水道、農業、電気電子（建設部門が主）
- 所属会社：建設系コンサルタント、ゼネコン、メーカー

仙台市を中心として活動しているが、宮城県外支部、建設部門外技術者及び、女性技術者の参加・交流を積極的に行う予定。

中部本部活動報告

中部本部委員会へ融合した一年目。
本部連携、青年からの提案型へ。

2015年度活動結果 (例会系)

30周年記念例会 (5/20~22)



テクノツーリズム(5/20)
(リニモ&知の拠点)



記念例会(5/21)
(基調講演&ディスカッション)

皆様の活動紹介をもとに
議論し、中部本部レベル
の連携をコミット

サッカー大会
(5/22)

各地域のみなさま、
ありがとうございました！

県支部との合同例会



愛知県支部との合同例会
・若手~超ベテランまで混合のネタで議論
・ディスカッションコーディネータも担当

技術士を目指す人へのサポート



技術討論 @総会
技術同好会の話をしつつ、
技術士としての議論も

技術士制度説明会
@総会
まずは技術士試験への
モチベートから実施

中部本部活動報告

2015年度活動結果（同好会系）

現在進行中の現場で学習（建設技術同好会）

国道建設現場見学
@R153,155BP
豊田市に建設中のニュー
マチックケーソン工の現場



ダム現場見学
@小里川・丸山ダム
岐阜県にある多目的
ダムの構造見学

製造・技術原理を深堀（製造技術同好会）



大人の見学会
@名古屋市博物館
普段子供が学ぶ科学館を
大人目線で見学

変化する現地環境を学習（環境技術同好会）

化石採集体験
@瑞浪市化石博物館
家族で化石から自然を学ぶ



冬虫夏草&粘菌探索会
@八事山興正寺
家族でマニアックな
粘菌「クモタケ」を探索



ウナギ&テナガエビ釣り
@木曾川立田大橋
朝から深夜まで？釣りを
通じて自然を感じる



郡上川遊び
&アジメドジョウ観察会
@岐阜県郡上川
泊まりで粘りました



2016年度活動予定

インターンシップ学生との交流会（中部活用促進委員会との連携）

各県での例会（中部本部各県支部との連携）

建設技術同好会 in台湾アゲイン

会員ニーズをゲットする活動始動（〇〇同好会）

中部本部活動報告

メンバー紹介

 <p>委員長 石川 (技術士・情報)</p>	 <p>建設WG 副委員長 小島 (技術士・建設)</p>	 <p>新WG 副委員長 嘉田 (技術士・機械)</p>	 <p>製造WG 副委員長 高瀬 (技術士・経営)</p>	 <p>委員 藤田 (技術士・機械)</p>	 <p>サッカー 委員 三島 (修習・機械)</p>	 <p>委員 河原 (技術士・建設/総)</p>
 <p>委員 奥村 (技術士・機械)</p>	 <p>環境WG 委員 秋山 (土補・機械)</p>	 <p>サッカー 委員 本多 (技術士・建設/総)</p>	 <p>委員 中迎 (技術士・理学)</p>	 <p>委員 田村 (修習・金属)</p>	 <p>委員 青山 (修習・機械)</p>	 <p>補佐 松田 (技術士・建設)</p>
 <p>会計 補佐 中島 (技術士・上下水)</p>	 <p>補佐 後藤 (修習・機械)</p>	 <p>ML 補佐 木村 (修習・電気電子)</p>	 <p>補佐 神田 (修習・理学)</p>	 <p>補佐 中川 (修習・上下水)</p>	 <p>補佐 金子 (修習・経営)</p>	 <p>補佐 平野 (修習・環境)</p>

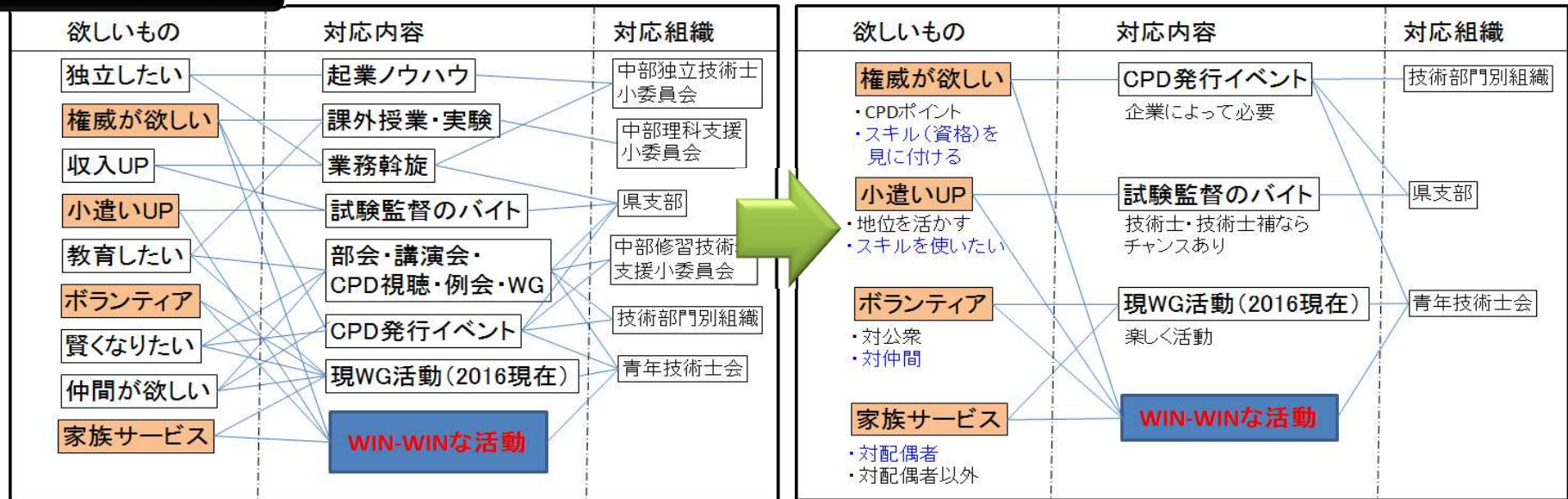
中部本部活動報告

一押しイベント

会員ニーズをゲットする活動始動 . . . 名付けて、**錬金術WG (超仮称)**

- 【背景】 ・ 中部青年の参加者が持続できない（総会以後は減少）
 → 青年技術士会の魅力づくりが必要と考えている（30周年例会の結論）
- 【対策】 ・ 参加者のニーズを再度議論の上、ニーズに合った実利のある活動を試行
- 【内容案】 ・ 技術士の能力を活かして技術コンテスト等へ技術製品・アイデアを応募して能力を資産へ錬成する
- ① Web等にある公募に応募。お題に対して課題を洗出し、自分達の知識・能力を用いて製品（商品）開発して応募する
 - ② 3年後の全国大会をターゲットにして青年技術士交流委員会でオリジナル製品（商品）を開発して大会時に販売

なぜなぜシート



近畿本部活動報告



2015年度活動報告

2015年度に委員会設立

・・・日本技術士会近畿本部青年技術士交流委員会 発足！

「青技交」と「青技懇」が、地域の青年技術士組織の両輪として、お互い補完しあい、地域を盛り上げていくようにしたい。

近畿青年技術士交流委員会	名称	近畿青年技術士懇談会
日本技術士会近畿本部傘下の委員会	位置づけ	任意団体
「(アウトプット)発信」と「対外交流」	目的	「自己研鑽」と「会員相互の親睦」
プロジェクト運営型	運営スタイル	月一回の例会(講演会)と懇親会メイン

2016年度から、いよいよ「青技交」のほうも本格活動開始！

近畿本部活動報告



2016年度の方針決め委員会



2016年度委員

宮西 健次(委員長)

小宮 洋行

田中 慎

坂東 大輔

藤内 洋

藤本 喜敏

松山 賢五

八木 基紀

吉田 晋侑

関下 啓誠(オブザーバー)

千田 琢 (オブザーバー)

サキトク×近畿青年技術士会
学生さんが自主運営しつつ、
社会に出た後役に立つ知識
やスキルを学ぼう、という先方
様のご要望に、今後おこたえ
していきます！



その他、他の資格団体さんの青年部との交流や理科実験
マニュアルの作成公開(出版??)も画策中！



「青技懇」のほうも盛大に活動中！
毎月の例会も大入り状態が続いています。

《青技交 中国本部 活動方針》

例会勉強会を柱とする“技術者間交流”
および“技術を通じた社会貢献”により
会員の“成長の機会”を提供します



《2015年に実施した主なイベント》

十毎月の
勉強会

開催月	内容
4月	中国本部50周年記念 青年技術士座談会
8月	社会貢献活動「ものづくり教室 パスタブリッジをつくろう」
9月	第1回 青年技術士交流委員会 中国大会
10月	国際交流フェスティバル「べあせろべ2015」
11月	島根県産学交流 島根大学・松江高専とのワークショップ
12月	第2回 青年・熟年技術士交流会
1月	ディベート企画「日本は民泊を推進すべしである。是か非か」
2月	1次試験合格祝賀会 パネルディスカッション

《活動風景》



月例勉強会

月1でちゃんと勉強します



青年中国大会

中国5県が一つになった瞬間！



パネルディス
カッション

技術士試験について熱く討論



べあせろべ

ものづくりを通じ交流を



産学交流会

学生の感性に驚きも



青年・熟年
交流会

これでも大真面目です

【これまでの活動 + 新たなチャレンジ】

《2016年に実施する主要イベント》



① 社会貢献活動 × 3

7・8月開催

これまでの実績を通じ、青技交に理科教室の
オファーがくるように

今年は、広島市内の公民館2箇所に加え
県内の小学校で授業の一環として理科教室
を開催（例年の1回→3回開催に）



10月開催

② 西日本技術士研究・業績発表年次大会

毎年、西日本の各地域本部で開催されている
業績発表大会の分科会の一つを青年で担当

（発表テーマ）

地方から考える「まち・ひと・しごと」技術士の
関わり ～青年がつなぐ技術と社会～

これらの活動を通じて

- ・会員の能力向上
- ・チャレンジ、アウトプットの場の提供
- ・異業種、技術者間、世代間交流の活性化

を目指していきます

《メンバー紹介》



岡山に続き、
鳥取・山口にも
県支部が設立
青年の輪が
さらに拡大中！

執行部

《委員長 & 副委員長》



★活動目的

四国地域における若手技術士を中心とする技術者ネットワークを構築し、会員相互の能力向上を果たすとともに、技術士としての職能を地域社会に幅広く浸透させ、技術士の地位向上を果たすことを目的とした活動を行う。

★活動方針

- 【方針1】 青年技術士として幅広い能力向上を図る
- 【方針2】 四国地域の青年技術士相互の交流を図る
- 【方針3】 青年技術士として地域との交流を通じ社会貢献を図る

★2015年度活動報告

【活動方針1】青年技術士として幅広い能力向上を図る
 四国四県の特色を活かしたセミナー・見学会を
 持ち回りで開催
 科学分野だけでなく地域の文化に触れる内容も実施



●『松山城と松山のまちづくり』
 ●松山城登城

愛媛



●『アイデアマン 平賀源内』
 ●平賀源内記念館・平賀源内旧邸見学

香川



●高知の文学家 寺田寅彦と宮尾登美子
 ●高知県立文学館見学

高知



●幕末期 徳島藩と洋学
 ●徳島城博物館および城郭

徳島

【活動方針2】四国地域の青年技術士相互の交流を図る
 昼の活動に引き続き、夜は必ず懇親会
 ここからが真の青年技術士交流会の始まり？



【活動方針3】青年技術士として地域との交流を通じ
 社会貢献を図る

香川大学で開催されている子供向けの科学体験
 フェスティバルに出展



●『大雨で山が崩れるのはなぜ？』授業と模型を使った実演

平成28年11月13日

地域本部活動紹介【四国本部】

★2016年度活動計画 & 活動報告

◎新合格者へのPR活動



四国四県で開催される
新合格者歓迎会でのPR

◎四国四県でのセミナー・見学会



高知県(6月)
高知大学『防災すけっと
隊』の活動について



愛媛県(9月)
『伯方の塩』
工場見学

◎科学体験フェスティバル



科学体験フェスティバルに徳島大学(8月)と香川大学(11月)に参加
石膏を使って消波ブロックのミニチュアを製作

★委員名簿

役職	氏名	所属県	役職	氏名	所属県
委員長	池谷 聖	香川県	委員補佐	奥永 哲也	香川県
副委員長	小笠原 誠	香川県	委員	白鳥 実	香川県
副委員長	曾我部 潤	愛媛県	委員	池田 一郎	愛媛県
委員	佐藤 悦史	徳島県	委員	河端 悟司	愛媛県
委員	芝田 和仁	徳島県	委員補佐	面地 琢也	愛媛県
委員	田中 良典	徳島県	委員補佐	藤浦 雅也	愛媛県
委員	松田 秀和	徳島県	委員	岡林 弘憲	高知県
委員	渥美 雅士	香川県	委員	片岡 寛志	高知県
委員	太田 昌秀	香川県	委員	中根 久幸	高知県

徳島県4名
香川県6名
愛媛県5名
高知県3名
移動は大変だけ
ど四国四県が協
して活動してます

◎強化合宿 & フィールドワーク



うどん打ち & こんぴらさん参り

◎四国以外の地域本部との連携強化



中国本部青年委員長

瀬戸内海の大三島開催の交流会に
中国地方からも協力

◎学生・若手技術者の支援活動



四国本部の学生・若手技術者支援活動に
青年技術士交流会も協力

◎情報発信の強化



☆MLサイトを利用した会員相互
の情報共有
☆FaceBookを開設し、青年技術士
交流会の活動を広くアピール!

九州本部 活動の3本柱

①研鑽活動：合格者祝賀会・見学会・公開講演会・運営委員会及び研鑽会（随時）・夏休み自由研究教室（8月）

～夏休み自由研究教室（8月）～
大学や企業等と協同し科学技術に触れ合う機会を子供たちへ！



平成27年in福岡空港



平成28年in安川電機

STOP 理科離れ！ 子供たちの科学や技術に対する**興味関心を育てる**ことを目的に毎年開催しています。
身近な技術から先端技術まで子供の興味を引くテーマを熟考して企画しますが、基本的に**大人が熱く**なりがちです。



～見学会（6月）～
九州各地の技術遺産や施設、文化や風土など興味深い場所へ見学に行きます。



平成27年見学会in都城霧島酒造工場見学



藺田技術士による林業の現状と課題講義（現地）



藺田技術士による林業の現状と課題講義（座学）

～公開講演会（12月）～
話題性のある技術をテーマに、専門家と一般受講者との距離の近い講演を心がけてます。

2015年12月12日講演（福岡工業大学）
演題1：ICTの活用によるインフラ維持管理の効率化と確実性の向上
演題2：九州の特殊土地盤と向き合う



②普及活動：JABEE支援活動（大学・高専での講演）



JABEE制度の活用促進や将来の技術士取得に向け、業務の現状や大変さ、責務、面白みなどをグループディスカッションを交えて講演しています。

（九州産業大学・鹿児島大学・大分高専・福岡大学・・・）

→各県支部の若手と合同開催を取り組み中！！

③もちろん！交流活動 あらゆる機会を捉えては、呑む、話す



▼活動方針

平成28年5月18日

青年技術士間の交流／技術士・科学技術の魅力発信／技術士会活動への協力(CPD行事)／大学・高専等での技術士普及活動

区分	運営G	研鑽G	交流G	普及G	ITかわら版G
役割	<ul style="list-style-type: none"> ・青技交委活動の年間計画とりまとめ ・運営委員会の開催 ・九州本部との調整 ・他本部との調整 ・各県支部との調整補佐 ・主に主催する行事に関する会計 ・大学・高専講演補佐 	<ul style="list-style-type: none"> ・定例行事の計画、推進 ※1)開催要領を要作成 ※2)運営は委員で分担 研鑽会の講師選定・依頼 ※3)行事場所の選定 ※4)CPD申請手続き ※5)CPD講師選定・依頼 	<ul style="list-style-type: none"> ・見学会の企画、運営 ・青年委員会の交流 ・県支部との交流企画 	<ul style="list-style-type: none"> ・青年技術士臨時講義の計画、推進 ※1)開催要領を要作成 共通資料作成・更新 ※2)講師選定・依頼 ※3)各大学・高専の先生と連絡 ※4)大学・高専への働きかけと県支部講師との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・案内／出欠確認 ・記録 ・広報(Facebook／会報投稿) ・委員DB管理 ・活動DB管理
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ■年間事業計画の検討(テーマ、大まかなイベント概要など) 	<ul style="list-style-type: none"> ■CPD講演会(4月・12月) 	<ul style="list-style-type: none"> ■見学会 ※会計含む(6月) 	<ul style="list-style-type: none"> ■大学・高専講演(福岡県内) ・11月(九産大:土木系) ・12月(福大:機械系) 	<ul style="list-style-type: none"> □案内／出欠確認(運営委／例会／ほか)
■活動	<ul style="list-style-type: none"> ■運営委員会(第2水曜日)(4・5・7・9・11月) 19:00～20:00 	<ul style="list-style-type: none"> ■夏休み自由研究(8月) 	<ul style="list-style-type: none"> ■懇親会 ※会計含む 4月:合格祝賀会(CPD同日) 8月:自由研究打上(同日) 12月:望年会(CPD同日) 	<ul style="list-style-type: none"> ■大学・高専講演(福岡県外) ・7月?(大分高専:土木系) ・7～10月(鹿児島大学:土木系) ・7～12月(鹿児島高専:土木系) 	<ul style="list-style-type: none"> □記録の統括(運営委／例会／交流)
□事務	<ul style="list-style-type: none"> ■全国青年 拡大委員会(6月) ■九州本部 合同役員会(5・12・4月) ■全国大会(10月) □会計事務(CPD、運営委員会)講演等で支給があった際の管理 ※運営委員会の議事録→各幹事が作成した内容チェックと配信 	<ul style="list-style-type: none"> ■研鑽会(第2水曜日) ※運営委員会の後(7・9・11月) 20:00～21:00 	<ul style="list-style-type: none"> ■県支部交流 見学会時、県支部CPD等における交流・連携 	<ul style="list-style-type: none"> ■県支部交流 福岡県外講演時の交流・連携 ■技術士紹介マンガの活用検討 	<ul style="list-style-type: none"> ■広報その1(Facebookより情報発信) ■広報その2(技術士だより(年4回)への投稿) □委員DBの管理(名簿／活動履歴／ML(FreeML)) □活動DBの管理(Dropbox)(資料／記録／ほか一式)

H28期 テーマ

委員活動テーマ:積極的に関わろう 自分が何ができるか(どう関わられるか)考えよう

H28.7～H29.6

技術テーマ:地方創生

青年技術士交流委員会 組織図案

ナガイワケンイチ インテョウ
永岩研一 (委員長)



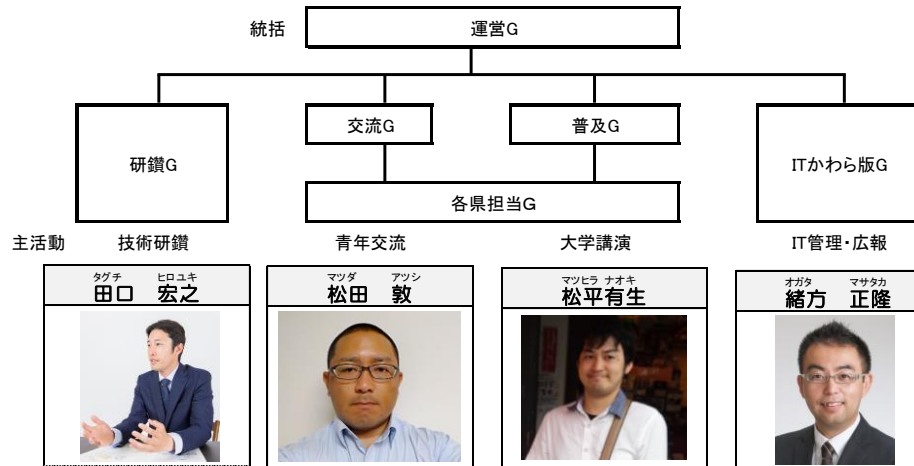
ナカゾノケンイチ フクインテョウ
中園健一 (副委員長)



オチアイタカヒロ フクインテョウ
落合隆太 (副委員長)



マツイ ノリヒコ カイケイ
松井法彦 (会計)



北陸本部活動報告

2015年度活動報告

日時	イベント	備考
4/19	技術士(補)有資格者懇談会・青年ウェルカムパーティー	19名
5/16、5/17	第10回拡大青年委員会議(富山)	21名
10/3	第42回技術士全国大会(北陸・富山) 青年技術士の集い(10.3 TYM)、テクノツーリズム	84名
2/13	講演会「新たな交通機構が目指す地域・人・交通の未来」 (地域の活性化と交通の役割、新潟市のBRTほか)	44名

- ・委員会は適宜開催。
- ・全国大会の準備に追われた1年でした。
- ・講演会では、新潟市の新交通バスシステム(BRT)等を取り上げ、地域と交通について学ぶ機会に。



青年技術士の集い



テクノツーリズム



大懇親会



第10回拡大青年委員会議



H27年度 講演会



各本部青年委員長集合

2016年度活動計画

日時	イベント	備考
4/17	技術士(補)有資格者懇談会・青年ウェルカムパーティー	17名
6/18、6/19	第11回拡大青年委員会議(福井) (技術発表会、テクノツーリズム)	19名
10/21	秋の見学会 地域の活力・底力 ～新しい日本酒文化の発信～ (菊水酒造(株)見学)	
2月(予定)	講演会(冬)	

- ・昨年に続き、青年ウェルカムパーティーを実施。次の青年委員確保に・・・
- ・北陸4県合同の拡大委員会議を福井市・敦賀市で実施。
- ・見学会(10・21)は、地域のストロングポイントを活かした産業である日本酒製造の現場に潜入予定。



第11回拡大青年委員会議



第11回拡大青年委員会議

北陸本部活動報告

メンバー紹介

							
オオたか アキラ 大高 章 (委員長)	オカノ ヤスヒロ 岡野 康弘 (副委員長)	タダ テルコ 多田 照代 (副委員長)	コサカ キンヤ 小酒 欽弥 (副委員長)	エガワ チヒロ 江川 千洋	カワハラ ヒロユキ 河原 洋行	シモトリ ミノル 下鳥 稔 <small>三女(3才)作 長女(小5)作 次女(小2)作</small>	ダイモン ケンイチ 大門 健一

北陸青年委員は現在15名。日々、世界の技術発展に貢献している！(かも?)



枝豆



ます寿司



第42回技術士全国大会 (富山) 青年技術士の集いにて



かぶら寿司



越前がに

富山での全国大会には多数ご参加頂きまして誠にありがとうございました。北陸本部青年技術士委員会一同

						
タカノ ヤスオ 高野 康夫	ナカムラ アキフミ 中村 彰文	ナカムラ ダイスケ 中村 大輔	マシマ トシムツ 眞島 俊光	ミヨシ ミツヒサ 三善 啓昭	モリ マサヒサ 森 将恒	ヤスノ ノブハル 安野 伸春

行事名	第42回 技術士全国大会(富山)青年のつどい、テクノツーリズム、大懇親会
日時	平成27年10月3日(土)
場所	富山国際会議場、富岩運河、呉羽ハイツ
講師、発表者	企画：青年技術士交流委員会 北陸本部
担当者： (○印：リーダー)	報告者：白井一光
参加者数	10名(田中、中村、諸田、太田道、瀧川、磯部、古川、横田、竹入、白井)

1. 背景・目的

第42回技術士全国大会の「青年のつどい」「テクノツーリズム」「大懇親会」における全国の地域本部(統括含む)、及び青年層参加者(技術士・技術士補・修習技術者)間の交流

2. 内容

2. 1. 青年のつどい(ミニ全国大会招致合戦)

- ・来春の拡大委員会(統括本部主催)に替わって、ミニ全国大会を開催する地域本部を決めるため、各地域本部(北海道、東北、北陸、中部)から企画内容のプレゼンによる招致合戦を実施した。
- ・参加者の投票の結果、東北本部で開催することが決定した。

2. 2. 青年のつどい(グループワーク)

- ・北陸本部より富山の紹介プレゼンがあり、この情報をもとに各グループで「行きたい、住みたい、働きたい」をテーマに富山のキャッチフレーズを考えた。
- ・各グループで考えたキャッチフレーズを発表し、投票を実施した。

2. 3. テクノツーリズム

- ・北陸新幹線開通、路面電車(LRT)によりコンパクトシティ化が進む富山駅を見学(ガイド付き)
- ・日本に現存する唯一のパナマ式運河である富岩運河の中島閘門を見学(ガイド付き)
- ・江戸期の北前船(西廻り航路)で栄えた廻船問屋跡が残る岩瀬の街並みを見学(ガイド付き)

2. 4. 大懇親会(全国地酒対決)

- ・各地域本部より自慢のお酒をもちより、審査員の分類マップを用いて地酒分類を試みた。

3. 成果と所感

3. 1. 青年のつどい(ミニ全国大会招致合戦)

- ・提案された企画とプレゼンの完成度が高くて盛り上がった。
- ・メンバー紹介の時間がなかった。交流誌を活用する機会がなかった。
- ・この統括本部が決める時間枠について、次回は要相談。
- ・招致を希望しなかった地域本部は発言機会がなかったのが残念だった。
- ・招致に対する本質的なモチベーションに疑問符がつく内容。
- ・次回以降は、投票システムの活用を考えたい。

3. 2. 青年のつどい(グループワーク)

- ・アイデアを出し、時間内にまとめて発表する形式で、富山をよく知ることができて洗練されていた。
- ・北陸本部から富山の素晴らしさの紹介を受けて、富山の理解が深まった。
- ・まったく発言しない参加者に気づきが必要だろう。
- ・前提となる富山に関する情報共有に時間がかかった。
- ・投票が紙ベースなので、その場で投票結果を共有できなかった。
- ・富山のキャッチフレーズを考えるというテーマが良かった。
- ・司会や発表者を決める時間がもったいないので決めておくのもよい。

- ・技術的視点を出し合えるものがあるとよりよい。
- ・実際に富山をみた全国大会後にグループワークをすると違うアイデアがでるだろう。

3. 3. テクノツーリズム

<富山駅+LRT>

- ・解説を事業者に委託したのが付加価値となっていたが、声があまり聞こえなかった。
- ・もし雨だったら大変。
- ・集団で移動しきれない。ガイドは要所に待機して、見て回る形式がよいかもしれない。

<中島閘門>

- ・バスの中で解説を事前に聞いたのが良かった。
- ・パナマ運河式に水位を変える水のエレベータを実際に見られて、場所選定に技術的視点を感じた。
- ・バスに水ペットボトルがあったのがうれしかった。

<岩瀬の街並み>

- ・酒蔵の見学に試飲がなかったのが残念。
- ・古き良き時代を肌で感じられた。
- ・技術的な内容ではないが、見どころがあってよかった。(ヘリテージツーリズム)

3. 4. 大懇親会

- ・大規模な座敷宴会で、会場、料理、大浴場、すべてすばらしかった。
- ・宴会はクジで席決めした点がよかった。
- ・地酒の紹介なしに審査員が飲んでいるのみをみただけだったので、地酒対決になっていなかった。
- ・懇親会場が縦に広いので、話していること、提示していること、が後ろまで伝わらなかった。

4. 今後の展開

- ・地域本部に比べて、統括本部の内部結束不足が感じられた。来年の全国大会(横浜)を開催するにあたって統括本部内の結束を高めておき、参加者を迎えることが重要。
- ・「統括本部ならではの」地域本部への働きかけやおもてなしとして何ができるか探っていきたい。

以上

行事名	中部青年技術士会 30周年記念例会
日時	2016年 5月 21日(土)
場所	ウインクあいち 1001 会議室(名古屋市)
講師、発表者	<<第一部>>開会セレモニー 来賓挨拶 渡邊本部長、西村理事、新妻参議院議員 石川委員長挨拶 記念品について <<第二部>>基調講演 東京駅丸の内駅舎保存・復原工事の記録 鹿島建設(株) 上浪鉄郎 氏 <<第三部>>パネルディスカッション 青年技術士が伝える技術の魅力(統括本部の取り組み紹介 太田副委員長) 告知 東北本部 ミニ全国大会 堀内委員長 統括本部 技術士全国大会 太田副委員長 閉会宣言
担当者: (○印:リーダー)	太田副委員長、小塚委員補佐、田角委員、高橋委員補佐、瀧川委員、竹入委員補佐、 中村委員、山本委員、白井委員(文責)
参加者数	名簿総数103名

1. 背景・目的

中部青年技術士会 30周年記念例会に参加し、中部本部の技術士を中心に全国から集まった青年技術士と交流を図ること。統括本部の取り組み紹介と全国大会の告知を行うこと。

2. 例会内容

2. 1. <<第一部>>開会セレモニー

来賓挨拶 渡邊本部長

新しい QCD (Quality, Cost, Delivery)を担う青年技術士の活躍に大いに期待したい。

来賓挨拶 西村理事

ものづくり産業の高度な集積地である中部本部における、次の 30 年に期待する。

来賓挨拶 新妻参議院議員

技術士として国政に臨む立場。第4次産業革命という時代の流れの中で、技術士の倫理感がより求められていくと考えている。

石川委員長挨拶

歴史を引き継いで若手を育て、新しいことにチャレンジする役割を担っていく。

小島副委員長より、記念品「一合升」について

清穂会(障害者職業訓練事業者)によるレーザー彫刻で印字を作成した。

2. 2. <<第二部>>基調講演

東京駅丸の内駅舎保存・復原工事の記録 鹿島建設(株) 上浪鉄郎 副所長

1. イントロダクション

1914年(大正3年)日露戦争後の東京の鉄道網の中心として東京駅は創建された。

煉瓦でなく鉄骨煉瓦造を採用したため、関東大震災をも耐える頑丈さであったが、昭和20年の空襲で3階部分を焼失した。

戦後1年半で復興するために簡素な修復工事を実施し、約60年そのままだった。

関係者にとって、創建当時の東京駅を復原することは真の戦後復興事業であった。

2. 「継承」: 保存・復原工事(設計図無き再現工事)

- ・工事記録 DVD(保存復原編)

- ・外壁保存復元工事 外壁の化粧煉瓦は焼き入れ温度によって色合いにバラツキがあった。

3色の煉瓦を用意して既存の2階までの色合いに合せた。

煉瓦積みの目地は凸型目地という既に失われた工法の再現が必要であった。

そこで全国の熟練した左官工を招集し、職人を訓練する必要があった。

特に目地の接点(墓股)を美しく仕上げる技術の習得に多くの期間とコスト

- を要した。
- ・屋根復元工事 天然スレート(全国で職人 10 名)、加工銅板(全国で職人 60 名)といった特殊材料の組み合わせであり、設計図も詳細には残っていない状態。全国から職人を集めて試行錯誤を繰り返し、再現のために奮闘した。福島に保管していた天然スレートが 2011 年の津波で多くが流されてしまったこと、残った天然スレートの塩分を落としてなるべく屋根に使用した。
- ・ドームレリーフ復元工事 ぼやけた写真しかなかった状態から、美術家とデザインを検証し、石膏と漆喰で当時配置されていた干支のレリーフを再現した。大鷲のレリーフなどは軽量な FRP 材などを利用して再現した。

3. 「強靱」: 駅舎を残したまま地下を構築し免震化

- ・工事記録 DVD(構造編)
- ・杭工事、縦梁構築 15,000 本の松杭で支えられた東京駅舎を 450 本の鉄骨支柱に荷重を移す。仮受け杭を打設しながら既設杭の撤去。施工中の地中障害が全体の 3 割にも及び、そのたびに人力掘削にて 7m の松杭を除去、土を埋戻して鉄骨支柱を打ち直すことになった。狭い地下スペースで長い杭を作成して打設する工法を採用した。この地下工事は 2007 年 4 月から 4 年半と大変時間がかかった。
- ・仮受け工事 1 階躯体を支える縦梁を用いて仮受けする。大きすぎて一気にできないので、エリアごとに荷重をかけ替えていく。このとき煉瓦の変形をモニタリング(面内変形 1/2,000)しながら油圧ジャッキで調整した。
- ・掘削～地下躯体構築・免震化工事 地上への開口部に限られる中、大量の土出し、資材搬入が行われた。この土砂の搬出計画が工程管理における最大のボトルネックとなった。本プロジェクトに採用した免震化工法はおそらく世界一の手間をかけてしまったので、この工法の登録特許を利用したいという申し出がない。(高コストなため)

4. 「安全」: 乗降客の安全と快適性を保った工事をしよう!

- ・旅客動線部分の工事 粉塵対策の二重防護、換気、ミスト、バキューム設備など気を使った。さらに、終電から始発までの 3 時間のみで実施。
- ・公衆災害防止対策 火気については通常の現場より特に厳格化し、事前申請書だけでなく、使用前・中・後の写真添付を現場に要求した。地下工事が多いので、掲示を多用した(下は改札口だ! 漏水厳禁! など)
- ・現場ルールの周知 パトロール頻度を多くし、発見された「ヒヤリ・ハット」は毎朝の朝礼時に大型プロジェクタで投影し、現場全員に周知した。さらに、それらの対策は全て作業ルール化した。長年に亘る地下作業のモチベーション維持のため家族見学会を実施した。家族の理解と協力が、作業員への意識向上、作業進捗の向上に寄与した。

※質疑応答

- ・壊して新しくつくる場合にはどのくらい差があるのか?
 - 試算していないが、工期半分、コスト 1/3 で済んだらう。しかし、保存と復原が本プロジェクトの前提条件であったので、新規建設の選択肢は無かった。復元するのに必要な情報が少ない中、試行錯誤して一品生産を再現したし、100 年保つような免震構造に造り込んだ。
- ・100 年メンテナンスフリーということか?
 - 当然メンテナンスをする前提としている。たとえば外壁補修のために足場用フックを埋め込んでいる。

2. 3. ≪第三部≫パネルディスカッション

パネラー: 第 8 代中部青年技術士会会長 比屋根 均氏
中部本部 栗本 和明氏
中部本部 田村 浩史氏
中部本部 木村 琢磨氏
中部本部 奥村 康氏
中部本部 藤田 政利氏
コーディネーター: 中部本部 嘉田 善仁氏

これまでの 30 年から、今後の在り方をディスカッションした。各本部の取り組み、課題は以下。

中部本部 石川委員長 公益社団法人だから一般参加を受け入れている。

建設 WG、製造 WG の他、技術史 WG の取り組みを始めている。

北海道本部 千葉幹事長 技術士ノートの紹介、学生同行テクノツアー、学校での定期講演。

統括本部 太田副委員長 地域本部より入れ替わりが多い、多くの部門が参加する特徴がある。

専門性より総合力を重視した活動に取り組んでいる。

中部本部メンバー

青年技術士会の魅力をどうやって高めるかが重要。

外部組織との連携が必要ではないか。青年だけで完結していないか。

青年が間口を拓げる役割を担っている。

参加費区分で壁を作らない方が良い。(非会員は 2 割増程度がよい?)

魅力としては、会社とは違う人脈ネットワークが拓がること。

異業種、他部門の方と「技術」を介した交流が出来る。

他には視野が広がること。お酒の力もあるが情報交換の場。

「自分を向上させる」という気持ちを持てることが重要。

時代、世代、個人によって魅力は違う。

ISO 発効当時(10 年前)は CE であり、独立機運が高かった。

今は PE であり、独立を目指す場になっていない。

北海道本部 千葉幹事長 前例のないことを皆で考えると年齢経験に関わらず取り組める。

それによって魅力をつくっていききたい。

九州本部 永岩委員長 修習の支援として 10 年以上前から大学で講義している。

現在は、各県支部ができたので宮崎や鹿児島にも行っている。

また部会との情報交換が活発である。

45 歳で区切っておらず血が循環していないことは課題。

九州大会での 4 コマまんがが北海道大会で技術士ノートになった。

これは地域間交流の成果とみている。

まとめ ~夢に向かって~

- ・イベントを多様化し、提供できる場とターゲットを増やすことが大切。(学生、家族、など)
- ・技術者として、研鑽の場であることが前提である。
- ・青年委員会だけでなく、技術士会全体として考える必要がある。たとえば部会や上位団体との連携により影響力・発信力を強めていくことが効果的。
- ・多様な魅力を勝ち取っていききたい!

閉会宣言 中部本部 高瀬元委員長

諸連絡、ご来賓記念撮影

3. 成果と所感

- ・中部本部ながら東京駅のお話。参加者全員の興味を惹く話題選びが秀逸と感じた。
- ・地域間交流は地域本部の取り組みがわかる貴重な場であり、パネルディスカッションでの議論は今後の活動に活かしていきたい。
- ・T シャツが続いていたが、レーザー彫刻の一合升という魅力的な記念品であった。

4. 今後の展開

- ・来月には東北でミニ全国大会があるので、地域間交流を盛り上げていく。

・半年後には横浜で全国大会があるので、成功に向けて準備を進めていく。

5. イベントの様子

・「写真は中部本部が撮影するのでご遠慮ください」とのことでしたので、ありません。

以上

行事名	ミニ全国大会 テクノツーリズム in おながわ
日時	2016年6月11日(土)
場所	JR 東日本仙石東北ライン・石巻線車内、女川町地域交流センター、 女川町内の復興現場、石巻市立大川小学校跡、新北上大橋・防潮堤、仙台松島道路
講師、発表者	主催：(公社)日本技術士会 東北本部 青年技術士実行委員会 講演①：東北本部 青年技術士実行委員会 柴崎 進 氏 (講演テーマ：震災発生からその後の対応について) 講演②：田中建設株式会社 田中 寛史 社長 (講演題目：地元住民の視点による女川町の復興について)
担当者： (○印：リーダー)	○田中委員長，太田副委員長，北元委員，白井委員，瀧川委員，田角委員，山本委員，栗野委員補佐，竹入委員補佐，小塚委員補佐(文責)
参加者数	名簿総数51名

1. 背景・目的

1. 1. 背景

毎年6月ごろ、統括本部青年技術士交流委員会主催で全国の各青年委員会を対象に拡大委員会を開催しているが、本年については11月に統括本部が全国大会(横浜)を主催するため、統括本部が拡大委員会と全国大会(横浜)とを併せて企画・運営することは過負荷であると判断された。ついでに東北本部主催で『ミニ全国大会』を称するテクノツーリズムを開催していただいた。

1. 2. 目的

- (1) 『ミニ全国大会』に参加し、東北本部の技術士を中心に全国から集まった青年技術士と交流を図ること。
- (2) 本年11月の全国大会(横浜)の告知を行うこと。
- (3) 『ミニ全国大会』のテーマ、内容、運営方法等を視察し、全国大会の企画・運営につなげること。

2. 『ミニ全国大会』内容

2. 0. <前夜祭 一次会・二次会>

- (1) 飲み放題とは思えないくらい豊富な日本酒、選べる地酒、美味しい料理と申し分の無いお店であった。
- (2) 参加者の時間の都合を考慮した出迎え、お店の広さ、翌日を考慮した時間配分等にも気づかいは見られ、東北の青年の方の温かいおもてなしを感じた。

2. 1. <第一部> 『SNS 復興セミナー』 (JR 東日本仙石東北ライン・石巻線車内)

- (1) 仙台～女川を列車で移動し、その間、Facebook で沿線の復興状況をレポートするという『SNS 復興セミナー』という試みがなされた。
- (2) レポートは文章と写真が組み合わせられ、被災当時の様子を知らない者の目にも焼きつくもので、非常にわかりやすいものであった。
- (3) 列車での移動であったため、8班に分かれて乗車することで一般の乗客の方へのご迷惑にならないように配慮されたり、また班長を務めていた東北の青年委員の方がとところで簡単に説明を入れてくださり、流れとしては申し分無いものであった。

2. 2. <第二部> 講演(女川町地域交流センター)

2. 2. 1. 東北青年委員の柴崎さんのご講演

- (1) 冒頭で東北青年委員の柴崎さんより、勤務先における震災発生時からその後の対応についてご自身が経験されたことについてご講演いただいた。
- (2) 備蓄のこと、協力会社との災害協定に基づく全国各地から支援があったこと、以前より非常事態対応のマニュアルが存在していたものの、いざ非常事態に直面すると不足

している箇所があり、その後改訂を図ったことなど、講演から非常事態を想定した十分な備えを行うことの難しさを思い知らされた。

2. 2. 2. 田中建設（株）の田中寛史社長のご講演

- (1) 復興に携わった地元の建設会社、田中建設（株）の田中寛史社長より『地元住民の視点による女川町の復興について』という題目でご講演いただいた。
- (2) 目の前で道を塞いでいる高圧電線を切断するか否かの判断、復興工事の現場で直面した課題を踏まえた「現場の事情に合った設計をしていただきたい」といった聴衆に対する要望など、実際にそのような状況に直面した方であるからこそ、説得力のあるご講演であった。
- (3) 一方で、技術力を発揮する以前の、リーダーシップやふるさとへの想いが復興を後押ししていると感じさせるお話もあり、何を想って技術力を発揮するのかを考えさせられた。

2. 3. <第三部>パネルディスカッション（女川町地域交流センター）

- (1) 「復興」に関する課題について、『暮らし』、『産業』、『観光』、の3つのテーマに沿ってパネルディスカッション（ただし、進め方としては意見交換に近かった）がなされた。
- (2) 「復興」を通して、元の状態に戻すことに留まらず、以前よりも良いまちにしようとする女川の強さを知る機会となった。

2. 4. <第四部>女川町内復興現場視察（女川町内）

- (1) 女川町の復興に携わる鹿島建設の担当者のご案内の下、バスに乗り、東北本部と合同で女川町の復興に関わる箇所を巡った。
- (2) 高台の上にある病院に赴くと津波が到達した旨を示す石碑が立っていたが、結構な高台であったにも関わらず「ここまで津波が来たのか」と津波の勢いの凄まじさを理解しようにも、受け入れられなかった。
- (3) 地震によって隆起した岸壁が元に戻ろうとして段差ができているところ、女川駅近くの基礎杭ごと引き抜かれた交番、ひしゃげたままの階段の手摺など、地震と津波の爪痕に多く触れる機会となった。また、現場で話聞かないと見えないものを、たくさん見せていただいたと思う。
- (4) 既に震災から5年以上が経過し、港にはカタールからの援助によって建てられた冷凍施設、町の中心部には新しい建物や施設が完成する一方で、未だに造成中の箇所があることに驚いた。限られた予算と人材で懸命に取り組んでいる様子を肌で感じられた。

2. 5. <第五部>津波被災現場の視察（石巻市立大川小学校跡、新北上大橋・防潮堤）

2. 5. 1 石巻市立大川小学校跡

- (1) 全校児童の7割が津波の犠牲となった石巻市立大川小学校跡に赴き、各本部の委員長が代表でお線香を上げ、全員で手を合わせてから、遺構を見て回った。当日は6月11日で月命日だったためか、青年メンバー以外にもお線香を上げにいらしている方がお見えになった。
- (2) 鉄筋コンクリート製の校舎は鉄筋がき出しとなり、校舎の上層階のサッシは大きく変形し、津波の凄まじさを感じた。
- (3) 今回のテクノの『しおり』にはこの大川小学校の避難判断について検証する新聞記事が多数引用され、中には「何故裏山に逃げなかったのか」と学校側の判断を非難する記事もあった。しかし、実際に現場に赴くと目の前は山というよりは崖に近く、大人でも手をついて藪で傷だらけにならないと登れないであろうと思われる。大地震直後の混乱の中、ここを登るようと子供たちを先導できたものかと思う。これが人災と非難される現実を目の当たりにし、非常事態に備えることへの重い教訓を私たちは託されていることを認識した。

2. 5. 2. 新北上大橋・防潮堤

- (1) 大川小学校の近くを流れる北上川（ここを津波が遡上し大川小学校にも流れ込んだ）にかかる新北上大橋はトラス部分が津波で上流へ700mのところまで流された。
- (2) 2011年10月に仮復旧し、その後再建工事が行われていたが、奇しくもテクノ開催前日の6月10日に開通し、当日は再建された橋をバスで渡った。
- (3) この橋は北側の2径間が津波で流されたものの橋脚は残り、再建に際しては補強工事を行った上で、そのまま利用された。新設時の設計意図を示す明確な資料は残っていないものの、強靱な施工には目を見張るものがあり、インフラは長い目線での設計・施工することが求められることを示唆する例であったと思う。

2. 6. <第六部>沿道の復興現場視察（仙台松島道路）

仙台へは引き続きバス移動であった。途中で通った仙台松島道路が震災をきっかけに車線を増やす工事がなされたことのお話など沿道の復興に関すること、2015年12月に開通した仙台市地下鉄東西線に関するエピソードなど、仙台駅に到着する直前まで解説が途切れること無く、とても有意義なバス移動であった。

3. 成果と所感

3. 1. 『ミニ全国大会』自体に対する所感（全国大会（横浜）も意識して…）

3. 1. 1. 内容

- (1) 全体の流れとして、

『SNS復興セミナー』で実際の地点における被災状況・復興状況の紹介
→実際に女川町で被災・復興に当たられた方の経験談
→その後の復興まちづくりの様子

と段階を踏んでいる点も素晴らしいと思う。

- (2) とにかく膨大なボリュームの資料、Facebook掲載情報等、準備がさぞかし大変だったろうと思う。資料は写真や図中心に構成されていてわかりやすかった。
→反面、「125ページ、当日に渡されても…。事前勉強したかったな。」という声も聞こえた。
- (3) 「実際に女川で被災した方とその経験」を中心に話をまとめられているところがとても良かった。
- (4) 新しい技術を使った街づくり、行政と住民の一体化など復旧ではなくみんなの力を合わせた復興が進んでいるということを肌で感じる事ができた。テーマを持って復興に取り組むことで、街の統一感があり、魅力的な街へと移り変わる様子がわかった。
- (5) 東北青年委員の復興に対する熱い「思い」を感じた。

3. 1. 2. ホスピタリティ

- (1) 飲み放題とは思えないくらい豊富な日本酒、選べる地酒、美味しい料理と申し分の無いお店であった（2. 0. <前夜祭 一次会・二次会>より再掲）。
- (2) 参加者の時間の都合を考慮した出迎え、お店の広さ、翌日を考慮した時間配分等にも気づきが見られ、東北の青年の方の温かいおもてなしを感じた（2. 0. <前夜祭 一次会・二次会>より再掲）。
- (3) 前夜祭への到着時間が遅れてご迷惑をおかけしたにも関わらず、温かいおもてなしをいただき、すんなりと会に入り込めた。
- (4) 大きな人数の団体を、小グループに分けて、各グループリーダーがいて、個別に説明して下さったり、いろいろと面倒見がよく大変助かった。
- (5) 豪華宮城の名産てんこ盛り弁当で美味しかった！

- (6) 仙台駅に向かうバスの中で、テクノ終盤で東北青年の方々もお疲れであったと思うが、沿道の解説を仙台駅に到着する直前まで案内が途切れさせること無く、東北の方々のおもてなしの心と復興への思い入れを感じた。
- (7) しおりの最後のページにお土産の案内が掲載されていたことに、遠方から赴く方々への配慮を感じた（すんだと牛タン以外にもお土産があることを知ったのはしおりのおかげ）。

3. 1. 3. その他

- (1) 列車に乗って車窓を楽しみながら資料とスマホで勉強するという貴重な体験ができたものの、酔った。
- (2) 女川が予想以上に寒く、翌日風邪をひいてしまった。行き先の気候を調べておくことは重要であると感じた。

3. 2. 全国大会に向けて認識した課題

- (1) 横浜でも125ページとはいかなくても「しおり」を事前に渡せればなあ…。
- (2) 前夜祭は1次会・2次会までは必須。
- (3) バスを使用する場合は出発前の点呼は必須。
- (4) 昼食を含むテクノにする場合は大人数で食べられる場所を確保する必要あり。バスの中で食べられるかの、見学施設で食べられるかどうか等の検討が必要。
- (5) 大人数をまとめる場合予めグループ分けをし、班ごとに統括メンバーを1人入れて参加者をまとめる方法はとても効率が良い、横浜の全国大会でも取り入れたい。
- (6) 喫煙場所について。横浜はみなとみらい地区が禁煙、飲食店も禁煙区域有のため、要注意。禁煙区域がある旨の事前通知、喫煙場所の把握をしておいた方が良いと思う。

4. 今後の展開

- (1) 過去の全国大会、中部青年30周年記念例会、そして今回の『ミニ全国大会』を踏まえて、全国大会（横浜）の企画・運営を円滑に進め、有意義な会とする。
- (2) 引き続き、地域間交流を盛り上げていく。

5. イベントの様子



図1 仙台駅東口（テクノ出発地点）



図2 仙石東北ライン（HB-E210系）



図3 石巻線（キハ110系）



図4 女川駅駅舎



図5 女川駅駅舎上階より見た駅前の様子



図6 女川町まちなか交流館



図7 津波で基礎杭より抜け倒れた交番



図8 復興中の様子



図9 病院のある高台より撮影した海
(カメラを構えているところまで津波が到達した)



図10 津波到達を知らせる石碑

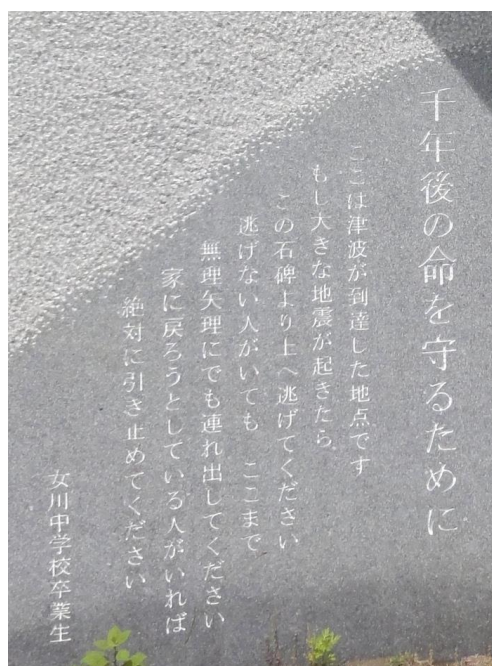


図11 石碑に刻まれた碑文



図 1 2 震災当日に津波が発生した海を眺める全国の青年技術士たち



図 1 3 中東・カタールからの資金援助により
建設された冷凍冷蔵施設「マスカー」

以上